

第172図 第90号住居跡遺物出土位置図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

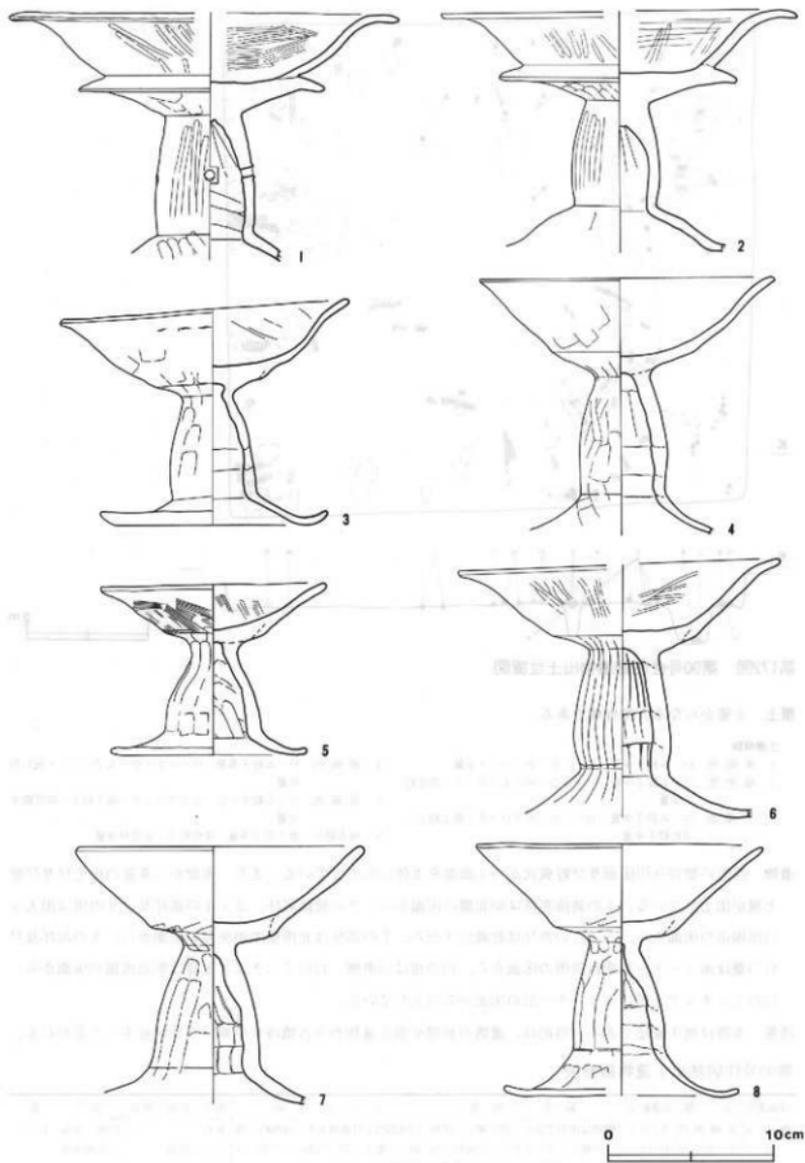
- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中・大ブロック・炭化物中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中・大ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・炭化材少量 |

遺物 四方の壁寄りの床面及び貯蔵穴から土師器を主体に出土している。また、床面から多量の炭化材及び焼土塊が出土している。1の装飾高坏は炉北側の床面から、2の装飾高坏、3・4の高坏及び9の埴は出入り口部周辺の床面から、5・6の高坏は貯蔵穴1から、7の高坏は北西壁際中央部の床面から、8の高坏及び11の甕は南コーナー部南西壁際の床面から、10の埴は炉南側、12のミニチュア土器は炉北西側の床面から、13のミニチュア土器は南コーナー部の床面から出土している。

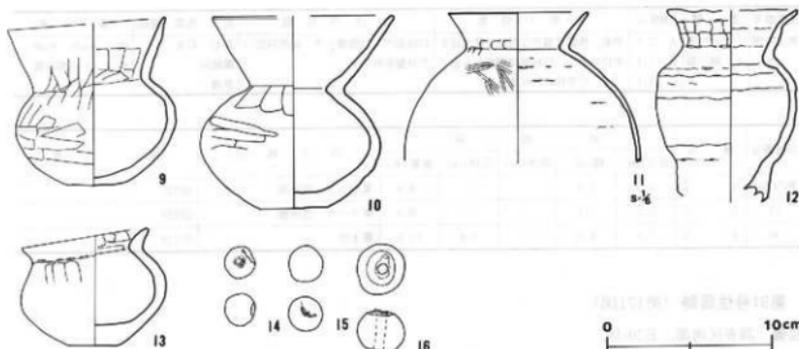
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	装飾高坏 土師器	A(23.5) B(14.9) E(9.0)	胴部は中空でラッパ状に開く。坏部は内野して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部下位に装飾用の突帯をもつ。胴部に4孔を穿つ。	口縁部内・外縦溝ナデ、坏部内・外面ヘラ磨き。胴部内面ヘラナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石 にぶい橙色 普通	P496 60% PL67 北側床面



第173图 第90号住居跡出土遺物実測図(1)



第174図 第90号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装成	備考
第173図 2	狭頸高土師器	A [21.7] B (14.7) E (9.2)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部下位に装飾用の突起をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラ磨き。脚部内面ヘラナデ。外面縦位のヘラ磨き。	長石 にぶい赤褐色 普通	P492 70% PL67 出入り口部周辺床面
3	高土師器	A 17.6 B 13.7 D 13.8 E 8.0	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ヘラ磨き。外面へラ削り後ヘラナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。坏部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P490 80% PL68 出入り口部周辺床面
4	高土師器	A 17.9 B (15.6) E (9.8)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラナデ。脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P494 60% PL68 出入り口部周辺床面
5	高土師器	A 13.7 B 10.5 D 11.9 E 6.7	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ヘラナデ。外面へラ削り後ヘラナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P488 80% PL67 貯蔵穴1覆土下層
6	高土師器	A [19.6] B (15.9) E (10.1)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラ磨き。脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P495 70% PL68 貯蔵穴1覆土下層
7	高土師器	A 17.5 B (15.7) E (9.7)	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラナデ。脚部内・外面ヘラナデ。坏部外面下位に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P493 70% PL68 北西壁中央部床面
8	高土師器	A 17.5 B 15.5 D [14.3] E 9.4	脚部は中空でラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後ヘラナデ。脚部外面縦位のヘラ削り後ヘラナデ。脚部と坏部との境に指原圧痕が残る。	長石・石英 明赤褐色 普通	P491 80% PL68 南コーナー部西壁床面 二次焼成、坏部内面割離
第174図 9	埴土師器	A [9.6] B 10.3 C 3.4	平底。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P497 90% PL68 出入り口部周辺床面
10	埴土師器	A [11.0] B 11.7 C 4.0	平底。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P498 80% PL67 炉南側床面
11	壺土師器	A 17.0 B (18.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	長石・石英 棕色 普通	P500 40% PL69 南コーナー部西壁床面 二次焼成、体部内面割離
12	ミコフア土師器	A [7.9] B 11.7	底部欠損。体部は縦長な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面、体部外面ハケ目整形後ヘラナデ。口縁部内・外面、体部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P499 50% PL67 炉北西側床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図	ミチュア土器	A 7.7 B 7.1 C 3.1	平底。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から短く「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハゲ目菱形横ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P501 100% FL68 南コーナー部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第174図4	土玉	2.0	1.8	—	—	6.8	東コーナー部床面	DP127
15	土玉	2.2	2.1	—	—	9.0	東コーナー部床面	DP128
16	土玉	2.4	2.9	—	0.6	21.8	覆土中	DP129

第91号住居跡 (第171図)

位置 調査区南部, E2d区。

重複関係 本跡は北西コーナー部を除いた住居跡のほぼ全体を第90号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明である。

壁 壁高は38cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

所見 本跡の時期は、重複関係から第90号住居跡より古い時期であるが、出土遺物もなく詳細な時期については不明である。

第92号住居跡 (第175図)

位置 調査区南部, E2f区。

重複関係 本跡は南西壁が第88号住居跡を、西コーナー部が第160号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸4.08m, 短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-120°-E

壁 壁高は28cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径24cmの円形、深さ18cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 南東壁中央部を壁外に100cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ100cm, 幅110cmである。

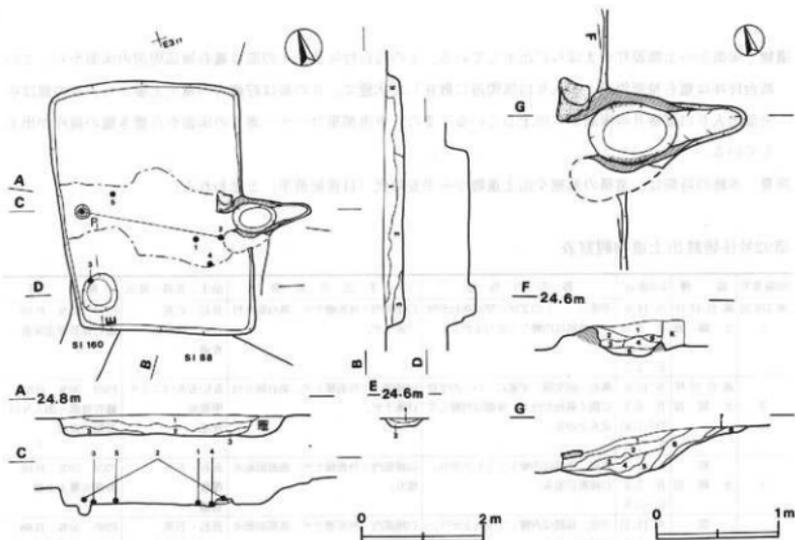
袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。

煙道部は長さ55cm程で、火床面から緩やかに立ち上がっている。

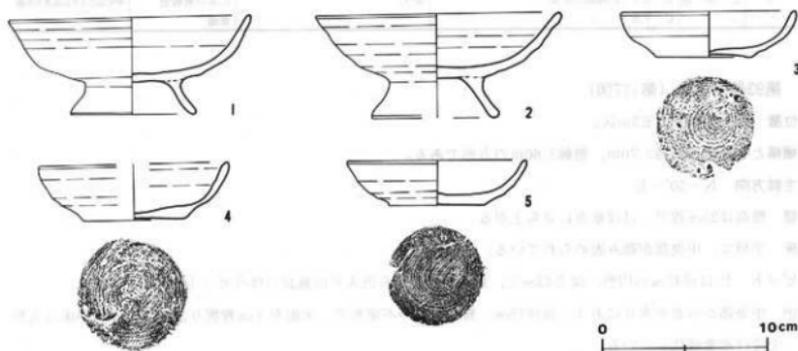
覆土層解説

- | | | | | |
|--------|------------------------|---|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・焼土小ブロック少量 | | | |
| 3 灰褐色 | 砂粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 7 | にぶい褐色 | 焼土小ブロック・砂粒子・粘土粒子少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土大ブロック多量 | 8 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径60cm, 短径55cmのほぼ円形で、深さは10cmである。底面は平坦



第175図 第92号住居跡実測図



第176図 第92号住居跡出土遺物実測図

で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子中量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量
2 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子・ローム小・大ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック少量

遺物 床面から土師器片がまばらに出土している。1の高台付坏及び4の皿は竈右袖部周辺の床面から、2の高台付坏は竈右袖部周辺と出入り口部周辺に散在した状態で、3の皿は貯蔵穴の覆土上層から、5の皿は中央部出入り口部寄りの床面から出土している。また、中央部東コーナー寄りの床面から置き竈の破片が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(11世紀前半)と思われる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第176図 1	高台付坏 土師器	A 14.8	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P502 85% PL68 竈右袖部周辺床面
		B 6.0				
		D 7.6				
		E 1.7				
2	高台付坏 土師器	A 15.0	高台一部欠損。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア明褐色普通	P503 90% PL68 竈右袖部・出入り口部周辺床面
		B 6.3				
		D〔7.8〕				
		E 2.3				
3	皿 土師器	A 10.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英褐色普通	P504 70% PL68 貯蔵穴覆土上層
		B 2.8				
		C 5.8				
4	皿 土師器	A〔11.5〕	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P505 50% PL68 竈右袖部周辺床面
		B 3.4				
		C 6.4				
5	皿 土師器	A 10.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリアにぶい黄褐色普通	P506 60% PL69 中央部出入り口部寄り床面
		B 2.7				
		C 5.8				

第93号住居跡(第177図)

位置 調査区南部, E3b1区。

規模と平面形 長軸3.70m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は25cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径45cmの円形、深さ43cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北東寄りにあり、長径75cm, 短径40cmの不定形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径70cm, 短径60cmの楕円形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 紫褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

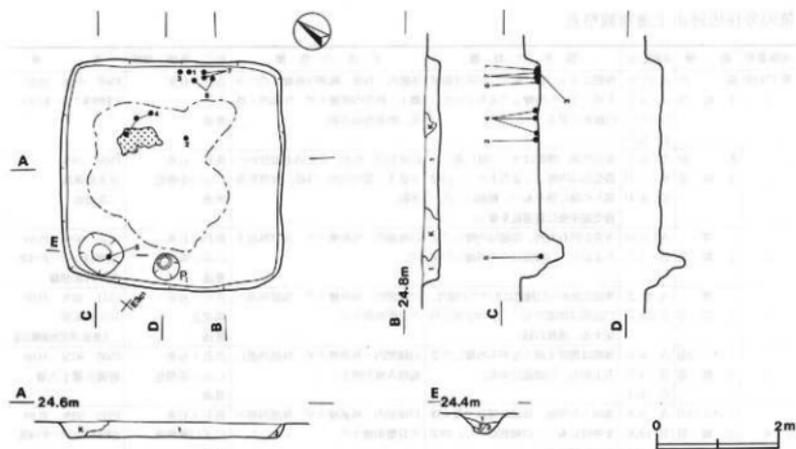
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

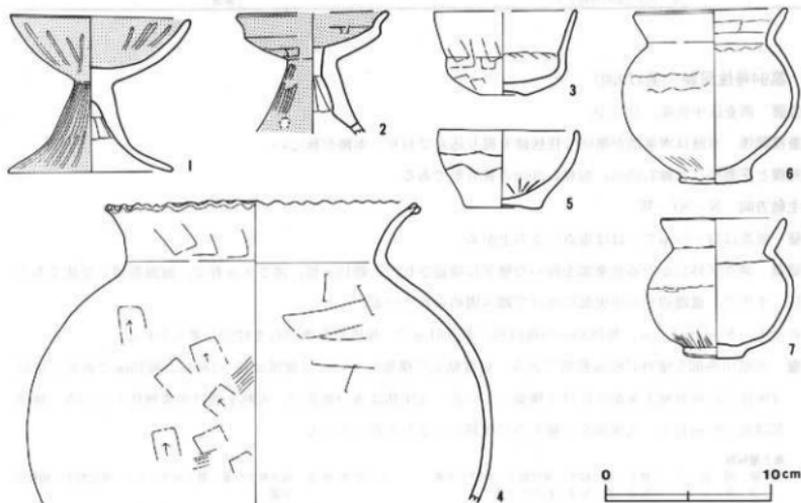
1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム大ブロック中量

遺物 出入り口部付近, 炉周辺及び北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から床面にかけて土師器が出土している。1の高坏, 3の埴及び6・7のミニチュア土器は北東壁際東コーナー寄りの床面から、2の器台は中央



第177図 第93号住居跡実測図



第178図 第93号住居跡出土遺物実測図

部の床面から、4の甕は伊北側の床面から、5のミニチュア土器は貯蔵穴の覆土上層から出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期4世紀前半と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図	高土師器	A 11.0	胴部はラッパ状に開く。坏部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面、胴部外面縦位のヘラ磨き。胴部内面横ナデ。坏部内・外面、胴部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P508 90% PL69 北朝野原コーナートリノ区
		B 9.7				
		D 10.0 E 5.5				
2	土師器	A (9.2)	胴部欠損。胴部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部と胴との境に横をもつ。胴部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部内・外面、体部外面縦位のヘラ磨き。器受部内・外面、胴部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P509 50% 中央部床面 二次焼成
		B (7.3) E (4.4)				
3	土師器	A (8.6)	中央が凹む丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外傾して固く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P510 90% PL69 北朝野原コーナートリノ区 内・外面刺摩
		B 5.1				
4	土師器	A 19.2 B (18.5)	体部上部から口縁部にかけての破片。口縁部は胴部から「く」の字状に外反する。液状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P511 40% PL69 か北朝野原 二次焼成、体部外面刺摩
		A 8.6 B 4.7 C 4.7				
5	土師器	A 8.6 B 4.7 C 4.7	体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪槽み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P507 90% PL69 野原穴覆土上層
		A 9.3 B 10.6 C 4.3				
6	土師器	A 9.3 B 10.6 C 4.3	突出した平底。体部は球状で最大径を中央にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P512 90% PL69 北朝野原コーナートリノ区
		A 7.6 B 6.4 C 3.7				
7	土師器	A 7.6 B 6.4 C 3.7	突出した平底。体部は球状で最大径を中央にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P513 80% PL69 北朝野原コーナートリノ区

第94号住居跡 (第179図)

位置 調査区中央部、D3jz区。

重複関係 本跡は南東部が第93号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.65m、短軸4.20mの長方形である。

主軸方向 N-80°-W

壁 壁高は74-79cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 調査区外にかかる北東部を除いた壁下に確認され、上幅12cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は長径35cm、短径30cmの楕円形、深さ61cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

竈 西壁中央部を壁外に85cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ180cm、幅75cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は長さ80cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

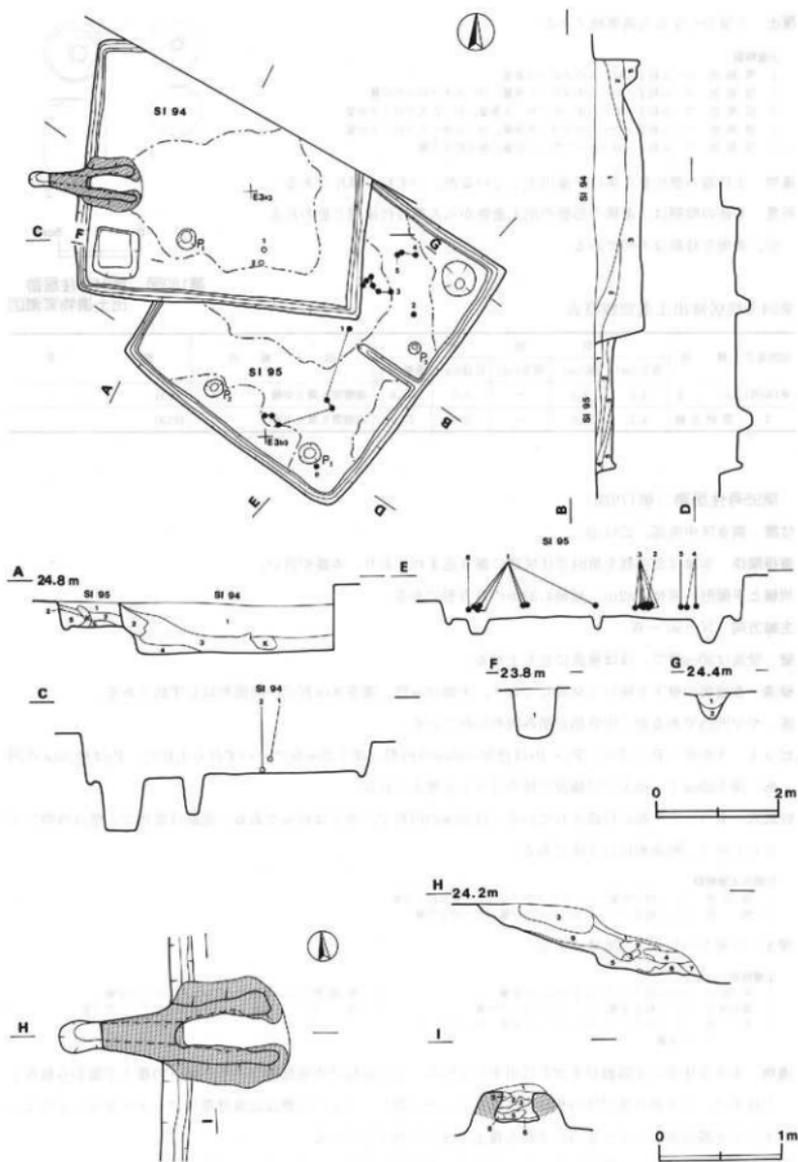
遺土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | 6 明赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・砂粒子中量、焼土小・中ブロック少量 |
| 3 褐色 | 砂粒子中量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒子多量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物・砂粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | | |

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸80cm、短軸74cmの隅丸方形で、深さは84cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、ローム大ブロック・粘土粒子少量



第179图 第94・95号住居跡実測图

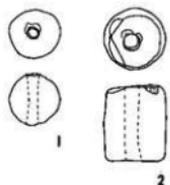
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、ローム大ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中・大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量

遺物 土師器の壺片を主体に少量出土しているが、いずれも破片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われるが、詳細な時期は不明である。



第180図 第94号住居跡
出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第180図1	土 玉	3.1	3.1	—	0.8	24.8	南壁寄り覆土中層	DP131
2	管状土鏝	4.7	3.8	—	0.9	77.9	南壁寄り覆土下層	DP130

第95号住居跡 (第179図)

位置 調査区中央部, E3a3区。

重複関係 本跡は北西部を第94号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.82m, 短軸4.32mの長方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は30cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部の壁下を除いて全周しており、上幅12cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 やや凹凸であるが、中央部が踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は径30~35cmの円形、深さ25cm程で、いずれも支柱穴、P₃は径20cmの円形、深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。径55cmの円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量

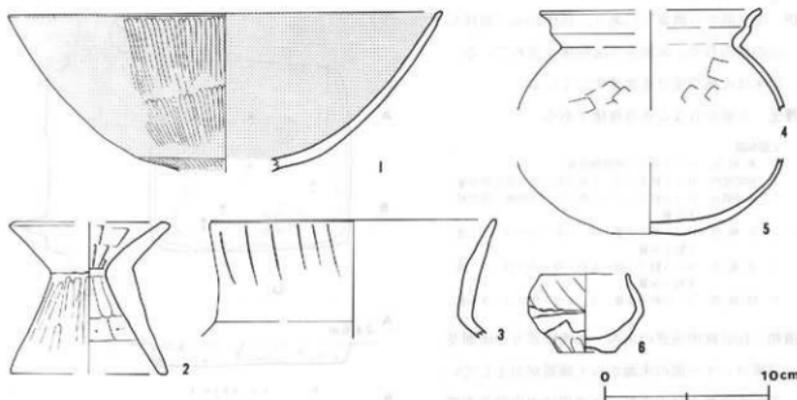
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 3 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量

遺物 床面全体から土師器がまばらに出土している。1の高坏は中央部南コーナー寄りの覆土下層から散在した状態で、2の器台及び3の壺は中央部東コーナー寄り、4・5の壺は北東壁際東コーナー寄り、6のミニチュア土器は南コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期 (4世紀前半) と思われる。



第181図 第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	高土師器	A 26.3 B (9.6)	坏部内。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	外面低位のヘラ磨き。坏部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P514 40% PL69 中央部東コーナー寄り扉蓋 坏部内面割離
2	土師器	A (9.8) B 9.2 D (9.5) E 6.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は器厚を減じながら逆「ハ」の字状に開き、口縁部に至る。口縁部外側ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内面ハケ目整形後ヘラナデ。外面横ナデ。脚部内面横ナデ。外面低位のヘラナデ。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P515 80% PL69 中央部東コーナー寄り扉蓋 二次焼成
3	土師器	A 17.4 B (7.2)	口縁部片。口縁部は頸部からやや外反する。	口縁部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P517 20% 中央部東コーナー寄り扉蓋
4	土師器	A (13.4) B (6.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は中位に稜をもち、頸部から屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面割離のため調整不明、外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P516A 15% 北東部東コーナー寄り扉蓋 二次焼成、P516Bと同一製体
5	土師器	B (4.4) C 4.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面割離のため調整不明、外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P516B20% 北東部東コーナー寄り扉蓋 二次焼成、体部外面割離付着
6	ミニチュア土師器	A 5.5 B 4.7 C 3.5	中央がやや凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面に輪状灰褐色が残る。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P518 90% PL69 南コーナー部土層下層

第96号住居跡 (第182図)

位置 調査区南部, E3c区。

規模と平面形 長軸3.26m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は30~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径33cmの円形、深さ36cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りであり、長径40cm、短径35cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

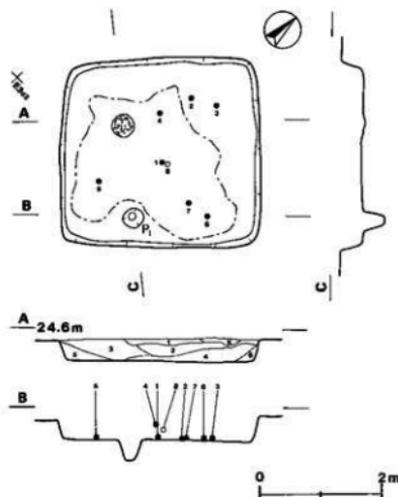
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・大ブロック・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小・中ブロック少量

遺物 住居跡中央部の南西・北西壁寄りの床面及び東コーナー部の床面から土師器が出土している。1の器台は中央部、2の埴は中央部北西壁寄り、3の埴は中央部北コーナー寄り、5の甕は中央部南寄り、6・7の甕は東コーナー部のいずれも床面から出土している。また、4の埴は中央部北西壁寄りの覆土中層から出土している。

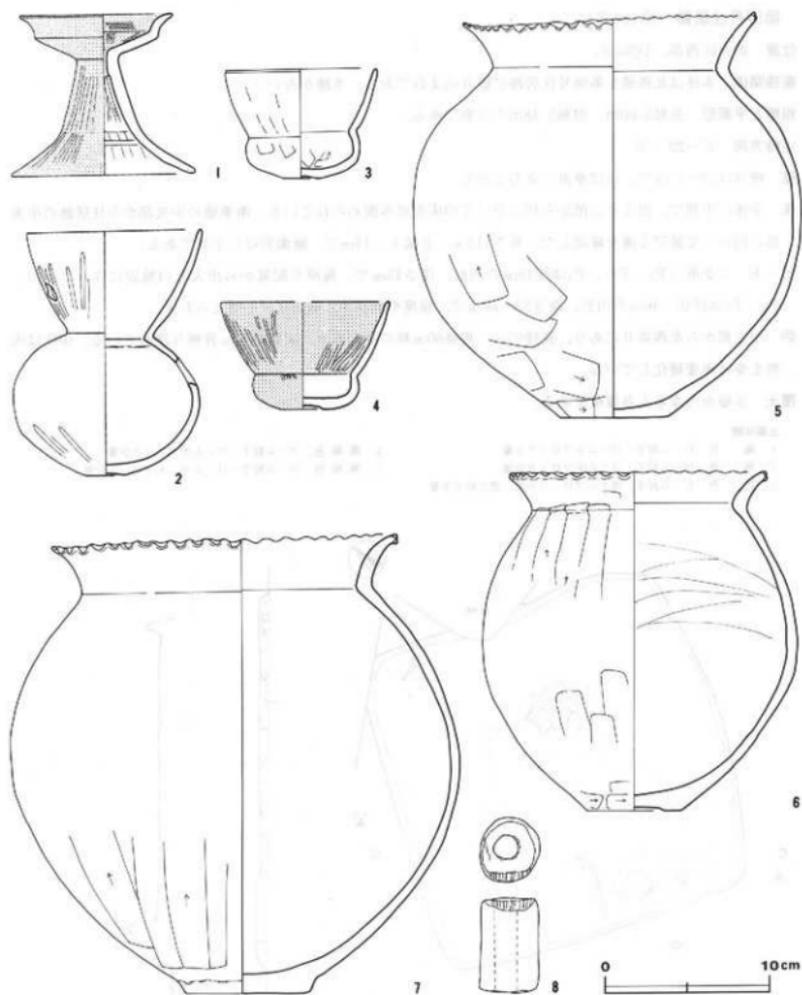
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



第182図 第96号住居跡実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第183図	器台	A 9.4	脚部はフツク状に開く。器受部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面へラ磨き。脚部内面へラナダ、外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	PS19 80% PL70 中央部床面
		B 9.9				
		D 11.2				
		E 7.1				
2	埴	A 10.7	平底であるが中央がやや凹む。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に開く。体部上位、口縁部中位の2か所に穿孔。	口縁部内面、体部外面へラ磨き。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	PS22 70% PL70 中央部北西壁寄り床面
		B 15.1				
		C 2.3				
3	埴	A 9.3	平底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は内彎気味に開く。	口縁部内・外面横ナダ。	長石・石英 黄褐色 普通	PS21 80% PL70 中央部北コーナー寄り床面 体部内・外面刷毛
		B 6.7				
		C 2.2				
4	埴	A [10.3]	平底であるが中央がやや凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は内彎気味に開く。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。 口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	PS20 70% PL70 中央部北西壁寄り覆土中層
		B 6.6				
		C 2.5				
5	甕	A 17.8	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラ磨り後ナダ。	長石・石英 黒褐色 普通	PS24 70% PL70 中央部南寄り床面 二次焼成、体部外面刷毛
		B 24.7				
		C 6.6	波状口縁。			
6	甕	A 15.6	中央がやや凹む平底。体部は縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラ磨り後ナダ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	PS23 70% PL70 東コーナー部床面 二次焼成、体部外面刷毛
		B 20.7				
		C 5.8				
7	甕	A 21.2	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラ磨り後ナダ。	長石・石英 黒褐色 普通	PS25 70% PL70 東コーナー部床面 二次焼成、体部外面刷毛
		B 28.1				
		C 7.8				



第183図 第96号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第183図8	管状土鉢	5.9	3.7	—	1.4	88.6	中央部覆土中層	BP133 PL99

第97号住居跡 (第184図)

位置 調査区西部, D2hs区。

重複関係 本跡は北西壁を第98号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.48mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は12-27cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で, 出入口部から炉にかけての床が踏み固められている。南東壁の中央部から住居跡の中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ112cm, 上幅8-14cmで, 断面形はU字状である。

ピット 3か所 (P₁-P₃)。P₁は径45cmの円形, 深さ45cmで, 規模や配置から出入口口施設に伴うピット,

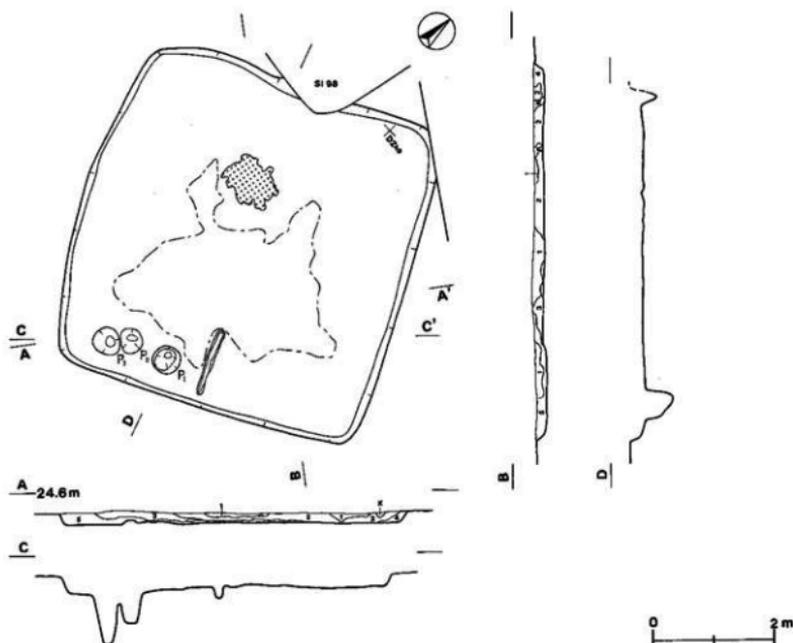
P₂・P₃は径40-46cmの円形, 深さ53-86cmで, 規模や形状から補助柱穴と考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径95cm, 短径60cm程の不定形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・ローム中・大ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量 | | |



第184図 第97号住居跡実測図

遺物 出入り口部周辺及び北西壁中央部の床面から、土師器の破片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第98号住居跡 (第185図)

位置 調査区西部, D2g₉区。

重複関係 本跡は南東部が第97号住居跡を、北西部が第141号住居跡を掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸3.04mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は13~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅7~15cm, 深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、竈周辺から貯蔵穴周辺にかけて踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北東コーナーの北壁側を壁外に75cm程掘り込んで構築している。袖部は削平されており、右袖部の構築材と思われる粘土塊が僅かに残存している。火床部は浅い皿状で、煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。竈2は南東コーナーの東壁側に構築している。すでに全体が削平されており、一部赤変硬化した火床部と粘土塊を確認しただけである。

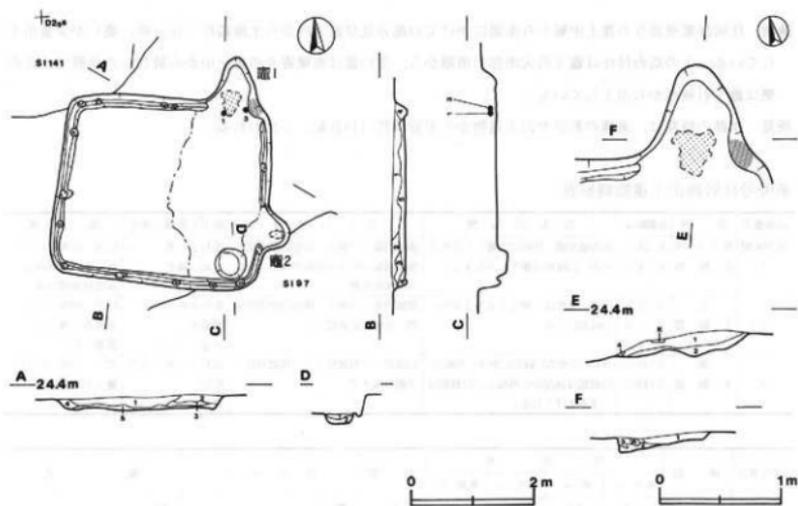
竈1土層解説

1 黒褐色 焼土粒子多量

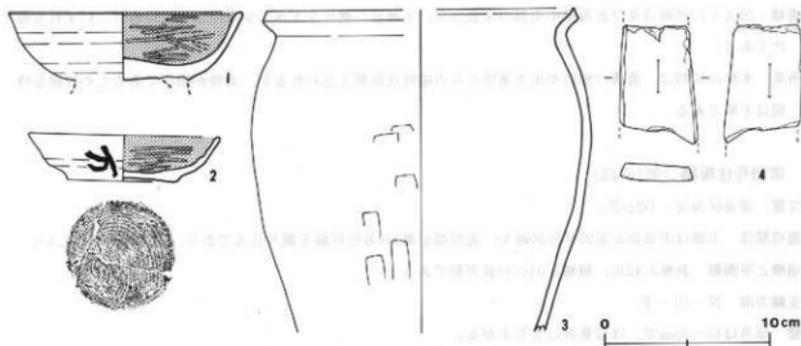
2 明赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量

3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量

4 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒子中量



第185図 第98号住居跡実測図



第186図 第98号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子多量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
5 暗褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック少量

遺物 住居跡東壁寄りの覆土中層から床面にかけての部分及び竈1内から土師器片(坏、皿、甕)が少量出土している。1の高台付坏は竈1内火床部の南端から、2の皿は東壁寄りの覆土中から散在した状態で、3の甕は竈1右袖部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10世紀)と思われる。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第186図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B (4.1)	高台部欠損。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。	体部内面へう磨き。底部回転糸切り後高台貼り付けの痕跡が残る。坏部内面黒色処理。	長石・石英 にい・褐色 普通	PS28 85% PL70 竈1内火床部南端 体部外面灰付着
2	皿 土師器	A 11.6 B 2.8 C 6.7	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へう磨き。体部内面黒色処理。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 明栗色 普通	PS27 90% PL70 東壁寄り覆土中 墨書「方」
3	甕 土師器	A (18.6) B (19.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は胴部から外反し、口唇部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう磨き後ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	PS29 20% PL71 竈1右袖部内 二次焼成

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)			
第186図4	砥石	(7.2)	4.7	1.1	(60.2)	凝灰岩	覆土中	053

第99号住居跡（第187図）

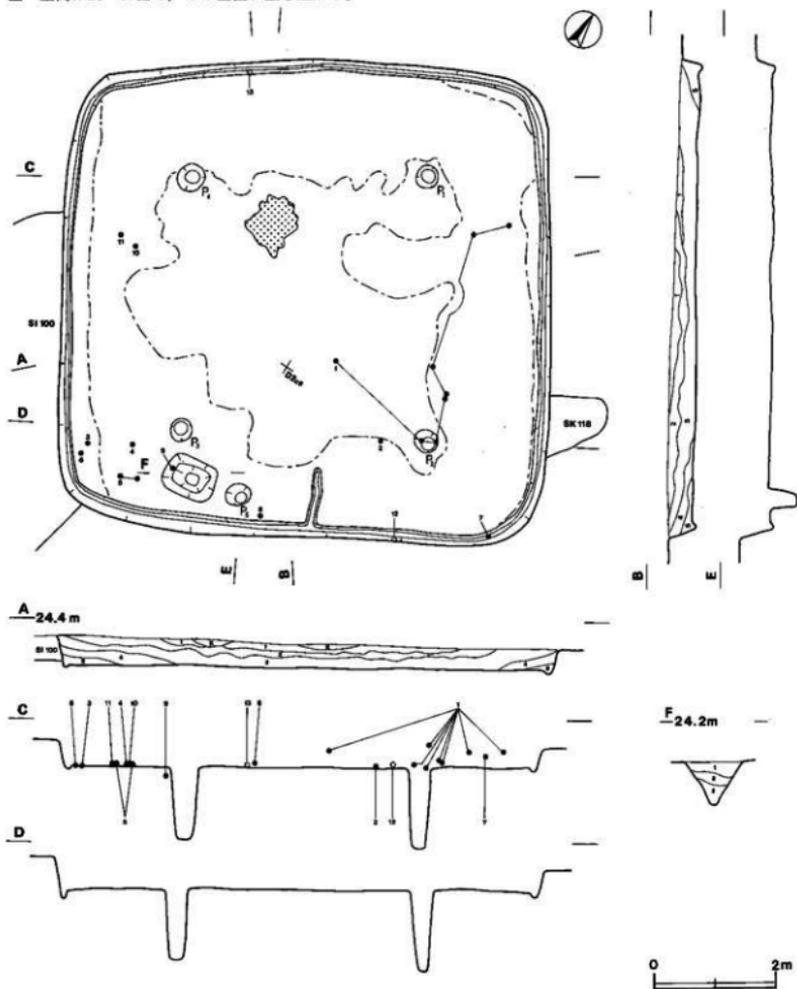
位置 調査区西部，D2bs区。

重複関係 本跡は南西壁が第100号住居跡を，北東壁が第118号土坑を掘り込んでおり，本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸7.95m，短軸7.80mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は25~50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。



第187図 第99号住居跡実測図

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ95cm、上幅10~15cm、深さ9~15cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径35~45cmの円形、深さ117~133cmで、いずれも主柱穴、P₅は径40cm程の円形、深さ44cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径100cm、短径90cmの不定形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁下の南コーナ寄りに付設されている。長軸85cm、短軸65cmの隅丸長方形で、深さは83cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

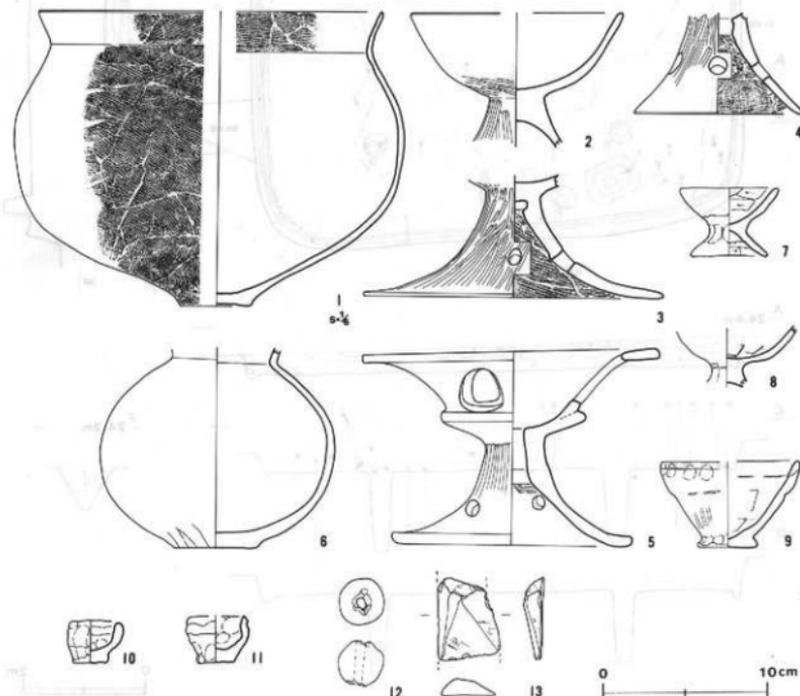
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中・大ブロック中量

- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量



第188図 第99号住居跡出土遺物実測図

遺物 北西壁寄りの床面を除く三方の壁寄りの床面から少量の土師器とミニチュア土器及び手捏土器が出土している。1の鉢は東及び北コーナー寄りの覆土中層から散在した状態で、2の高坏は中央部東コーナー寄りの床面から、3の高坏、4の器台、5の裝飾器台及び6の壺は南コーナー部の床面から出土している。また、7~9のミニチュア土器は東コーナー部の覆土下層、出入り口部の床面、貯蔵穴の覆土上層から、10・11の手捏土器は南西壁寄りの床面から出土している。

所見 本跡は、住居跡の形態としては同時期の他の住居跡と同様であるが、祭祀的色彩の濃い遺物が出土している。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図	鉢	A(41.5)	突出した平底。体部は大きく内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面、体部外面ハケ目整形。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P532 50% PL71 北東コーナー部覆土中層
		B 36.0				
		C 8.7				
2	高坏	A(13.0)	胴部上位から坏部にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部外面、胴部外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P530 20% PL71 中央部東コーナー部覆土中層 坏部内面割離
		B(6.2)				
		E(3.0)				
3	高坏	B(7.5)	坏部欠損。胴部はラッパ状に開き、胴部は横方向に大きく開く。	胴部、胴部内面ハケ目整形、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P531 50% PL70 南コーナー部床面
		D 18.3				
		E 6.3				
4	器台	B(6.2)	器受部欠損。胴部はラッパ状に開く。胴部に4孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	胴部内面ハケ目整形、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 褐色 普通	P533 50% PL71 南コーナー部床面
		C 10.2				
		D 10.2				
5	裝飾器台	A 18.1	胴部はラッパ状に開く。器受部下位は周縁が突き出し、上位はラッパ状に開く。胴部に4孔。器受部に達かし窓3か所、中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面横ナデ。胴部内面ハケ目整形後横ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P534 90% PL71 南コーナー部床面
		B 12.0				
		D 14.6				
6	壺	B(12.2)	口縁部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P535 80% PL71 南コーナー部床面
		C 5.0				
		D 4.6				
7	ミニチュア土師器	A 6.0	高坏形。胴部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面、胴部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P538 100% PL70 東コーナー部覆土下層
		B 4.2				
		D 4.6				
8	ミニチュア土師器	B(3.7)	高坏形。胴部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P539 50% PL71 出入り口部床面
		E(1.2)				
		C 3.6				
9	ミニチュア土師器	A(8.5)	鉢形。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。体部外面に輪痕み痕が残る。	長石・石英 灰褐色 普通	P540 70% PL71 貯蔵穴覆土上層
		B 5.3				
		C 3.6				
10	手捏土師器	A 3.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指頭によるナデ。体部内・外面に指頭圧痕。輪痕み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P536 70% PL71 南西壁寄り床面
		B 2.6				
		C 2.0				
11	手捏土師器	A(3.4)	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指頭によるナデ。体部内・外面に指頭圧痕。輪痕み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P537 90% PL71 南西壁寄り床面
		B 2.8				
		C 2.2				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第188図12	土玉	2.8	2.8	-	0.6	19.6	南東壁際東コーナー寄り下層 DF135

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第188図13	砥石	(5.0)	3.8	1.2	(17.9)	凝灰岩	北西壁際床面	Q54

第100号住居跡 (第189図)

位置 調査区西部, D2c5区。

重複関係 本跡は北東部を第99号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺4.50m程の隅丸方形か隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-160°-E

壁 壁高は26~32cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 床面全体が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径18cm, 短径15cmの楕円形で, 深さは19cm, P₂は長径30cm, 短径20cmの楕円形で, 深さは66cmである。いずれも柱穴と考えられる。

炉 中央部から南西寄りにあり, 長径85cm, 短径70cmの不定形で, 床面を8cm程掘り窪めている。

炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

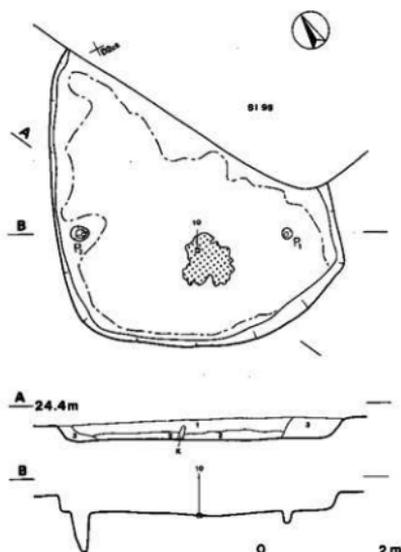
遺物 縄文土器の深鉢片30点, 石器1点, チャート剥片3点及びメノウ剥片1点が炉を中心とする南部の床面から出土している。10の炉石は炉床の北部から長径方向に対しほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉 (関山Ⅱ時期) と思われる。

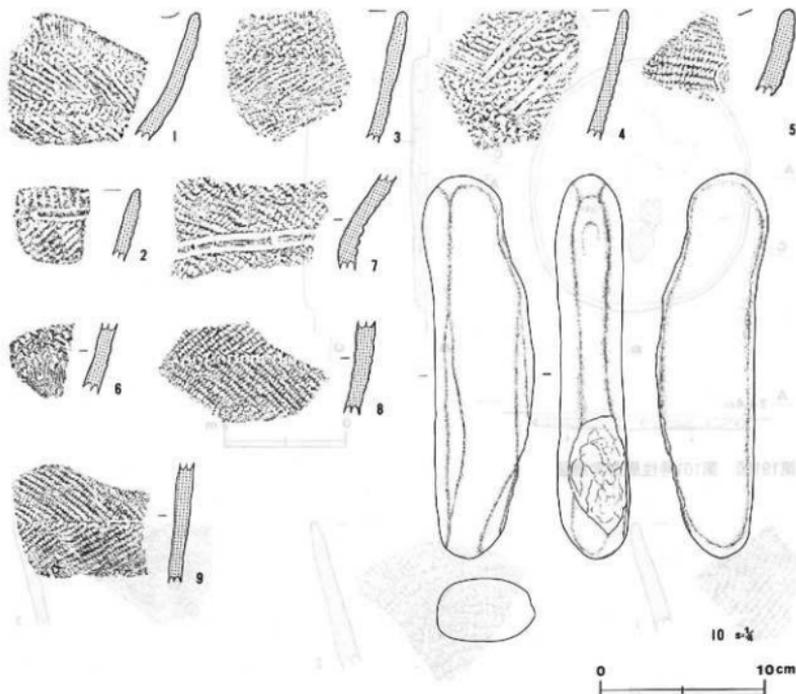
第190図1~9は, 第100号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1~5は口縁部片である。1~3は口縁部に縦の沈線が, 4は半截竹管によるV字状の沈線が, 5は単節LRの縄文と櫛歯状工具による沈線が施されている。6~9は胴部片である。6はコンパス文が, 7は半截竹管による平行沈線が, 8・9は単節LRとRLの羽状縄文が施されている。

第100号住居跡出土遺物観察表

図録番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第190図10	炉石	31.1	8.9	6.0	2200.9	安山岩	炉床	056 被熱 PL105



第189図 第100号住居跡実測図



第190図 第100号住居跡出土遺物実測・拓影図

第101号住居跡 (第191図)

位置 調査区西端部, D2d₂区。

規模と平面形 長径4.10m, 短径3.54mの楕円形である。

主軸方向 N-25'-E

壁 壁高は16-26cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 炉の北側が踏み固められている。

炉 中央部からやや南西寄りになり, 長径110cm, 短径40cmの不定形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

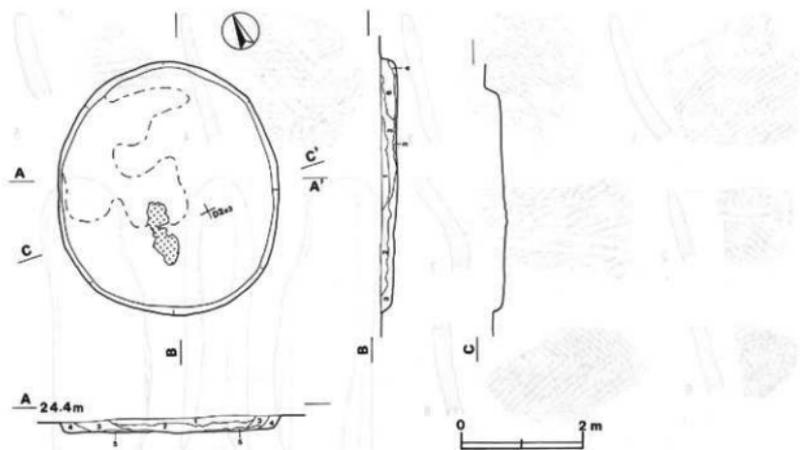
4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量

5 褐色 ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量

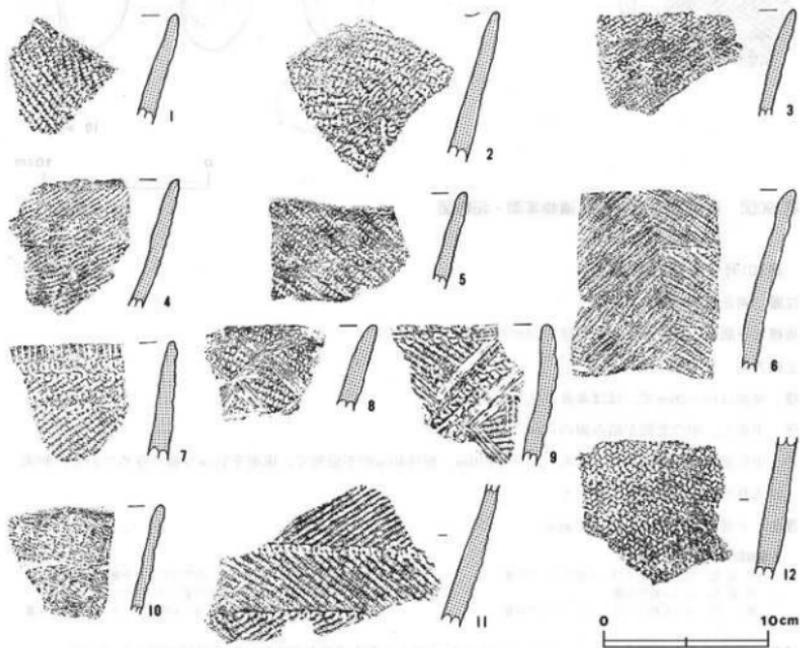
6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量

遺物 住居跡の中央部から南部にかけての床面から縄文土器の深鉢片317点と少量の石が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉 (岡山Ⅱ式期) と思われる。



第191图 第101号住居跡実測图



第192图 第101号住居跡出土遺物拓影图

第192図1～12は、第101号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～10は口縁部片である。1～5は単節L Rの縄文が、6は無節Rの縄文が、7は口縁部に縦位の沈線が、8は楕円状工具による幾何学文が、9は半截竹管文が、10は直前段反折り（正反の合）による縄文が施されている。11・12は胴部片である。11は結節の羽状縄文が、12は組み紐による縄文が施されている。

第102号住居跡（第194図）

位置 調査区西部，D24区。

重複関係 本跡は北部が第105号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.34m，短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は8cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

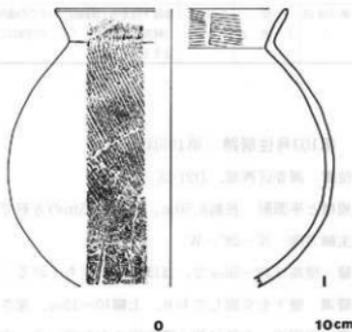
床 平坦であるが，全体的に軟らかい。

ピット P1は径20cmの円形，深さは43cmで，規模や配置から出入り口施設のピットと考えられる。

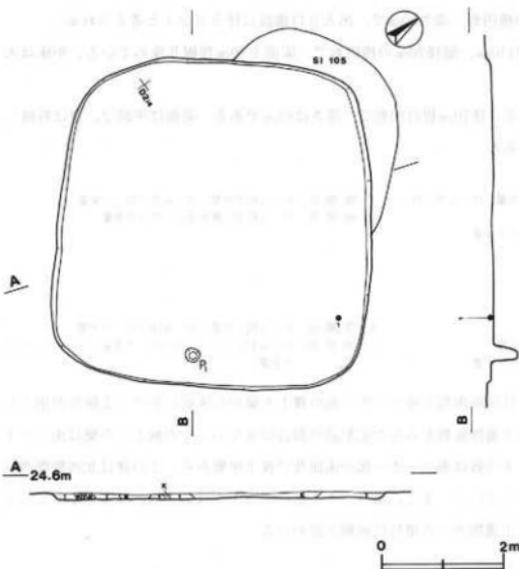
覆土 1層からなる人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・炭土粒子・炭化粒子少量



第193図 第102号住居跡出土遺物実測図



第194図 第102号住居跡実測図

遺物 中央部及び東・西コーナー部の床面から土師器片が少量出土している。1の壺は東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第194図	甕	A(14.1)	体部下位から口縁部にかけての破片。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナテ。	長石・石英	P541 30%
1	土師器	B(16.9)	口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	体部外面ハケ目整形。	黒色 普通	東コーナー部床面 二次焼成

第103号住居跡（第195図）

位置 調査区西部，D2f区。

規模と平面形 長軸8.50m，短軸8.45mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は42～56cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅10～15cm，深さ10cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，全体に強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を確認した。長さ130cm，上幅15cm，深さ17cm程で，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は長径35～65cm，短径30～50cmの楕円形，深さ49～72cmで，いずれも支柱柱，P₅は長径75cm，短径55cmの楕円形，深さ50cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり，長径110cm，短径70cmの楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径70cm程の円形で，深さは83cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭屑土小ブロック多量 |

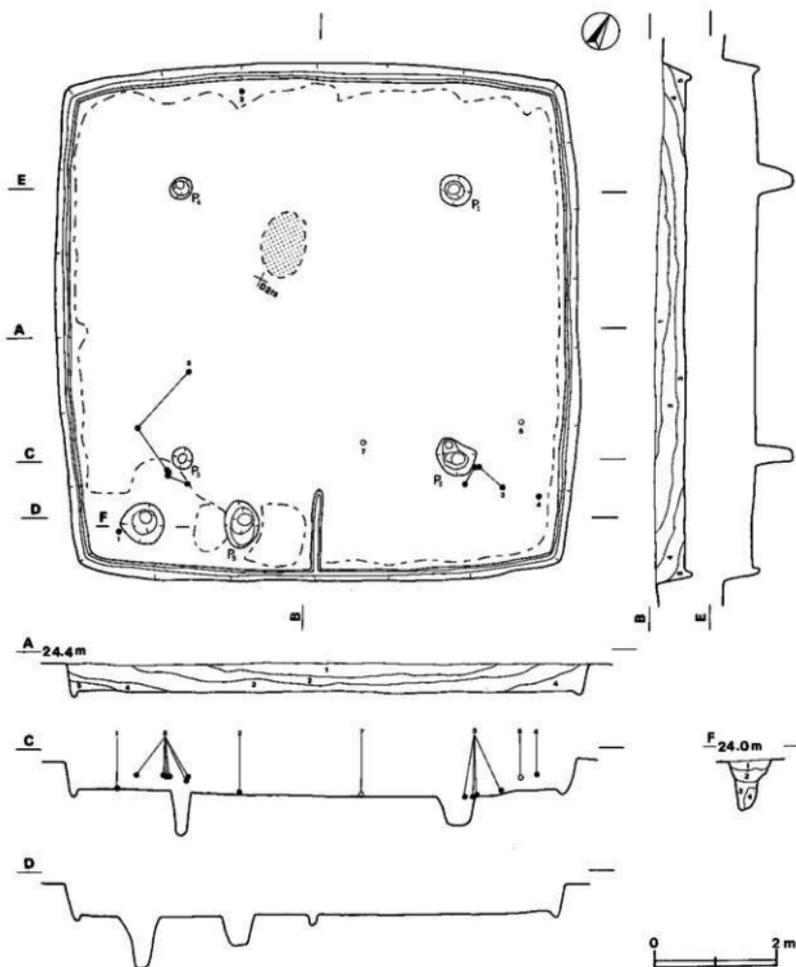
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量 |
| 3 黒色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | | |

遺物 主に南コーナー部を中心とした住居跡南部と東コーナー部の覆土上層から床面にかけて土師器が出土している。大半は土師器片であり，出土遺物総数からみた完形品の割合は少ない。1の椀と5の壺は南コーナー部の床面及び覆土中層から，3・4の壺は東コーナー部の床面及び覆土中層から，2の鉢は北西壁際西コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。また，南コーナー部の床面からは粘土塊と礫が出土している。

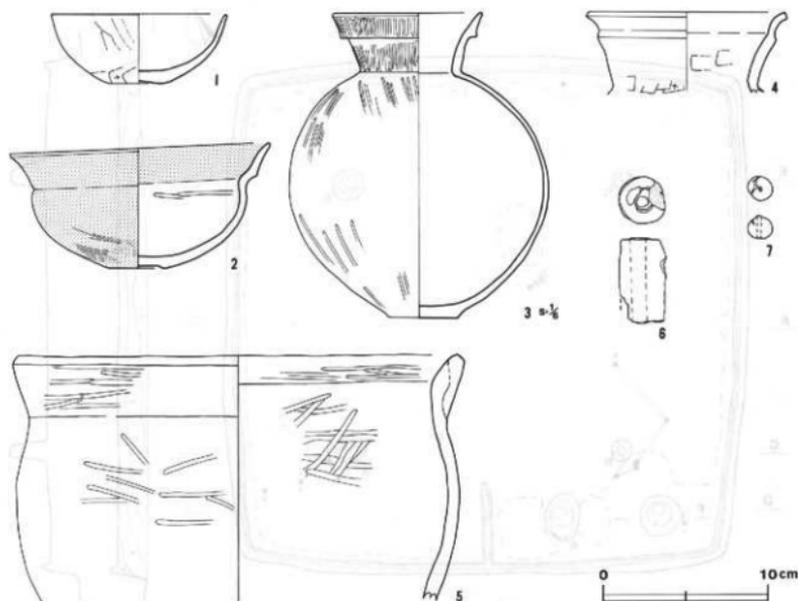
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第195図 第103号住居跡実測図

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 1	土 器	A 10.6 B 4.2 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外型横ナア。体部外溝ヘ ラ削り後ヘラナア。	長石・石英 褐色 普通	F542 96% PL72 南コーナー部床面 体部内面刻彫



第196図 第103号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図	鉢	A 15.8	中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に條をもつ。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。口縁部から体部内・外面赤刷。	長石・石英 赤褐色 普通	PS43 100% PL71 北宮遺跡西コーナー部埋蔵
2	土師器	B 7.5 C 3.6				
3	壺	A 18.3 B 37.3 C 8.5	突出した平底。体部はやや縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から外傾する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	PS46 70% PL71 東コーナー部床面
4	土師器	A 12.0 B (4.8)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。口縁部下位に條をもつ。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面、頸部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	PS45 5% 東コーナー部覆土中層
5	土師器	A 27.4 B (15.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外傾する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	PS44 20% PL71 南コーナー部覆土中層 体部内面割離

図版番号	種別	計測値				重量(g)	出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)				
第196図6	管状土鉢	5.3	2.9	—	1.0	(42.9)	東コーナー部覆土中層	DP136	
7	土玉	1.5	1.5	—	0.2	2.6	南寄り床面	DP137	

第104号住居跡 (第197図)

位置 調査区西部, D2区。

重複関係 本跡は東コーナー部が第113号土坑を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸3.18mの方形である。

主軸方向 N-49°-W

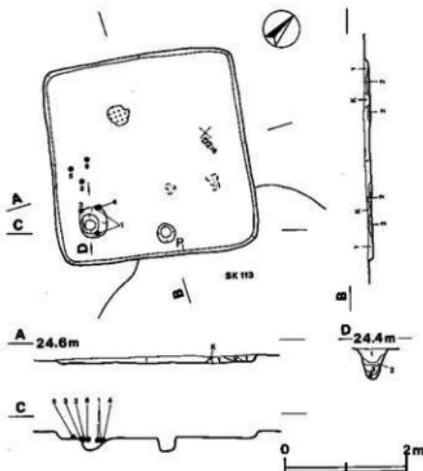
壁 壁高は13cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 出入り口部周辺が踏み固められている。

ピット Piは径30cmの円形, 深さ24cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径35cm, 短径30cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸50cm, 短軸45cmの隅丸方形で, 深さは53cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形はU字状である。



第197図 第104号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 細暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 4 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

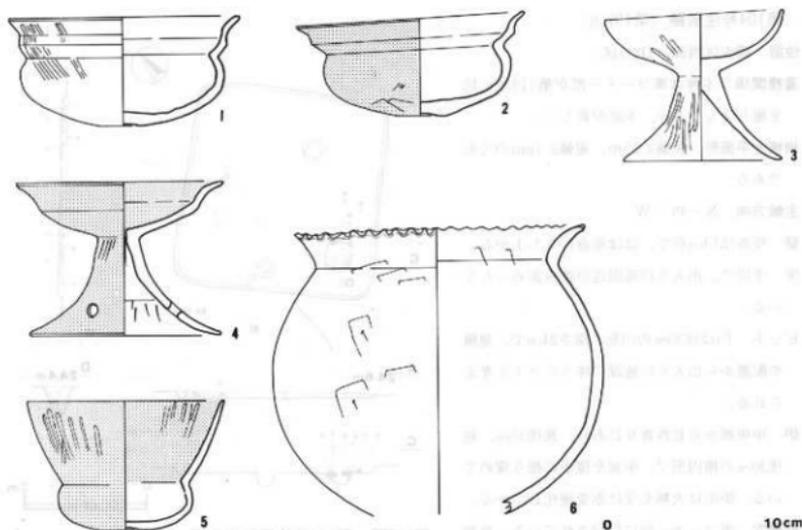
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 主に南西壁際の中央部から南コーナー部にかけての住居跡南部の床面から土師器が出土している。1の鉢は逆位, 3の高坏及び4の甕台は正位の状態である。2の鉢, 5の埴及び6の甕は正位の状態である。南西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期 (4世紀前半) と思われる。

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	背高値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図	1 土師器	A 14.0	中央がやや凹み平底。体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英 明褐色 普通	P547 80% PL72 南コーナー部床面 二次焼成, 体部内面刺磨
		B 6.6				
		C 2.3				
2	土師器	A 13.8	中央がやや凹み平底。体部は内湾して立ち上がり, 口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面刺磨のため裏面不明。口縁部から体部外面赤色。	長石・石英 赤色 普通	P548 80% PL72 南西壁寄り床面 二次焼成, 体部内・外面刺磨
		B 6.3				
		C 2.7				



第198図 第104号住居跡実測図

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図	高土師器	環 A 10.8 B 9.2 D 9.6 E 5.5	臀部はラッパ状に開く。環部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	環部、臀部外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英 赤褐色 普通	P549 100% PL72 南コーナー部床面 二次焼成、環部内面刺摩
4	器台土師器	A 12.5 B 9.3 D 11.6 E 5.9	臀部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。臀部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。臀部外面へラ削り後へラ磨き。器受部内・外面、臀部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P550 95% PL72 南コーナー部床面 二次焼成、器受部内・外面刺摩
5	増土師器	A 11.9 B 7.9	丸底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P551 40% PL72 南西壁寄り床面 体部内面刺摩
6	壺土師器	A 17.7 B (17.5)	底部欠損。体部は球状で、口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英 黒色 普通	P552 70% PL72 南西壁寄り床面 体部内面刺摩、外面塗灰付着

第105号住居跡 (第199図)

位置 調査区西部、D2h区。

重複関係 本跡は南部を第102号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸3.80m、短軸3.20mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-150°-E

壁 壁高は15cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

炉 中央部から南東寄りにあり、長径68cm、短径45cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

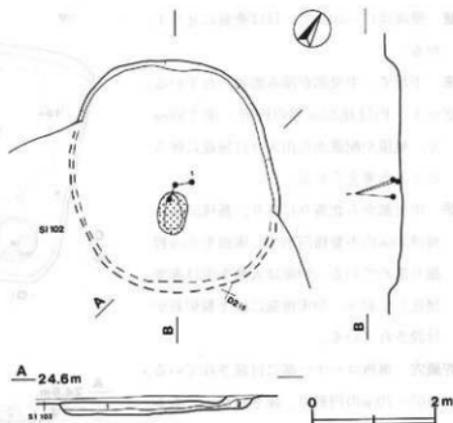
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

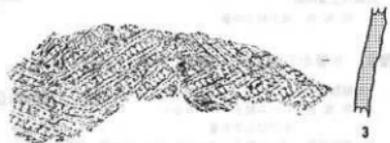
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小アロック少量

遺物 炉を中心とする住居跡のほぼ中央部の床面から縄文土器の深鉢・浅鉢片29点及び少量の石が出土している。1の浅鉢は炉の北側から西側にかけての床面から散在した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。



第199図 第105号住居跡実測図



第200図 第105号住居跡出土遺物実測・拓影図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	粘土・色調・焼成	備考
第200図	浅鉢	A (20.7)	底部は無文で平底。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。胴部下位に単筋し及の羽状縄文が、口縁部には縦位の沈線が施されている。	長石・スコリア	P553 90% FL73 炉北側～西側床面
1	縄文土器	B 8.0		褐色	
		C 5.9		普通	

第200図2・3は、第105号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2・3は胴部片で、直前段合摺りの縄文が施されている。

第106号住居跡（第201図）

位置 調査区西部、E2a4区。

規模と平面形 長軸3.75m、短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は10~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。
ピット P₁は径23cm程の円形、深さ38cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径55cm、短径30cmの不整形円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径65~70cmの円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

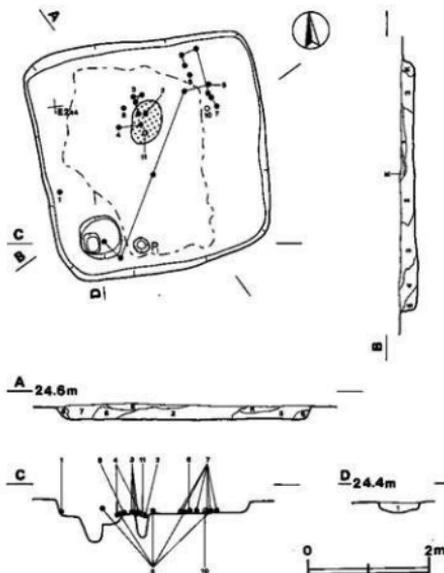
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
2 新暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化物少量
3 黒褐色 ローム粒子・炭化物中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
4 黒色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量
5 新暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
7 新暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
8 暗褐色 ローム粒子中量



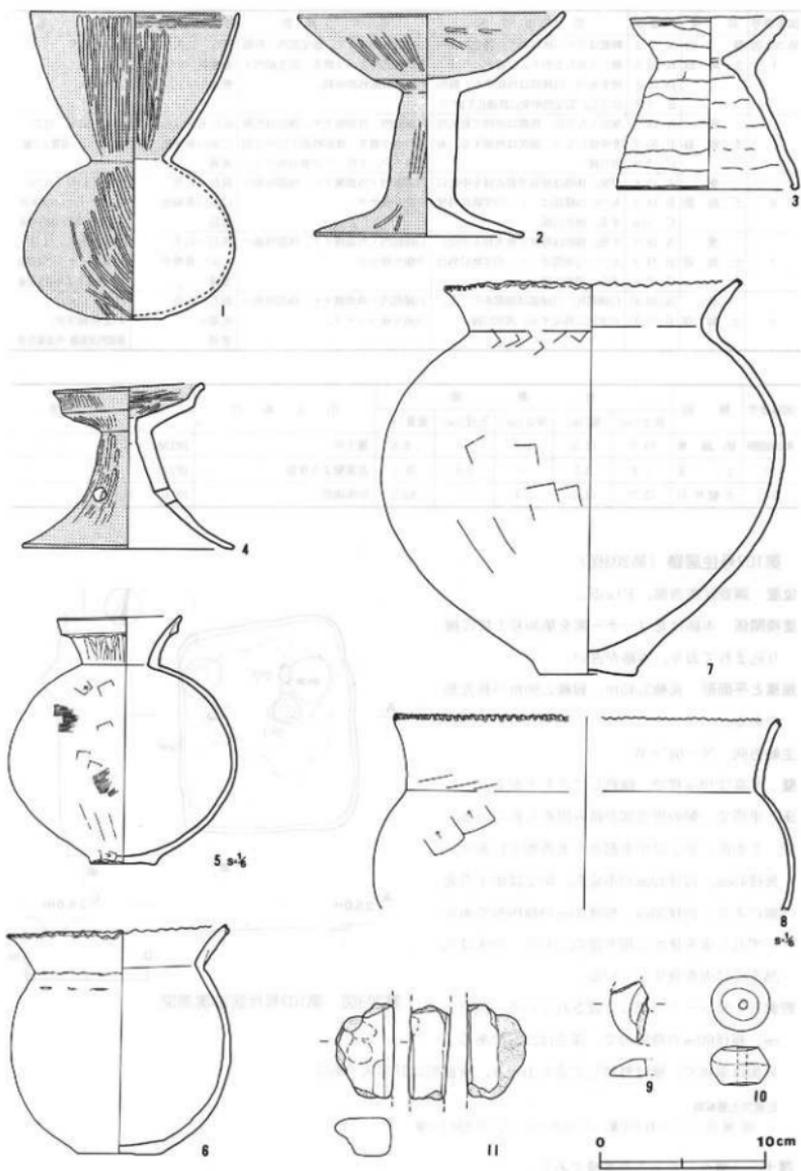
第201図 第106号住居跡実測図

遺物 炉を中心とする住居跡中央部から北東部にかけての覆土下層から床面、また南西コーナー部の床面から土師器を主体に出土している。2の高坏、3及び4の器台は炉床から、8の甕は炉北西側の床面から、1の埴は西壁際中央部の覆土下層から、5の壺は南西コーナー部の覆土下層から、6・7の甕は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。炉床南部からは11の土製炉石が炉の長径に対して直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	埴	A 12.8	平底。体部はやや扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へう磨き。 口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P557 100% PL72 西壁際中央部覆土下層
		B 18.7				
		C 3.8				
2	高土師器	A 16.5	脚部は中央柱状で、裾部は横方向に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下に稜をもつ。	坏部内・外面、脚部及び裾部外面へう磨き。坏部から脚部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P554 70% PL72 炉床 二次焼成
		B 13.7				
		D 12.9				
		E 8.7				
3	土師器	A 9.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面及び脚部内・外面へう磨き。頸部に指頭圧痕。脚部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P556 90% PL73 炉床 二次焼成
		B 10.6				
		D 11.0 E 7.3				



第202图 第106号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第202図 4	土 師 器	A 9.2	脚部はラッパ状に開く。器受部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境に 線をもち、口縁部は外反する。脚部 に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面 及び脚部外面へラ磨き。器受部内・ 外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P566 95% PL73 炉床 二次焼成
		B 10.3				
		D 12.8 E 7.3				
5	土 師 器	A 14.9	突出した平底。体部は球状で最大径 を中位にもち、頸部は外傾する。有 段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面横 位のへラ磨き。体部外面上位へラ磨 り後ナデ。下位ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・スクリア にぶい赤褐色 普通	P568 60% PL72 南西コーナー部覆土下層
		B 30.3				
		C 7.9				
6	土 師 器	A 13.4	平底。体部は球状で最大径を中位に もつ。口縁部は「く」の字状に外反 する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ磨り後ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P569 80% PL73 北東コーナー部床面 二次焼成、体部外面磨付着
		B 14.0				
		C 5.0				
7	土 師 器	A 18.0	平底。体部は球状で最大径を中位に もつ。口縁部は「く」の字状に外反 する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ磨り後ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P560 70% PL73 北東コーナー部床面 二次焼成、体部外面磨付着
		B 24.3				
		C 5.8				
8	土 師 器	A (46.8)	口縁部片。口縁部は頸部から「く」 の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ磨り後ヘラナデ。	長石・石英 暗褐色 普通	P561 10% 炉北西側床面 体部内外面横・外面磨付着
		B (23.5)				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第202図9	紡 錘 車	3.7	(2.3)	1.1	—	(8.3)	覆土中
10	土 玉	2.4	3.5	—	0.6	28.1	北東壁より床面
11	土 製 炉石	(5.7)	(3.5)	2.4	—	(43.9)	炉床南部

第107号住居跡(第203図)

位置 調査区南西部, F1a区。

重複関係 本跡は北コーナー部を第36号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸2.90mの長方形である。

主軸方向 N-64°-W

壁 壁高は10cm程で、傾斜して立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部から北西寄りにあり、長径45cm, 短径40cmの不定形、炉2は炉1の北側にあり、長径30cm, 短径20cmの楕円形である。いずれも床を僅かに掘り窪めており、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径70

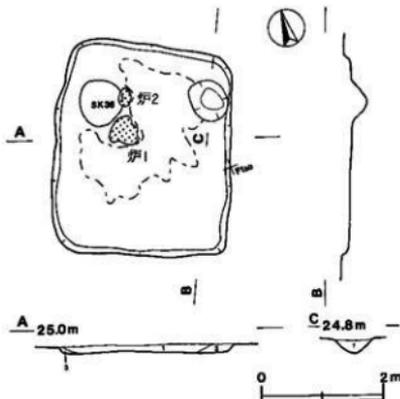
cm, 短径60cmの楕円形で、深さは25cmである。

底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土 3層からなる人為堆積である。



第203図 第107号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・黄土小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器の破片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第108号住居跡(第204図)

位置 調査区西端部, E2b₂区。

重複関係 本跡は、貯蔵穴が第79号土坑の覆土を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.70m, 短軸5.55mの方形である。

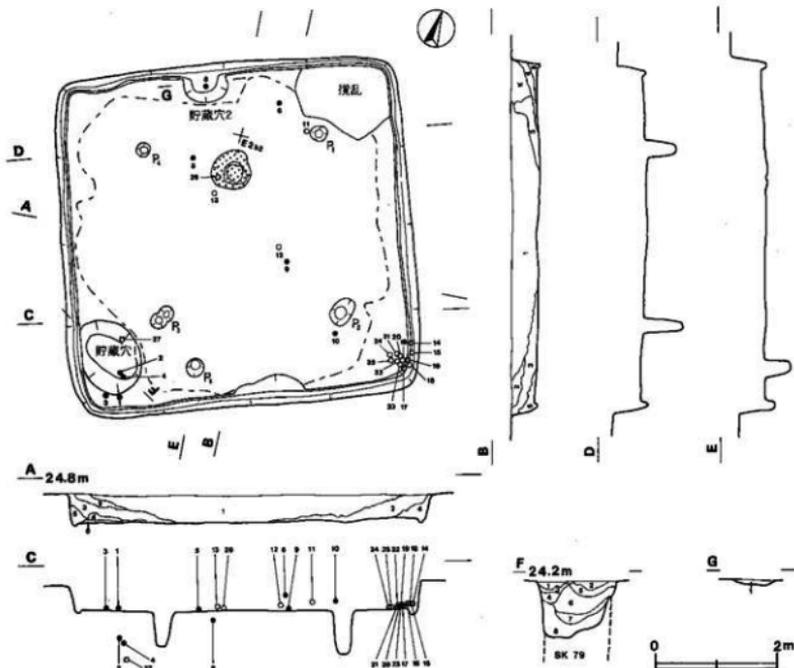
主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は42~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10~15cm, 深さ10cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、四方の壁寄りの床面が踏み固められている。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄(P₅については配置換えの跡とみられP₂-A・Bとした)は長径25~45cm,



第204図 第108号住居跡実測図

短径22~30cmの円形ないし楕円形、深さ46~72cmで、いずれも主柱穴、P₅は径30cm程の円形、深さ42cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りであり、径65cmのほぼ円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。第79号土坑と重複しており、その覆土上層を掘り込み、貯蔵穴として再利用したと考えられる。正確な規模は不明であるが、土層断面と遺物出土状況から深さは90cm程と思われる。貯蔵穴2は北壁下のほぼ中央部に付設されている。長径70cm、短径40cmの半円形で、深さは15cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小・中ブロック中量 | 7 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量 |

貯蔵穴2土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

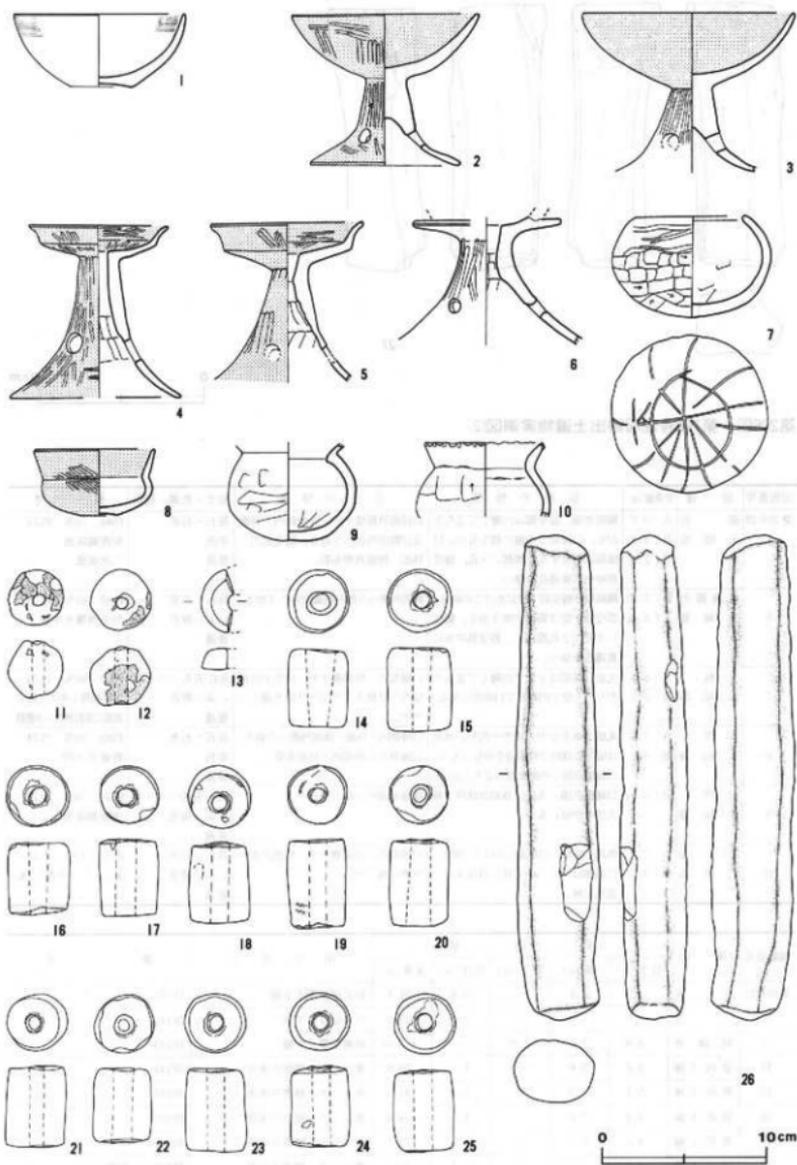
- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 6 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 床面全体から土師器及び土製品が出土している。また、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて炭化材及び焼土塊が出土している。1の碗及び3の高坏は南コーナー部の床面から、2の高坏、4の器台及び27の砥石は貯蔵穴1内から、8の罫は貯蔵穴2内から、5の器台は炉西側の床面から、6の装飾器台は炉北側の覆土中層から、9の罫は中央部の床面から、10のミニチュア土器は東コーナー寄りの覆土下層から、7の碗は北西部の覆土中から散在した状態で、14~25の管状土鍾は東コーナー壁際の覆土中層から床面にかけて集中した状態でそれぞれ出土している。炉床南部からは26の土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

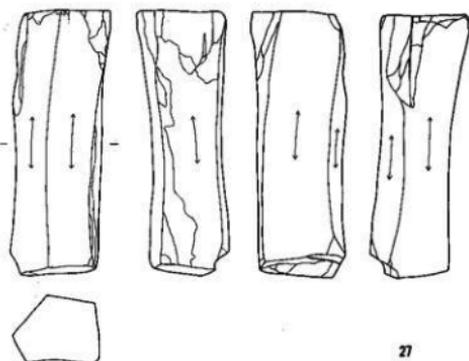
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	土師器 碗	A 10.4	中央がやや凹み平坦。底部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P562 90% PL74 南コーナー部床面
		B 4.4				
		C 3.8				
2	高土師器 坏	A 11.5	脚部は短い中実柱状で、肩部は横方 向に開く。坏部は内彎して立ち上 がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿 つ。	坏部内・外面、脚部及び横部外面へ ラ磨き。坏部内・外面赤彩、脚部外 面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P565 100% PL73 貯蔵穴1内
		B 9.3				
		D 9.3				
		E 5.3				
		E 5.3				
3	高土師器 坏	A 13.0	肩部欠損。脚部は短い中実柱状。坏 部は内彎して立ち上がり、口縁部に 至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部外面へラ磨き。 坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P564 70% PL73 南コーナー部床面 二次焼成
		B (9.8)				
		E (5.2)				
4	土師器 器台	A 8.5	脚部はラップ状に開く。器受部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境に D [10.4] 稜をもつ。口縁部は外反する。脚部 に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面 及び脚部外面へラ磨き。器受部内・ 外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P567 90% PL73 貯蔵穴1内 二次焼成
		B 10.7				
		D [10.4]				
		E 8.7				



第205图 第108号住居跡出土遺物実測図(1)



27



第206図 第108号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図	器台	A 9.2 B (9.8) E (7.2)	裾部大撰。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に壁をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部外面横ナデ。器受部内・外面及び脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	F566 70% PL73 伊西側床面 二次焼成
6	鉢 器台 土 脚 器	B (7.8) E (6.4)	脚部から器受部下位にかけての破片。器受部下位は腐蝕が突き出す。脚部に3孔(2孔現存)。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面へラ削り後縁位のへラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	F568 40% PL73 伊北側覆土中層
7	碗 土 脚 器	A 6.6 B 6.3	丸底。体部は下位で内彎して立ち上がり、上位で内彎して口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位縁位のへラ磨き、下位へラ削り後へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	F563 90% PL73 北西部覆土中から数枚 底部に放射状のへラ痕跡
8	埴 土 脚 器	A 7.4 B 4.1	丸底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は短く内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	F569 90% PL74 貯蔵穴2内
9	埴 土 脚 器	B (6.0)	口縁部大撰。丸底。体部は球状で最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	F570 70% PL73 中央部床面
10	ミコニア土器 土 脚 器	A 7.3 B (4.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	F571 40% PL74 東コーナー寄り覆土下層

図版番号	種別	計 測 値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図1	土 玉	3.5	3.4	—	0.8	34.1	伊北東側覆土下層	DP141
12	土 玉	3.6	3.9	—	0.7	43.9	中央部覆土下層	DP142
13	紡 錘 車	(3.0)	(2.0)	1.3	—	(8.0)	伊南側覆土下層	DP143
14	管状土錘	4.8	3.8	—	1.9	70.6	東コーナー壁寄り床面	DP144
15	管状土錘	5.1	4.0	—	1.2	81.5	東コーナー壁寄り床面	DP145
16	管状土錘	4.4	3.8	—	1.2	69.6	東コーナー壁寄り床面	DP146
17	管状土錘	4.7	3.5	—	1.2	72.5	東コーナー壁寄り床面	DP147
18	管状土錘	4.9	3.7	—	1.1	80.1	東コーナー壁寄り床面	DP148 PL99
19	管状土錘	5.3	3.6	—	1.0	83.3	東コーナー壁寄り床面	DP149 PL99

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図20	管状土鉢	5.3	3.6	—	1.2	76.1	東コーナー壁寄り床面	DF150 PL99
21	管状土鉢	4.9	3.7	—	0.9	72.0	東コーナー壁寄り床面	DF151 PL99
22	管状土鉢	4.5	3.7	—	1.3	64.1	東コーナー壁寄り床面	DF152 PL99
23	管状土鉢	5.1	3.7	—	1.0	74.4	東コーナー壁寄り床面	DF153 PL99
24	管状土鉢	5.0	3.6	—	1.1	65.4	東コーナー壁寄り床面	DF154 PL99
25	管状土鉢	5.1	3.8	—	1.1	70.9	東コーナー壁寄り床面	DF155 PL99
26	土製炉石	30.0	4.8	4.2	—	672.7	伊床南部	DF156 PL98

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第206図27	砥石	16.1	6.0	4.1	681.6	安山岩	貯蔵穴1内	Q74 PL105

第109号住居跡 (第207図)

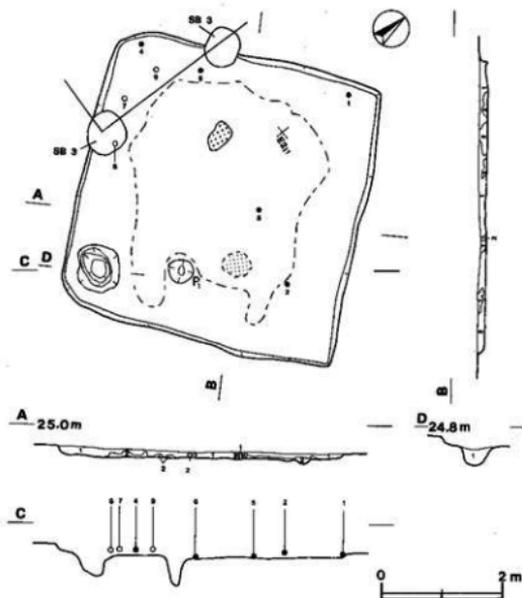
位置 調査区南西部, E1j₀区。

重複関係 本跡は西部を第3号掘立柱建物跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

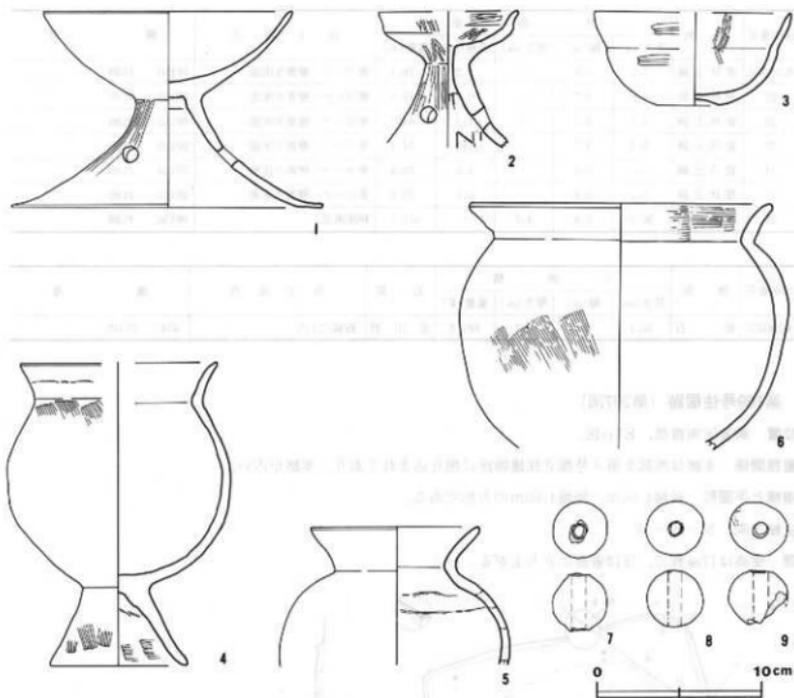
規模と平面形 長軸4.66m, 短軸4.60mの方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は17cm程で, ほゞ垂直に立ち上がる。



第207図 第109号住居跡実測図



第208図 第109号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径40cm程の円形、深さ47cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径50cm、短径35cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径80cm、短径65cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子少量

遺物 主に炉の北側を中心とした北西壁寄りの床面と南コーナー部の床面から土師器が出土している。1の高坏は北コーナー部の床面から、2の甕台は東コーナー寄りの覆土中層から、4の台付甕は西コーナー部の覆土下層から、5の甕は中央部の床面から、6の甕は北西壁際西コーナー寄りの床面から、3の増は覆土中か

ら敷在した状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と思われる。

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	高土師器	A 15.1	脚部はラッパ状に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナダ。脚部外面へラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英 にふい黄褐色 普通	P572 80% PL74 北コーナー部床面
		B 11.9				
		D 19.0				
		E 6.7				
2	土師器	A〔8.4〕	脚部欠損。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナダ。脚部外面へラ削り後稜位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にふい赤褐色 普通	P573 50% PL74 東コーナー寄り覆土中層 二次焼成
		B〔8.3〕				
		E〔5.0〕				
3	土師器	A〔12.0〕	平底であるが中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。	口縁部外面横ナダ。体部内・外面へラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P574 40% 覆土上に敷在
		B 5.7				
		C 3.8				
4	土師器	A〔12.0〕	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面、台部外面ハケ目整形。	長石・石英 にふい褐色 普通	P575 70% PL74 西コーナー部覆土下層 二次焼成、外部外面磨き
		B 18.4				
		D 8.3				
		E 4.6				
5	土師器	A 10.4	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラ削り後ヘラナダ。体部内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英 にふい黄色 普通	P576 30% PL74 中央部床面 二次焼成
		B〔8.4〕				
6	土師器	A 18.4	底部欠損。体部は球状で最大径を上位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面ハケ目整形。外面横ナダ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 にふい褐色 普通	P577 70% PL74 北西側西コーナー寄り床面 二次焼成
		B〔15.0〕				

図版番号	種別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第208図7	土 玉	3.5	3.3	—	0.9	33.5	西コーナー部覆土下層	DP157
8	土 玉	3.4	3.4	—	0.8	32.9	南西壁際中央部覆土下層	DP158
9	土 玉	(3.3)	3.5	—	0.9	(30.0)	南西壁際西寄り覆土下層	DP159

第110号住居跡（第209図）

位置 調査区西端部，E1h9区。

重複関係 本跡は南部が第111号住居跡を掘り込み、東部を第3号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから、第111号住居跡より新しく、第3号掘立柱建物跡より古い。

規模と平面形 重複と西部が調査区外に延びているため、正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.15m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-20°-W

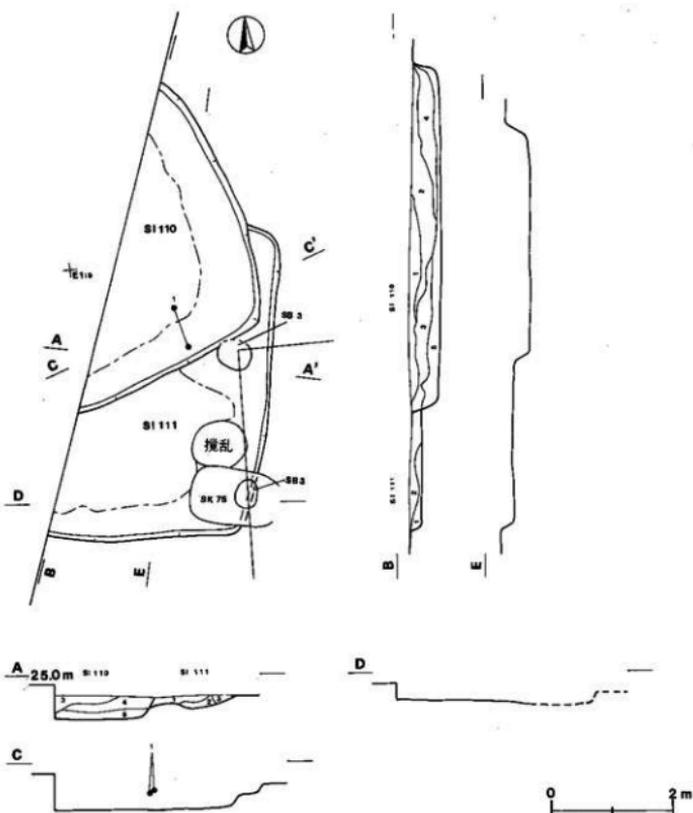
壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

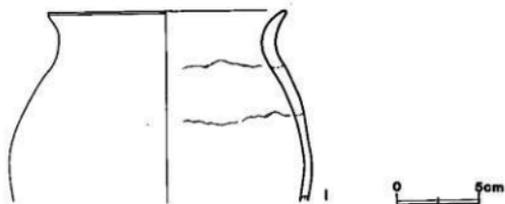
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | | |



第209図 第110・111号住居跡実測図



第210図 第110号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器の瓦片を主体に少量出土している。1の瓦は南東コーナー部の覆土上層から出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第210図 1	甕 土師器	A 14.5 B (11.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外週及び体部内・外週割 離のため調整不明。体部内面に輪積 み痕が残る。	灰石・石英 明赤褐色 普通	PS78 30% PL74 南東コーナー部覆土上層 二次焼成、体部内・外週割離

第111号住居跡 (第209図)

位置 調査区西端部, E1is区。

重複関係 本跡は北部を第110号住居跡に、東部を第3号掘立柱建物跡に、南東コーナー部を第75号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 重複と西部が調査区外に延びているため、正確な規模と平面形は不明であるが、一辺5.10m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量

遺物 土師器の甕片を主体に少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第112号住居跡 (第211図)

位置 調査区西端部, E1ge区。

重複関係 本跡は南西部が第129号住居跡を、北東コーナー部が第151号住居跡を掘り込み、南西コーナー部を第74号土坑に掘り込まれていることから、第129・151号住居跡より新しく、第74号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.10mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は11~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

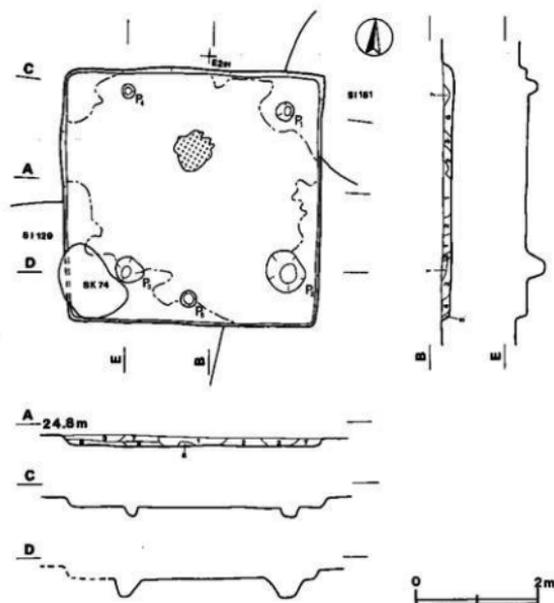
ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径25~70cm, 短径20~60cmの楕円形, 深さ17~33cmで、いずれも主柱穴, P5は径25cmの円形, 深さ22cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり, 長径65cm, 短径60cmの不整形円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 8 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
5 黒褐色 ローム粒子中量 9 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量



第211図 第112号住居跡実測図

遺物 床面全体から土師器の甕片を主体にまばらに出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第113号住居跡 (第212図)

位置 調査区南西部, F2b区。

規模と平面形 長軸4.65m, 短軸4.60mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

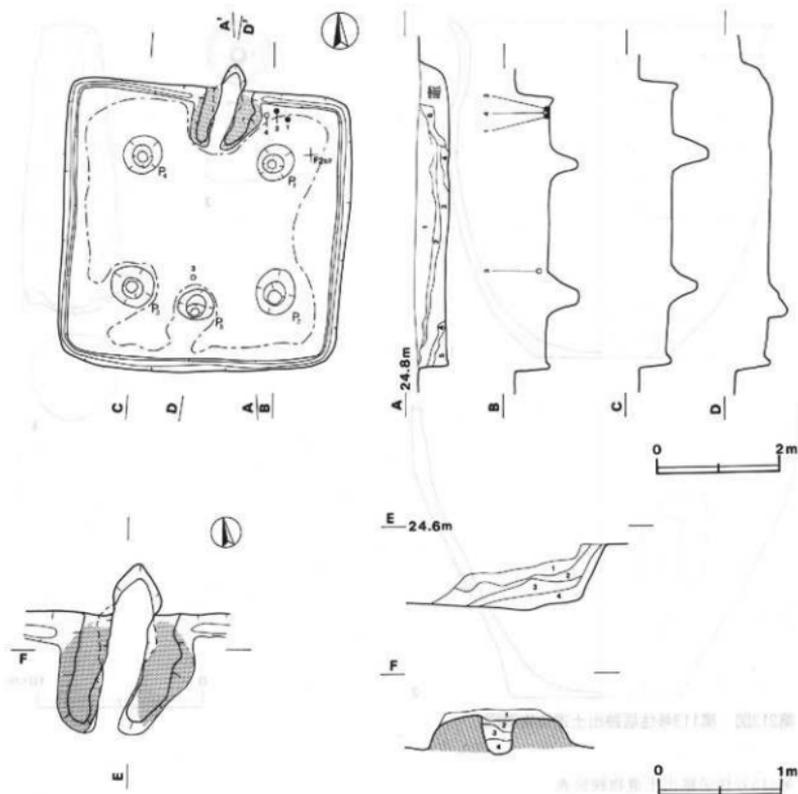
壁 壁高は54cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅8~10cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径60~70cm, 短径55~60cmの円形あるいは楕円形, 深さ44~57cmで、いずれも主柱穴, P5は径55cmの円形, 深さ32cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に40cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ140cm, 幅110cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。



第212図 第113号住居跡実測図

覆土層解説

- | | |
|---------------------------|--|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | 3 黄褐色 焼土粒子・砂粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中・大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 砂粒子多量、焼土小ブロック・炭化物少量 | 4 赤褐色 焼土粒子・焼土小・中・大ブロック多量 |

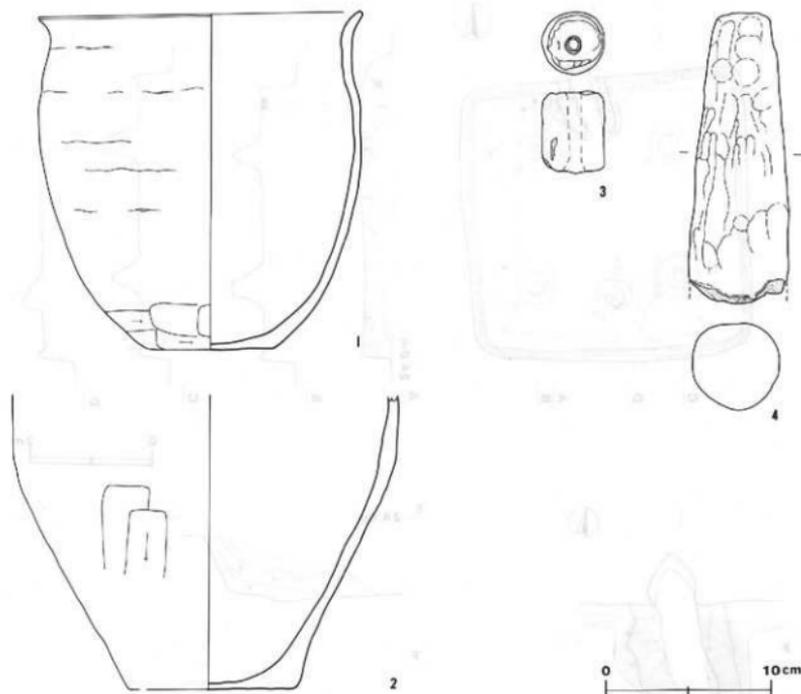
覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 | 6 黄褐色 砂粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 竈周辺の床面から甕等の土器器が出土している。また、四方の壁寄りの床面から炭化材と焼土塊が出土している。1・2の甕及び4の支脚は竈右袖部東側の床面から出土している。

所見 本跡は焼土家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われる。



第213図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	壺 土師器	A 19.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り。	長石・石英 黒褐色 普通	P579 80% PL76 甕右輪部東側床面 二次焼成、体部外蓋層付着
		B 20.7				
		C 7.8				
2	壺 土師器	B (17.9)	体部中位から底部にかけての破片。 平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P580 40% PL74 甕右輪部東側床面 二次焼成、体部外蓋層付着
		C 10.0				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第213図3	管状土鍾	5.0	3.9	—	0.9	85.1	出入り口部覆土下層 EP160 PL99
4	支脚	(17.8)	6.0	—	—	(499.5)	甕右輪部東側床面 EP161 PL99

第114号住居跡（第214図）

位置 調査区中央部，E2a9区。

重複関係 本跡は北西壁が第116号住居跡を，南西壁が第117号住居跡を，北東壁が第127号住居跡を掘り込み，中央部から北東壁にかけて第115号住居跡に掘り込まれていることから，第116・117及び第127号住居跡より新しく，第115号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.95m，短軸6.80mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は52-70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅7-20cm，深さ8cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，出入り口周辺から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット 5か所（P₁-P₅）。P₁-P₄は長径55-70cm，短径45-65cmの楕円形，深さ67-84cmで，いずれも支柱穴，P₅は径50cm程の円形，深さ27cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部を壁外に55cm程掘り込み，砂質粘土で構築している。規模は長さ140cm，幅100cmである。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は浅い皿状で，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黄褐色 炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒子少量 | 4 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 2 赤褐色 炭化粒子多量，炭化物・焼土粒子中量，砂粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | 6 褐色 炭化物中量，焼土粒子少量 |

貯蔵穴 北西壁際の西コーナーと竈の間に付設されている。径70cm程の円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

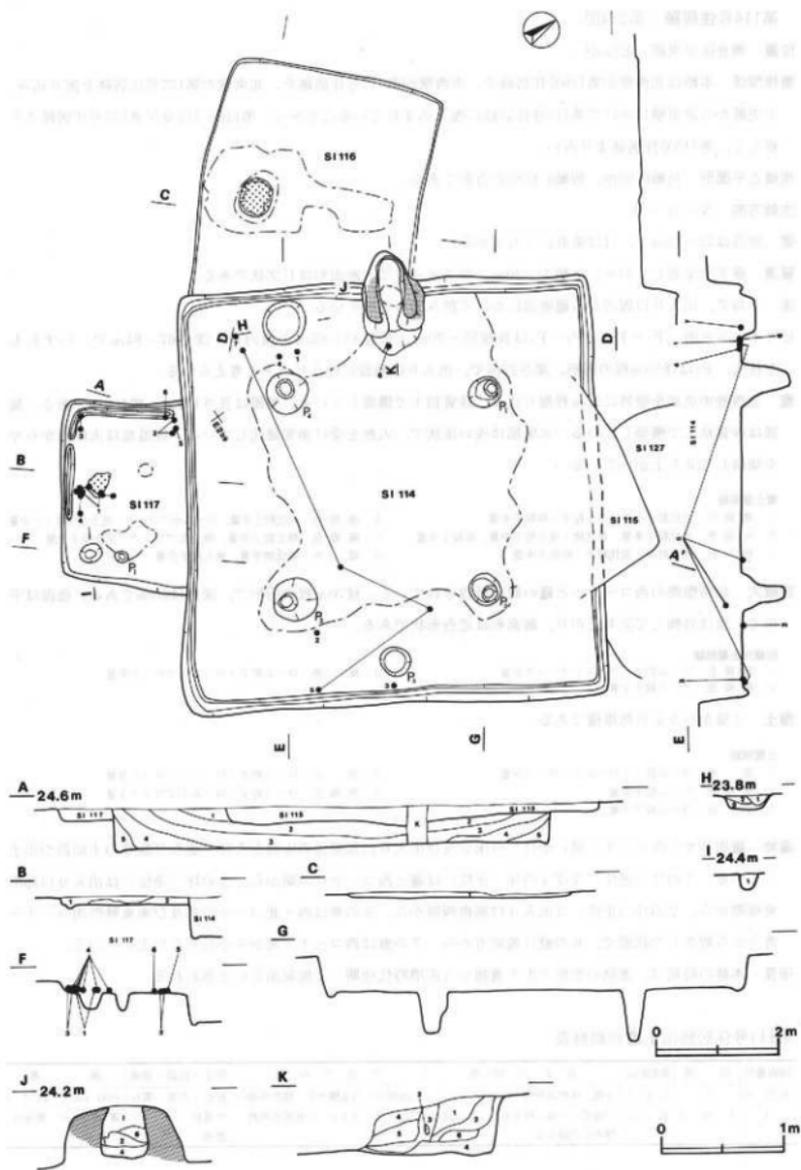
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 黒色 ローム粒子中量 | |

遺物 竈周辺から西コーナー部にかけての床面及び出入り口部周辺の床面から坏，甕及び瓶等の土器器が出土している。1の坏（逆位）及び4の坏（正位）は竈と西コーナーの間から，3の坏（逆位）は出入り口部南東壁際から，2の坏（正位）は出入り口部南西側から，5の甕は西・北コーナー部及び南東壁際南コーナー寄りから散在した状態で，6の甕は竈前方から，7の甕は西コーナー部からそれぞれ出土している。

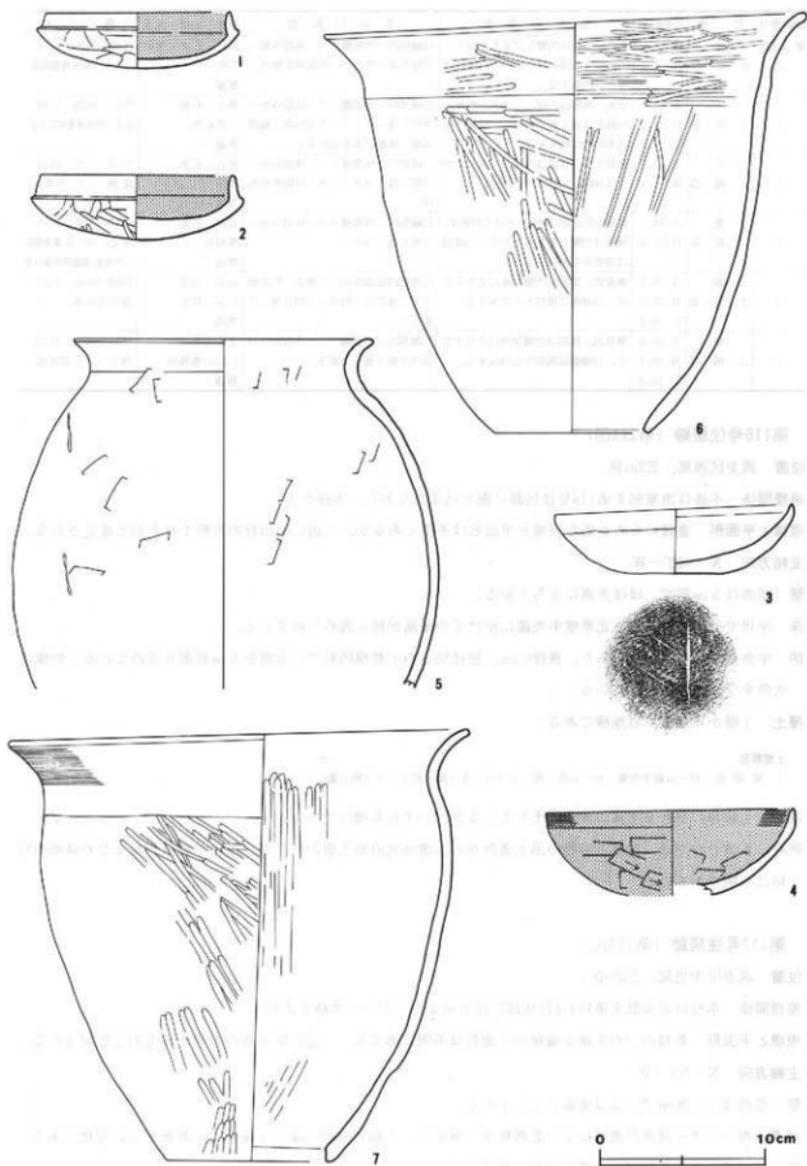
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第215図 1	坏 土器	A 11.2 B 3.5	丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに内湾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後へラナデ。内面黒色処理。	灰石・石英・雲母 黒褐色 普通	P581 100% PL74 竈・西コーナー間床面 普通



第214图 第114·116·117号住居跡実測图



第215图 第114号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	背割径(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図	坏 土 師 器	A 11.7 B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との間に稜をもつ。口縁部は僅かに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒色 普通	PS82 90% PL74 出入り口部南西側床面
3	坏 土 師 器	A 14.4 B 4.1 C 5.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。口縁部内面に不平整な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。体部外面に輪轆み痕、底部に木葉表が残る。	長石・石英 灰黄褐色 普通	PS83 90% PL76 出入り口部南東側床面
4	坏 土 師 器	A 15.1 B (5.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 黒色 普通	PS84 70% PL76 西・西コーナー部床面
5	甕 土 師 器	A 18.2 B (21.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	PS85 20% PL75 西・北コーナー部、南東側部 二次焼成、体部外面剥片付
6	瓶 土 師 器	A 29.2 B 25.7 C 9.4	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内面横位のへラ磨き、外面横ナデ。体部内・外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英 に白い橙色 普通	PS86 100% PL75 甕前方床面
7	瓶 土 師 器	A 28.0 B 26.7 C 10.2	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英・スコリア に白い黄褐色 普通	PS87 100% PL75 西コーナー部床面

第116号住居跡（第214図）

位置 調査区西部，E2a区。

重複関係 本跡は南東部を第114号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが，一辺3.60m程の方が長方形と推定される。

主軸方向 N-132°-W

壁 壁高は5cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉の周辺から北東壁中央部にかけての床面が踏み固められている。

炉 中央部から南西寄りであり，長径65cm，短径55cmの不整形円形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物 土師器の破片を主体に少量出土しているが，いずれも細片である。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが，遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第117号住居跡（第214図）

位置 調査区中央部，E2b区。

重複関係 本跡は北東部を第114号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが，一辺2.90m程の方が長方形と推定される。

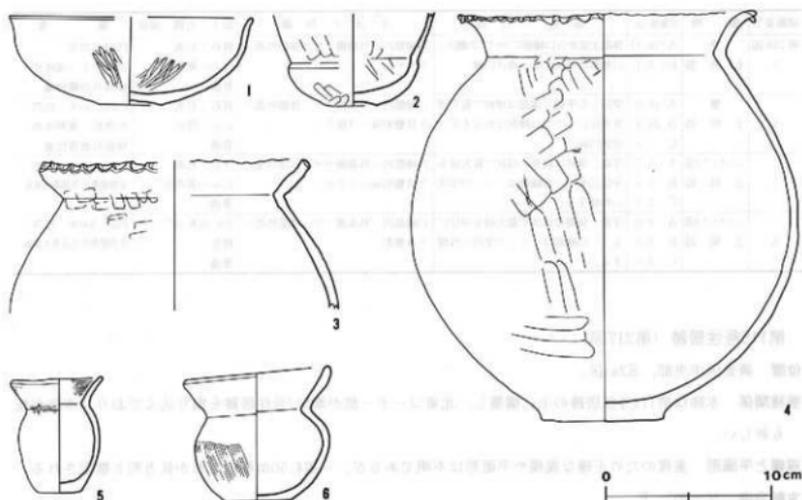
主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は9~20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西コーナー付近の南西壁下と北西壁下に確認し，上幅13cm程，深さ5cm程で，断面形はU字状である。

床 平坦で，出入り口周辺が踏み固められている。

ピット P₁は径20cm程の円形，深さ29cmで，規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第216図 第117号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部から南西寄りであり、長径40cm、短径30cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径43cm、短径33cmの楕円形で、深さは27cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物中量

遺物 炉を中心とする南西壁寄り及び北西壁際の覆土下層から床面にかけて、土師器の破片を主体に少量出土している。1の碗は炉南部の覆土下層から、4の甕は炉の南部と東側の床面から、3の甕は西コーナー部の床面から、2の埴及び5・6のミニチュア土器は北西壁際中央部寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	碗 土師器	A (14.7)	平底。体部は内彎して立ち上がり、	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	灰石・石英 明褐色 普通	F592 40% PL76 炉南部覆土下層
		B 5.3	口縁部は僅かに外反する。			
		C 3.8				
2	埴 土師器	B (5.6)	口縁部欠損。丸底であるが中央が凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラナデ。	灰石・石英・スコリア に濃い棕色 普通	F593 60% 北西壁際中央部寄り床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第216図 3	甕 土 師 器	A [16.4] B (9.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ ラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	FS94 20% 西コーナー部床面 体部外面吸付着
4	甕 土 師 器	A 18.0 B 24.9 C 7.4	突出した平底。体部は球状で最大径 を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	FS95 80% PL75 知南部・東側床面 体部外面吸付着
5	ミニチュア土器 土 師 器	A 5.7 B 7.1 C 2.7	平底。体部は縦長の球状で最大径を 中位にもつ。口縁部は「く」の字状 に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	FS96 80% PL76 北西壁部中央部寄り床面
6	ミニチュア土器 土 師 器	A 9.0 B 8.3 C 3.9	平底。体部は球状で最大径を中位に もつ。口縁部は「く」の字状に外反 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハ ケ目整形。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	FS97 100% PL76 北西壁部中央部寄り床面

第115号住居跡 (第217図)

位置 調査区中央部, E2a区。

重複関係 本跡は第114号住居跡の上に構築し, 北東コーナー部が第127号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が最も新しい。

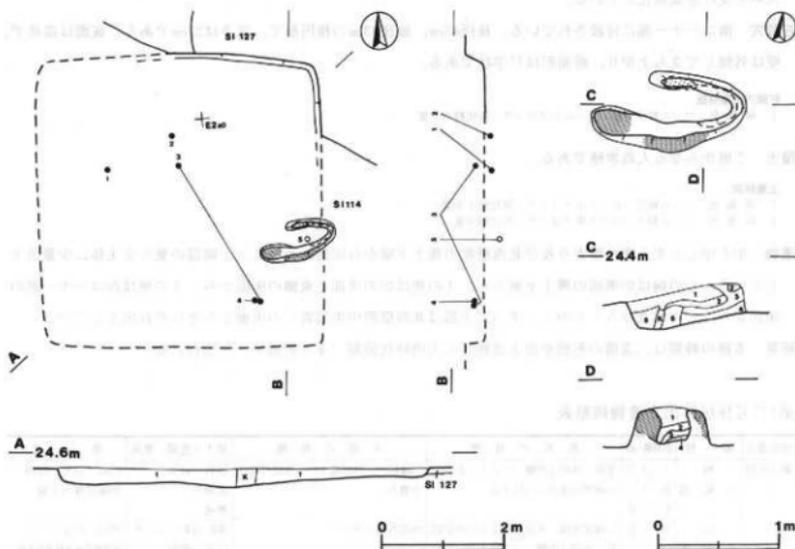
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが, 一辺4.50m程の方が長方形と推定される。

主軸方向 N-99'-E

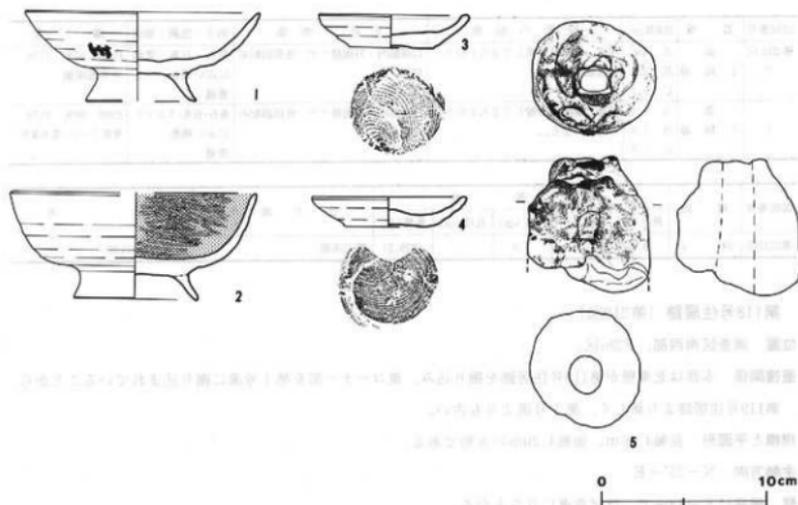
壁 壁高は30cm程で, ほほ垂直に立ち上がる。

床 全体に軟らかく, 硬化部はない。

電 攪乱と重複のため正確な規模等については不明である。東壁を掘り込んで構築しており, 赤変硬化した火



第217図 第115号住居跡実測図



第218図 第115号住居跡出土遺物実測図

床部の一部と袖部の構築材と思われる砂質粘土塊を確認した。

■土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、焼土大ブロック少量
 2 暗赤褐色 焼土粒子多量
 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、砂粒子少量
 4 明黄褐色 焼土粒子中量
 5 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量、焼土中ブロック中量

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

■土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 住居跡全体の床面から少量の土師器が、竈内から少量の土師器片、羽口及び鉄滓が出土している。3の皿及び1・2の高台付坏は中央部の床面から、4の皿は南東コーナー寄りの床面から出土している。また、5の羽口及び鉄滓が竈の火床部から出土している。

所見 本跡は出土遺物等から工房跡と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀前半）と思われる。

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第218図 1	高台付坏 土師器	A 14.2	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内厚して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石英・スコリア 明褐色 普通	F590 80% FL76 中央部床面 墨書「主」
		B 5.6				
		D(6.6)				
		E 1.7				
2	高台付坏 土師器	A(15.1)	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内厚して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内部横ナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	灰石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	F591 60% FL76 中央部床面
		B 6.5				
		D 7.6				
		E 1.6				

図版番号	器種	首径値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第218図	土師器	A 9.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母にふい褐色	F588 90% PL76 中央隆床面
		B 2.0				
		C 5.1				
4	土師器	A 9.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリアにふい褐色	F589 60% PL76 南東コーナー寄り床面
		B 1.8				
		C 5.0				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第218図5	羽	(8.4)	7.4	7.0	—	(329.2)	竈火床部	DP162 PL99

第118号住居跡 (第219図)

位置 調査区南西部，F2ba区。

重複関係 本跡は北東壁が第119号住居跡を掘り込み，東コーナー部を第1号溝に掘り込まれていることから，

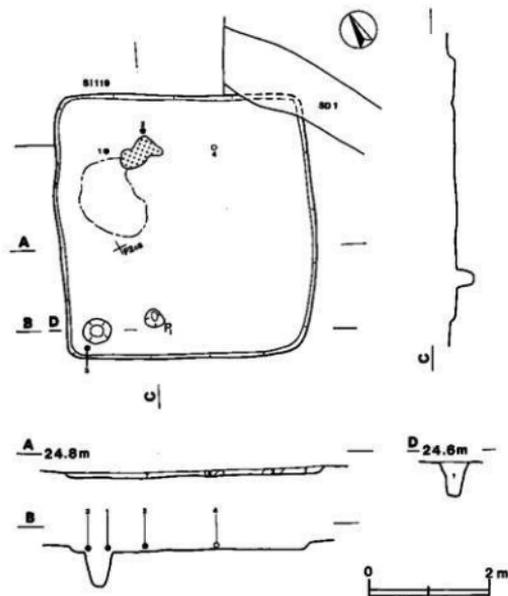
第119号住居跡より新しく，第1号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸4.30m，短軸4.20mの方形である。

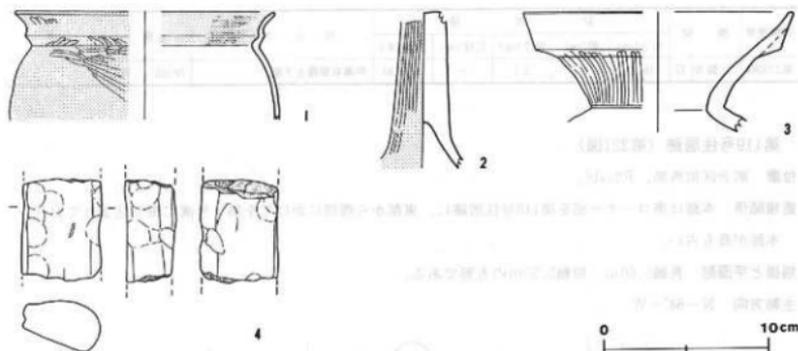
主軸方向 N-25°-E

壁 壁高は8~14cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉の西側一帯が踏み固められている。



第219図 第118号住居跡実測図



第220図 第118号住居跡出土遺物実測図

ピット P1は径20cm程の円形、深さ29cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。
 炉 中央部から北西寄りにあり、長径70cm、短径30cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さは56cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

2 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量

遺物 炉周辺から北東部の覆土下層から床面にかけて土師器の破片を主体に少量出土している。炉周辺の覆土下層からは、1の甕が炉北西側から、2の高坏が炉北側から、4の土製炉石が炉南東側から出土している。また、3の壺は西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第220図 1	甕 土師器	A (16.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P599 10% 炉北西側覆土下層 二次焼成
		B (6.6)	口縁部は頸部から屈曲して外反する。	口縁部から体部内・外面赤彩。		
2	高坏 土師器	B (9.4)	舞部片。舞部は中央柱状。	脚部外面縦位のへラ磨き。舞部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P600 10% 炉北側覆土下層 二次焼成
3	壺 土師器	A (16.6)	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾する。有段口縁。	口縁部外面横ナテ。頸部内面横位。外面縦位のへラ磨き。	長石・石英 にぶい藍色 普通	P598 10% 西コーナー部覆土下層 二次焼成
		B (7.3)				

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第220図4	土製炉石	(6.2)	4.9	3.1	—	(101.8)	伊南東側覆土下層 BP163 PL98

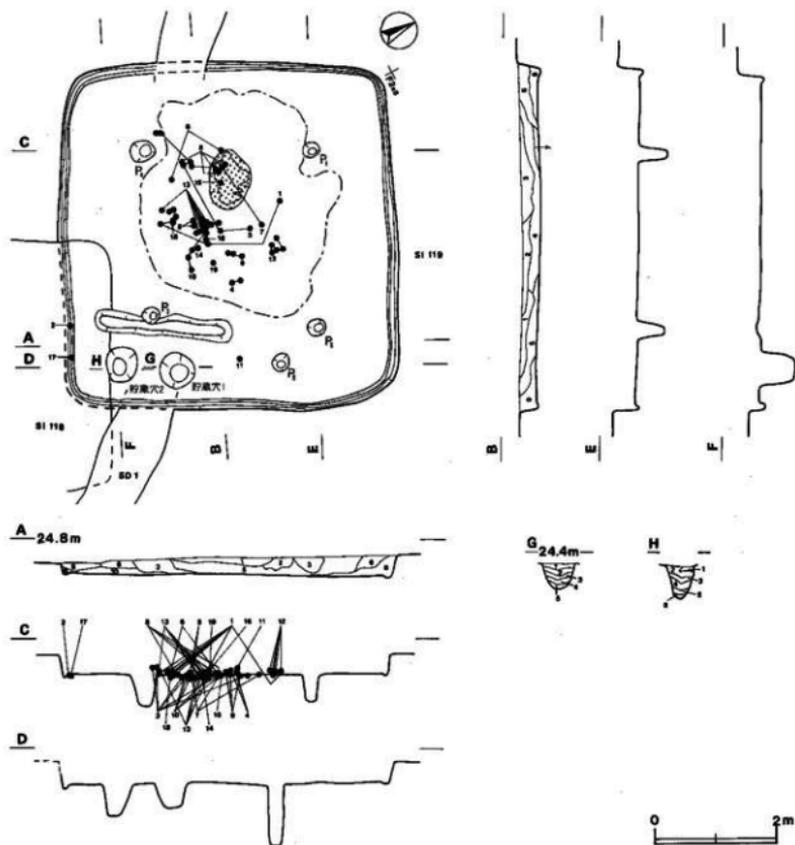
第119号住居跡 (第221図)

位置 調査区南西部, F2a区。

重複関係 本跡は南コーナー部を第118号住居跡に、東部から西部にかけてを第1号溝に掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸5.60m, 短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-64°-W



第221図 第119号住居跡実測図

壁 壁高は28~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ8cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。貯蔵穴1・2とP₁の間に長さ220cm、幅30~40cmで、床面から4~9cm盛り上がった帯状の硬化部がある。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は長径25~40cm、短径25~35cmの楕円形、深さ44~53cmで、いずれも主柱穴、P₅は径25cm程の円形、深さ100cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径95cm、短径70cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁下の南コーナー寄りに付設されている。径55cm程の円形で、深さは59cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。貯蔵穴2は貯蔵穴1と南コーナーの間に付設されている。長軸65cm、短軸50cmの隅丸長方形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | | |

貯蔵穴2土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 6 明褐色 | ローム粒子・炭屑がミックス |

覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

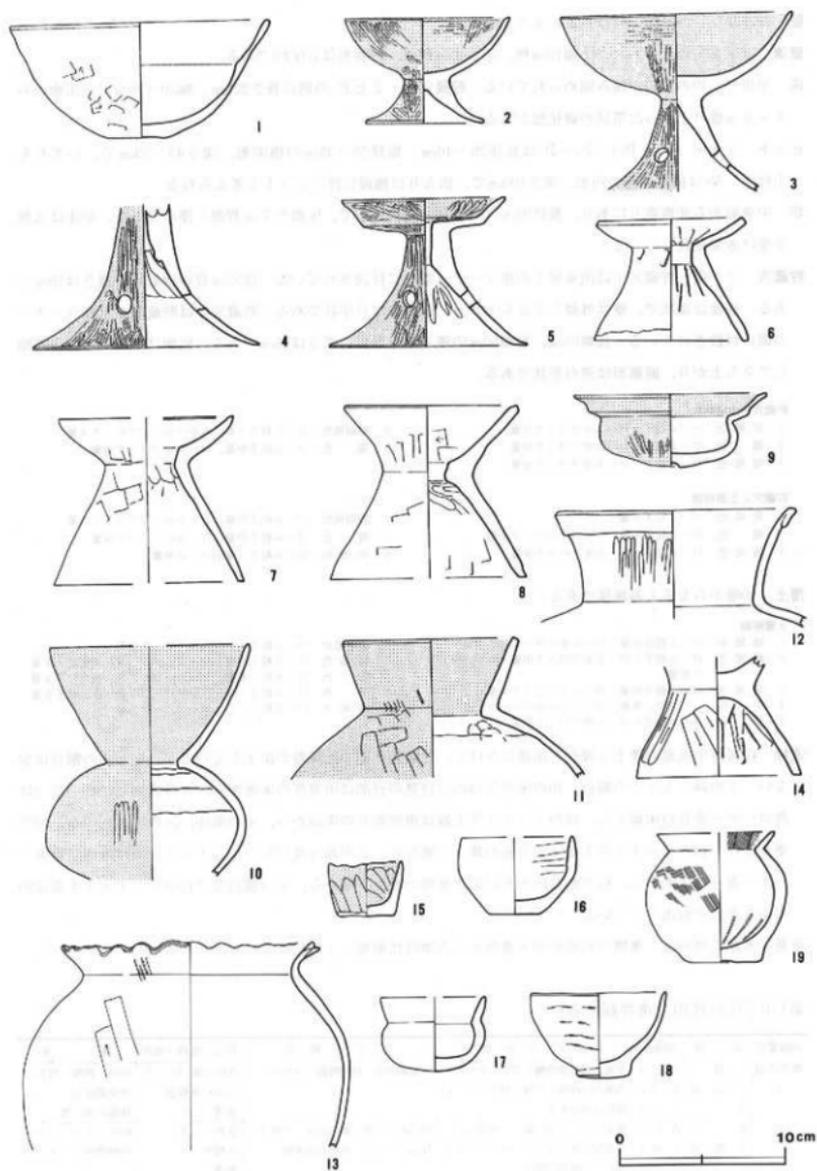
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

遺物 住居跡中央部の覆土下層から床面にかけて、比較的多量の土師器が出土しているが、完形品の割合は少ない。1の鉢、5・7の器台、10の埴及び14の台付甕の台部は中央部の床面から、3の高坏及び6の器台は西コーナー寄りの床面から、18のミニチュア土器は南部寄りの床面から、4の高坏、9の埴、12の壺、13の甕及び16・19のミニチュア土器は中央部の覆土下層から、2の高坏及び17のミニチュア土器は南西壁際南コーナー寄りの床面から、11の壺は出入り口部北東側の覆土下層から、8の器台及び15のミニチュア土器は炉床からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	尺数値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 1	鉢 土師器	A 16.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、	口縁部外面、体部外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア に多い黄褐色	P601 70% PL76 中央部床面
		B 7.2	内面の口縁部との境に稜をもつ、口			
		C 3.1	縁部は外傾する。			
2	高坏 土師器	A 10.1	脚部はラッパ状に開く。坏部は均一	坏部内・外面、脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英	P602 70% PL76 南西壁際南コーナー寄り床面
		B 5.4	な器厚を保ちながら内彎して立ち上			
		D 7.2	がる。口縁部内傾さ。			
		E 2.7				



第222图 第119号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 3	高土坏器	A 14.2 B (11.1) E (5.4)	胴部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。胴部に3孔を穿つ。	坏部外面、胴部外面ヘラナデ。坏部内・外面、胴部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P603 70% PL77 西コーナー寄り床面 坏部内面磨削
4	高土坏器	D 14.0 E (8.7)	坏部欠損。胴部はラッパ状に開く。胴部に3孔を穿つ。	胴部外面縦位のヘラ磨き。胴部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P604 60% 中央部覆土下層 胴部内面磨削
5	土師器	A 10.0 B 9.1 D 12.1 E 6.9	胴部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。胴部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、胴部内・外面ヘラ磨き。器受部内・外面、胴部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P609 70% PL76 中央部床面
6	土師器	A 9.2 B 7.6 D 9.5 E 5.8	胴部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、胴部内面ヘラナデ。胴部外面ハケ目整形後ナデ。胴部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙黄色 普通	P605 80% PL77 西コーナー寄り床面 二次焼成
7	土師器	A [10.6] B 10.3 D [11.6] E 7.4	胴部は「ハ」の字状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎し立ち上がり、口縁部に至る。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、胴部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 橙黄色 普通	P606 70% 中央部床面
8	土師器	A 10.7 B 10.5 D [12.1] E 6.2	胴部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、胴部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P608 60% PL77 伊床 二次焼成
9	土師器	A 11.8 B 4.6	丸底であるが中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P610 80% PL77 中央部覆土下層 二次焼成
10	土師器	A [12.0] B [14.3]	底部欠損。体部はやや扁平半球状で、口縁部は外方向に大きく開いて立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 橙黄色 普通	P611 70% PL77 中央部床面 二次焼成
11	土師器	A 10.8 B (8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面、ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ナデ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P612 20% PL77 出入口部北東側覆土下層 二次焼成、体部外側磨削
12	土師器	A 14.9 B (6.7)	口縁部片。口縁部はやや外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙黄色 普通	P613 20% 中央部覆土下層 二次焼成
13	土師器	A 15.7 B [12.7]	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙黄色 普通	P614 40% PL77 中央部覆土下層 二次焼成、体部外側磨削
14	土師器	B (7.3) D 10.0 E 5.2	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部内面ヘラナデ、外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙黄色 普通	P607 10% 中央部床面 二次焼成、台部外側磨削
15	ミニチュア土師器	A 4.4 B 3.4 C 2.8	平底。体部は器厚を減じながら内彎し立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P615 90% PL77 伊床
16	ミニチュア土師器	A [6.9] B 4.7 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P616 40% 中央部覆土下層
17	ミニチュア土師器	A [6.4] B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙黄色 普通	P617 80% PL77 南西側コーナー寄り床面
18	ミニチュア土師器	A 8.2 B 5.1 C 3.3	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P618 80% PL77 南部寄り床面
19	ミニチュア土師器	A [7.2] B 7.9 C 4.6	突出した平底で中央がやや凹む。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内面、体部外面ハケ目整形。	長石・石英 灰褐色 普通	P619 70% PL77 中央部覆土下層 二次焼成

第120号住居跡 (第223図)

位置 調査区南部, E2j7区。

規模と平面形 長軸5.10m, 短軸4.80mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は25cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナーを除く壁下を全周しており, 上幅8cm程, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。

ピット P1は径30cm程の円形, 深さ53cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から南西寄りであり, 長径65cm, 短径45cmの不定形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉2は中央部から南東寄りであり, 長径55cm, 短径30cmの不整楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径70cm程の円形で, 深さは59cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

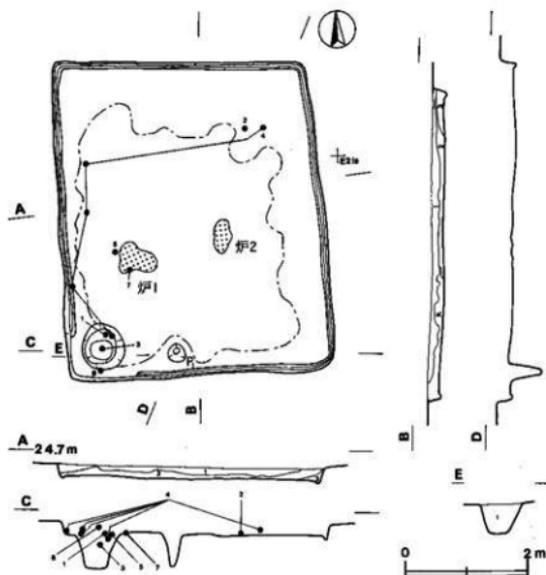
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

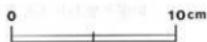
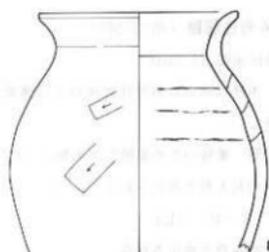
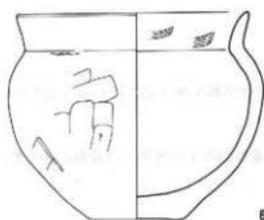
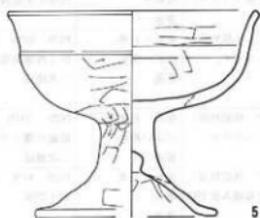
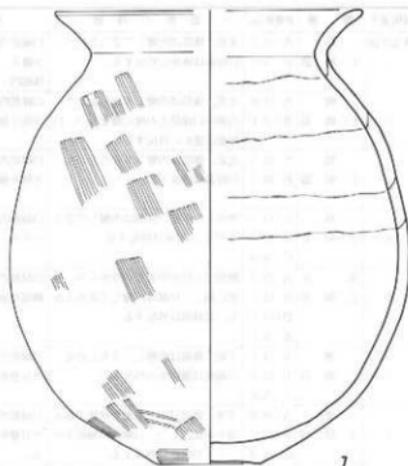
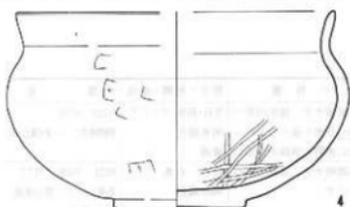
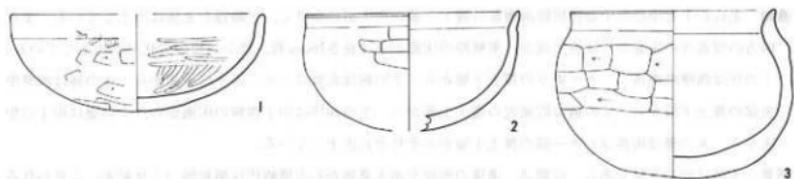
1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物中量, 焼土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量

3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量



第223図 第120号住居跡実測図



第224图 第120号住居跡出土遺物実測図

遺物 主に炉1を中心とする住居跡西部の覆土下層から床面にかけて、土師器を主体に出土している。また、四方の壁寄りの床面からは焼土塊が、東壁際の床面からは長さ160cm程、径7cm程の炭化材が出土している。1の坏は西壁際南西コーナー寄りの覆土下層から、2の碗は北東コーナー寄りの床面から、4の鉢は西壁中央部の覆土下層から、3の碗は貯蔵穴の覆土上層から、5の高坏は炉1西側の床面から、7の甕は炉1の炉床から、8の甕は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期初頭（5世紀末）と思われる。

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第224図 1	坏 土師器	A (15.2) B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り後ヘラナデ。体部内・外面に赤影の痕跡が残る。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	PS20 40% 西壁際南西コーナー部覆土上層
2	碗 土師器	A 12.8 B (7.1)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	PS21 70% PL77 北東コーナー寄り床面 二次焼成
3	碗 土師器	A 12.5 B 10.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	PS22 100% PL78 貯蔵穴覆土上層
4	鉢 土師器	A (19.5) B 8.0 C 12.0	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	PS23 60% PL77 西壁中央部覆土下層
5	高坏 土師器	A 15.3 B 12.6 D (11.1) E 6.1	胴部は上位が中実で中位からラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面、胴部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	PS24 80% PL78 炉1西側床面 二次焼成
6	甕 土師器	A 14.1 B 12.7 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	PS25 100% PL78 炉1西側覆土中 二次焼成
7	甕 土師器	A (18.8) B 27.7 C 6.2	平底。体部はやや縦長の球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 褐色 普通	PS26 40% PL78 炉1炉床
8	甕 土師器	A 12.2 B (14.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい褐色 普通	PS27 30% PL78 南西コーナー部覆土上層 二次焼成

第121-A号住居跡 (第225図)

位置 調査区南部、E2h区。

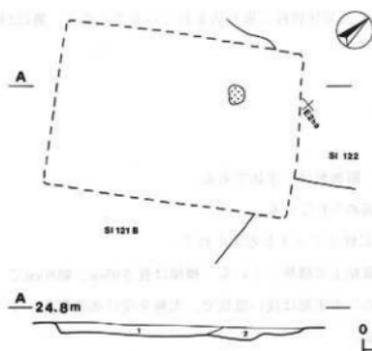
重複関係 本跡は第121-B号住居跡の上に構築し、北東部が第122号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が最も新しい。

規模と平面形 重複のため規模や平面形については不明であるが、遺物の出土状況等から長軸4.00m程、短軸2.60m程の長方形と推定される。

主軸方向 [N-49°-E]

壁 壁高は20cm程と推定される。

炉 遺物が集中して出土している部分の中央部からやや北東部にあり、長径40cm程、短径30cm程の楕円形である。炉床と思われる部分は火熱を受け赤変硬化している。



第225図 第121-A号住居跡実測図

覆土 2層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

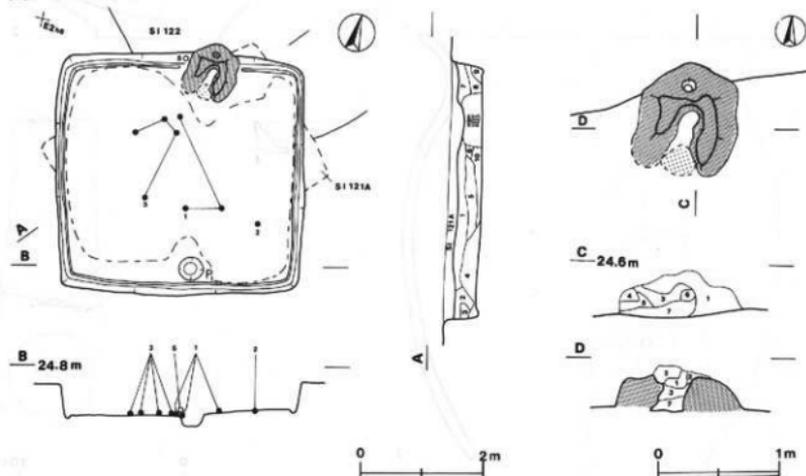
- 1 棕褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 棕褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 少量の土師器の細片（甕，高台付坏）に伴って椀状滓（重量3kg程）及び数十点の鉄滓（総重量2kg程）が出土している。また、炉床からは焼土，砂，木炭及び鉄滓が出土している。

所見 本跡は工房跡と考えられる。時期は，重複関係や出土遺物から平安時代（10～12世紀）と思われる。

第121-B号住居跡（第226図）

位置 調査区南部，E2ha区。



第226図 第121-B号住居跡実測図

重複関係 本跡は北東部が第122号住居跡を掘り込み、第121-A号住居跡に掘り込まれていることから、第122号住居跡より新しく、第121-A号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-13'-W

壁 壁高は40~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅5~10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

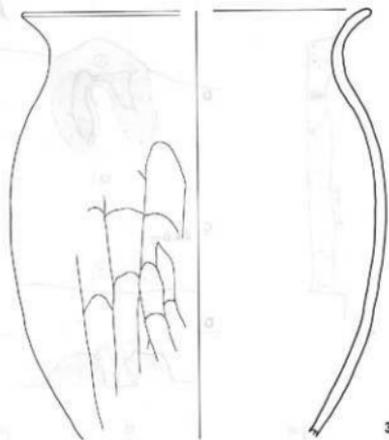
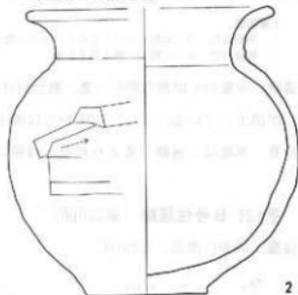
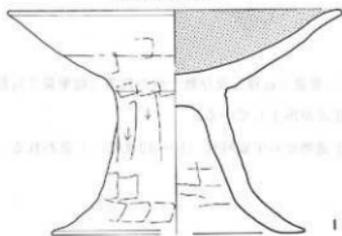
床 全体的に平坦で、竈周辺から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径40cmの円形、深さ20cm程で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁のやや東寄りの部分を壁外に20cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ95cm、幅80cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床面からやや傾斜して立ち上がっている。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|--------------|----------------------------------|
| 1 黒 暗 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 黒 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒 色 | ローム粒子中量、焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒子少量 | 5 暗 赤 褐色 | 焼土小ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 6 に ぶ い 赤 褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒子少量 |
| | | 7 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック多量、焼土中ブロック中量、ローム粒子少量 |



5

0 10cm

第227図 第121-B号住居跡出土遺物実測図

覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量	6 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化物少量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
4 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量	9 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量	10 暗褐色	ローム粒子少量

遺物 竈周辺から出入り口部にかけての床面から土師器がまばらに出土している。1の高坏は中央部、2の甕は南東コーナー寄り、3の甕は北西コーナー寄りのいずれも床面から出土している。また、4の手捏土師器は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（6世紀）と思われる。

第121-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 1	高土師器	A 20.3	脚部は太い中空でラッパ状に開く。	口縁部外面横ナデ。坏部内面へラ磨き。脚部外面へラ削り後へラナデ。坏部内面黒色処理。坏部外面及び脚部外面の一部に赤影の跡が残る。	長石・石英・スコリア層 にふい赤褐色 普通	P629 70% PL78 中央部床面
		B 13.5	坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。			
		D (15.4) E 8.7				
2	甕土師器	A (15.0)	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア にふい橙色 普通	P629 80% PL79 南東コーナー寄り床面
		B 17.4 C 7.3				
3	甕土師器	A (21.2)	底部欠損。体部は縦長の球状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P630 40% PL78 北西コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面露付着
		B (26.1)				
4	手捏土師器	A (4.2)	平底。体部は器厚を減じながら立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指痕によるナデ。体部内・外面に指痕圧痕が残る。	長石・石英 にふい褐色 普通	P631 80% 覆土中
		B 1.9 C 3.6				

図版番号	種別	計 測 値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第227図5	支脚	(11.5)	6.3	5.1	—	(384.7)	竈左側部覆土下層	BP164 PL99

第122号住居跡（第228図）

位置 調査区南部，E2g区。

重複関係 本跡は北西壁が第123号住居跡を掘り込み，南部を第121-A・B号住居跡に掘り込まれていることから，第123号住居跡より新しく，第121-A・B号住居跡より古い。

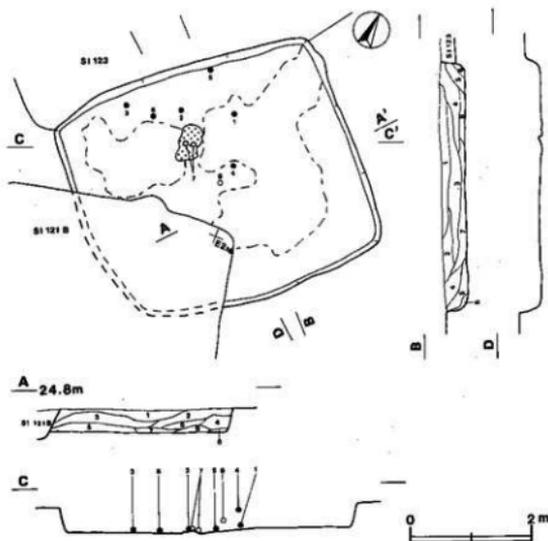
規模と平面形 長軸4.60m，短軸4.05mの長方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は40cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，全体が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり，長径65cm，短径35cmの不整形円形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており，南部には土製炉石が付設されている。



第228図 第122号住居跡実測図

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

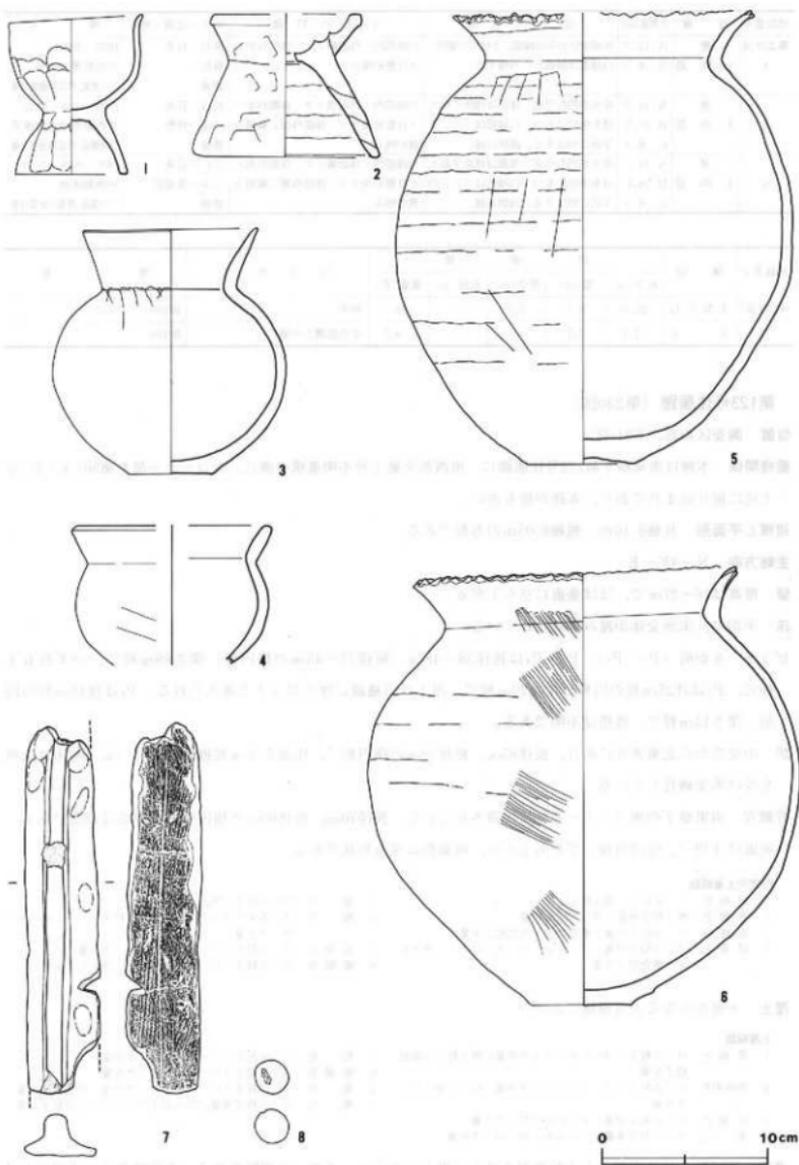
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 |

遺物 炉を中心とする住居跡中央部から北西壁際にかけての床面から土師器を主体に出土している。2の器台は炉北西側の床面から、3の壺及び6の甕は炉西側の床面から、1の脚付碗は炉北東側の覆土下層から、5の甕は北西壁際中央部の床面から斜位の状態で、4の甕は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。炉床の南部からは7の土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第229図 1	脚付碗 土師器	A 8.1	脚部は「ハ」の字状に開く。体部は内解して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面、脚部外面縦粒のヘラ削り後ナデ。	長石・石英 浅黄褐色 普通	P682 90% PL78 炉北東側覆土下層
		B 9.7				
		D 6.8 E 3.8				
2	器台 土師器	A〔9.2〕	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部外面、脚部外面ハケ目整形後ナデ。脚部内面に輪痕み頭が残る。	長石・石英 におい橙色 普通	P633 80% PL78 炉北西側床面 二次焼成、器受部内面削磨
		B 8.7				
		D 11.3				
		E 6.2				
3	壺 土師器	A 10.6	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は胴部から外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 におい橙色 普通	P634 90% PL78 炉西側床面
		B 14.9				
		C 5.2				



第229图 第122号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼域	備考
第229図	壺	A(12.2) B(8.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外傾する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ハケ目整形後ナダ。	長石・石英 褐色 普通	PG35 30% 中央部覆土上層 二次焼成、体部外面磨付着
5	壺 土 師 器	A(18.2) B 27.5 C 6.5	中央が凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ハケ目整形後ナダ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい褐色 普通	PG36 90% PL79 北西壁際中央部床面 二次焼成、体部外面磨付着
6	壺 土 師 器	A 19.7 B 26.7 C 6.0	中央が凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ハケ目整形後ナダ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 にぶい黒褐色 普通	PG37 90% PL79 伊西側床面 二次焼成、体部外面磨付着

図版番号	種別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第229図7	土製炉石	(22.6)	4.7	2.5	—	(198.1)	伊床	DF165 PL102
8	土 玉	2.1	2.1	—	—	8.1	中央部覆土中層	DF166

第123号住居跡 (第230図)

位置 調査区南部，E2f区。

重複関係 本跡は南東壁を第122号住居跡に，南西部を第1号不明遺構の溝に，北コーナー部を第56(A・B)号土坑に掘り込まれており，本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸6.10m，短軸6.05mの方形である。

主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は16~27cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，床面全体が踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は長径38~48cm，短径32~45cmの楕円形，深さ89cm程で，いずれも主柱穴，P₅は径25cm程の円形，深さ20cm程で，出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は径45cm程の円形，深さ14cm程で，性格は不明である。

炉 中央部から北東寄りにあり，長径85cm，短径50cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁下の南コーナー寄りに付設されている。長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さは72cmである。

底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

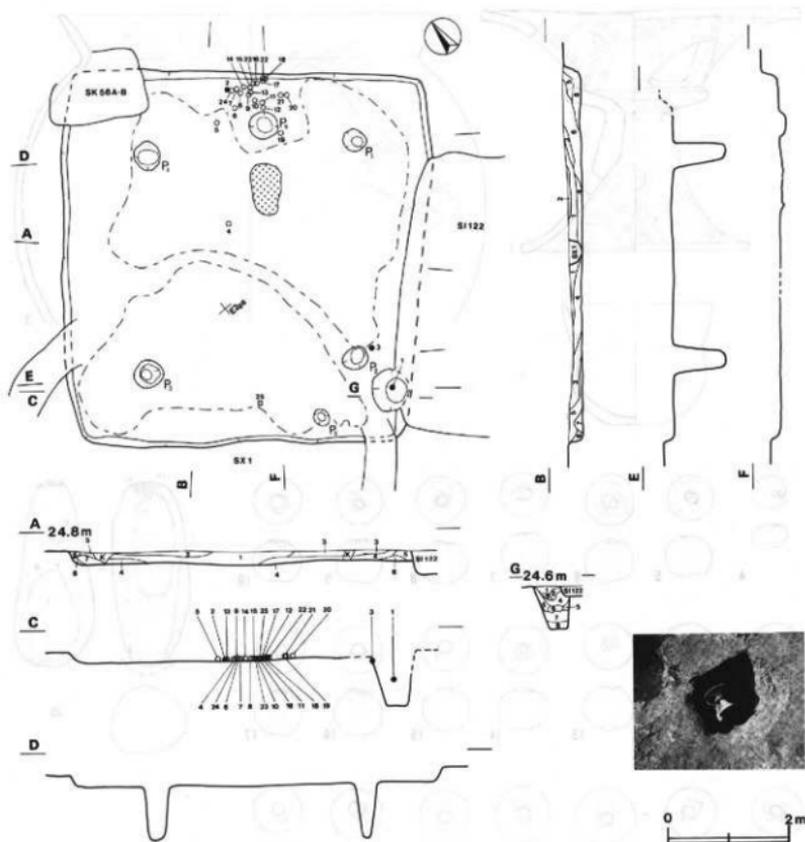
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	5	褐色	ローム粒子・黒色土粒子中量
2	黒褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量	6	褐色	ローム大ブロック中量，ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子少量

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ローム粒子・ローム中ブロック中量
2	細暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	7	褐色	ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
4	褐色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量	8	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 住居跡全体の床面から土師器がまばらに出土している。また，南東壁を除く三方の壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の装飾器台は貯蔵穴から横位の状態で，2の埴は北東壁際中央部の床



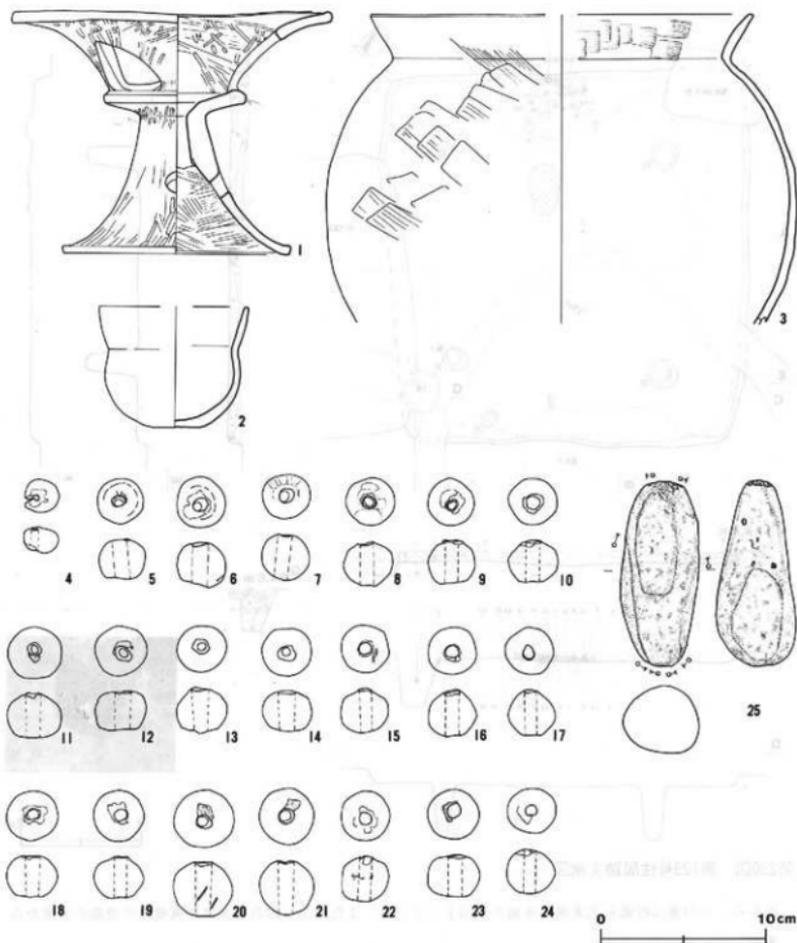
第230図 第123号住居跡実測図

面から、3の壺は貯蔵穴北東側の床面から出土している。また、5～24の土玉は北東壁際中央部の床面から集中して出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	絵土・色調・焼成	備 考	
第 231 図 1	装飾器台	A 19.4	舞部はラッパ状に開く。器受部下位は周縁が突き出し、上位はラッパ状に開く。脚部に3孔。器受部に透かし意3か所、中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面ハケ目整形後へラ着き。脚部内面横位のハケ目整形。	長石・石英に赤い黄褐色。普通	P638 100% PL79 貯蔵穴内	
	土 師 器	B 14.8					
		D 13.8					
		E 8.5					



第231図 第123号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色葉・焼成	備考
第231図	埴	A [9.1]	平底。体部は内撃して立ち上がり、口縁部は大きく開く。	口縁部内・外面，体部外面ナア。	長石・石英 にふい黄褐色 普通	PG39 60% PL79 北東壁中央部床面
2	土 脚 器	B 7.4 C 3.2				
3	甕	A [23.4]	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から外積する。	口縁部内・外面積ナア。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 黒褐色 普通	PG40 20% 貯蔵穴北東側床面 二次焼成
	土 脚 器	B (18.9)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第231図4	土玉	1.6	2.1	-	0.5	5.0	中央部床面	DP167 FL101
5	土玉	2.5	2.8	-	0.9	17.9	北東壁際中央部床面	DP168 FL101
6	土玉	2.8	3.0	-	0.9	22.0	北東壁際中央部床面	DP169 FL101
7	土玉	2.8	2.9	-	0.9	19.6	北東壁際中央部床面	DP170 FL101
8	土玉	2.7	3.0	-	0.9	19.3	北東壁際中央部床面	DP171 FL101
9	土玉	2.7	2.9	-	0.8	17.6	北東壁際中央部床面	DP172 FL101
10	土玉	2.6	2.9	-	0.9	17.5	北東壁際中央部床面	DP173 FL101
11	土玉	2.8	3.3	-	0.9	26.7	北東壁際中央部床面	DP174 FL101
12	土玉	2.5	3.2	-	1.0	22.0	北東壁際中央部床面	DP175 FL101
13	土玉	2.8	3.0	-	1.1	19.5	北東壁際中央部床面	DP176 FL101
14	土玉	2.5	3.0	-	1.0	19.3	北東壁際中央部床面	DP177 FL101
15	土玉	2.8	3.0	-	0.8	19.0	北東壁際中央部床面	DP178 FL101
16	土玉	2.9	3.0	-	0.9	19.8	北東壁際中央部床面	DP179 FL101
17	土玉	2.9	3.0	-	0.7	20.1	北東壁際中央部床面	DP180 FL101
18	土玉	2.5	3.2	-	1.0	21.3	北東壁際中央部床面	DP181 FL101
19	土玉	2.5	3.1	-	0.8	20.6	北東壁際中央部床面	DP182 FL101
20	土玉	3.3	3.6	-	1.0	41.1	北東壁際中央部床面	DP183 FL101
21	土玉	3.4	3.3	-	1.0	33.0	北東壁際中央部床面	DP184 FL101
22	土玉	2.8	2.9	-	0.8	21.7	北東壁際中央部床面	DP185 FL101
23	土玉	2.6	3.2	-	0.9	22.2	北東壁際中央部床面	DP186 FL101
24	土玉	2.7	3.0	-	0.7	18.6	北東壁際中央部床面	DP187 FL101

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第232図25	板石	11.3	4.8	4.2	345.1	安山岩	北東壁際中央部覆土下層	Q78 FL105

第124号住居跡（第232図）

位置 調査区南部，F3a1区。

重複関係 本跡は北西壁が第125号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.10m，短軸4.90mの方形である。

主軸方向 N-62°-W

壁 壁高は32-48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

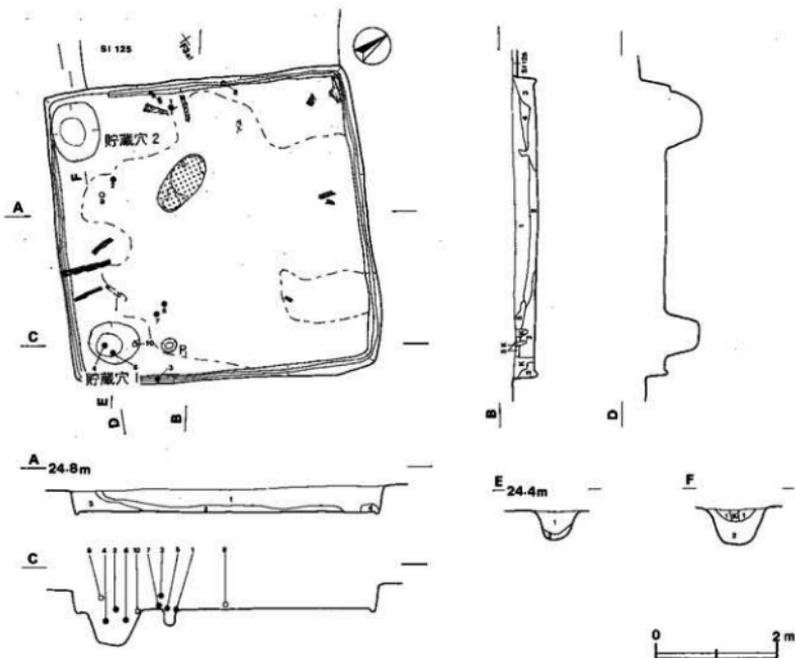
壁溝 壁下を全周し，上幅8-13cm，深さ3-6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，床面全体が踏み固められている。

ピット P1は径25cm程の円形，深さ25cm程で，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から西寄りにあり，長径105cm，短径55cmの楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されており，長径85cm，短径70cmの楕円形で，深さは55cmである。貯蔵穴2は西コーナー部に付設されており，長径95cm，短径75cmの楕円形で，深さは55cmである。いずれも底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。



第232図 第124号住居跡実測図

貯蔵穴1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

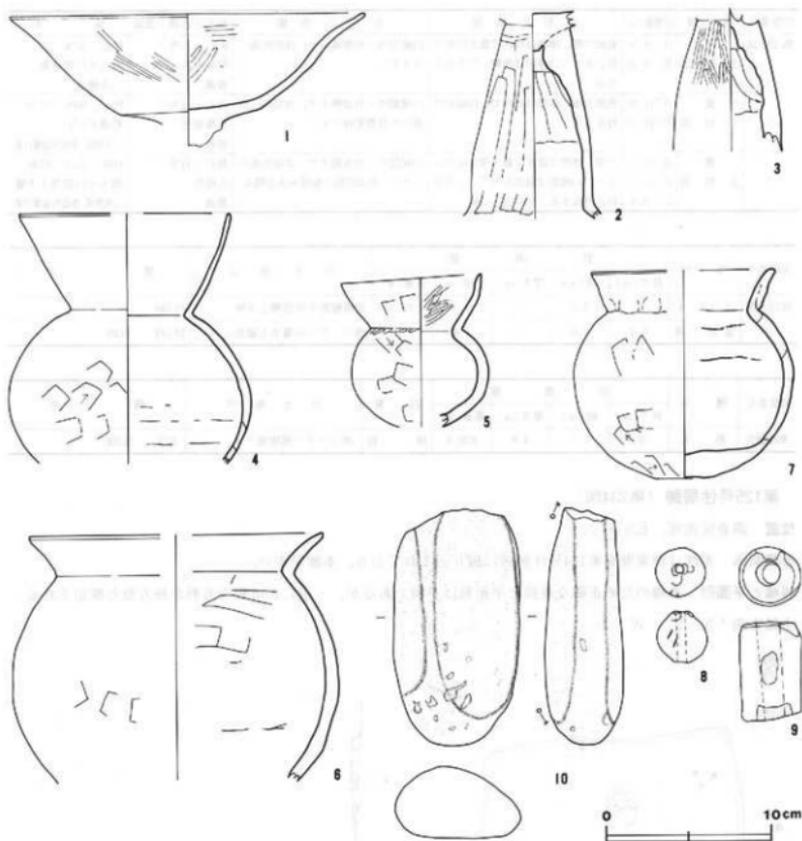
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒色 | 炭化物中量、ローム粒子・炭化物少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 黒暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | | |

遺物 四方の壁寄りの床面及び2か所の貯蔵穴から土師器の甕片を主体に出土している。また、壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の高坏の坏部は北西壁際中央部の床面から、2・3の高坏の脚部は西コーナー部の覆土下層及び南東壁際南コーナー寄りの覆土中層から、5の増は出入り口部の床面から、7の甕は出入り口部の覆土下層から、4の増及び6の甕は貯蔵穴1の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。



第233図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第233図 1	高土師器	環 A 21.6 B (8.0)	脚部欠損。環部は内摩して立ち上がり、口縁部はやや外反する。環部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。環部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P641 50% PL79 北西階段中央部床面
2	高土師器	E (12.6)	脚部片。脚部は中空で下方に開く。	脚部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 菊灰色 普通	P642 20% PL 西コーナー部覆土下層
3	高土師器	E (8.7)	脚部片。脚部は中空で下方に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P643 20% PL79 南階段コーナー部1層上中層
4	埴土師器	A (12.8) B (15.3)	底部欠損。体部はやや扁平な球状で、口縁部は外方向に大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P644 40% PL80 貯蔵穴1覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 5	土 罎 器	A 8.5	底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P647 80% 出入り口部床面 二次焼成
		B (9.3)				
6	土 罎 器	A (17.8)	底部欠損。体部は球状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P645 60% PL79 貯蔵穴1内 二次焼成、体部外面僅付着
		B (15.2)				
7	土 罎 器	A (11.2)	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英 灰褐色 普通	P646 40% PL80 出入り口部覆土下層 二次焼成、体部外面僅付着
		B 12.7				
		C 3.4				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第233図8	土 玉	3.1	3.0	—	0.5	25.2	北西壁南中央部覆土下層 DP188
9	管状土罐	6.1	3.8	—	1.4	91.3	西コーナー部覆土上層部 BP189 PL99

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第232図10	磨 石	14.5	7.7	4.8	839.4	砂 岩	南コーナー部床面 Q79 PL106	

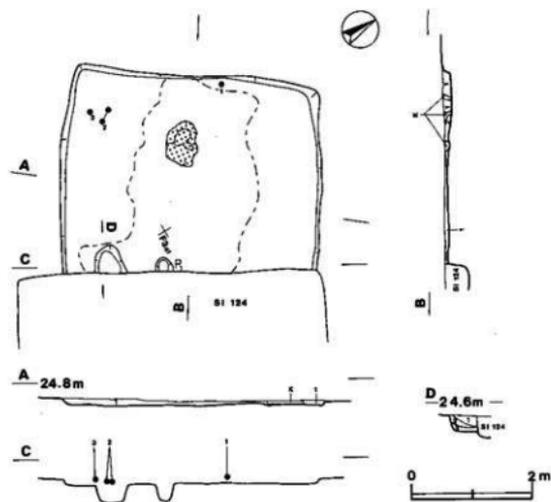
第125号住居跡 (第234図)

位置 調査区南部，E2j区。

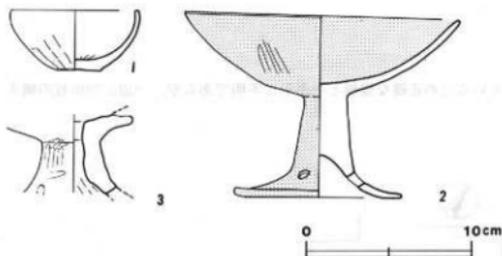
重複関係 本跡は南東壁を第124号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが，一辺4.20m程の方が長方形と推定される。

主軸方向 N-57°-W



第234図 第125号住居跡実測図



第235図 第125号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は8-20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径25cm程の円形か楕円形と推定され、深さ25cm程で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りであり、長径70cm、短径50cmの不整楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されているが、南東部を第124号住居跡に掘り込まれている。径50cm程の円形か楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

3 明褐色 ローム粒子多量、黒色土粒子中量

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

遺物 主に西コーナー部を中心とする住居跡西部の床面から土師器を主体に少量出土している。1の柄は北西壁際の覆土下層から、3の装飾器台及び2の高坏は西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第125号住居跡出土遺物観察表

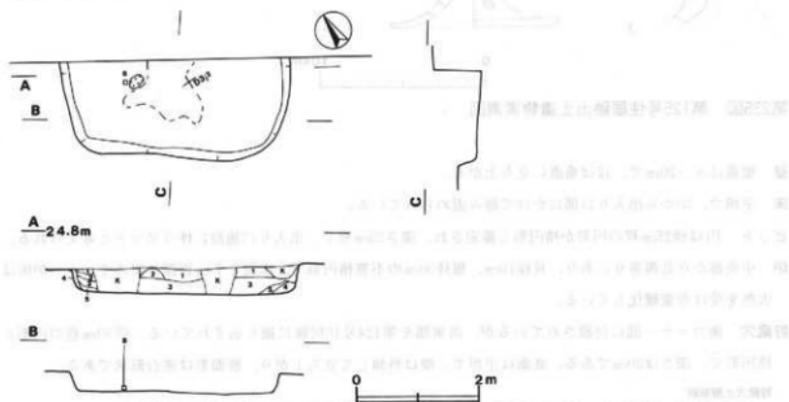
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第235図 1	土師器	A 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部平坦。	体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 淡黄色 普通	P648 80% PL80 北西壁際覆土下層
		B 3.7				
		C 2.8				
2	高坏 土師器	A 16.7	脚部は中央柱状で、基部は横方向に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部下位に3孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部外面ヘラ巻き。 坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P650 70% PL80 西コーナー部覆土下層
		B 11.3				
		D 10.1				
		E 6.2				
3	装飾器台 土師器	B (4.8)	脚部中位から器受部にかけての破片。器受部下位は周縁が突き出す。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面周位のヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P649 10% 西コーナー部覆土下層
		E (3.1)				

第126号住居跡 (第236図)

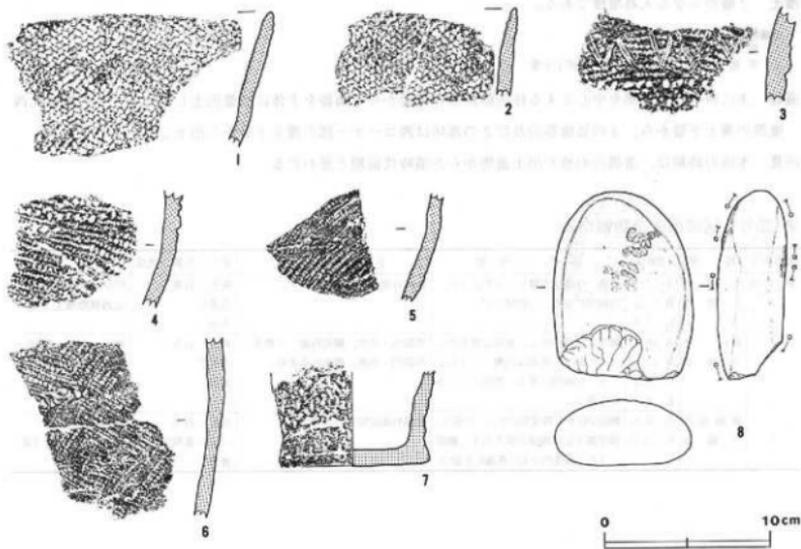
位置 調査区中央部, D3j1区。

規模と平面形 北東部が調査区外に延びているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.70m程の隅丸
 方形が隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-55°-W



第236図 第126号住居跡実測図



第237図 第126号住居跡出土遺物実測・拓影図

壁 壁高は32cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部から西寄りにあり、長径30cm、短径18cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
 2 黒暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量

- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量

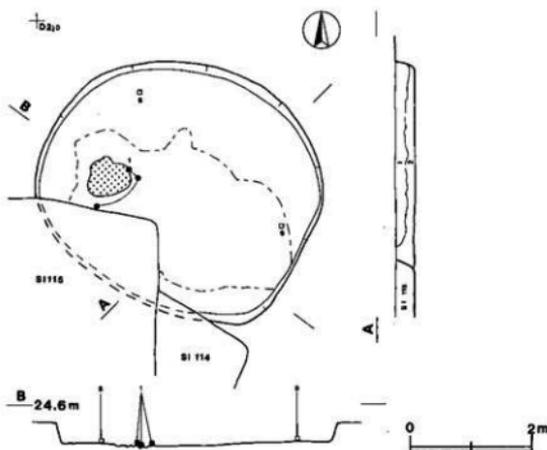
遺物 中央部の床面から縄文土器の深鉢片29点及び礫4点が出土している。8の磨石は炉北西側の床面から出している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第237図1～7は、第126号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片で、いずれも組紐文が施されている。3～6は胴部片である。3は単節縄文の上に鋸歯状文と上位に刺突が、4は単節縄文の上位に刺突が、5は無節の原体押圧と単節縄文が、6は単節の羽状縄文が施されている。7は底部片で、組紐による縄文が施されている。

第126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第237図8	磨石	(11.5)	8.6	4.3	(541.3)	砂岩	炉北西側床面	Q80 PL105 敷石兼用



第238図 第127号住居跡実測図

第127号住居跡 (第238図)

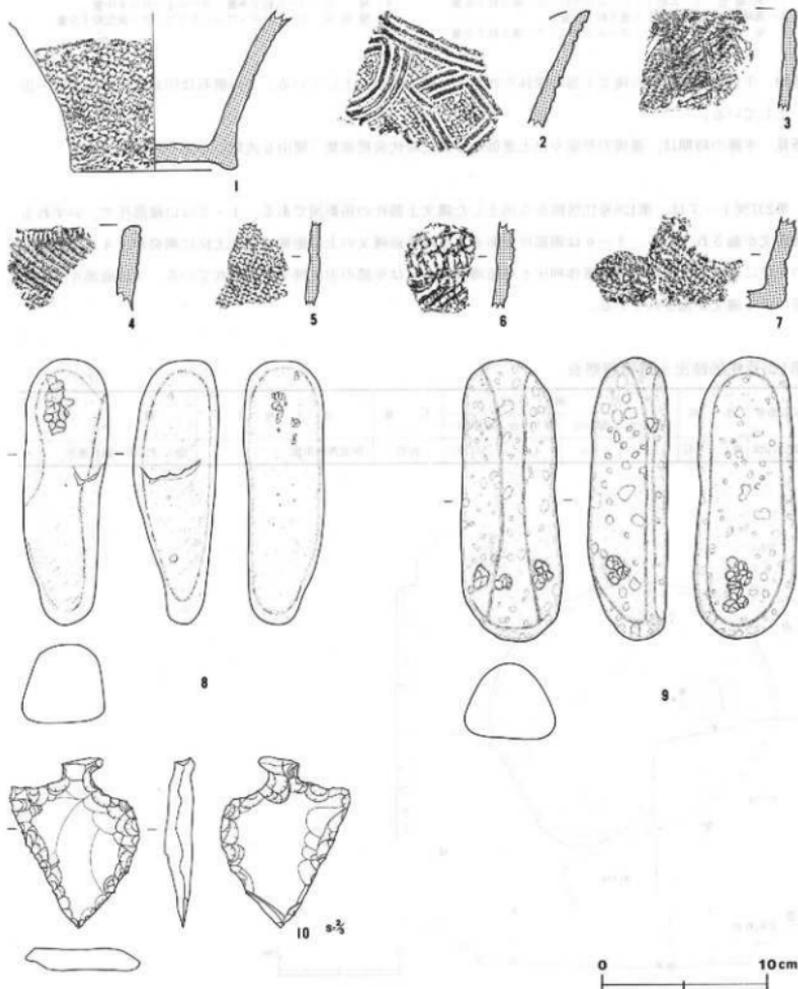
位置 調査区中央部, D2j区。

重複関係 本跡は南西部を第114・115号住居跡に掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸4.50m, 短軸3.60mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-66°-W

壁 壁高は30cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。



第239図 第127号住居跡出土遺物実測・拓影図

床 平坦で、炉の周辺を含む中央部が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りであり、長径70cm、短径60cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 炉周辺及び南東部の床面から縄文土器の深鉢片33点及び礫12点が出土している。1の深鉢は炉床から、8の敲石は北部壁際の床面から、9の敲石は南東部壁際の床面から、10の石匙は南東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	深鉢 縄文土器	B(9.6) C 10.0	胴部下位から底部にかけての破片。底部は無文でやや上げ底気味の平底。胴部下位に単節R Lの縦回転で縄文が施されている。	長石・スコリア 褐色 普通	PS1 20% PL80 伊宋 縄文土器

第239図2～7は、第127号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2～4は口縁部片である。2は半截竹管による幾何学文が、3は半截竹管による斜格子状文が、4は単節縄文が施されている。5・6は胴部片で、5は複節縄文が、6は棒状工具による刺突が施されている。7は底部片である。上げ底気味の平底で、単節R Lの縄文が施されている。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第239図8	敲石	16.1	5.2	5.2	552.4	砂岩	北部壁際床面	Q81 PL105
9	敲石	17.2	6.2	5.0	760.2	砂岩	南東部壁際床面	Q82 PL105
10	石匙	5.2	4.0	0.9	12.8	頁岩	南東部覆土中	Q83

第128号住居跡（第240図）

位置 調査区中央部、E2c9区。

重複関係 本跡は南西壁が第161号住居跡を掘り込み、東コーナー部を第47号土坑に掘り込まれていることから、第161号住居跡より新しく、第47号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.15m、短軸3.65mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-37°-W

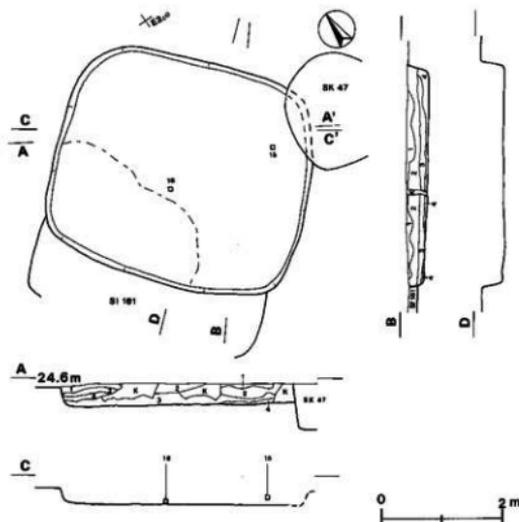
壁 壁高は25～33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、全体的に軟らかいが、西コーナー部周辺が踏み固められている。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量



第240図 第128号住居跡実測図

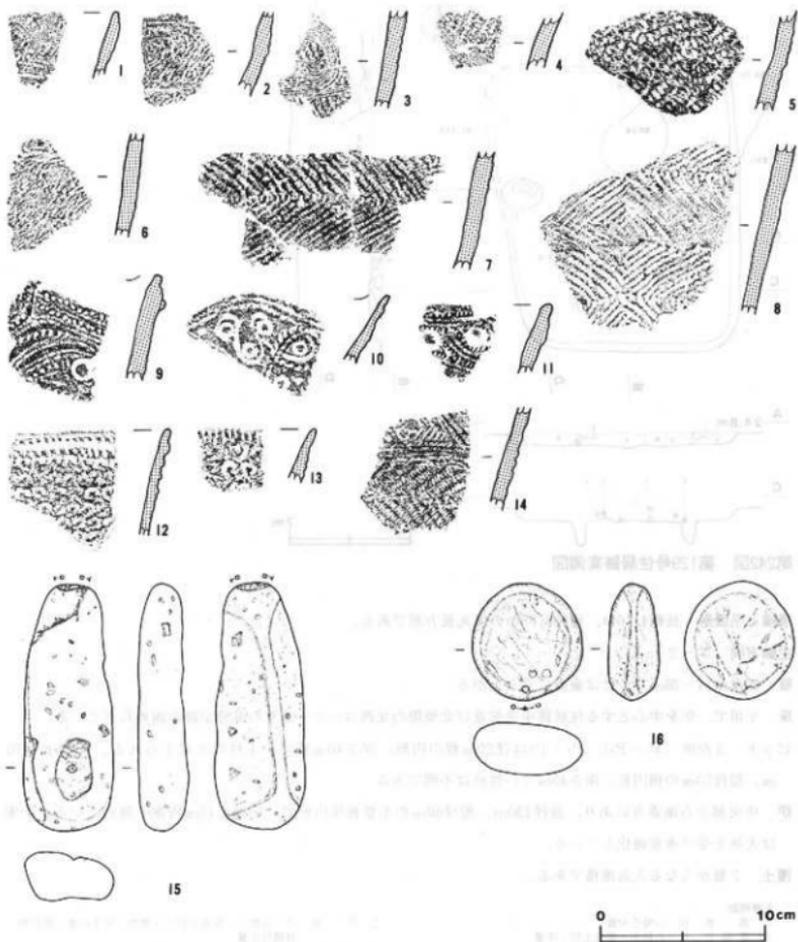
遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて縄文土器の深鉢片130点及び礫16点が出土している。15の礫石は東コーナー部の覆土下層から、16の磨石は中央部の床面から出土している。

所見 本跡は炉及び柱穴等が確認されなかったが、硬化面の一部と縄文土器の深鉢片及び石器等が出土していることから住居跡とした。時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第241図1～14は、第128号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片である。1は櫛歯状工具による沈線が、2は反り返りの縄文が施されている。2の口唇部は僅かに欠けている。3～8は胴部片である。3・4は櫛歯状工具による沈線が、5は単節R Lの縄文が、6は反り返りの縄文が、7・8は羽状縄文が施されている。9～13は口縁部片である。9～11は円形刺突文が施され、9・10は波状口縁である。12・13はループ文が施され、口縁部及び隆帯上に縦位の刺突が施されている。14は胴部片で、羽状縄文と上位にハの字状の刺突が施されている。1～8が本跡に伴い、9～14は流れ込みと思われる。

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第241図15	敲石	15.1	5.5	3.0	396.4	砂岩	東コーナー部覆土下層	084 PL105
16	磨石	7.2	6.6	3.1	190.9	砂岩	中央部床面	085 PL105

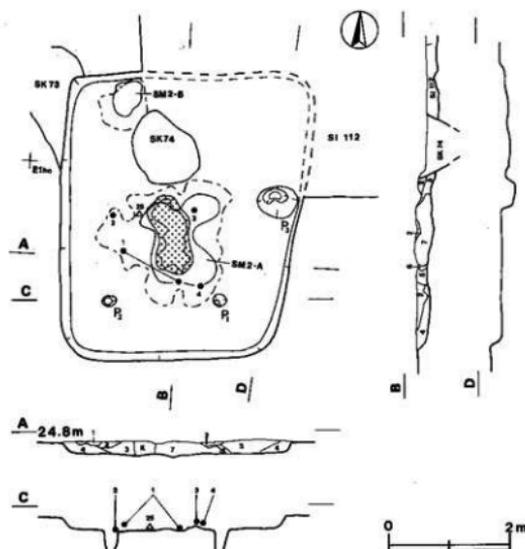


第241図 第128号住居跡出土遺物・拓影図

第129号住居跡 (第242図)

位置 調査区西端部, E1h区。

重複関係 本跡は北西コーナー部が第73号土坑を掘り込み、北東コーナー部を第112号住居跡に、炉の北側を第74号土坑に掘り込まれていることから、第73号土坑より新しく、第112号住居跡及び第74号土坑より古い。また、本跡内にはほぼ同時期に形成されたものと思われる第2号地点貝塚がある。



第242図 第129号住居跡実測図

規模と平面形 長軸4.70m、短軸3.88mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-2'-E

壁 壁高は14-28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉を中心とする住居跡中央部及び北壁際の北西コーナー寄りの部分が踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁-P₃)。P₁・P₂は径20cm程の円形、深さ40cm程で、支柱穴と考えられる。P₃は長径70cm、短径50cmの楕円形、深さ49cmで、性格は不明である。

炉 中央部から南寄りにあり、長径130cm、短径60cmの不整長楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 7層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黄褐色 ローム粒子・褐色土粒子中量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗黄褐色 ローム粒子中量、褐色土粒子少量

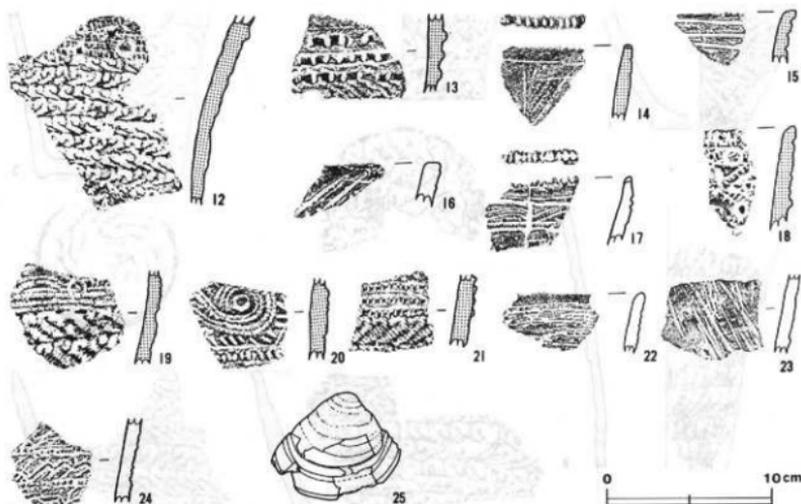
- 5 褐色 ローム粒子・褐色土粒子・黒色土粒子中量、炭化物・貝破片少量
- 6 黒色 褐色土粒子・炭化物・貝破片少量
- 7 灰褐色 縄土貝層(ヤマトシジミ、マガキが主体)、黒色土粒子・砂粒子・炭化物少量

遺物 炉を中心とする中央部の床面から縄文土器の深鉢を主体に出土している。1の深鉢は中央部の床面から、2の深鉢及び25の貝刃は炉西側の床面から、3の深鉢は炉床の北東部から、4の深鉢は炉南側の覆土下層から出土している。また、第2号地点貝塚からはヤマトシジミ、マガキを主体とする貝に混じり、縄文土器の深鉢片(二ツ木式期を主体に)が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。また、本跡内に形成された第2号地点貝塚は、住居廃絶とほぼ同時期のものと考えられる。



第243图 第129号住居跡出土遺物実測・拓影图(1)



第244図 第129号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	深鉢 縄文土器	B(7.3) C(6.0)	胴部下位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部下位に単節L Rの縄文が施されている。	長石・スコリア 褐色 普通	P652 10% 中央部片面 縦線土器
2	深鉢 縄文土器	B(5.4) C 10.0	胴部下位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部は単節L RとR Lの末端をループさせた部分に羽状縄文が施され、底部端部には単節R Lを一周させた縄文が施されている。	長石 にぶい褐色 普通	P653 10% PL80 伊西側片面 縦線土器
3	深鉢 縄文土器	B(10.2) C 8.7	胴部下位から底部にかけての破片。底部は上げ底。胴部は単節L RとR Lの羽状縄文が施されている。底部は端部を原体による刺突で巡らし、中を単節R Lの末端をループさせた部分に縄文が施されている。	長石 にぶい褐色 普通	P654 20% PL80 伊床北東部 縦線土器
4	深鉢 縄文土器	B(16.2)	胴部片。胴部は単節R Lの末端をループさせた部分に縄文が施されている。	長石 褐色 普通	P655 20% PL80 伊南側覆土下層 縦線土器

第243・244図5～24は、第129号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。5～10は口縁部片である。5～8・10はループ文が施され、5は波状口縁で、7～9の口唇部は内削ぎである。9は2本一対の平行な隆帯上に刺突が、隆帯の間に原体による押圧が施されている。10は4段に縦位の刺突が施されている。11～13は胴部片である。11はループ文が、12はループ文の上位に円形竹管文と貼り瘤が施されている。13は3本一対の平行な隆帯上に刺突が、隆帯の間に原体による押圧が施されている。14～18は口縁部片である。14は貝殻腹縁文と細い沈線が施され、15・16は角頭状の口唇部で、横位及び斜位に沈線が施されている。17は沈線と口唇部に刻みが施されている。18は円形竹管文と貼り瘤が施されている。19～21は胴部片である。19・20は原体による押圧と円形竹管文が、21は3本一対の平行な隆帯上に刺突が施されている。22は口縁部片で、横位の沈線が施されている。23・24は胴部片である。23は斜位に、24は波状に沈線が施されている。5～13は二ツ木式期、

14-16は田戸下層式期, 17は田戸上層式期, 18-21は花積下層式期, 22-24は浮島I式期に比定されるものと思われる。

第130号住居跡 (第245図)

位置 調査区南西部, E2ds区。

重複関係 本跡は北コーナー部を第158号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.70m, 短軸5.60mの方形である。

主軸方向 N-64°-E

壁 壁高は14-19cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。

ピット P1は径30cm程の円形, 深さ26cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から東寄りであり, 長径90cm, 短径50cmの不整楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

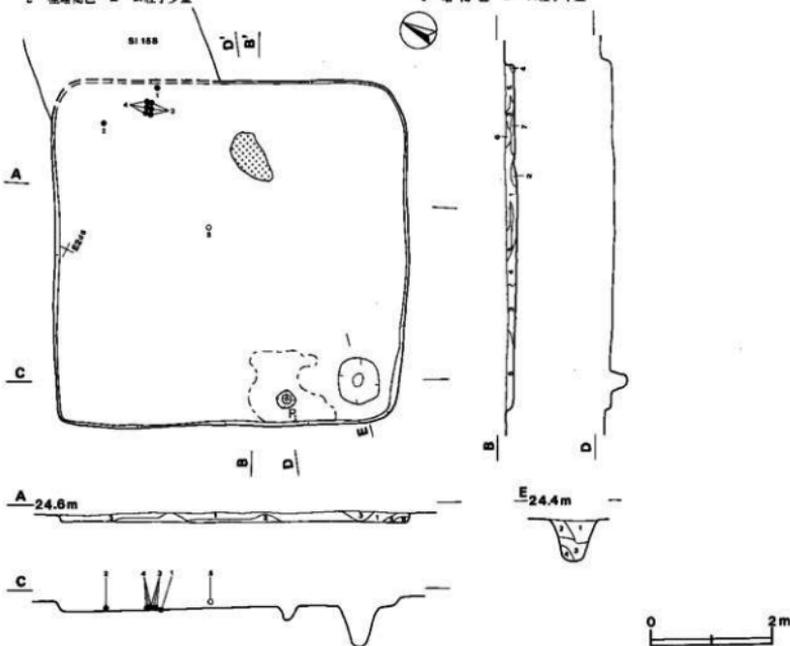
貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径75cm, 短径65cmの楕円形で, 深さは70cmである。底面は平坦で,

壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量



第245図 第130号住居跡実測図

覆土 8層からなる人為堆積である。

土層解説

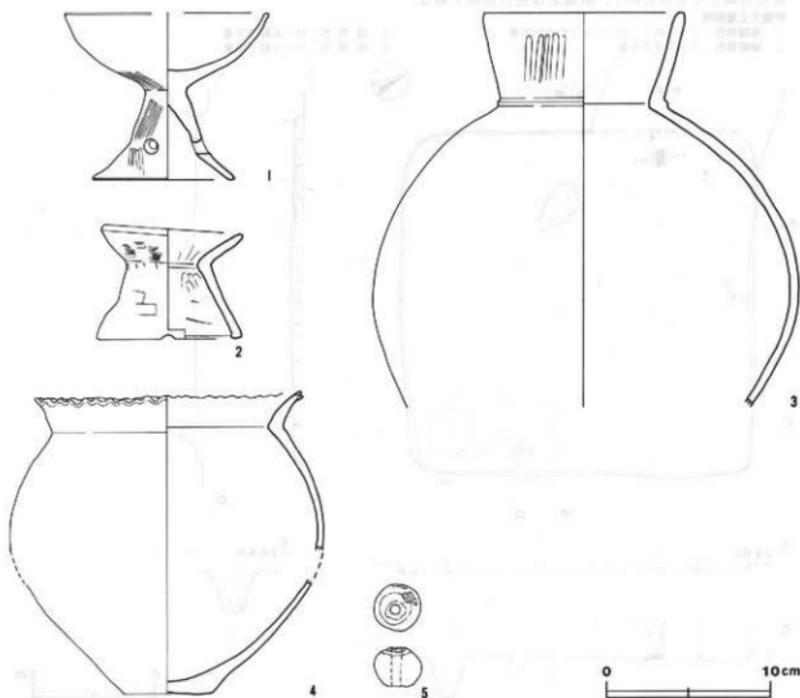
- | | | | |
|--------|------------------------|-------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小・中・大ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 炉の北側から北コーナー部にかけての床面から土師器がまばらに出土している。2の器台は北コーナー部の床面から逆位の状態で、1の高坏及び3の壺・4の甕は炉と北コーナー間の床面から破片で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 1	高坏 土師器	高 12.3 径 A 10.1 径 B 8.6 径 D 5.5	脚部はワッパ状に開く。坏部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面、脚部外面ハケ目整形後へラ磨き。脚部内面へラナデ。	長石・石英にふい褐色 普通	P656 50% 如・北コーナー間床面



第246図 第130号住居跡出土遺物実測図

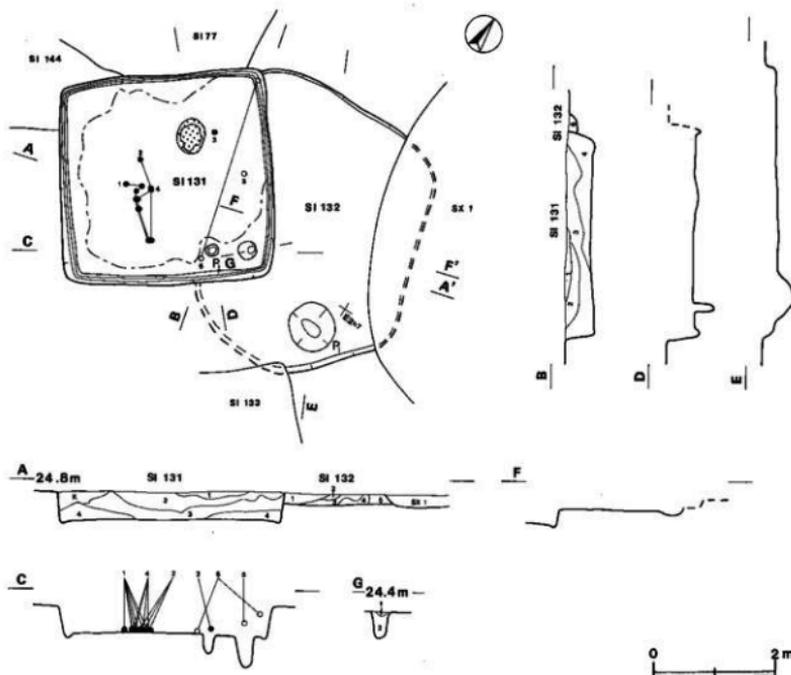
図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第246図	土師器	A 8.5	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P657 95% PL80 北コーナー部床面 二次焼成
		B 7.0				
		D 8.8				
		E 4.8				
3	土師器	A 12.1	底部欠損。体部は球状で、口縁部は頸部から外傾する。頸部に粘土粒を貼り付ける。	口縁部内面横ナデ、外面ハケ目整形後ヘラ磨き。体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P659 40% PL81 中・北コーナー部床面
		B(24.0)				
4	土師器	A 16.2	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P658 50% PL80 中・北コーナー部床面 二次焼成、体部外面横ナデ
		B(18.3)				
		C 5.4				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(m)	幅(m)	孔径(m)	重量(g)		
第246図5	土玉	2.4	2.8	—	19.7	中央部覆土下層	BP190

第131号住居跡 (第247図)

位置 調査区南西部, E2g区。

重複関係 本跡は北東部が第132号住居跡を、北西部が第77号住居跡を、西コーナー部が第144号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。



第247図 第131・132号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-36'-W

壁 壁高は43~48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、全体が踏み固められている。

ピット Piは径20cm程の円形、深さ31cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北寄りにあり、長径55cm, 短径48cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。径30cm程の円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

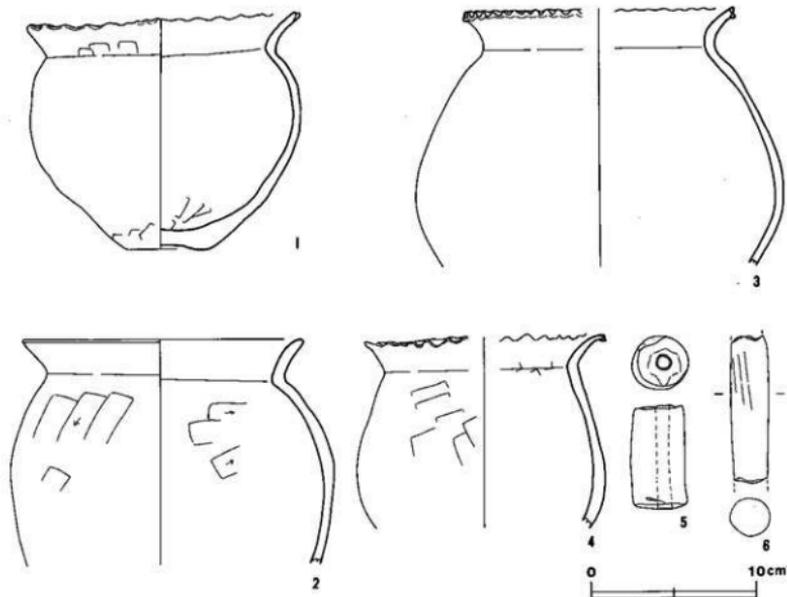
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 4層からなる人為地積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小・中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中・大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量

遺物 住居跡の中央部から東部にかけての床面から土師器の甕片を主体に少量出土している。1・2・4の甕は中央部の床面から、3の甕は炉の北東側床面から破片で出土している。



第248図 第131号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図	土師器	A 16.5	中央がやや凹み平底。体部は縦長の球状で最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P660 70% PL81 中央部床面 二次焼成、体部外面磨付着
		B 14.5				
		C 5.1				
2	土師器	A 17.0	体部中位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P662 40% 中央部床面 二次焼成、体部外面磨付着
		B (13.7)				
3	土師器	A (16.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P384 40% PL81 炉北東側床面 二次焼成
		B (15.7)				
4	土師器	A (14.7)	体部中位から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P661 40% 中央部床面 二次焼成、体部外面磨付着
		B (11.7)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第248図5	管状土鉢	6.2	3.5	—	0.9	75.8	北東壁中央部寄り	DF191 PL99
6	不明土製品	(8.9)	2.5	—	—	(56.0)	出入り口部床面	DF192 PL103

第132号住居跡（第247図）

位置 調査区南西部、E2g区。

重複関係 本跡は南部を第133号住居跡に、東部を第1号不明遺構の溝に、西部を第131号住居跡にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、長軸（径）4.70m程の隅丸長方形が楕円形と推定される。

主軸方向 N-32'-W

壁 壁高は16cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。

ピット P₁は径75cm程の円形、深さ30cm程で、性格は不明である。

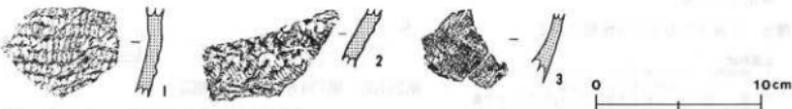
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	4 褐色	黒色土粒子多量
2 褐色	黒色土粒子多量	5 褐色	黒色土粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

遺物 床面から縄文土器の深鉢片3点及び礫7点が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第249図 第132号住居跡出土遺物拓影図

第249図1～3は、第132号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は胴部片である。1は単節R Lの縄文が、2はループ文が施されている。3は底部に近い破片で、斜位の沈線が施されている。

第133号住居跡 (第250図)

位置 調査区西南部, E2h区。

重複関係 本跡は北コーナー部が第132号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.75m, 短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は22-36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部がやや踏み固められている。

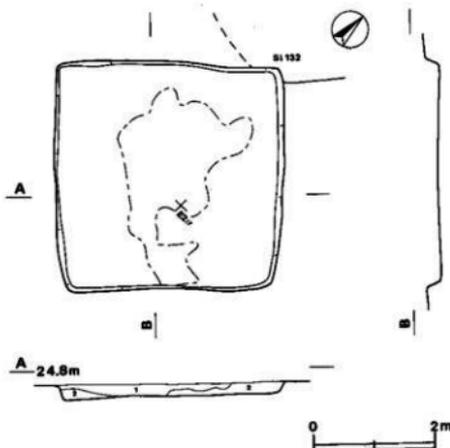
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器の破片を主体に床面から少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。



第250図 第133号住居跡実測図

第134号住居跡 (第251図)

位置 調査区西部, D2g区。

規模と平面形 長軸2.70m, 短軸2.60mの方形である。

主軸方向 N-127°-W

壁 壁高は10-16cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

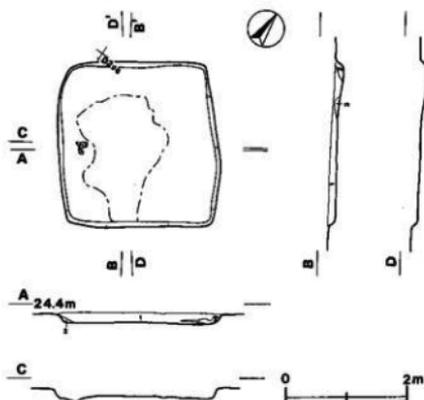
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部から南西壁中央部寄りであり、長径20cm, 短径15cmの不定形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 茶褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中・大ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量



第251図 第134号住居跡実測図

遺物 土師器の瓦片を主体に中央部の床面から少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第135号住居跡 (第252図)

位置 調査区西部, D2e7区。

重複関係 本跡は南東壁が第141号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸6.80m, 短軸6.20mの方形である。

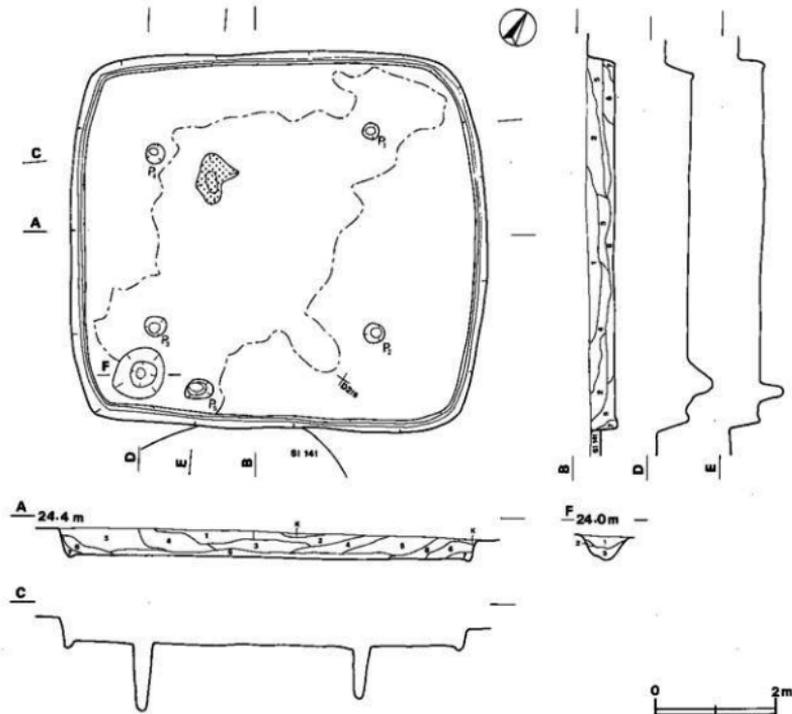
主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は28-42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5-10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、東・西コーナー部を除いた床面が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁-P₅)。P₁-P₄は径25-30cmの円形、深さ71-110cmで、いずれも主柱穴、P₅は長径40cm, 短径30cmの楕円形、深さ39cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第252図 第135号住居跡実測図

炉 中央部から西寄りにあり、長径80cm、短径65cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径80cm程の円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | | |

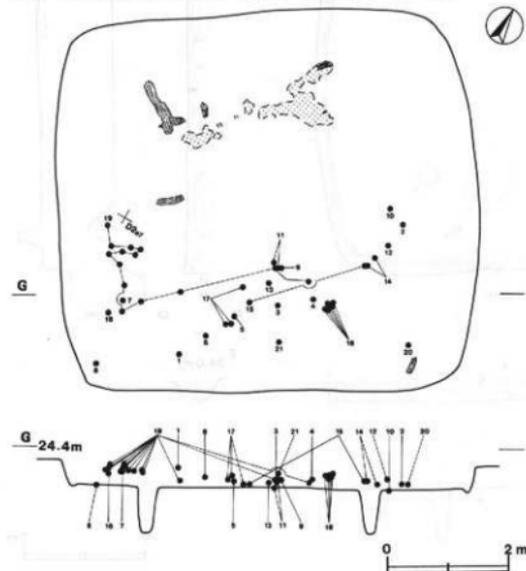
覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

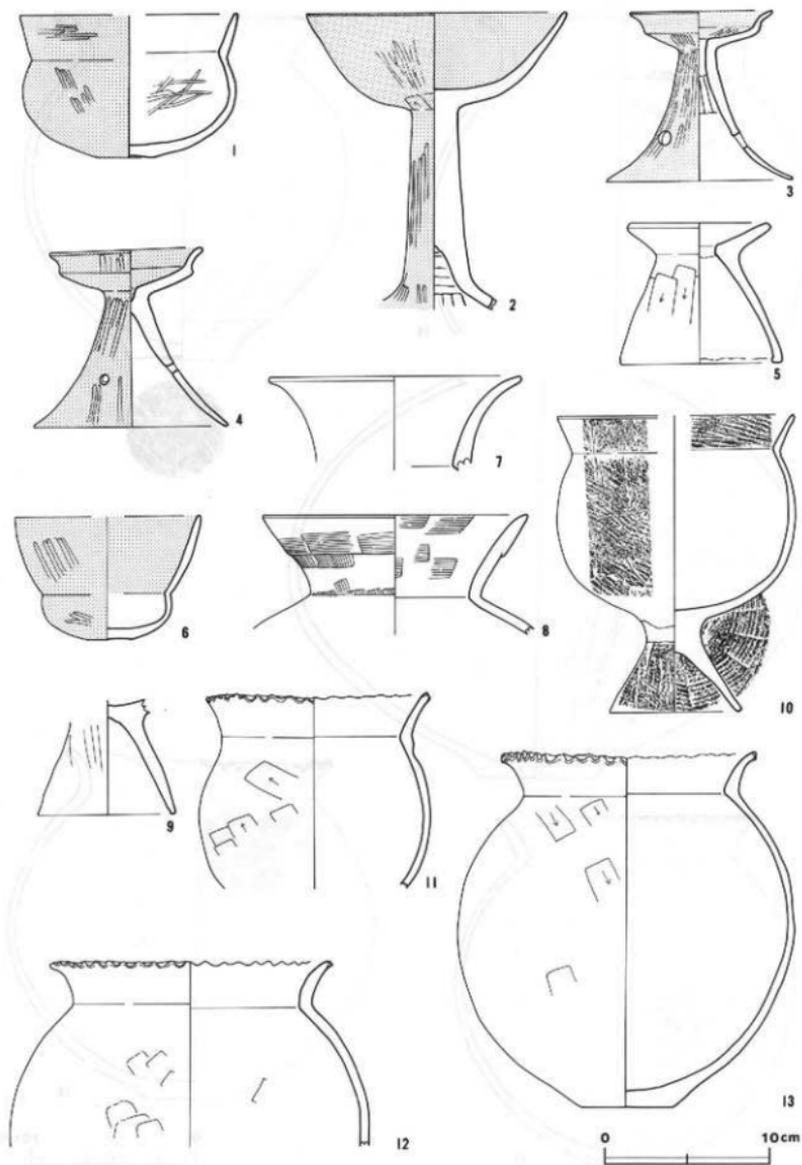
- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | 6 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| | | 9 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 主に住居跡南東部の覆土上層から床面にかけての部分から土師器を主体に出土している。また、北西部の床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。南コーナー部からは1の甕及び7の壺が覆土上層から、16の壺及び19の鉢が覆土中層から、8の壺が床面から出土している。中央部東寄りからは12の甕が覆土中層から、2の高坏及び14の甕が覆土下層から、20のミニチュア土器が東コーナー部の覆土下層から、10の台付甕が床面から出土している。中央部南東寄りからは18の甕及び21のミニチュア土器が覆土中層から、3・4・5の器台、9の台付甕及び11・13・15・17の甕が覆土下層からそれぞれ出土している。また、6の埴は南東壁中央部寄りの覆土中層から出土している。

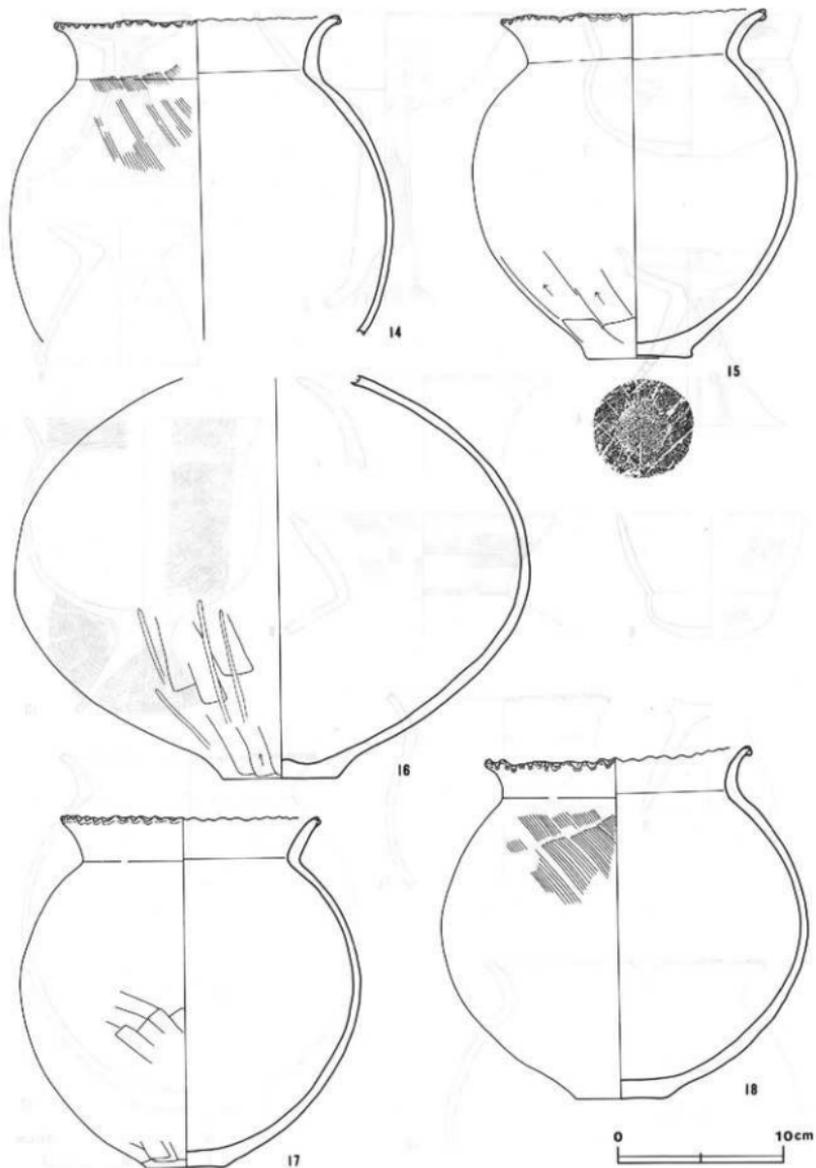
所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。



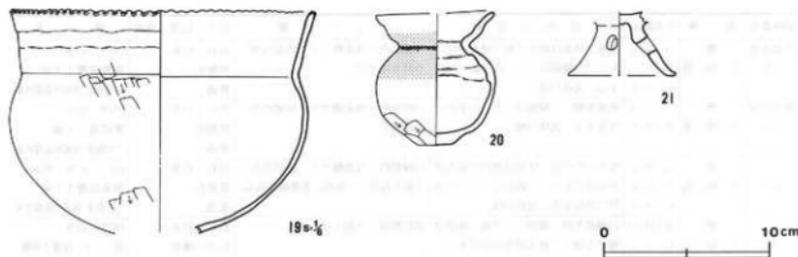
第253図 第135号住居跡遺物出土位置図



第254图 第135号住居跡出土遺物実測図(1)



第255図 第135号住居跡出土遺物実測図(2)



第256図 第135号住居跡出土遺物実測図(3)

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図	碗					
1	土師器	A (13.2)	中央がやや凹み平底。体部は内摩して立ち上がり、内面の口縁部との境に横をもつ。口縁部は外開する。	口縁部内面横ナデ。口縁部外面、体部内・外面へラ磨き。口縁部外面、体部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色	P663 50% PLR1 南コーナー部覆土上層 体部内面刺磨
		B 8.6				
		C 3.3				
2	高土師器	A 15.8	裾部欠損。脚部は中央柱状。坯部は均一な壁厚を保ちながら内摩して立ち上がり。口縁部は外開する。	坯部内・外面、脚部外面へラ磨き。坯部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色	P664 80% PLR2 東部覆土下層
		B (18.1)				
		E (12.2)				
3	土師器	A 8.7	脚部はラッパ状に開く。器受部は内摩して立ち上がり。口縁部との境に横をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色	P665 90% PLR2 南東部覆土下層
		B 10.2				
		D 11.4				
		E 7.9				
4	土師器	A 9.3	脚部はラッパ状に開く。器受部は内摩して立ち上がり。口縁部との境に横をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔を穿つ。器受部中央に貫通孔を穿つとした痕跡有り。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色	P666 80% PLR1 南東部覆土下層 二次焼成 器受部内面刺磨
		B 10.9				
		D 11.9				
		E 8.3				
5	土師器	A 8.8	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色	P667 95% PLR1 南東部覆土下層 二次焼成
		B 8.6				
		D 9.8				
		E 6.4				
6	土師器	A (11.3)	丸底。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎尖味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色	P668 60% PLR1 東部中央部より覆土中層 体部内面刺磨
		B 7.6				
7	土師器	A 15.4	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部外削ぎ。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面赤彩痕有り。	長石・石英 暗赤褐色	P669 20% 南コーナー部覆土上層 二次焼成、口縁部内面削ぎ
		B (5.7)				
8	土師器	A 16.2	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横位のハケ目整形。胴部外面縦位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア にぶい褐色	P670 30% PLR1 南コーナー部床面 二次焼成
		B (7.3)				
9	土師器	B (7.1)	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面へラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色	P671 10% 南東部覆土下層
		E 5.8				
10	土師器	A (14.4)	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面、体部外面、台部内・外面ハケ目整形。体部内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色	P672 60% PLR2 東部床面 二次焼成、体部外面削ぎ
		B 18.1				
		D 8.0				
		E 4.6				
11	土師器	A 13.6	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。底状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色	P673 60% PLR3 南東部覆土下層 二次焼成、体部外面削ぎ
		B (11.8)				
12	土師器	A 17.1	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。底状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部外面赤彩痕有り。	長石・石英 にぶい赤褐色	P674 30% PLR1 東部覆土中層 二次焼成、体部外面削ぎ
		B (11.3)				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 254 図 13	甕 土 師 器	A 15.5	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P675 40% 南東部覆土下層 二次焼成。体部外面露付着
		B 21.7				
		C 5.6				
第 255 図 14	甕 土 師 器	A 17.3	底面欠損。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P676 30% 東部覆土下層 二次焼成。体部外面露付着
		B (19.5)				
15	甕 土 師 器	A 16.1	突出した平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。底部に木炭灰が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P677 40% PL83 南東部覆土下層 二次焼成。体部外面露付着
		B 21.1				
		C 6.4				
16	甕 土 師 器	B (24.5)	口縁部欠損。突出した平底。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。	体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P678 40% 南コーナ一部覆土中層 二次焼成。体部外面露付着
		C 7.2				
17	甕 土 師 器	A 15.8	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P679 60% PL83 南東部覆土下層 二次焼成。体部外面露付着
		B 21.5				
		C 4.9				
18	甕 土 師 器	A 16.3	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P680 50% PL82 南東部覆土中層 二次焼成。体部外面露付着
		B 21.3				
		C 5.5				
第 256 図 19	鉢 土 師 器	A 36.9	底面欠損。体部はやや偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部外面に輪痕み痕が残る。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P681 80% PL82 南コーナ一部覆土中層 二次焼成。体部外面露付着
		B (27.1)				
20	ミニチュア土甕 土 師 器	A (7.2)	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾し中位に不明瞭な径をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。頸部から体部上位にかけて帯状に赤彩。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P683 80% PL82 南コーナ一部覆土下層
		B 8.1				
		C 2.1				
21	ミニチュア土甕 土 師 器	B (3.8)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面へラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P682 40% 南東部覆土中層
		D (6.6)				
		E 3.0				

第136号住居跡 (第257図)

位置 調査区北西部, C2i+区。

重複関係 本跡は南東壁を第68号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.25mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は22~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下を除く三方の壁下に確認され、上幅5~10cm, 深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 平坦で、床面全体が踏み固められている。

炉 中央部にあり、長径130cm, 短径60cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナ一部に付設されている。径45~55cmの円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

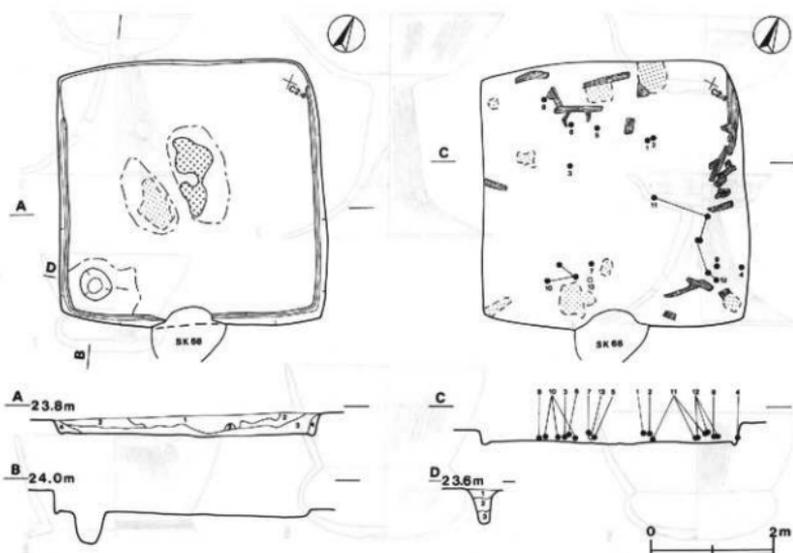
貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量。ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

埋土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物中量。ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量。ローム小・中ブロック・炭化粒子少量



第257図 第136号住居跡実測・遺物出土位置図

遺物 炉を中心とする住居跡中央部の覆土中層から下層及び東・南・西コーナー部の覆土下層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、四方の壁寄りの床面からは炭化材及び焼土塊が出土している。1の椀及び2の高坏は炉北東側の覆土中層から、3の器台及び5・6の罎は炉西側から北西側にかけての覆土下層から、4の器台及び11・12の甕は北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から、7の罎は中央部南東壁寄りの覆土中層から、9の甕は東コーナー部の覆土下層から、10の甕は南コーナー部の覆土下層から、8の甕は西コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡は焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	土師器	A 11.8	丸底であるが中央がやや凹む。体部は内埋して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	灰石・石英 明赤褐色	P684 90% PL84 炉北東側覆土中層 体部内面刺摩
		B 4.9			普通	
		C 3.2			普通	
2	高土師器	A 13.7	脚部は中実柱状。坏部は均一な器厚を保ちながら内埋して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部外削ぎ。脚部と坏部の境に3孔を穿つ。	坏部外面、脚部外面へラ磨き。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	灰石・石英 赤褐色	P685 80% PL84 炉北東側覆土中層 坏部内面刺摩
		B 13.6			普通	
		D 12.8			普通	
		E 9.1			普通	
3	器台 土師器	A 8.4	脚部はラッパ状に開く。器受部は内埋して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。器受部内・外面、脚部外面赤彩。	灰石・石英 にふい赤褐色	P686 95% PL83 炉西側覆土下層
		B 10.0			普通	
		D 11.6			普通	
		E 7.4			普通	

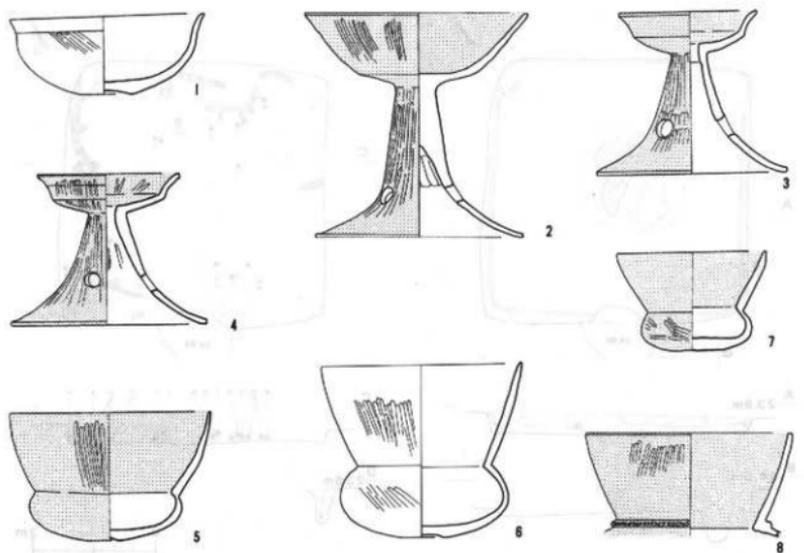
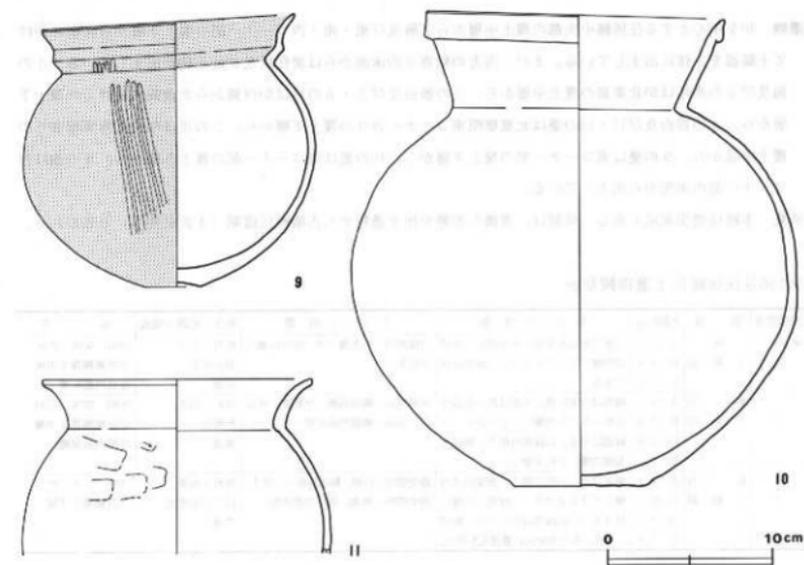
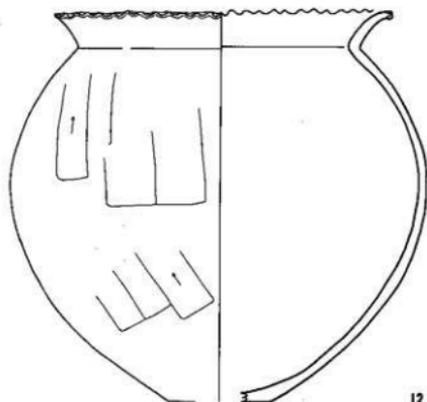


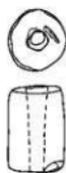
图258 1. 山阴县 - 南宋城隍庙遗址出土陶器



第258图 第136号住居跡出土遺物実測図(1)



12



13



第259図 第136号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 4	土師器 鉢	A 8.7	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は外反する。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。 器受部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英 暗赤色 普通	P687 95% PL84 北東部東コーナー部遺土層
		B 9.3				
		D 11.9				
		E 6.9				
5	土師器 増	A 12.3	丸底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。 口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P688 100% PL83 伊北西側遺土下層
		B 8.0				
6	土師器 鉢	A 12.2	平底であるが中央がやや凹む。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面へラ磨き。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P689 95% PL84 伊北西側遺土下層
		B 10.6				
		C 2.6				
7	土師器 鉢	A 9.0	平底。体部は扁平な球状で、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P690 90% PL84 中央部南東寄り覆土中層
		B 6.2				
8	土師器 甌	A 12.6	口縁部片。口縁部は脛部から外傾する。脛部に粘土紐を貼り付ける。	口縁部内・外面へラ磨き。口縁部内・外面赤彩。脛部の粘土紐に刻みを施す。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P691 20% 西コーナー部床面
		B (6.4)				
9	土師器 甌	A 15.2	中央がやや凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は脛部して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P692 90% PL82 東コーナー部遺土下層
		B 16.6				
		C 3.4				
10	土師器 甌	A 18.2	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨きナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P693 90% PL83 南コーナー部遺土下層
		B 29.1				
		C 8.0				
11	土師器 甌	A 16.4	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英 褐色 普通	P694 20% 北東部東コーナー部遺土層 二次焼成、体部外面赤彩付着
		B (10.6)				
第259図 12	土師器 甌	A 20.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	長石・石英 黒褐色 普通	P695 50% PL83 北東部東コーナー部遺土層 二次焼成、体部外面赤彩付着
		B 23.7				
		C (6.2)				

図版番号	種別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第259図13	管状土師	5.8	3.5	-	1.2	75.7	南東部中央部寄り覆土下層	DP193 PL99

第137号住居跡 (第260図)

位置 調査区北西部, D2a2区。

規模と平面形 長軸3.04m, 短軸2.94mの
方形である。

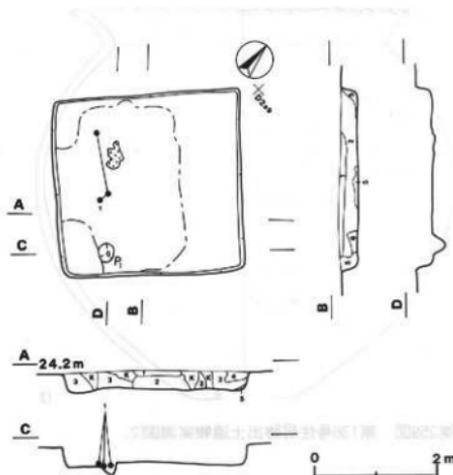
主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は26~34cmで, ほぼ垂直に立ち上
がる。

床 平坦で, 炉の周囲から出入り口部にか
けて踏み固められている。

ピット P₁は長径30cm, 短径25cmの楕円
形, 深さ19cmで, 出入り口施設に伴うピ
ットと考えられる。

炉 中央部から西寄りであり, 長径45cm,
短径25cmの不定形で, 床面を5cm程掘り
窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化し
ている。

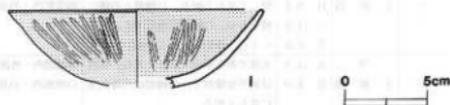


第260図 第137号住居跡実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 柿褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 2 柿褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭
土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・黒色土粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 黒色土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



第261図 第137号住居跡出土遺物実測図

遺物 炉周辺から南コーナー部にかけての
床面から土師器の甕片及び高坏片が少量

出土している。1の高坏は炉周辺の床面から散在した状態で出土している。また, 北コーナー部北壁際の
床面からはベンガラ塊 (約1kg) が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第137号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第261図	高坏	A 15.5	坏部片。坏部は均一な器厚をもちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部内・外面へラ磨き。坏部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色	P096 40% 炉周辺床面
1	土師器	B (4.7)			普通	坏部内面刺雕

第138号住居跡 (第262図)

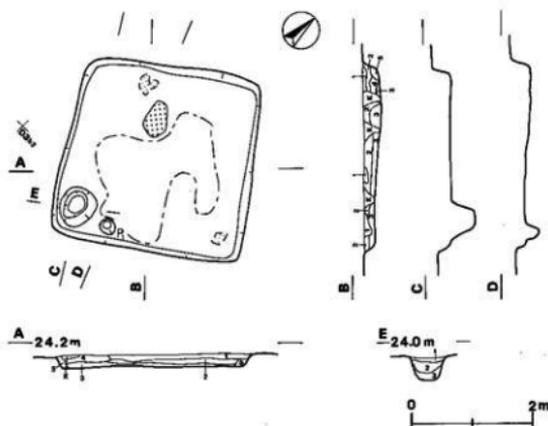
位置 調査区中央部, D3a2区。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-46°-W

壁 壁高は16~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 出入り口部から炉の周囲にかけて踏み固められている。



第262図 第138号住居跡実測図

ピット P1は径25cm程の円形、深さ18cmで、規模や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径40cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径65cm、短径60cmの円形で、深さは39cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | |

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 黒色 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 | |

遺物 土師器の壺片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第139号住居跡 (第263図)

位置 調査区中央部、D2d区。

重複関係 本跡は東コーナー部を第70号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は30-37cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、北コーナー部と西コーナーの一部を除いた床面が踏み固められている。

ビット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径30cm, 短径25cmの楕円形, 深さ48cmで, 規模や配置から出入り口施設に伴うビットと考えられる。P₂は径20cm程の円形, 深さ52cmで, 性格は不明である。

炉 中央部から西寄りにあり, 長径70cm, 短径40cmの不定形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

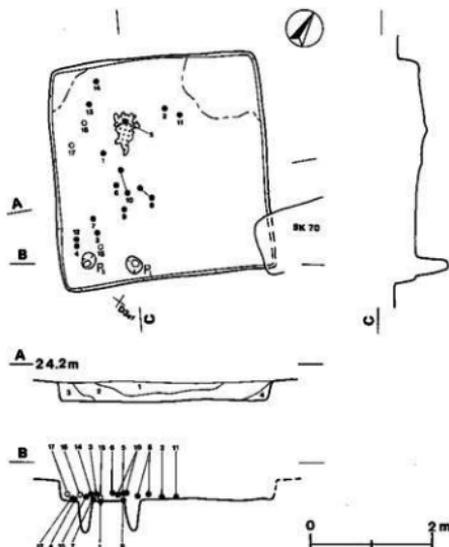
覆土 4層からなる人為地積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小・中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 炉を中心とする中央部及び南・西コーナー部を含む住居跡の西部から土師器を主体に出土している。炉の周辺からは1の鉢が南側の床面から, 2の高坏が北側の床面から, 5の埴が北側の覆土中層から出土している。中央部からは8~10の甕が覆土中層から床面にかけて, 6の埴が南西寄りの覆土中層から, 11の甕が北寄りの床面から, 南コーナー部からは3の高坏, 12のミニチュア土器, 4の器台及び7の甕が覆土中層から床面にかけて, 西コーナー部からは13・14のミニチュア土器が覆土下層からそれぞれ出土している。

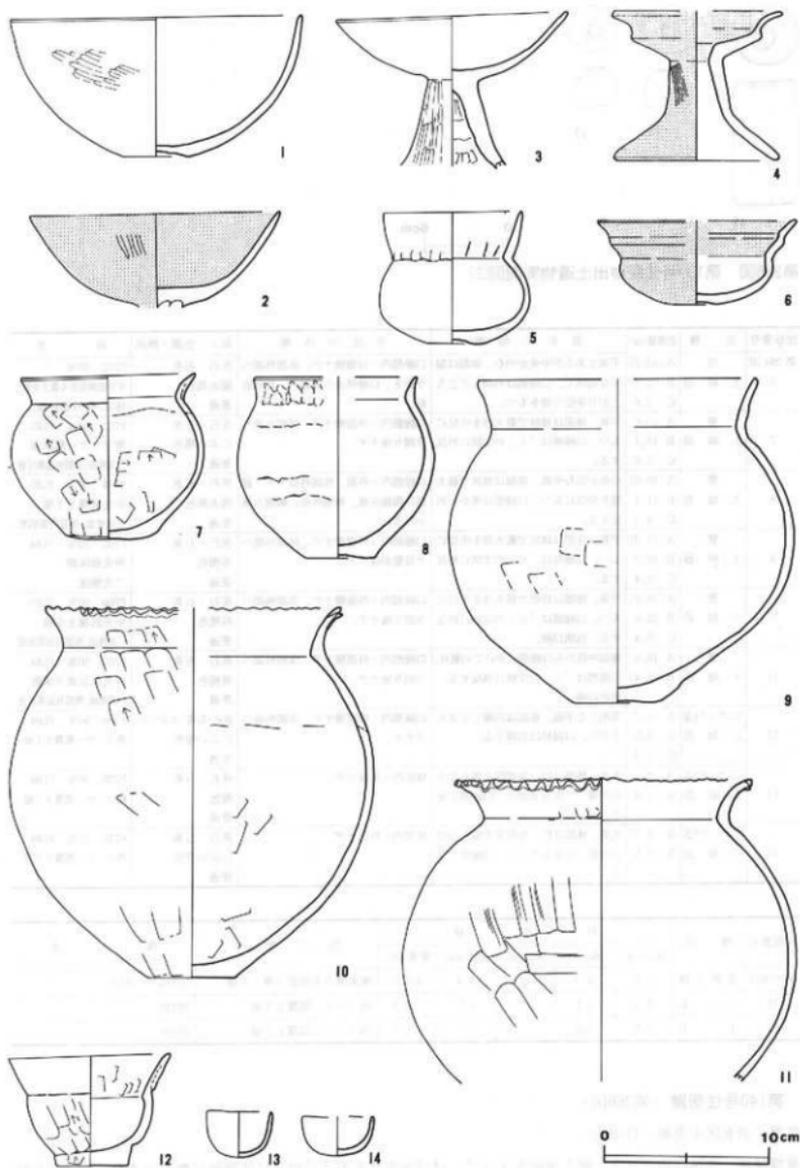
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。



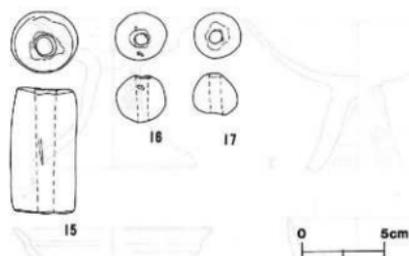
第263図 第139号住居跡実測図

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	鉢	A 17.7	中央がやや凹み平底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラ磨き。	長石・石英 黒褐色	P697 95% FL84 知南側床面
		B 8.6 C 4.0		普通	普通	二次焼成, 外部外面横ナダ
2	高坏	A 15.4	坏部片。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部内・外面, 脚部外面へラ磨き。 坏部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色	P008 50% FL84 伊北側床面
		B (5.7)			普通	坏部内・外面横ナダ
3	高坏	A 14.1	脚部下位欠損。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	坏部外面, 脚部外面へラ磨き。	長石・石英 赤褐色	P699 60% 南コーナー部覆土中層
		B (9.4) E (5.2)			普通	二次焼成, 坏部内外面横ナダ
		C (5.2)				
4	器台	A (10.5)	脚部はラップ状に開く。器受部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に狭をもつ。口縁部は外反する。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面, 脚部外面へラ磨き。 器受部内・外面, 脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色	P700 70% FL84 南コーナー部床面
		B 9.1			普通	
		D 10.2				
		E 5.9				
5	埴	A 8.4	中央がやや凹み平底。体部は偏平な球状で, 口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へラナダ。頸部に指環正痕が残る。	長石・石英 褐色	P701 100% FL85 伊北側覆土中層
		B 8.0 C 3.2			普通	



第264图 第139号住居跡出土遺物実測図(1)



第265図 第139号住居跡出土遺物実測図(2)

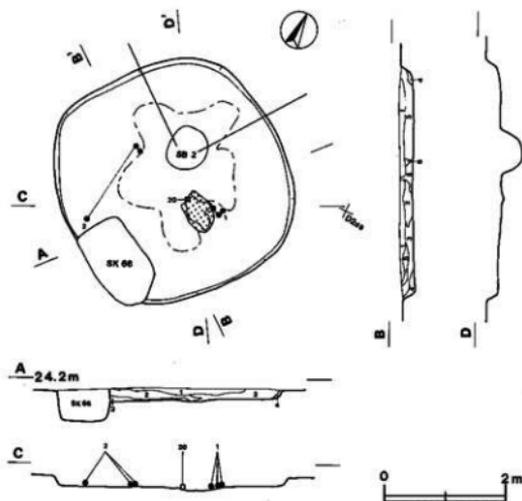
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 6	土 罎	A [12.2]	平底であるが中央が凹む。体部は偏平な球状で、口縁部は外傾して立ち上がり中位で絞をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。口縁部から体部内・外面赤彩。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P702 40% 中央部東西寄り覆土中層 体部内・外面割離
		B 5.1				
		C 2.6				
7	土 罎	A 10.6	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P703 90% PL85 南コーナー一部床面 二次焼成、体部外面割離
		B 10.1				
		C 5.6				
8	土 罎	A [10.0]	中央が凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。頸部に指頭瓦痕、体部外面に輪轆み痕が残る。	長石・石英 明赤褐色 普通	P704 50% PL85 中央部覆土下層 二次焼成、体部内面割離
		B 11.1				
		C 4.3				
9	土 罎	A [17.0]	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P705 70% PL84 中央部床面 二次焼成
		B 19.7				
		C 5.4				
10	土 罎	A [18.0]	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P706 60% PL85 中央部覆土中層 二次焼成、体部外面割離
		B 22.6				
		C 5.4				
11	土 罎	A 18.0	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P707 50% PL84 中央部北寄り床面 二次焼成、体部外面割離
		B [18.4]				
12	ミニチュア土器 土 罎	A 9.7	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P708 90% PL84 南コーナー一部覆土下層
		B 6.8				
		C 4.3				
13	ミニチュア土器 土 罎	A 4.0	丸底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P709 90% PL84 西コーナー一部覆土下層
		B 2.8				
14	ミニチュア土器 土 罎	A [4.5]	丸底。体部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P710 50% PL84 西コーナー一部覆土下層
		B 2.5				

図版番号	種別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第265図15	管状土罎	7.7	4.0	—	1.3	145.9	南東壁中央部寄り覆土下層	DP194 PL90
16	土 罎	2.8	3.1	—	0.8	22.6	西コーナー一部覆土下層	DP195
17	土 罎	2.5	2.8	—	0.8	15.7	西コーナー一部覆土下層	DP196

第140号住居跡 (第266図)

位置 調査区中央部、D2ds区。

重複関係 本跡は南コーナー部を第66号土坑に、ほぼ中央部を第2号掘立柱建物跡に掘り込まれており、本跡が最も古い。



第266図 第140号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.80m，短軸3.70mの隅丸方形である。

主軸方向 N-140°-E

壁 壁高は14-20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で，炉の周辺を含む中央部が踏み固められている。

炉 中央部からやや南東寄りにあり，長径70cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。

床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解明

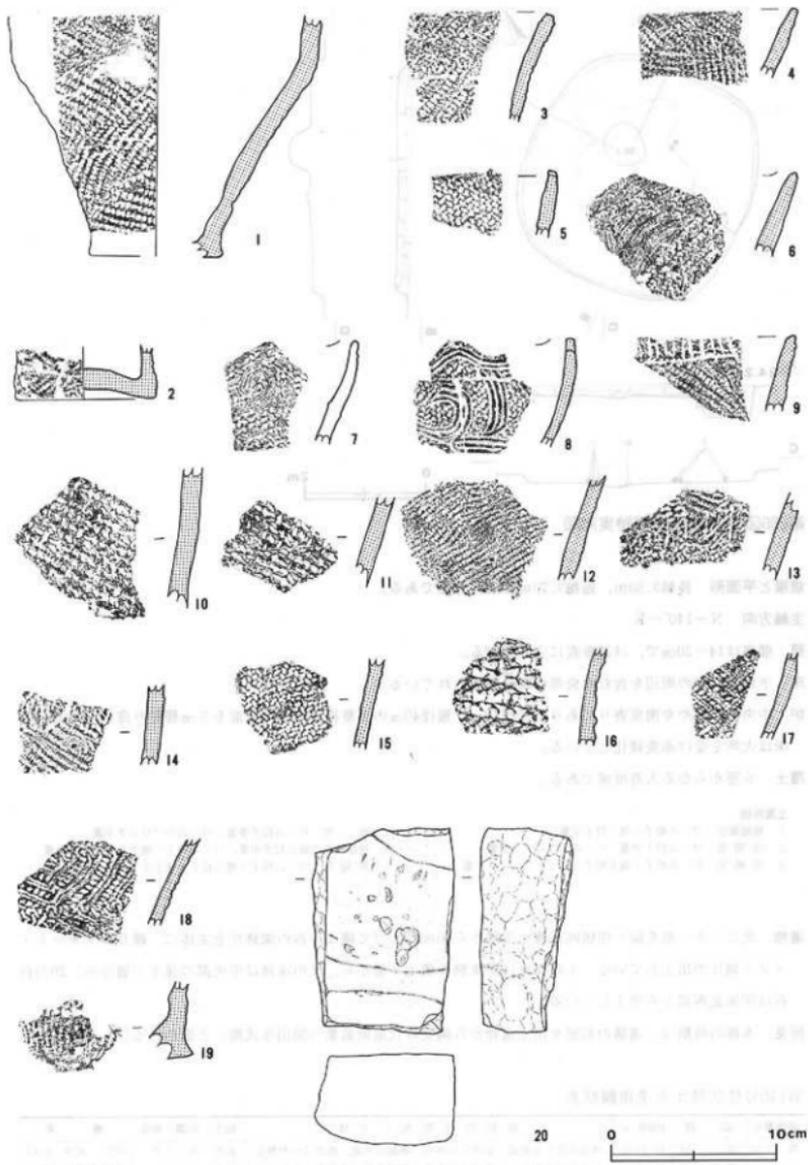
- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 |

遺物 北コーナー部を除く住居跡の覆土下層から床面にかけて縄文土器の深鉢片を主体に，礫及びチャート・メノウ剥片が出土している。1の深鉢は炉東側の覆土下層から，2の深鉢は中央部の覆土下層から，20の台石は炉床北西部から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉（関山Ⅱ式期）と思われる。

第140号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴及び文様	粘土・色調・焼成	備考
第267図	深鉢	B(14.8)	胴部中位から底部にかけての破片。底部は平底。胴部はやや外反して立ち上がり，上位で直立する。胴部全体に単筋RLとLRの横位回転による羽状縄文が施されている。	長石・スコリア 褐色	P711 40% PL85 炉東側覆土下層 縄文土器
1	縄文土器	C(8.0)		普通	



第267图 第140号住居跡出土遺物実測・拓影图

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼功	備考
第267図 2	深鉢 縄文土器	B(3.1) C 8.2	胴部下端から底部にかけての破片。底部は上げ底。胴部下端は単筋R.Lの横位回転による縄文が施されている。	灰石 にぶい黄褐色 普通	P712 10% 中央部覆土下層 縄文土器

第267図3～19は、第140号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。3～9は口縁部片である。3は直前段合燃りの縄文が施され口唇部は内削ぎである。4は単筋R.Lの縄文が施されている。6～8は波状口縁である。5は口唇部に小突起が、6は異状縄文が施されている。7は櫛歯状工具による沈線が施され、胎土に繊維を含まない。8は半截竹管による幾何学文が施されている。9は縦位の沈線が施されている。10～18は胴部片である。10～14は単筋縄文が、15は組紐による縄文が、16はループ文が、17・18は直前段合燃りの縄文が施されている。19は底部片で、単筋縄文が施されている。

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第267図20	台	石	12.5	8.7	5.7	958.6	凝灰岩	伊床西北部	Q88

第141号住居跡（第268図）

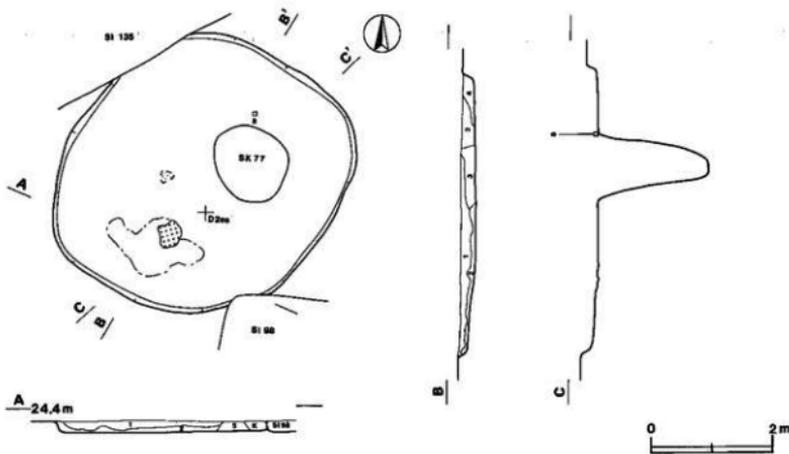
位置 調査区中央部、D2f区。

重複関係 本跡は南東側の壁を第98号住居跡に、北西側の壁を第135号住居跡に、東部の床面を第77号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

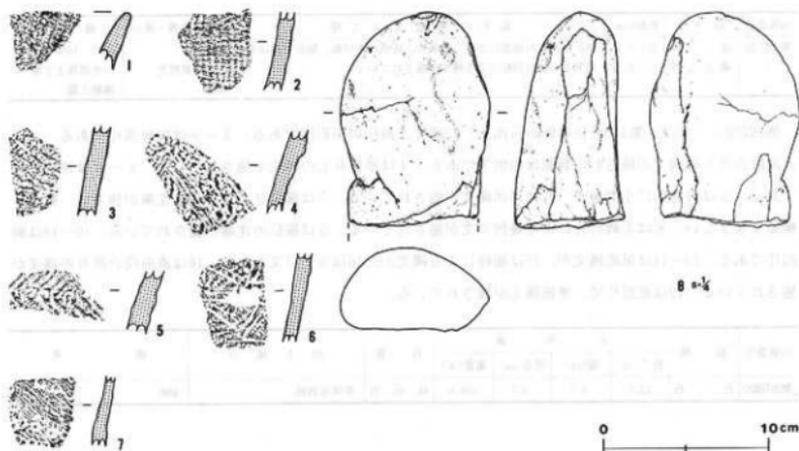
規模と平面形 長軸4.62m、短軸4.28mの隅丸方形である。

主軸方向 N-147°-W

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。



第268図 第141号住居跡実測図



第269回 第141号住居跡出土遺物実例・拓影図

床 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部からやや南西寄りになり、長径45cm、短径40cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物 住居跡全体の覆土下層から床面にかけて縄文土器の深鉢片を主体に石器等も少量出土している。8の炉石は炉床の北端部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

第269図1～7は、第141号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、単節R Lの縄文が施され、外面に煤が付着している。2～3は胴部片である。2・3は単節R Lの縄文が、4は半截竹管による幾何学文が、5は羽状縄文が、6は半截竹管による斜格子文が、7は円形竹管文が施されている。

第141号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第269図8	炉石	(17.5)	(12.0)	8.9	2255.9	凝灰岩	炉床北端部	091

第142号住居跡 (第270図)

位置 調査区中央部, D3e区。

規模と平面形 長軸4.90m, 短軸4.86mの方形である。

主軸方向 N-47°-E

壁 壁高は52~60cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており, 上幅5~12cm, 深さ5~15cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 全体に踏み固められ, 特に炉の周辺から出入り口部にかけては強固である。南東壁下中央部から南コーナーにかけての硬化面は1m四方の範囲が一段高くなっている。南東壁下中央部から住居中央部に向かって延びる溝(a), 南西壁下中央部から住居中央部に向かって延びる溝(b)を確認した。aは長さ105cm, 上幅10cm程, 深さ10cmで, 断面形はU字状である。bは長さ100cm, 上幅15cm程, 深さ15cmで, 断面形はU字状である。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径15cm程の円形, 深さは30~50cmで, いずれも支柱穴, P₅は径25cmの円形, 深さは28cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から北東寄りにあり, 長径65cm, 短径50cmの不定形で, 床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径30cm, 短径25cmの楕円形で, 深さは48cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 産暗褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・ローム小ブロック少量 3 褐色 黒色土粒子多量, ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量, ローム大ブロック少量 4 褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・炭化物少量

2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量, 焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化物・炭化材少量

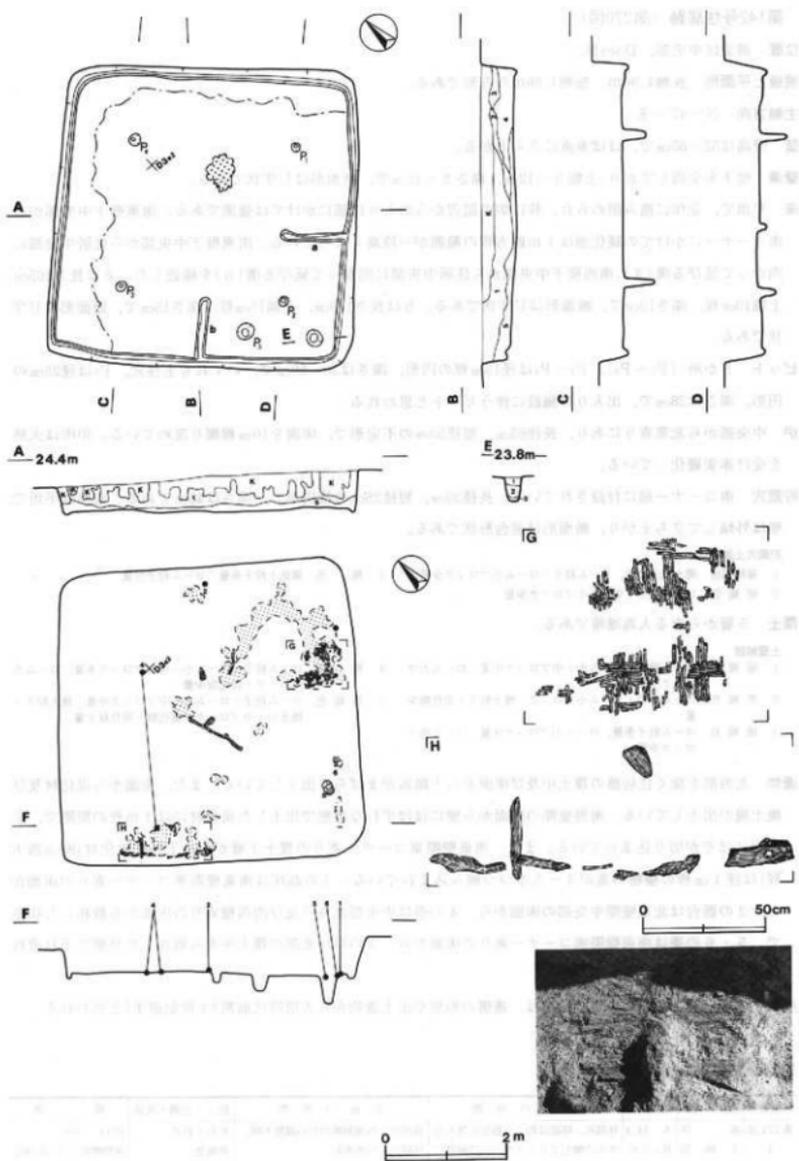
3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

遺物 北西部を除く住居跡の覆土中及び床面から土師器がまばらに出土している。また, 床面から炭化材及び焼土塊が出土している。南西壁際の床面から壁にはほぼ平行な状態で出土した炭化材には1m程の間隔で, 2か所にはぞが切り込まれている。また, 南東壁際東コーナー寄りの覆土下層から出土した炭化材(80cm四方程)は径1cm程の植物の莖が4~5本づつ纏み込まれている。1の高坏は南東壁際東コーナー寄りの床面から, 2の器台は北東壁際中央部の床面から, 4の壺は中央部北寄り及び南西壁寄りの床面から散在した状態で, 5・6の甕は南東壁際南コーナー寄りの床面から, 3の埴は北部の覆土中から散在した状態でそれぞれ出土している。

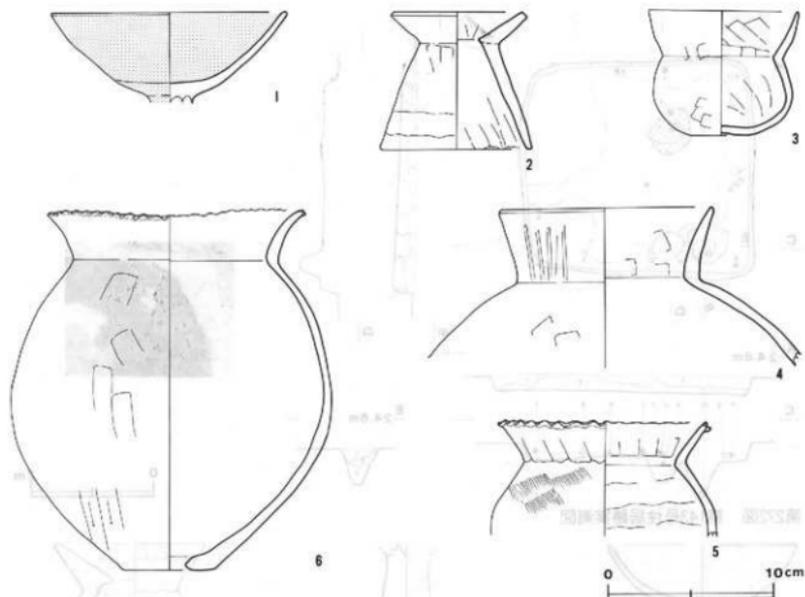
所見 本跡は焼失家屋である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第142号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	高土師器	A 14.4 B (5.6)	坏部片。坏部は均一な壁厚を保ちながら内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面制輪のため調整不明。 坏部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P713 50% 南東壁際東コーナー寄り内面 二次焼成, 体部外面漆付着



第270图 第142号住居跡実測・遺物出土位置图



第271図 第142号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	寸値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図	土師器	A 8.3	舞部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外側ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、胴部内・外面ナデ。舞部外面に輪襷み痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P714 100% PL85 北東腹際中央部床面 二次焼成
		B 8.4				
		D 9.1				
		E 6.4				
3	土師器	A 9.1	中央が凹凸平底。体部は扁平な球状で、口縁部は内側凹味に立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面ヘラナデ。	長石・石英 赤褐色 普通	P715 90% PL85 覆土中に散在
		B 7.6				
		C 3.8				
4	土師器	A 13.0	口縁部片。口縁部は胴部から僅かに外反する。	口縁部外面腹位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P716 20% 南東腹際コーナー寄り 中央部北寄り床面に散在
		B (9.7)				
5	土師器	A 12.9	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・石英 暗褐色 普通	P717 20% 南東腹際コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面横ナデ
		B (7.1)				
6	土師器	A 15.6	平底。体部は球状で最大径を中央にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。底部穿孔。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り横ナデ。	長石・石英 灰褐色 普通	P718 70% PL85 南東腹際コーナー寄り床面 二次焼成、体部外面横ナデ
		B 21.9				
		C 5.5				

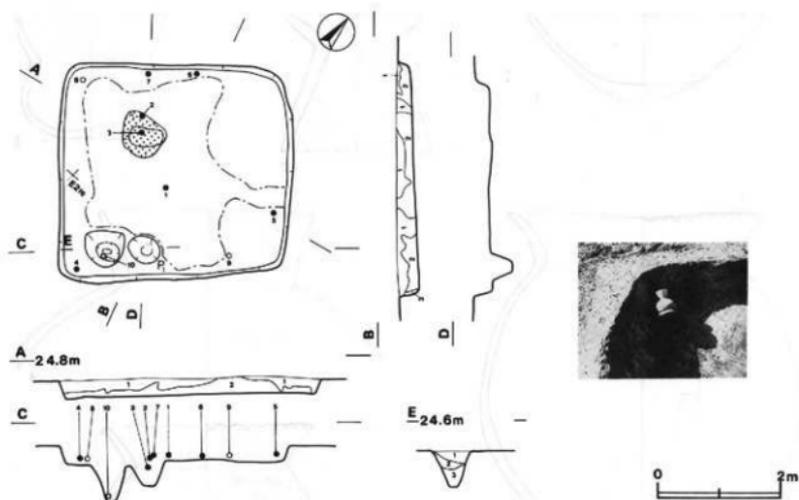
第143号住居跡 (第272図)

位置 調査区南西部, E2e区。

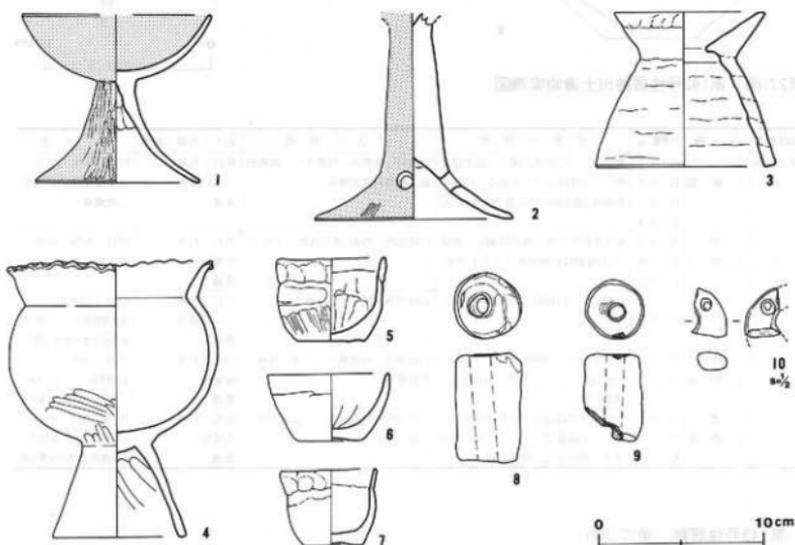
規模と平面形 長軸3.78m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は21-30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第272图 第143号住居跡実測図



第273图 第143号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、全体に踏み固められ、特に炉の周辺から出入り口部にかけては強固である。

ピット P₁は径45cm程の円形、深さは38cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から西寄りにあり、長径75cm、短径70cmの不定形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、南東部に土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径68cm、短径58cmの楕円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 北コーナー部を除く住居跡の覆土中層から床面にかけて土師器がまばらに出土している。3の器台及び2の高坏は炉床の中央部と北西部から、1の高坏は中央部、4の台付甕は南コーナー部のいずれも覆土下層から、3点のミニチュア土器はそれぞれ5が北東壁際東コーナー寄りの覆土中層から、6・7が北西壁際中央部の覆土下層から並んだ状態で出土している。また、炉床南東部からは土製炉石が炉の長径に対してほぼ直交した状態で出土していたが、損傷が激しく取り上げることは不可能であった。

所見 炉床から土製炉石と近接して被熱した器台が出土しており、炉の使用を考えるための好資料となろう。

本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	高土師器 坏	A [11.4]	脚部はラッパ状に開く。坏部は均一な器壁を保ちながら内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	坏部内・外面、脚部外面へラ磨き。 坏部内・外面、脚部外面赤影。	長石・石英 赤褐色 普通	P720 60% PL86 中央部覆土下層
		B 10.3				
		D 10.0				
		E 6.2				
2	高土師器 坏	B (11.9)	坏部欠損。脚部は中実柱状。裾部は外方向に大きく開く。脚部と裾部の境に3孔を穿つ。	脚部、裾部外面へラ磨き。脚部外面赤影。	長石・石英 赤褐色 普通	P721 50% 炉床北西部覆土下層 二次焼成
		D 12.0				
3	器台 土師器	A 9.3	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。 縁部外面磨き。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部、脚部内・外面ナデ。器受部外面、脚部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P719 100% PL86 炉床中央部覆土中層 二次焼成
		B 9.5				
		D 11.0				
		E 6.6				
4	台付甕 土師器	A 12.4	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。液状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨きナデ。台部内・外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P722 90% PL85 南コーナー部覆土下層 二次焼成。体部外面煤付着
		B 16.8				
		D 8.0				
		E 5.6				
5	ミニチュア土師器 土師器	A 6.5	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内面に輪積み痕、外面に輪積み痕及び指痕正痕が残る。	長石・石英 黒褐色 普通	P723 90% PL85 北東壁際東コーナー寄り覆土中層
		B 5.1				
		C 4.2				
6	ミニチュア土師器 土師器	A 7.4	中央が凹む平底。体部は器壁を減じながら内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面ナデ。	長石・石英 にぶい黄色 普通	P724 100% PL85 北西壁際中央部覆土下層
		B 4.2				
		C 3.9				
7	ミニチュア土師器 土師器	A 6.0	中央が凹む平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	体部内・外面ナデ。口縁部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英 黒色 普通	P725 100% PL85 北西壁際中央部覆土下層
		B 4.6				
		C 3.5				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第273図8	管状土錘	6.7	4.0	—	1.3	116.7	西コーナー部覆土下層
9	管状土錘	5.3	3.6	—	1.1	(61.2)	東コーナー付近覆土下層

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第273図10	勾玉	(2.0)	(1.4)	0.7	2.2	滑石	貯蔵穴覆土下層	

第144号住居跡(第274図)

位置 調査区南西部, E2gs区。

重複関係 本跡は北部を第77号住居跡に, 東部を第131号住居跡に, 西部を第78号住居跡にそれぞれ掘り込まれており, 本跡が最も古い。

規模と平面形 南コーナー部の一部を確認したが, 重複のため正確な規模や平面形については不明である。

主軸方向 (N-65°-W)

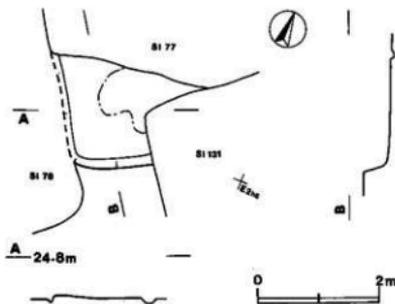
壁 壁高は40cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 硬化した床面の一部を確認した。

覆土 堆積状況は不明である。

遺物 覆土中から土師器の細片が極少量出土している。

所見 本跡は重複が激しく遺物も細片のため詳細な時期は不明であるが, 古墳時代前期の第77・78・131号住居跡より古い時期と思われる。



第274図 第144号住居跡実測図

第145号住居跡(第275図)

位置 調査区南西部, E2hs区。

重複関係 本跡は北部が第79号住居跡を掘り込み, 東部を第149号住居跡に掘り込まれていることから, 第79号住居跡より新しく, 第149号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.62mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

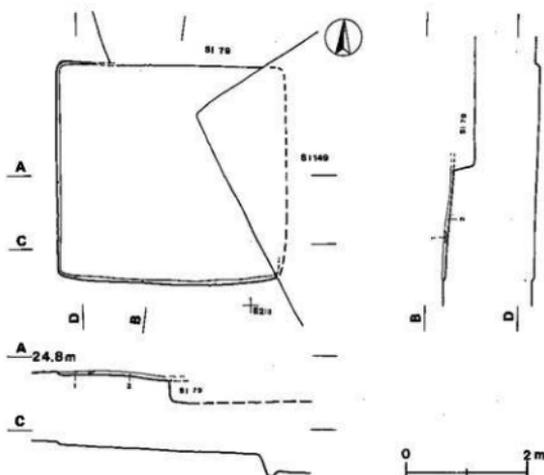
壁 壁高は5cm程を確認した。

床 平坦であるが, 全体的に軟らかい。

覆土 2層からなるが, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量



第275図 第145号住居跡実測図

遺物 床面から土師器の壺片が少量出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第146号住居跡（第276図）

位置 調査区中央部，D3f区。

重複関係 本跡は北東部を第3号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.90m，短軸6.60mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は60cm程で，ほぼ垂直に立ち上がる。

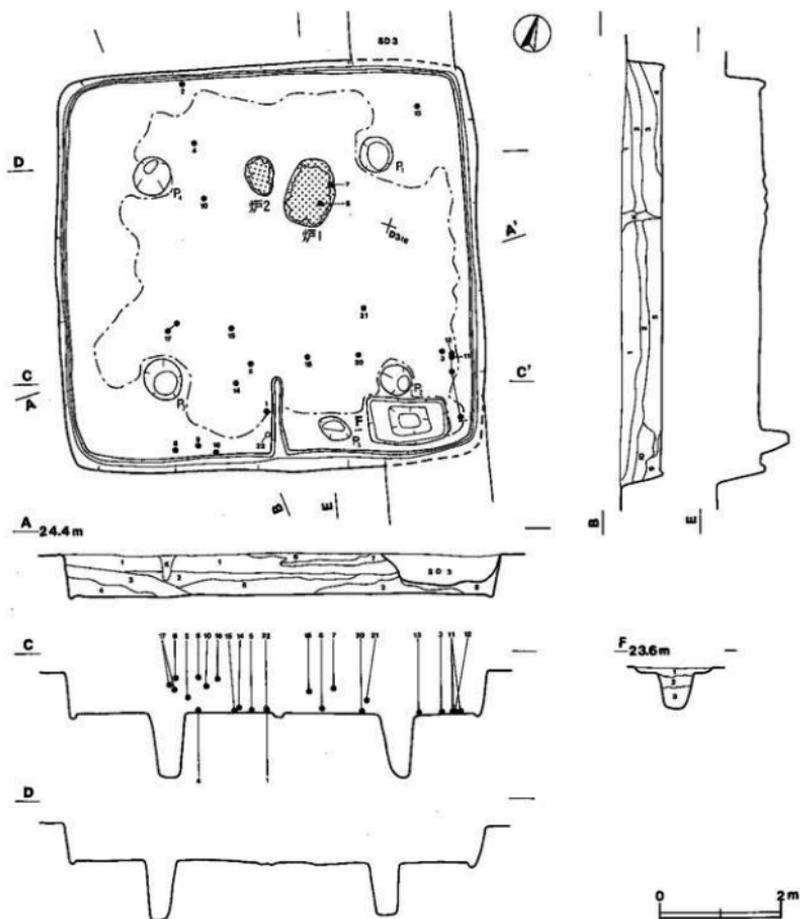
壁溝 壁下を全周しており，上幅5-12cm，深さ7cm程で，断面形はU字状である。

床 全体に平坦で，強く踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。上幅15-20cm，深さ15cm程で，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は長径50-60cm，短径22-55cmの楕円形，深さ85-95cmで，いずれも主柱穴，P₅は長径55cm，短径35cmの楕円形，深さ45cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から北寄りであり，長径110cm，短径80cmの楕円形で，床面を10cm程掘り窪めている。炉2は炉1の西側にあり，長径65cm，短径45cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー部の南東壁側に付設されている。長軸130cm，短軸75cmの隅丸長方形で，深さは72cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，断面形は逆台形状である。



第276図 第146号住居跡実測図

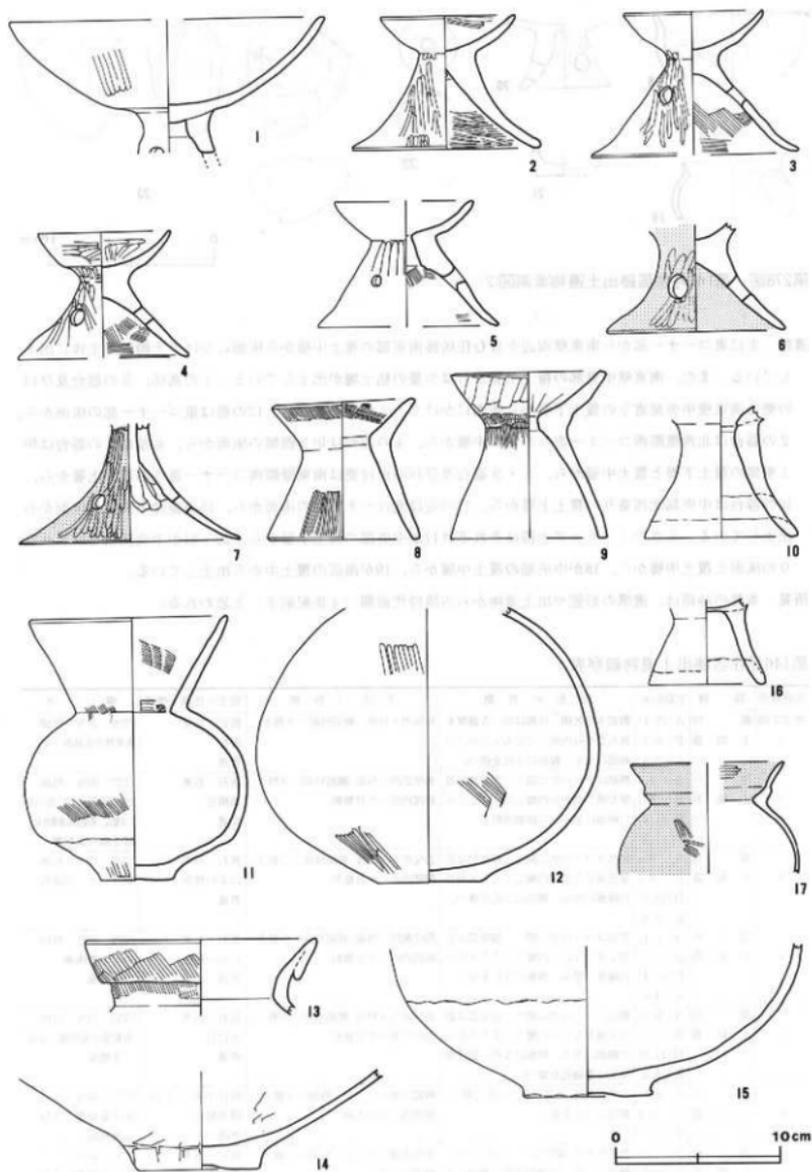
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 | |

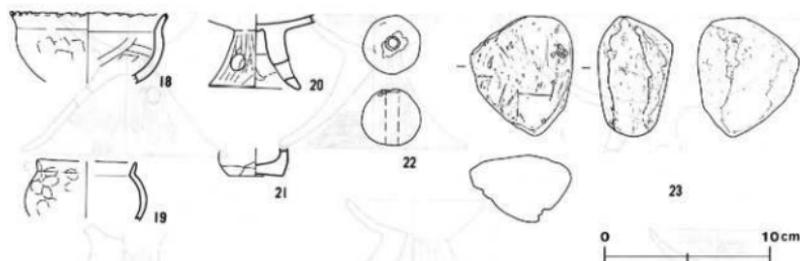
覆土 10層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 6 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・黒色土粒子多量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 9 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量 |
| 5 極暗褐色 ローム粒子多量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |



第277图 第146号住居跡出土遺物実測図(1)



第278図 第146号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 主に東コーナ一部から南東壁周辺を含む住居跡南東部の覆土中層から床面にかけて土師器を主体に出土している。また、南東壁中央部の覆土下層からは少量の粘土塊が出土している。1の高坏, 5の器台及び14の甕は南東壁中央部寄りの覆土下層から床面にかけて, 3の器台及び11・12の壺は東コーナ部の床面から, 2の器台は北西壁際西コーナ寄りの覆土中層から, 4の器台は炉2西側の床面から, 6及び7の器台は炉1東側の覆土下層と覆土中層から, 8・9器台及び16の台付甕は南東壁際南コーナ寄りの覆土上層から, 10の器台は中央部北西寄りの覆土上層から, 13の壺は北コーナ部の床面から, 15の甕は中央部の床面から出土している。5点のミニチュア土器はそれぞれ17が中央部の覆土上層から, 20・21が中央部東コーナ寄りの床面と覆土中層から, 18が中央部の覆土中層から, 19が南部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第146号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第277図 1	高坏 土師器	A(19.1) B(8.1) E(2.6)	脚部下位欠損。坏部は均一な器厚を保ちながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	坏部内・外面、脚部外面へラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P726 20% PL86 南東壁中央部寄り床面
2	器台 土師器	A 8.2 B 8.1 D 11.4 E 5.9	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり口縁部に至る。口縁部外削ぎ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。 脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 赤褐色 普通	P727 80% PL86 北西壁際西コーナ寄り覆土中層 二次焼成。器受部外削ぎ付、器受部内面削ぎ。
3	器台 土師器	A 8.5 B 8.7 D(12.5) E 5.8	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。 脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P728 70% PL86 東コーナ一部床面
4	器台 土師器	A 8.1 B 7.7 D(10.4) E 4.6	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり口縁部に至る。脚部に3孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。 脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P729 80% PL86 炉2西側床面 二次焼成。
5	器台 土師器	A(8.5) B 7.7 D(11.0) E 5.5	脚部はラッパ状に開く。器受部は器厚を減じながら内彎して立ち上がり口縁部に至る。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面、脚部外面へラ磨き。 脚部内面ハケ目整形。	長石・石英 灰白色 普通	P730 70% PL86 南東壁中央部寄り床面 二次焼成。
6	器台 土師器	B(6.5) D 10.8 E 5.0	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部内面へラナテ、外面へラ磨き。 脚部内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 暗赤褐色 普通	P731 50% 炉1東側覆土下層 二次焼成。
7	器台 土師器	B(7.2) D 13.4 E 6.9	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部内面へラナテ、外面へラ磨き。 脚部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P732 40% 炉1東側覆土中層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	絵土・色調・焼成	備 考
第 277 図 8	器 台 土 師 器	A 8.8	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内・外面ハケ目整形。外面ナデ。外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英にぶい灰色普通	P733 90% PL86 南西壁部中央部葺り土層二次焼成
		B 8.7				
		D 9.3				
		E 5.9				
9	器 台 土 師 器	A 9.4	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は逆「ハ」の字状に立ち上がる。口縁部外削ぎ。器受部中央に貫通孔を穿つ。	器受部内面ヘラナデ。外面斜位のヘラナデ。脚部外面ハケ目整形。	長石・石英にぶい灰色普通	P734 70% PL85 南西壁部中央部葺り土層二次焼成
		B 10.1				
		D (9.5)				
		E 6.8				
10	器 台 土 師 器	B (8.0)	器受部中位から欠損。脚部はフツバ状に開く。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面ナデ。脚部内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英にぶい灰色普通	P735 50% 中央部北西葺り土層
		D 9.3				
		E 7.0				
11	壺 土 師 器	A 12.2	突出した平底。体部はやや偏平な球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面、体部外面ハケ目整形後ナデ。体部外面下位に輪轆み痕が残る。	長石・石英・スクリアにぶい灰色普通	P736 90% PL86 東コーナー部床面
		B 16.1				
		C 4.4				
12	壺 土 師 器	B (16.7)	口縁部欠損。平底。体部はやや偏平な球状で最大径を下位にもつ。	体部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英にぶい灰色普通	P737 40% 東コーナー部床面
		C 6.2				
13	壺 土 師 器	A 14.0	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内面横位・外面斜位のハケ目整形。頸部外面斜位のハケ目整形。	長石・石英にぶい灰色普通	P738 10% 北コーナー部床面
		B (4.6)				
14	甕 土 師 器	B (6.0)	体部下位から底部にかけての破片。突出した平底で中央がやや凹む。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英にぶい黒褐色普通	P739 10% 南東壁中央部葺り土層二次焼成。体部内面削ぎ
		C 7.3				
15	甕 土 師 器	B (9.2)	体部下位から底部にかけての破片。突出した平底で中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英褐色普通	P740 20% 中央部床面二次焼成。体部外面削ぎ
		C 7.9				
16	台 付 甕 土 師 器	B (5.3)	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部内・外面ナデ。台部内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P741 20% 南西壁部中央部葺り土層
		D 7.2				
		E 4.1				
17	ミニチュア土師器	A (9.3)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は屈曲して外反する。	口縁部内・外面、体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英赤色普通	P742 20% 中央部葺り土層
		B 6.6				
第 278 図 18	ミニチュア土師器	A 9.6	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は僅かに外傾する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい灰色普通	P743 30% PL87 中央部葺り土層
		B (4.3)				
19	ミニチュア土師器	A (6.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。体部外面に指痕圧痕が残る。	長石・石英黒褐色普通	P744 30% 南西壁土中
		B (3.5)				
20	ミニチュア土師器	B (4.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英明赤褐色普通	P745 40% 中央部葺り土層
		D 5.6				
		E 3.5				
21	ミニチュア土師器	B (1.7)	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。	長石・石英にぶい灰色普通	P746 60% 中央部葺り土層
		C 3.3				

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第278図B2	土 玉	(3.4)	3.5	-	0.8	35.2	南西壁部中央部葺り土層	DP199

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第278図B3	砥 石	7.2	6.2	4.5	35.7	軽 石	西部葺り土中	Q93

第147号住居跡 (第279図)

位置 調査区中央部, D313区。

規模と平面形 南西部が調査区外に延びて
いるため正確な規模と平面形は不明である。

主軸方向 [N-8°-W]

壁 壁高は17cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

炉 北壁寄りがあるが、南部が調査区外に
延びているため正確な規模や平面形は不
明である。炉床は火熱を受け赤変硬化し
ている。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。

長径48cm、短径38cmの楕円形で、深さは
41cmである。底面は平坦で、壁は外傾し
て立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

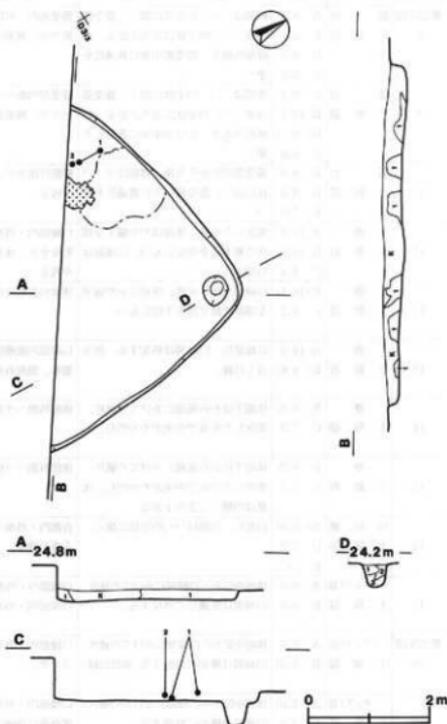
覆土 耕作による攪乱のため1層のみ確認
した。

土層解説

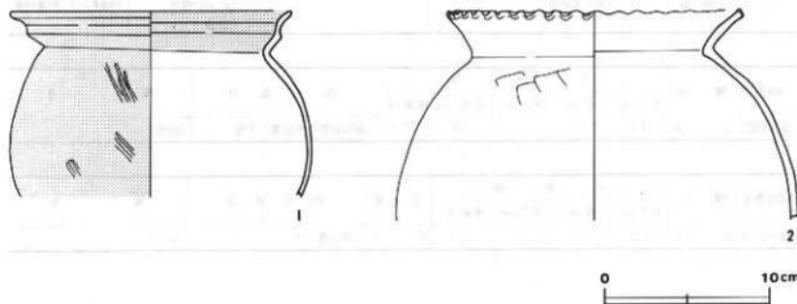
- 1 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭
土粒子・炭化粒子少量

遺物 炉周辺及び東壁寄りの覆土下層から
床面にかけて土師器の破片を主体に少量
出土している。1・2の壺は炉北西側の
覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第279図 第147号住居跡実測図



第280図 第147号住居跡出土遺物実測図

第147号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	前測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第280図 1	甕 土 甕 部	A 17.0 B (11.3)	体部は球状で最大径を中位にもつ。 口縁部は頸部から屈曲して外反する。	口縁部内・外面ナア, 体部外面へラ磨き。 口縁部内・外面, 体部外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P747 40% PL86 伊北西側覆土下層
2	甕 土 甕 部	A 18.1 B (12.9)	体部中位から口縁部にかけての破片 口縁部は頸部から外反する。底状口 縁。	口縁部内・外面横ナア, 体部外面へ ラ磨り後ナア。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P748 30% 伊北西側覆土下層 二次焼成, 体部外面赤彩着

第148号住居跡 (第281図)

位置 調査区南西部, E2b区。

重複関係 本跡は西コーナー部を第80号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.20m, 短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-44'-W

壁 壁高は32cm程で, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 重複部を除いて全周しており, 上幅5~12cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 全体に平坦で, 強く踏み固められている。南西壁下のP₁とP₂の間は幅1.00m程, 長さ4.50m程の範囲で, 硬化面が一段高くなっている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。上幅10cm程, 深さ10cm程で, 断面形はU字状である。

ピット 4か所 (P₁-P₄)。P₁-P₃は長径45~55cm, 短径40~50cmの楕円形, 深さ52~62cmで, いずれも主柱穴 (本来は4本主柱穴と思われるが, 北部が攪乱を受けており, 1か所確認できなかった。), P₄は径25cm程の円形, 深さ34cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径140cm, 短径55cmの長楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で, 深さは100cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム小・中ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | | |

覆土 13層からなる人為堆積である。

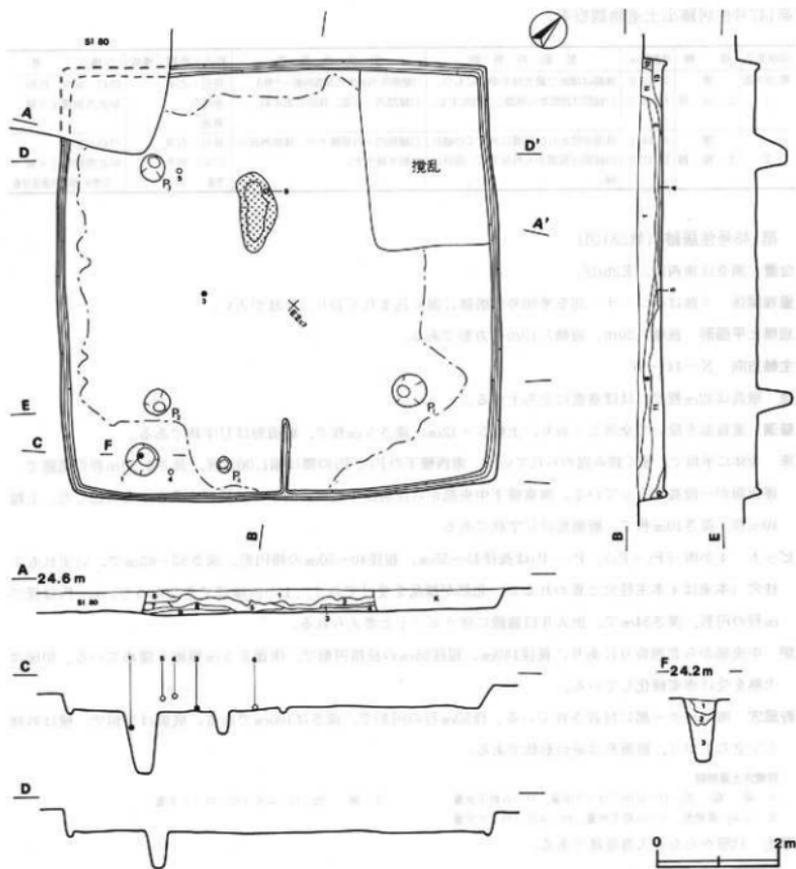
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 9 黒暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小・大ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子・黒色土粒子中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | | |

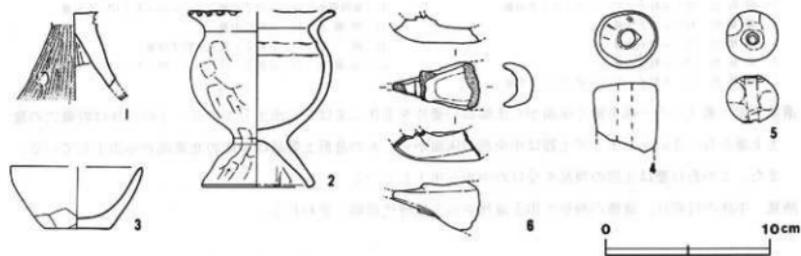
遺物 北・東コーナー部を除く床面から土師器の甕片を主体にまばらに出土している。1の高坏は貯蔵穴の覆土上層から, 3のミニチュア土器は中央部の床面から, 6の舟形土製品は炉床の北東部から出土している。

また, 2の台付甕は北部の攪乱を受けた中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第281图 第148号住居跡实测图



第282图 第148号住居跡出土遺物实测图

第148号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	高土師器	B(5.4)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面縦位のへら磨き。脚部外面赤彫。	長石・石英 赤色 普通	P749 20% 貯蔵穴覆土層
2	白付土師器	A 8.9 B 10.8 D 6.8 E 3.0	白部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P750 90% PL87 北部覆土層中
3	ミナチュア土師器	A(8.0) B 3.8 C 4.0	平底。体部は器厚を減しながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P751 80% 中央部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第282図4	管状土鉢	4.2	3.9	-	1.0	(53.3)	南東壁際南コーナー寄り覆土層	DF200 PL99
5	土玉	2.9	3.1	-	0.7	26.1	西コーナー寄り覆土層	DF201
6	奇形土製品	(5.3)	2.9	(1.9)	-	(16.3)	炉床 北東部	DF202 PL99

第149号住居跡 (第283図)

位置 調査区南西部, E2h3区。

重複関係 本跡は北西部が第79・145号住居跡を掘り込み、北東部を第78号住居跡に掘り込まれていることから、第79・145号住居跡より新しく、第78号住居跡より古い。
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺5.30m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は46cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

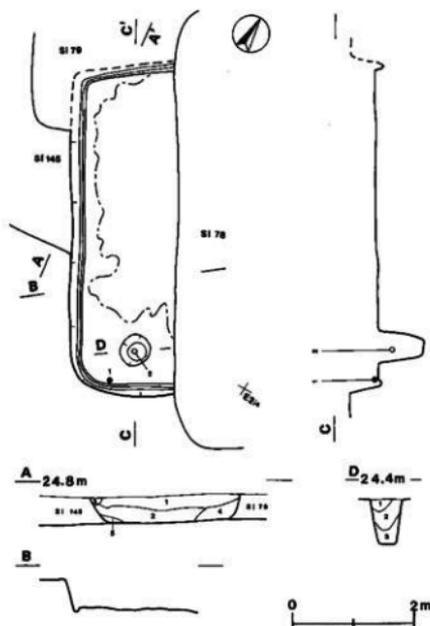
壁溝 南東壁下、南西壁下及び北西壁下に確認した。上幅10cm程、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 全体に平坦で、踏み固められている。

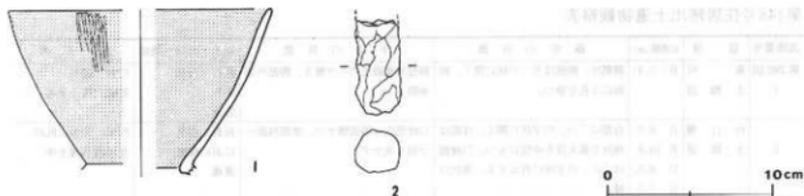
貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは76cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



第283図 第149号住居跡実測図



第284図 第149号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解読

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 貯蔵穴を含む南コーナー部の床面から土師器片及び土製品が少量出土している。1の埴は南コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土物から古墳時代前期と思われる。

第149号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第284図 1	埴 土師器	A(16.0) B(10.2)	口縁部片。口縁部は胴部から内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面部位のヘタ磨き。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P752 20% 南コーナー部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第284図2	不明土製品	(5.9)	2.9	2.6	—	(47.1)	貯蔵穴覆土上層 DP203 PL103

第150号住居跡 (第285図)

位置 調査区西端部, E2f1区。

重複関係 本跡は北西部を第73号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸(径)4.90m程の隅丸方形が楕円形と推定される。

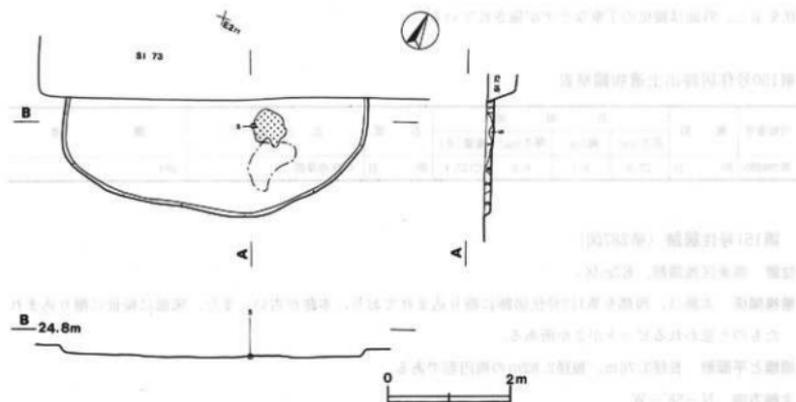
主軸方向 [N-72°-E]

壁 壁高は13cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

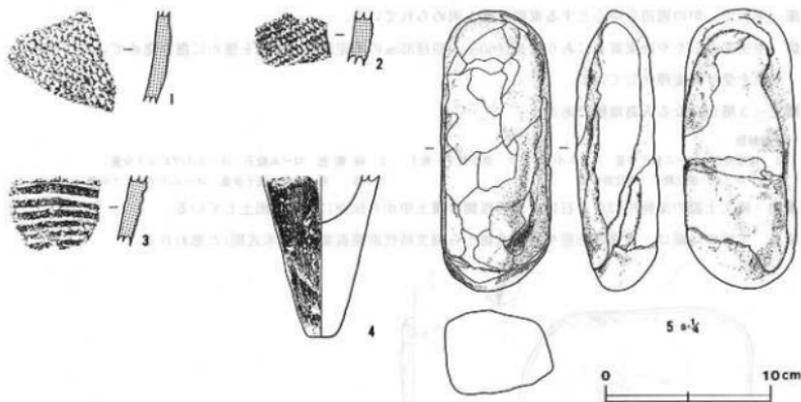
床 全体に平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 中央部から東寄りにあり、長径60cm、短径50cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。火床は火熱を受け赤変硬化しており、西端部には炉石が付設されている。

覆土 5層からなる人為堆積である。



第285図 第150号住居跡実測図



第286号 第150号住居跡出土遺物実測・拓影図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量、焼土粒子微量

遺物 炉を中心とする床面から縄文土器の深鉢片4点、鏝3点、チャート切片2点及び流れ込みと思われる縄文土器片3、4が出土している。また、炉床の西端部からは5の炉石が炉の長径に対しほぼ直交した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。

第286図1～4は、第150号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は胴部片で、1は単筋R L、2は単筋L Rの縄文が、3は横位の沈線がそれぞれ施されている。4は無文の尖底部片で、「天狗の鼻」

状を呈し、外面は假位の丁寧なナデが施されている。

第150号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計 画 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第288図5	炉 石	22.9	9.1	6.9	2133.1	砂 岩	炉床西端部	094

第151号住居跡 (第287図)

位置 調査区西端部, E2g1区。

重複関係 本跡は、西部を第112号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。また、床面に後世に掘り込まれたものと思われるピットが3か所ある。

規模と平面形 長径3.76m, 短径2.62mの楕円形である。

主軸方向 N-58°-W

壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、炉の周辺を中心とする東部が踏み固められている。

炉 中央部からやや南東寄りにあり、長径60cm, 短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

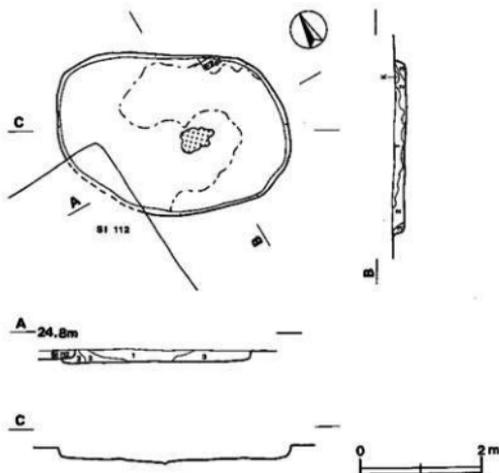
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・焼土 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
小ブロック・炭化粒子・炭化物少量 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

遺物 縄文土器の深鉢片42点, 石12点が炉西側の覆土中から床面にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。



第287図 第151号住居跡実測図



第288図 第151号住居跡出土遺物拓影図

第288図1～3は、第151号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、棒状工具によるキザミ目が2段に施されている。2・3は胴部片で、2はループ文が、3は単筋RLの縄文が施されている。

第152号住居跡 (第289図)

位置 調査区西端部, D2f:区。

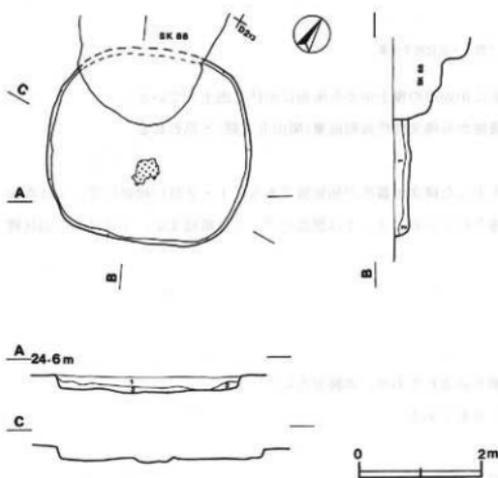
重複関係 本跡は、北西部を第88号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、一辺3.30m程の隅丸方形と推定される。

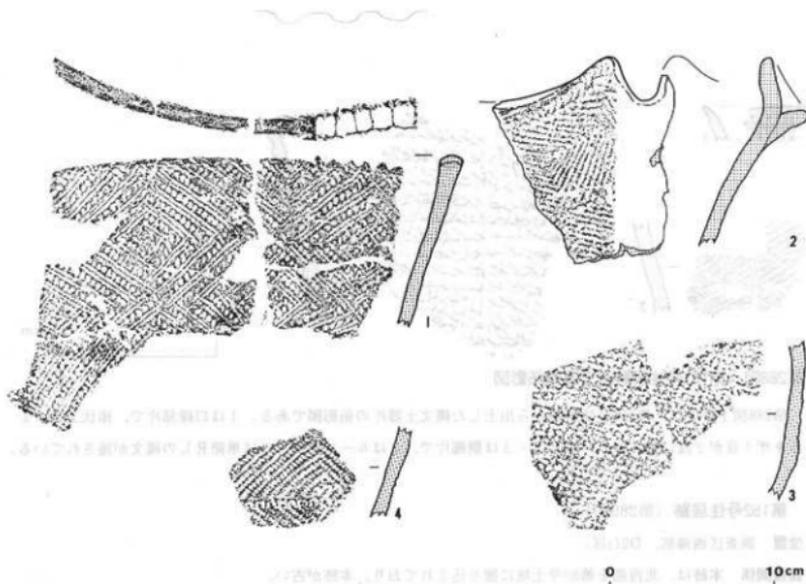
主軸方向 N-22'-W

壁 壁高は12~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。



第289図 第152号住居跡実測図



第290図 第152号住居跡出土遺物拓影図

炉 中央部からやや南東寄りにあり、長径50cm、短径45cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片36点、石14点が主に炉周辺の覆土中から床面にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。

第290図1～4は、第152号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1・2は口縁部片で、1は直前段合捺の縄文が、2は結節の羽状縄文が施されている。3・4は胴部片で、3は組紐文が、4は結節の羽状縄文が施されている。

第153号住居跡 (第291図)

位置 調査区東部、E4e1区。

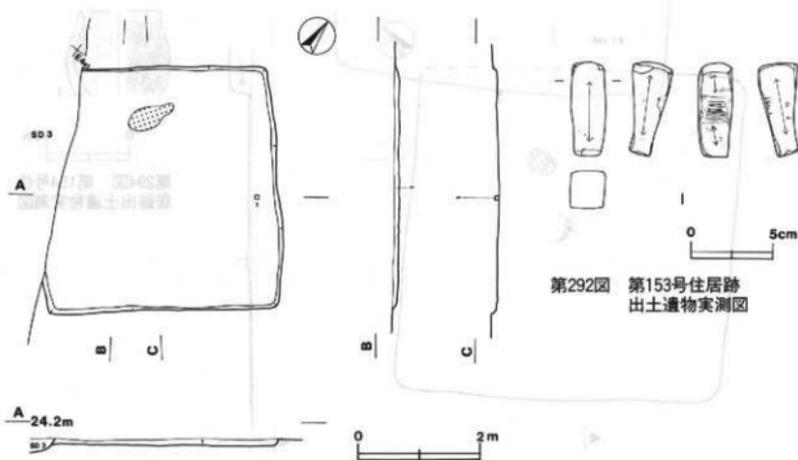
重複関係 本跡は、南西部を第3号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.85mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は7cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。



第291図 第153号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径80cm、短径40cmの不整楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器の欠片が4点出土しているが、いずれも細片である。1の砥石は北東壁際中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第153号住居跡出土遺物観察表

国取番号	種別	計 画 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第292図1	砥石	5.7	2.1	2.5	32.9	凝灰岩	北東壁中央付近床面	496

第154号住居跡 (第293図)

位置 調査区中央部、E3as区。

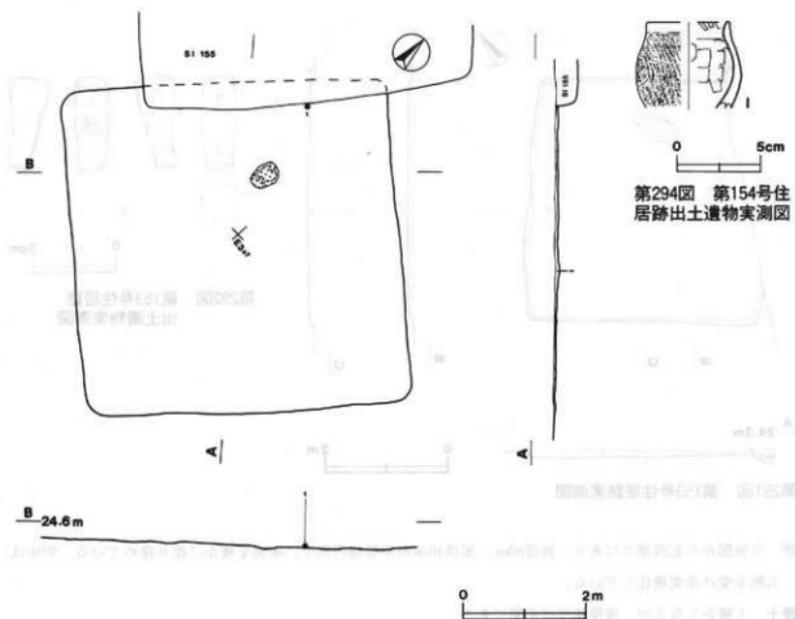
重複関係 本跡は、北西壁を第155号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.40m、短軸5.30mの方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 掘り込みが浅く、4cm程の壁を部分的に確認した。

床 平坦であるが、全体的に軟らかい。



第293図 第154号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径45cm、短径35cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 1層からなるが、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量

遺物 土師器の欠片が5点出土している。1のミニチュア土器は炉北側の床面から散在した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第154号住居跡出土土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第294図 1	ミニチュア土師器	A(5.0) B(5.2)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は頸部からはほぼ直立する。	体部外面縦位のヘラ磨き。体部内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐灰色 普通	P754 60% PL87 炉北側床面

第155号住居跡 (第295図)

位置 調査区中央部, D3i区。

重複関係 本跡は, 南東壁が第154号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。また, 南部が攪乱を受けている。規模と平面形 長軸6.00m, 短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-40°-E

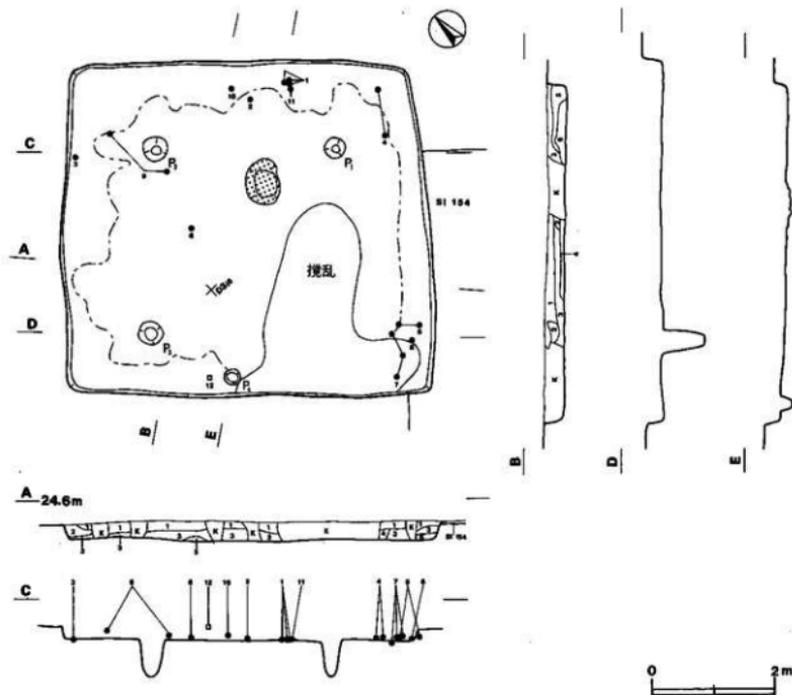
壁 壁高は22~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 全体的に踏み固められている。

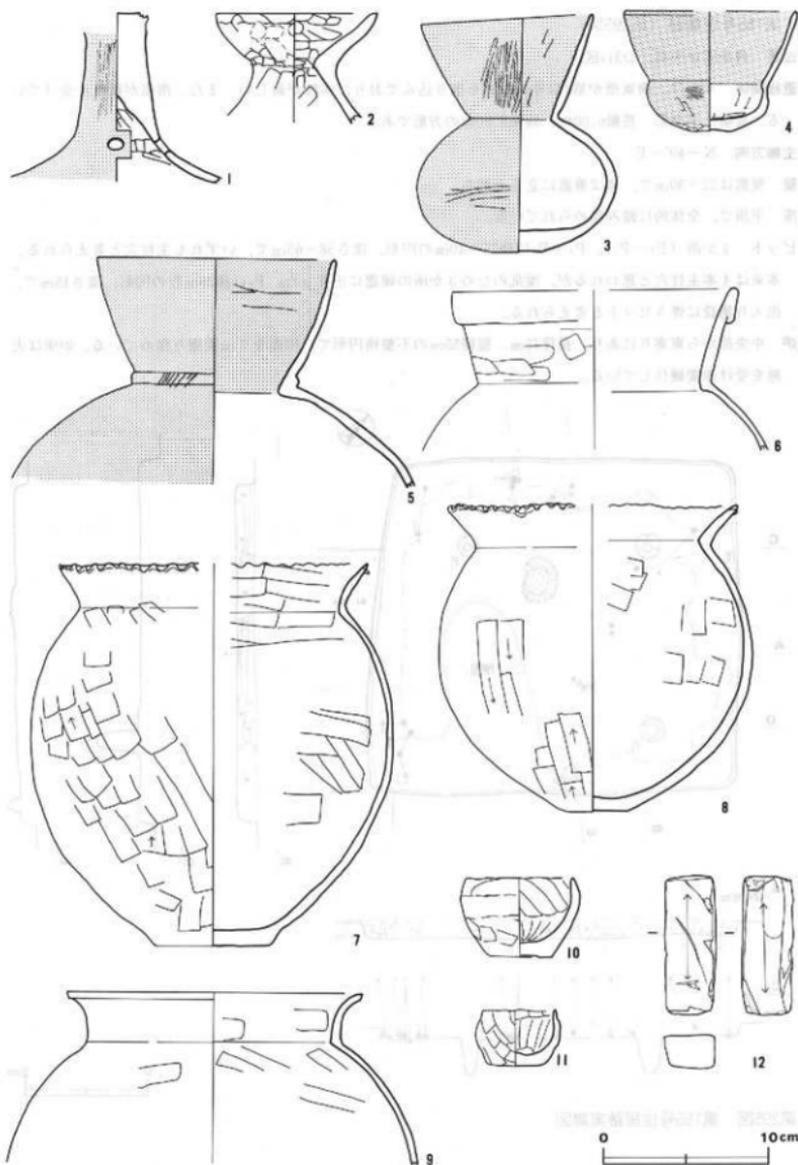
ピット 4か所 (P₁~P₂)。P₁~P₃は径35~40cmの円形, 深さ58~65cmで, いずれも主柱穴と考えられる。

本来は4本主柱穴と思われるが, 攪乱のため3か所の確認に止まった。P₄は径25cm程の円形, 深さ15cmで, 出入り施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から東寄りにあり, 長径75cm, 短径55cmの不整形円形で, 床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第295図 第155号住居跡実測図



第296図 第155号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量	粘土少量
2	黒褐色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量	5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物少量	6 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化	焼土小ブロック少量

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて、土師器及び土師器片が464点出土している。また、南西壁側を除く三方の壁側から焼土塊が出土している。1の高杯、2の器台及び10・11のミニチュア土器は正位で北東壁中央部寄りの覆土下層から床面にかけて、5の壺及び7・8の甕は南コーナー部の床面から、3の罫は北西壁際北コーナー寄りの床面から、4の罫は東コーナー部の床面から散在した状態で、6の壺は中央部の床面から、9の甕は北コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第155号住居跡出土遺物観察表

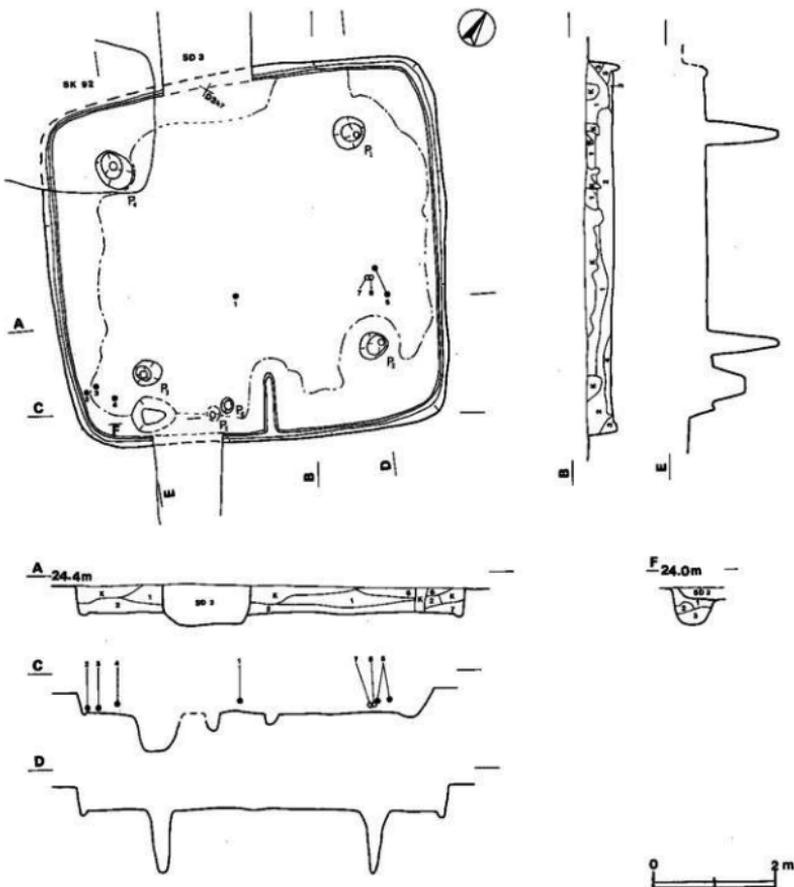
図版番号	器種	計測値(m)	跡形の特征	手法の特徴	絵土・色調・焼成	備考
第296号	高杯	A(12.8)	坏部欠損。罫部はラッパ状に開く。	罫部外面縦位のナダ、内面縦位のヘラナダ。罫部内面横位のヘラナダ。罫部外面赤色。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P755 20% 北東壁付近床面 外面黒付着
1	土師器	B(10.3)	罫部に4孔を穿つ。			
2	器台	A 9.8	罫部欠損。罫部は「ハ」の字状に開く。	罫部外面は縦位のヘラナダ。器受部外面縦位のナダ、内面横位のヘラナダ。器受部内・外面輪縁み立ち有り。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P756 50% PL87 北東壁付近床面
2	土師器	B(6.7)	中央部が強かに凹む平底。体部は、内彎し立ち上がり、口縁部は外横する。			
3	罫	A 10.4	中央部が強かに凹む平底。体部は、内彎し立ち上がり、口縁部は外横する。	口縁部内横ナダ、外面赤色。口縁部内・外面、体部外面赤色。	長石・石英 赤色 普通	P757 90% PL87 北西壁際北コーナー寄り床面
3	土師器	B 14.6	中央部が強かに凹む平底。体部は、内彎し立ち上がり、口縁部は外横する。			
3	土師器	C 3.0				
4	罫	A(10.7)	中央部が強かに凹む平底。体部は内彎し立ち上がり、口縁部は外横する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ヘラ削り後ナダ、内面ヘラナダ。口縁部内・外面、体部外面赤色。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P758 60% 東コーナー部床面
4	土師器	B 7.2				
4	土師器	C 2.3				
5	壺	A 14.5	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。頸部下端に頸帯が貼られ、ヘラ状工具による刻目が施されている。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ナダ、内面ヘラナダ。口縁部内・外面、体部外面赤色。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P759 40% PL87 南コーナー部床面
5	土師器	B(13.8)				
6	壺	A(17.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外横して立ち上がる。新り返し口縁。	口縁部内・外面横ナダ。頸部・体部外面ヘラ削り後ナダ。体部内面ナダ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P760 10% 中央部床面 口縁部外面黒付着
6	土師器	B(9.9)				
7	甕	A(18.7)	体部から口縁部にかけて欠損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。液状口縁。	口縁部内面ヘラ削り後横ナダ。体部外面ヘラ削り後ナダ、内面ヘラナダ。頸部外面に弱いハケ目整形。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P761 50% PL87 南コーナー部床面 外面黒付着 二次焼成
7	土師器	B 23.4				
7	土師器	C 7.0				
8	罫	A(7.6)	体部から口縁部にかけての破損。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。液状口縁。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面縦位のヘラ削り後ナダ、内面横位のヘラナダ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P762 40% PL87 南コーナー部床面 体部外面炭化物付着 体部内面黒痕
8	土師器	B 18.7				
8	土師器	C 3.6				
9	罫	A 18.0	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナダ、内面弱いヘラ削り後横ナダ。体部内・外面ヘラ削り後ナダ、内面ヘラナダ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P763 20% 北コーナー部覆土中層 体部外面炭化物付着
9	土師器	B(10.4)				
10	ミニチュア土師器	A 6.6	中央部が凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	体部外面弱いヘラ削り後ナダ、内面縦位のナダ。体部外面に輪縁み立ち有り。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P764 100% PL87 北東壁付近覆土下層
10	土師器	B 4.9				
10	土師器	C 3.3				
11	ミニチュア土師器	A 4.5	平底。体部は器厚を減じながら内彎気味に立ち上がる。口縁部はほぼ直立する。	体部外面ヘラ削り後ナダ、内面ヘラナダ。内・外面赤彩痕。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P765 100% PL87 北東壁付近床面
11	土師器	B 3.4				
11	土師器	C 3.4				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)			
第298図2	砥石	8.5	3.0	2.1	83.6	凝灰岩	南西壁中央付近土上層	097

第156号住居跡 (第297図)

位置 調査区中央部, D3h7区。

重複関係 本跡は, 南西部の北西壁から南東壁にかけて第3号溝に, 西コーナー部を第92号土坑にそれぞれ掘り込まれており, 本跡が最も古い。



第297図 第156号住居跡実測図

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.15mの方形である。

主軸方向 N-34'-W

壁 壁高は50cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅8~12cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

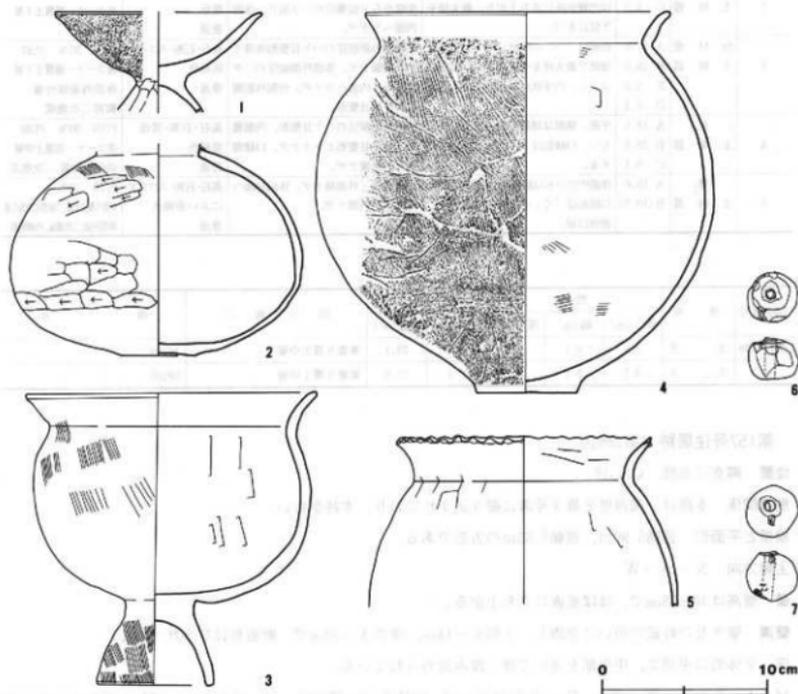
床 平坦で、全体に踏み固められている。北東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝を1条確認した。長さ100cm, 上幅20cm程, 深さ15cmで、断面形はU字状である。

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は長径45~75cm, 短径40~70cmの楕円形, 深さは100~117cmで、いずれも支柱穴と考えられる。P₅・P₆は径20cm程の円形で、深さは18~32cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南東壁際の南コーナー寄りに付設されている。長径70cm, 短径55cmの不整楕円形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | |



第298図 第156号住居跡出土遺物実測図

覆土 7層からなる人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量	5 黒色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子多量	7 黒褐色	焼土粒子多量、ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
4 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量		

遺物 西コーナー部を除く住居跡全体の覆土上層から下層にかけて、土師器片が457点出土している。また、北東壁際の覆土下層から少量の焼土塊が、南東壁際の覆土下層から少量の粘土塊が出土しており、出土状況からいずれも投棄と思われる。1の高坪は横位で中央部から、5の甕は東寄りの覆土上層から、2の壺は正位で、3の台付甕及び4の甕は南コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図	高土師器	A (12.6)	胸部欠損。胸部は「ハ」の字状に開く。	胸部外面ハケ目整形、内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。胸部外面縦位のヘラナデ。	長石・石英・スクリア	P766 30% 中央部覆土上層
		B (6.1)	。胸部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。		普通	
2	壺	B (12.9)	口縁部欠損。僅かに凹む平底。胸部は内彎気味に立ち上がり、最大径を下位にもつ。	胸部外面上位ハケ目整形後ヘラ削り、中位から下位横位のヘラ削り。胸部内面ヘラナデ。	長石・石英・スクリア	P767 70% 南コーナー部覆土下層
		C 4.5			普通	
3	台付土師器	A 17.8	台部は「ハ」の字状に開く。胸部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部外面縦位のハケ目整形後横ナデ、内面ナデ。胸部外面縦位のハケ目整形、内面ヘラナデ。台部外面縦位のハケ目整形。	長石・石英・スクリア	P768 95% PL87 南コーナー部覆土下層 胸部外面保付着 胸部二次焼成
		B 18.0			灰褐色	
		E 5.2			普通	
		D 7.1				
4	土師器	A 18.5	平底。胸部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	胸部外面縦位のハケ目整形、内面僅かにハケ目整形とヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母	P769 90% PL88 南コーナー部覆土中層 炭化物付着、二次焼成
		B 23.3			黒褐色	
		C 6.1			普通	
5	土師器	A 15.6	胸部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。胸部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スクリア にぶい赤褐色	P770 10% 東寄り覆土上層、口縁部保付着 胸部第二次焼成、外面縦位
		B (10.5)			普通	

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第298図6	土玉	2.9	3.1	2.1	0.6	23.1	東寄り覆土中層	DP204
7	土玉	3.1	3.1	3.1	0.6	25.6	東寄り覆土中層	DP205

第157号住居跡 (第299図)

位置 調査区北部、C314区。

重複関係 本跡は、南西壁第3号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.90m、短軸5.65mの方形である。

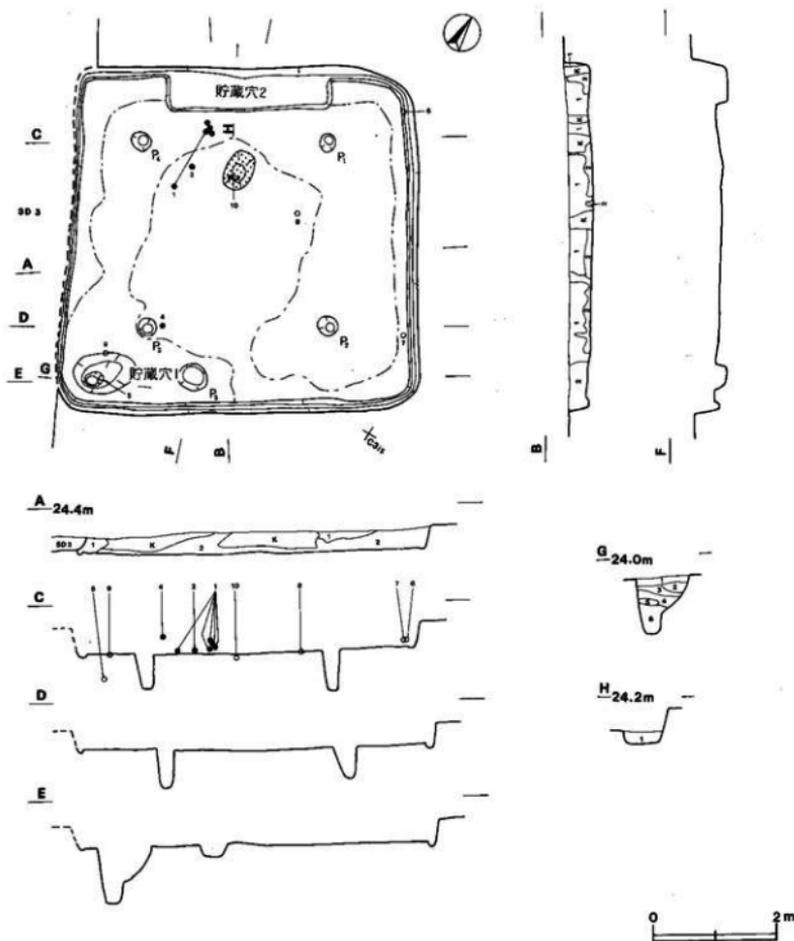
主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は30~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下及び貯蔵穴沿いに全周し、上幅6~14cm、深さ4~10cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、中央部を除いて硬く踏み固められている。

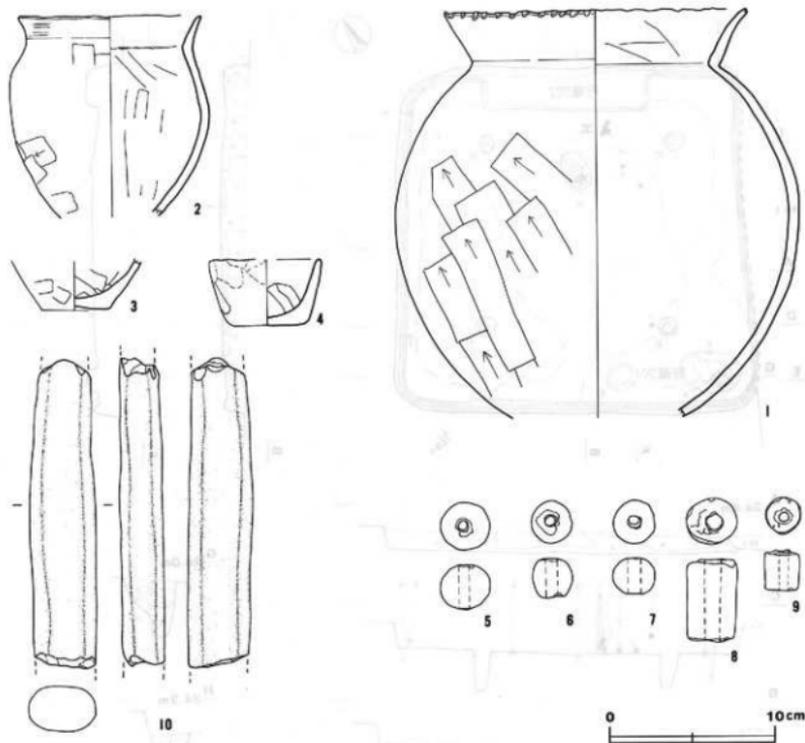
ピット 5か所 (P₁-P₅)。P₁-P₄は径25~35cmの円形で、深さ50~64cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₅は径45cm程の円形で、深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第299図 第157号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りであり、長径65cm、短径45cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化しており、炉床南部には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長径100cm、短径65cmの楕円形で、深さは89cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。貯蔵穴2は北西壁際中央部に付設されている。長軸270cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは20cm程である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。



第300図 第157号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色
 ローム粒子・ローム小ブロック少量 |

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色
 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
- 2 暗赤褐色
 焼土粒子多量, ローム小ブロック・焼土中ブロック中量, 焼土中ブロック少量 |

遺物 北東壁中央部付近を除く、床面全体から土師器片が352点出土している。また、床面全体の覆土下層から床面にかけて炭化材及び焼土塊が出土している。1・2の甕は炉西側の床面から、4の手捏土器は南コーナー寄りの覆土中層から、3のミニチュア土器は覆土中からそれぞれ出土している。炉床南部からは10の土製が石が炉の長径に対して直交した状態で出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第300図	土 器	A 18.4	底部欠損。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部外面横ナデ、内面ヘラナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにふい橙色 普通	P771 60% PL88 炉西側床面 口縁部外面僅付着
		B (24.8)				
2	小形 土 器	A 11.1	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面ヘラナデ、内面ヘラナデ。口縁部外面ハケ目整形後横ナデ、内面横ナデ。	長石・石英・スコリアにふい橙色 普通	P772 60% PL88 炉西側床面
		B (12.3)				
3	ミニチュア土 器	B (2.9)	底部片。僅かに凹む平底。体部は内燗気味に立ち上がる。	体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにふい赤褐色 普通	P773 40% 覆土中
		C 4.0				
4	手捏土 器	A (6.9)	平底。体部は器厚を減じながらやや外傾して立ち上がる。口縁部は僅かに内彎する。	体部内・外面に指跡王痕が残る。	長石・石英・スコリアにふい黄褐色 普通	P774 50% 南コーナー寄り覆土中層
		B 4.0				
		C 4.4				

図版番号	種 別	計 面 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第300図5	土 玉	2.8	3.0	-	0.7	19.7	貯蔵穴覆土中層	DF206
6	土 玉	2.9	2.5	-	0.8	12.2	北コーナー部覆土下層	DF207
7	土 玉	2.3	2.6	-	0.8	14.3	東コーナー部覆土下層	DF208
8	管状土 鉢	5.0	3.1	-	1.0	51.6	中央部床面	DF20 PL99
9	管状土 鉢	2.5	2.1	-	0.6	14.4	南コーナー部覆土中層	DF210 PL99
10	土製 炉石	(18.9)	4.1	2.7	-	(268.5)	炉床南部	DF211 PL102

第158号住居跡 (第301図)

位置 調査区南西部, E2c区。

重複関係 本跡は、南西部が第130号住居

跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 一辺2.80mの方形である。

主軸方向 N-46°-E

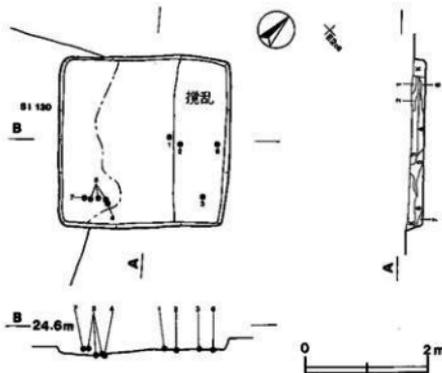
壁 壁高は24cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、南西部が踏み固められている。

覆土 7層からなる人為堆積である。

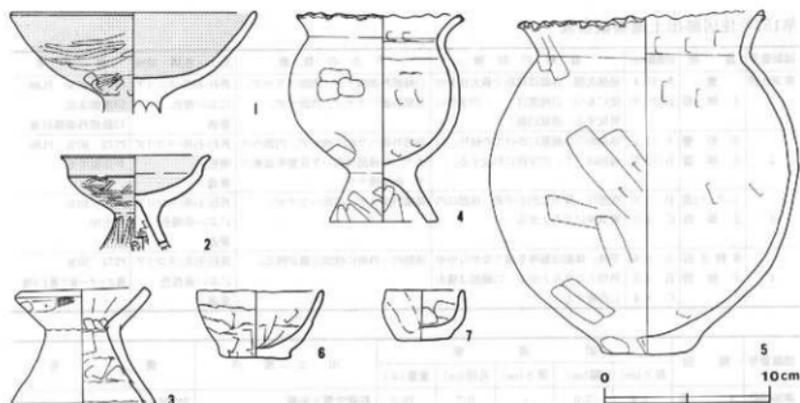
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小・中ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量



第301図 第158号住居跡実測図

遺物 南西部を除く床面全体から土器が116点出土している。また、東部の床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の高坏, 2の器台は中央部寄り, 3の器台は横位で東コーナー部から, 4の台付壺, 5の壺及び7のミニチュア土器は南コーナー部から, 6のミニチュア土器は正位で北東壁際中央部のいずれも床面から出土している。



第302図 第158号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は炉、支柱穴等の確認はできなかったが、硬化した床面及び遺物の出土状況等から住居跡とした。

時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第302図 1	高土師器	坏 A 15.0 器 B (5.1)	胴部欠損。坏部は内彎気味に大きく開いて立ち上がり、口縁部に至る。	坏部外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P775 60% 中央部寄り床面 内面刺線
2	土師器	器台 A 9.1 器 B (5.7) 器 E (2.2)	胴部中位から下位欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。脚部に4孔を穿つ。	器受部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。口縁部横ナデ。脚部外面ヘラ磨き、内面ハテ目調整後ヘラナデ。脚部外面及び器受部内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P776 60% PL88 中央部寄り床面 内面刺線
3	土師器	器台 A 8.4 器 B 7.2 器 D 8.8 器 E 4.7	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は僅かに内彎して立ち上がる。器受部中央に貫通孔をもつ。	脚部外面ナデ、内面横位のヘラナデ。器受部外面横位のヘラナデ後一部ハゲ目整形。内面横位のヘラナデ。接合部ヘラ削り。脚部内面輪轆み痕。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P777 100% PL88 東コーナー部床面
4	土師器	台付器 A 10.2 器 B 12.5 器 D 6.6 器 E 3.0	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	台部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。口縁部外面横ナデ、内面ヘラナデ。体部内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P778 80% PL88 南コーナー部床面 外面全面磨付着 二次焼成
5	土師器	器台 A 14.9 器 B 20.8 器 C 5.5	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	体部外面ヘラ削り後上位ナデ、内面ヘラナデ。口縁部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P779 60% PL88 南コーナー部床面 外面磨付着、二次焼成
6	土師器	ミニチュア器 A 7.7 器 B 4.1 器 C 4.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面ヘラ削り後ナデ。内・外面に輪轆み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P780 98% PL87 北東壁際中央部床面
7	土師器	器 A 4.7 器 B 3.1 器 C 3.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面指図圧痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P781 90% PL87 南コーナー部床面

第159号住居跡 (第303区)

位置 調査区南西部, E2c8区。

規模と平面形 一辺3.20m程の方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

壁 掘り込みが浅い住居跡のため、一部で僅かな立ち上がり(2~3cm)を確認したのみである。

床 平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

炉 中央部から西寄りにあり、長径60cm, 短径40cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け強く赤変硬化している。

貯蔵穴 北東壁のほぼ中央部に付設されている。長径60cm, 短径50cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

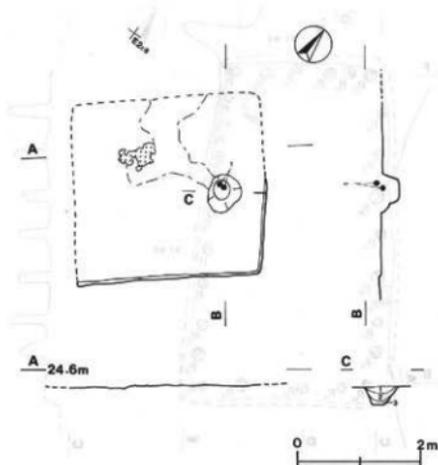
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

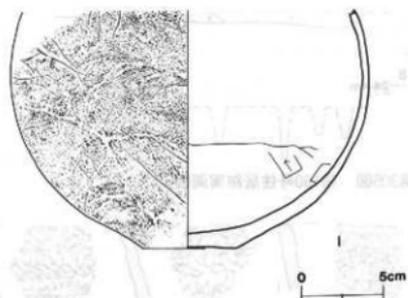
覆土 削平されており、堆積状況は不明である。

遺物 土師器の葉片が7点、主に貯蔵穴から出土している。1の葉は貯蔵穴の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第303区 第159号住居跡実測図



第304区 第159号住居跡出土遺物実測図

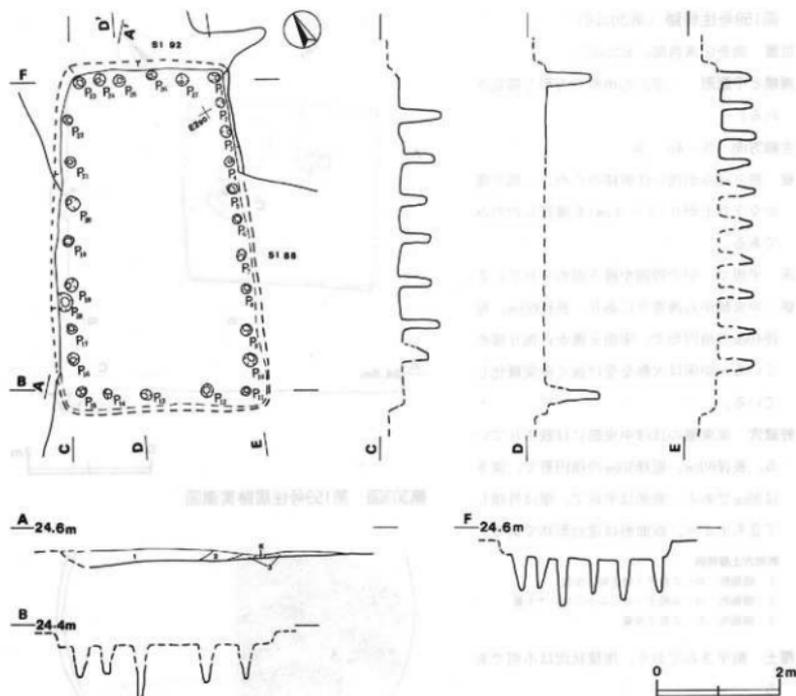
第159号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第304区 1	土師器 葉片	B (14.5) C 5.7	体部下半から底部にかけての破片。 底部は平底で僅かに突出する。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ハケ目整形, 内面ヘラナデ。 体部内面に輪積み痕が残る。	灰石・石炭・スコリア 灰白色 普通	P782 40% PL88 貯蔵穴覆土中層 体部内面付着二次焼成(表面)

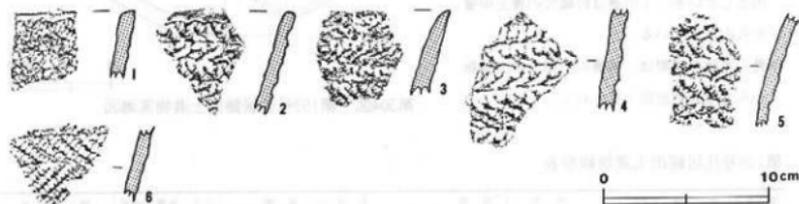
第160号住居跡 (第305区)

位置 調査区南西部, E2g8区。

重複関係 本跡は、中央部から南部にかけて第88号住居跡に、北東壁を第92号住居跡にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。



第305図 第160号住居跡実測図



第306図 第160号住居跡出土遺物拓影図

規模と平面形 長軸(5.70)m, 短軸(3.45)mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-39'-E

壁 壁高は20-28cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、踏み固められている。

ピット 28か所(P₁-P₂₈)。P₁-P₁₆は南東壁下にあり、径15-20cmの円形で、深さ56-60cmである。P₁₁-P₁₅は南西壁下にあり、径15-20cmの円形で、深さ20-57cmである。P₁₆-P₂₂は北西壁下にあり、径15

～25cmの円形で、深さ48～66cmである。P₂₃～P₂₈は北東壁下にあり、径15～20cmの円形で、深さ50～76cmである。いずれも壁柱穴と考えられる。P₅～P₁₆は第88号住居跡に30cm程掘り込まれているため、確認した深さは本来の深さよりも浅くなっている。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
2 暗 褐色 ローム粒子中量

- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片16点、石4点が北東部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。

第306図1～6は、第160号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は口縁部片で、ループ文が施されている。4～6は胴部片で、4・5はループ文が、6は単筋LRの羽状縄文が施されている。

第161号住居跡 (第307図)

位置 調査区中央部、E2c9区。

重複関係 本跡は、中央部から北東部にかけて第128号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.80m程の隅丸方形か隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-35°-W]

壁 壁高は18cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

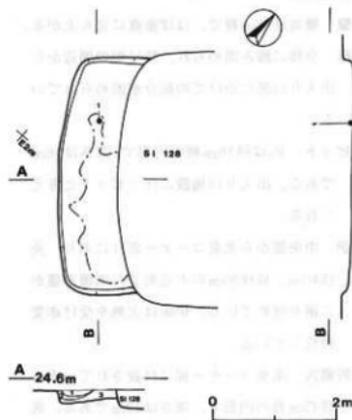
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子微量
3 暗 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器の深鉢片11点、石1点が床面から出土している。1の台付土器の台部は、正位で西コーナールの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。



第307図 第161号住居跡実測図



第308図 第161号住居跡出土遺物実測・拓影図

第161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	台付土器	B(4.8)	底部片。底部は上げ底。内・外面とも丁寧にナデられている。縄文は施されていない。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	F783 5% 西コーナー寄り床面 内側壁に施れ織り部
	縄文土器	D(9.8)			
		E 3.4			

第308図2～4は、第161号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、単節L Rの縄文が施されている。3・4は胴部片で、3は単節L Rの縄文が、4はループ文が施されている。

第162号住居跡(第309図)

位置 調査区南西部、F2b3区。

規模と平面形 長軸2.55m、短軸2.48mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は42cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に踏み固められ、特に炉の周辺から出入り口部にかけての部分が目固められている。

ピット P₁は径16cm程の円形で、深さは46cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北東コーナー寄りにあり、長径40cm、短径30cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

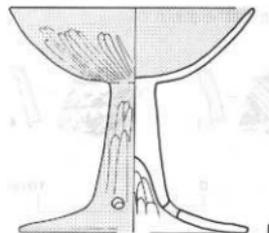
貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。

径45cm程の円形で、深さは42cmである。

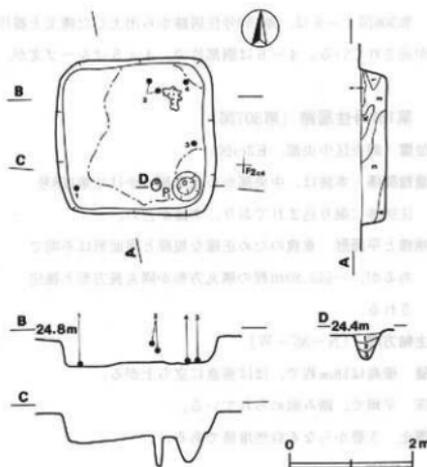
底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

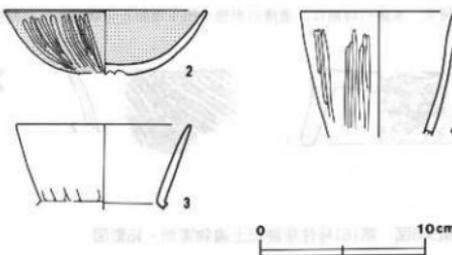
- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量



第310図 第162号住居跡出土遺物実測図



第309図 第162号住居跡実測図



覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小・中・大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物 北西コーナー部を除く、覆土中層から床面にかけて土師器片が128点出土している。1の高坏は南西コーナー部の床面から、2の高坏は炉北西側の覆土中層から上層にかけて、3の埴は東壁際中央部の床面から、4の埴は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第310図 1	高土師器 坏	A 14.4	脚部は上位3分の2が中実柱状。柄部は大きく開き上位に3孔を穿つ。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。坏部内・外面、脚部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P784 80% PL88 南西コーナー部床面 内面著しい剝離
		B 13.7 D(14.0)				
2	高土師器 坏	A 12.4	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P785 50% 炉北西側土層から上層 内面著しい剝離
		B(5.0)				
3	埴 土師器	A 10.6	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ナデ、内面横ナデ。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P786 30% 東壁際中央部床面 内面剝離
		B(5.2)				
4	埴 土師器	A 9.6	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き、内面横ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P787 25% 北東コーナー部床面 内面剝離、外面張付着
		B(7.6)				

第163号住居跡(第311図)

位置 調査区南西端部, F24z区。

重複関係 本跡は、第61号住居跡の下に構築されており、北西部を第40号土坑に掘り込まれていることから、本跡が最も古い。

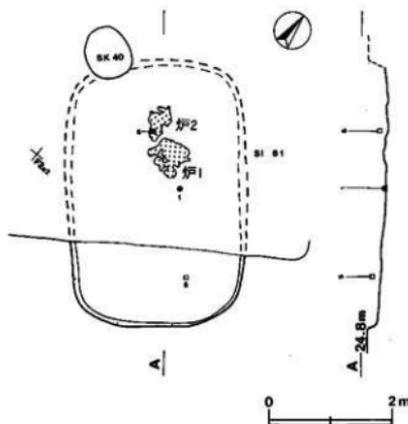
規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明であるが、長軸4.20m程、短軸2.80m程の隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-32'-W]

壁 壁高は10cm程で、外傾して立ち上がる。

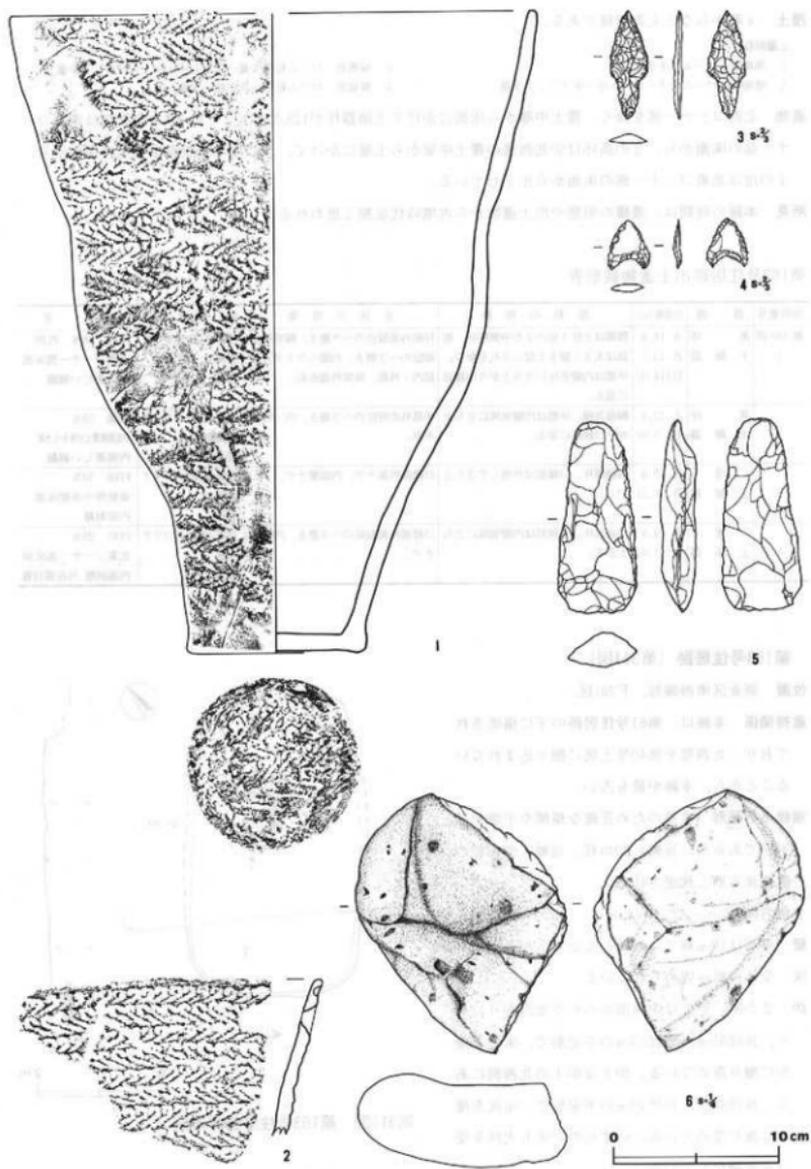
床 全体に踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部からやや北西寄りにあり、長径65cm、短径55cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉2は炉1の北西側にあり、長径60cm、短径40cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。



第311図 第163号住居跡実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。重複のため現存する覆土が僅かであるが、ロームブロックが混入している。



第312图 第163号住居跡出土遺物・拓影图

遺物 中央部から南東部の覆土上層から床面にかけて、縄文土器の深鉢及び石9点が出土している。1の深鉢は中央部の床面から押圧された状態で、6の石皿（熱を受けている）は炉2の炉床から出土している。また、流れ込みと思われる5の打製石斧は東コーナー部の覆土上層から出土している。3・4の石鏃は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(二ツ木式期)と思われる。

第163号住居跡出土遺物観察表

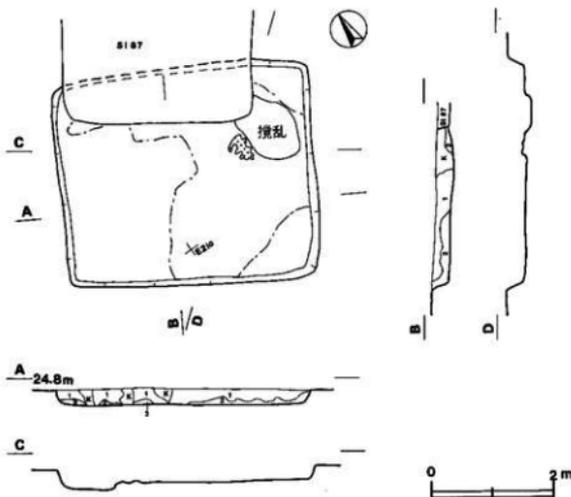
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第312図 1	深鉢 縄文土器	A (31.9) B 39.0 C 10.9	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底。胴部はやや外反して立ち上がり、中位ではほぼ直立した後上位は外傾する。底部から口縁部にかけて草筋R.Lの縄文が施され、胴部は横位回転による羽状構成をとる。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P788 50% FL89 中央部床面 二次焼成、縄文土器

第312図2は、第163号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、ループ文が多段に施されている。口縁端部には、焼成後に孔が穿たれている。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第312図3	石鏃	3.3	1.2	0.3	0.8	チャート	覆土中	Q98 FL101
4	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.3	頁岩	覆土中	Q99
5	打製石斧	10.8	4.9	2.4	132.9	安山岩	東コーナー部覆土上層	Q100 FL103
6	石皿	(21.1)	(17.2)	7.6	(3087.2)	凝灰岩	炉2炉床	Q101 被熱

第164号住居跡 (第313図)

位置 調査区南西部, E2i0区。



第313図 第164号住居跡実測図

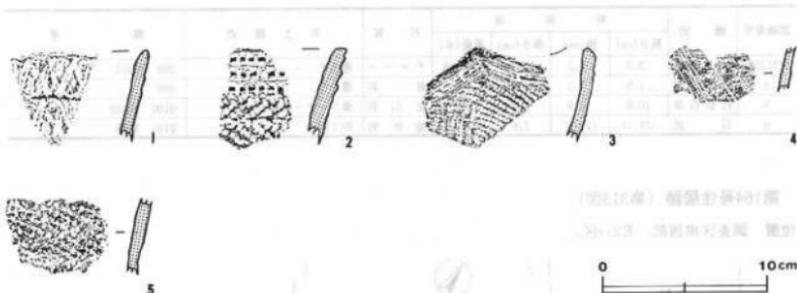
重複関係 本跡は、第87号住居跡の下に構築されており、本跡が古い。
規模と平面形 長軸4.10m、短軸3.60mの隅丸方形である。

主軸方向 N-125°-E
壁 壁高は24cm程で、やや外傾して立ち上がる。

床 炉の周囲を含む中央部から東部にかけて踏み固められている。
炉 中央部から南東寄りにあり、長径45cm、短径35cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変質している。

覆土 2層からなる人為堆積である。
土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 2 褐色 ローム粒子多量

遺物 炉周辺の覆土中層から床面にかけて、縄文土器の深鉢片52点、チャート・メノウ片4点、石4点が出土している。
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期前葉(関山Ⅱ式期)と思われる。



第314図 第164号住居跡出土遺物・拓影図

第314図1～5は、第164号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。1～3は口縁部片である。1・2はループ文の上に3本1対の隆帯を貼りキザミが施されている。3は波状口縁で、口縁端部には半截竹管による平行沈線が施されている。4・5は胴部片で、4はヘラ状工具による鋸歯状文が、5は組紐文が施されている。

第165号住居跡 (第315図)

位置 調査区西部、D2j区。

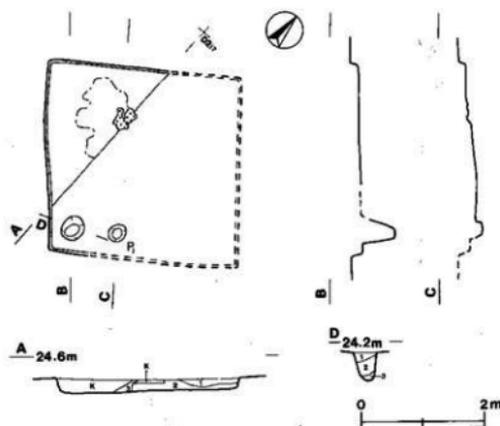
規模と平面形 中央部から東部にかけて削平されており、正確な規模や平面形は不明であるが、一辺3.10m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-48°-W

壁 壁高は10～18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 炉の周囲が踏み固められている。

ピット P₁は径28cm程の円形で、深さは13cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第315図 第165号住居跡実測図

炉 中央部から北西寄りにあり、長径40cm、短径25cmの不定形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さは51cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

覆土 3層からなる人為地積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

遺物 土器器の破片を主体に床面から57点出土しているが、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが、遺物が細片であるため詳細な時期は不明である。

第166号住居跡（第316図）

位置 調査区中央部、D3c区。

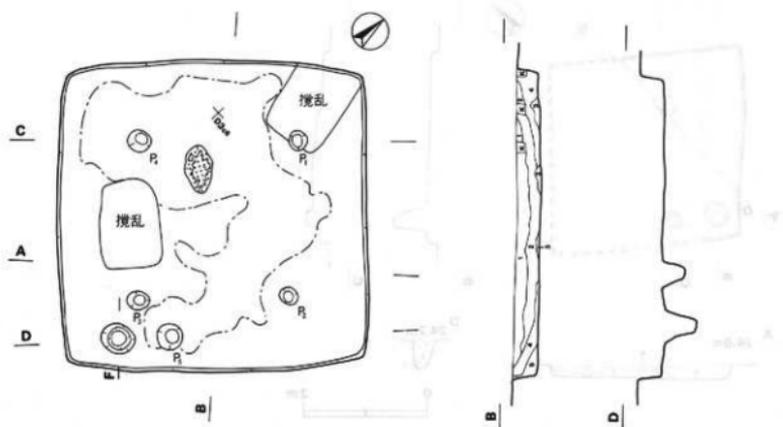
規模と平面形 一辺5.05mの方形である。

主軸方向 N-48°-W

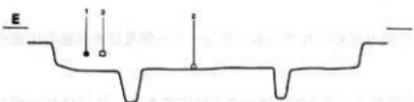
壁 壁高は32-44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体に平坦で、炉の周囲から出入り口部にかけて踏み固められている。北コーナー部及び南西部の床面が攪乱されている。

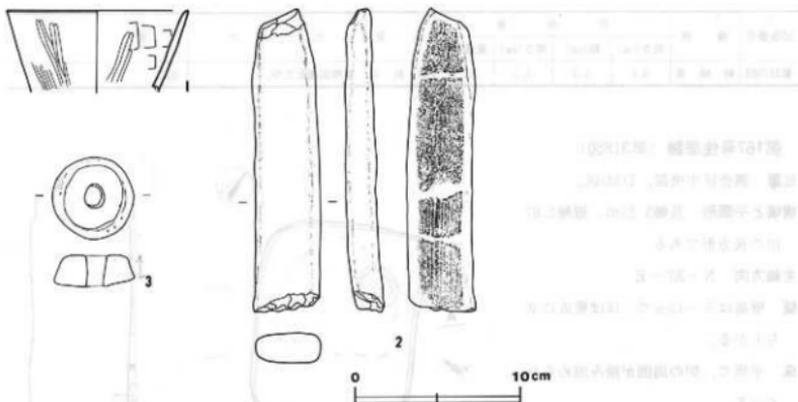
ピット 5か所 (P₁-P₅)。P₁-P₄は径30-40cmの円形で、深さ50-56cmの支柱穴である。P₅は径40cm程の楕円形で、深さ35cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



国柄家城跡出土品(器) 図216



第316図 第166号住居跡実測・遺物出土位置図



第317図 第166号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径80cm、短径45cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径56cm、短径48cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 3 褐色 ローム粒子多量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 5 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて、土師器片が甕を主体に450点出土している。また、四方の壁際の覆土下層からは、炭化材及び焼土塊が出土している。1の埴は南西壁際南コーナー寄りの覆土中層から、2の土製炉石は炉床中央部から、3の紡錘車は南西部の攪乱中から出土している。

所見 本跡は、焼尖家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。

第166号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第317図 1	土師器	A 11.0 B (5.0)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面屈位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ後ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P789 25% 南西壁際覆土中層 外周縁付着。二次焼成

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第317図2	土製炉石	(18.5)	4.2	1.8	-	(191.1)	炉床中央部	DP212 PL102

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第317図3	紡錘車	3.4	3.3	1.3	21.7	粘板岩	南西部擾乱土中	Q102

第167号住居跡 (第318図)

位置 調査区中央部, D3d区。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸2.67mの長方形である。

主軸方向 N-33°-E

壁 壁高は5-13cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

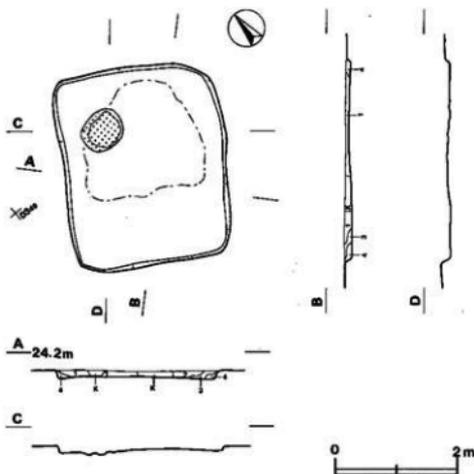
床 平坦で, 炉の周囲が踏み固められている。

炉 中央部から北寄りにあり, 長径70cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, ローム小・大ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量



第318図 第167号住居跡実測図

遺物 主に北西壁寄りの覆土下層から床面にかけて, 土師器片が壺を主体に36点出土しているが, いずれも細片である。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われるが, 遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第168号住居跡 (第319図)

位置 調査区中央部, D3i区。

規模と平面形 耕作による削平と擾乱のため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺3.00m程の方形か長方形と推定される。

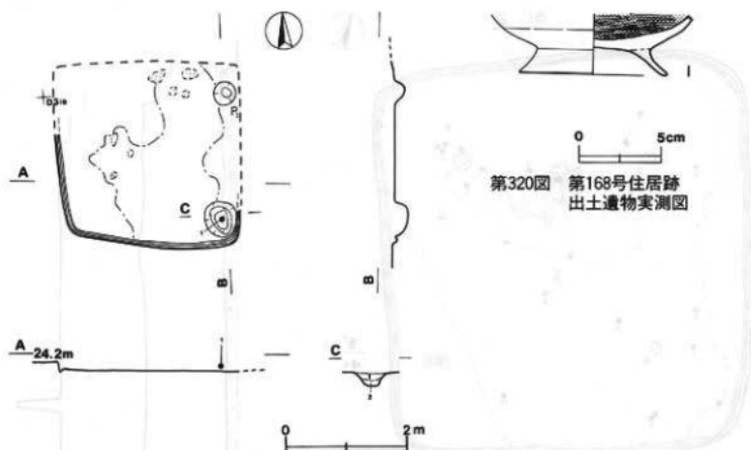
主軸方向 N-1°-W

壁 壁の大部分が削平のため確認できていないが, 西壁高は10cm程で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部と西壁下の一部で確認した。上幅5cm程, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦であり, 中央部が踏み固められている。

ピット P₁は径35cm程の円形で, 深さは14cmである。性格は不明である。



第319図 第168号住居跡実測図

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さは25cmである。底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小・中ブロック微量

覆土 削平されているため堆積状況は不明である。

遺物 土師器片17点に混じり、粘土塊及び鉄滓が出土している。1の高台付坏は南東コーナー部の覆土下層から出土している。また、中央部からやや西寄りの床面から粘土塊及び鉄滓が散在した状態で出土している。

所見 本跡は炉、竈及び柱穴等は確認できなかったが、北壁際の東寄りの床面から竈等の燃焼施設の跡と思われる焼けた粘土塊が確認でき、床面及び遺物の出土状況等から住居跡とした。(工房跡の可能性も考えられる。) 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10世紀)と思われる。

第168号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第320図 1	高台付坏	B (5.0)	体部下位から高台にかけての破片。	体部外面ナデ、内面横位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア	P790 50% 南東コーナー部覆土下層
	土師器	D 9.0	「ハ」の字状に開く足高の高台がつく。体部は内彎して立ち上がる。体部下位に弱い稜をもつ。	高台貼り付け後ナデ。体部内面黒色処理。	にぶい橙色	
	土師器	E 1.5			普通	

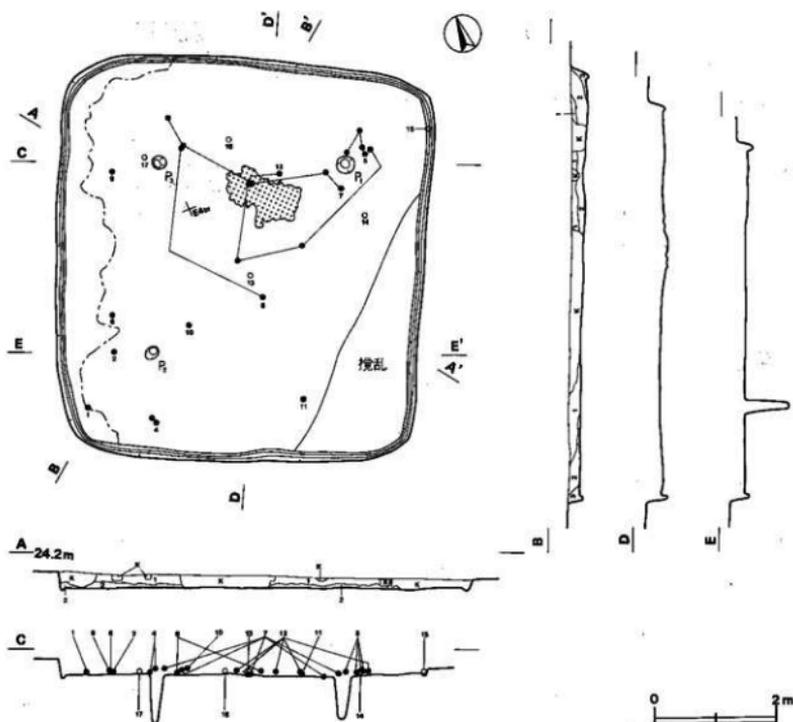
第169号住居跡 (第321図)

位置 調査区中央部、E4b1区。

規模と平面形 長軸6.56m、短軸5.96mの方形である。

主軸方向 N-27°-E

壁 壁高は12~36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第321図 第169号住居跡実測図

壁溝 壁下を全周しており、上幅10cm程、深さ5～10cmで、断面形はU字状である。

床 全体に踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁～P₃)。P₁～P₃は径20～30cmの円形で、深さは73～82cmである。いずれも支柱穴と考えられる。本来は4本支柱穴と思われるが、南東部が攪乱を受けており3か所のみを確認した。

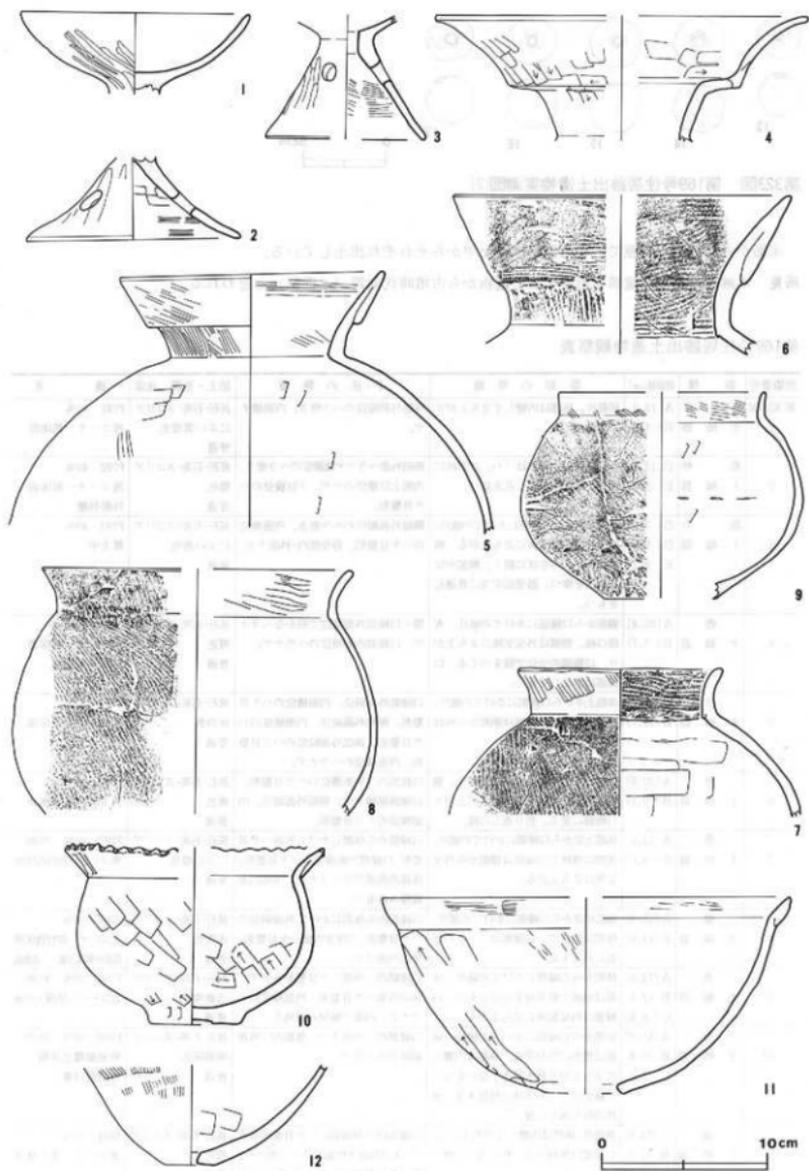
炉 中央部から北東寄りにあり、長径120cm、短径80cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 3層からなる人為堆積である。

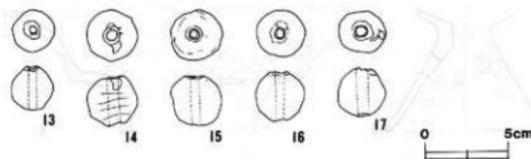
土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 | |

遺物 南コーナー部を除く、覆土中層から床面にかけて土師器片が870点出土している。大部分は破片であり、完形品は出土していない。1・2の高坏及び4・6の壺は西コーナー部の床面から、5の壺は東コーナー部の床面から、7・8の甕は北・東コーナー部及び中央部の床面から散在した状態で、11の甎は南コーナー寄りの床面から、10の甕は中央部の覆土中層から、9の甕は北コーナー部の覆土中層から、12の甕は中央部の



第322图 第169号住居跡出土遺物実測図(1)



第323図 第169号住居跡出土遺物実測図(2)

床面から散在した状態で、3の器台は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第169号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	高土師器 土師器	A 13.9 B (4.9)	坏部片。坏部は内灣して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き、内面横位ナデ。	長石・石英・スコリア ぶい貴褐色 普通	P791 40% 西コーナー部床面
2	高土師器 土師器	D 13.0 E (5.0)	器受部損。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部中に3孔を穿つ。	脚部外面ヘラナデ縦位のヘラ磨き、内面上位横位のナデ、下位横位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P792 40% 西コーナー部床面 外面斜縁
3	器土師器 土師器	B (7.6) D [9.8] E 6.1	器受部下位から脚部にかけての破片。器受部は内灣気味に立ち上がる。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部中に3孔を穿つ。器受部中央に貫通孔をもつ。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面横位のハケ目整形。器受部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア ぶい褐色 普通	P793 40% 覆土中
4	土師器 土師器	A [22.6] B (7.7)	頸部から口縁部にかけての破片。有段口縁。頸部は外反気味に立ち上がり、口頸部の中位で段をつくる。口縁部は外反して開く。	頸・口縁部外面縦位で細かなヘラナデ。口縁部内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P794 20% 西コーナー部床面 頸部内面斜縁
5	土師器 土師器	A 15.1 B (15.7)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は球状で口縁部は頸部から外反する。折り返し口縁。	口縁部外面斜位。内面横位のハケ目整形。頸部外面縦位。内面横位のハケ目整形。体部外面縦位のハケ目整形。内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 灰白色 普通	P795 15% 東コーナー部床面
6	土師器 土師器	A [20.6] B (9.7)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は体部から外反気味に立ち上がり口縁部に至る。折り返し口縁。	口縁部内・外面縦位のハケ目整形。口縁端部横位ナデ。頸部外面縦位。内面横位のハケ目整形。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P796 10% 西コーナー部床面
7	土師器 土師器	A 12.5 B (9.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は球状で口縁部は頸部から外反気味に立ち上がる。	口縁部から体部にかけて外面ハケ目整形。口縁部内面横位のハケ目整形。体部内面横位のヘラナデ。体部内面輪襷み痕有り。	長石・石英・スコリア ぶい褐色 普通	P797 40% PL89 東コーナー部付近床面
8	土師器 土師器	A (18.8) B (14.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は球状で、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部から体部にかけて外面斜位のハケ目整形。口縁部内面ハケ目整形。体部内面ナデ。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P798 10% 北コーナー部付近床面 体部外面付着。二次焼成
9	土師器 土師器	A [12.6] B 12.6 C (6.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形。内部横位のヘラナデ。内面に輪襷み痕残る。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P799 40% PL89 北コーナー部覆土中層
10	土師器 土師器	A (15.8) B 10.8 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。底部は僅かに凹む平底。体部は内灣して立ち上がり最大径を下位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状の折り返し口縁。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面斜位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P800 50% PL89 中央蓋覆土中層 外面煤付着
11	土師器 土師器	A [24.8] B 12.0 C (4.7)	無底式。体部は内灣して立ち上がる。口縁部は外湾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面弱いハケ目整形後ナデ。体部外面下位縦位のヘラ削り、上位ハケ目整形後ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P801 20% 南コーナー部床面

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 12	瓶 土器	B(6.1) C 3.0	平底。体部は内彎して立ち上がる。 底部中央に単孔を穿つ。	体部外面縦位のハケ目整形後ヘラナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	F802 40% PL89 中央部床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第323図13	土玉	2.6	2.6	-	0.5	14.9	中央部床面	DP213
14	土玉	3.0	3.0	-	0.6	23.5	東コーナー付近床面	DP214
15	土玉	3.1	3.0	-	0.6	26.0	東コーナー壁溝中	DP215
16	土玉	2.9	3.0	-	0.6	22.2	北コーナー付近床面	DP216
17	土玉	2.8	3.0	-	0.7	20.3	北コーナー付近床面	DP217

第170号住居跡 (第324図)

位置 調査区北部, C4j3区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.60mの長方形である。

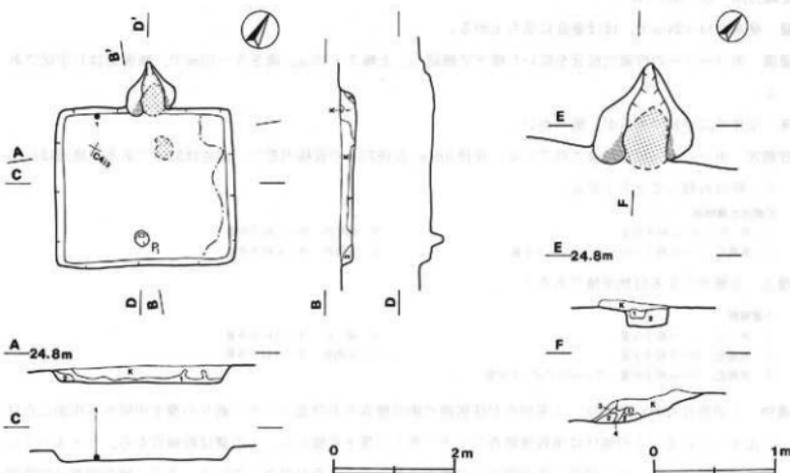
主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は20cm程で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、北東壁際を除いて踏み固められている。

ピット P₁は径25cm程の円形で、深さ24cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

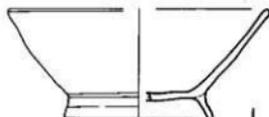
竈 北西壁中央部を壁外に75cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は、長さ90cm, 幅70cmである。袖部は、床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は、浅い皿状で火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、長さ40cm程で、火床面から緩やかに立ち上がっている。



第324図 第170号住居跡実測図

甕土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小・中ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒子少量
- 4 樹皮褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土中ブロック中量, 炭化物少量



覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化物中量, 焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒子少量

0 5cm

第325図 第170号住居跡出土遺物実測図

遺物 甕内及び甕周辺の床面から土師器片が甕を主体に43点出土している。1の高台付坏は、北西壁際で西コーナー近くの床面から逆位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10世紀)と思われる。

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第325図	高台付坏	A 15.9	「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	体部, 高台部内・外面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。面転ヘラ切リ。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石灰・スコリア 橙色 普通	P803 65% PL89 北西壁際西コーナー寄り床面
1	土師器	B 6.7				
		D 9.1				
		E 1.7				

第171号住居跡(第326図)

位置 調査区東部, E4a区。

規模と平面形 長軸4.78m, 短軸4.48mの方形である。

主軸方向 N-32'-W

壁 壁高は14~24cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナーの貯蔵穴部分を除いた壁下で確認し, 上幅7~15cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦であるが, 軟らかい。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径105cm, 短径75cmの長楕円形で, 深さは51cmである。底面は凸凹で, 壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

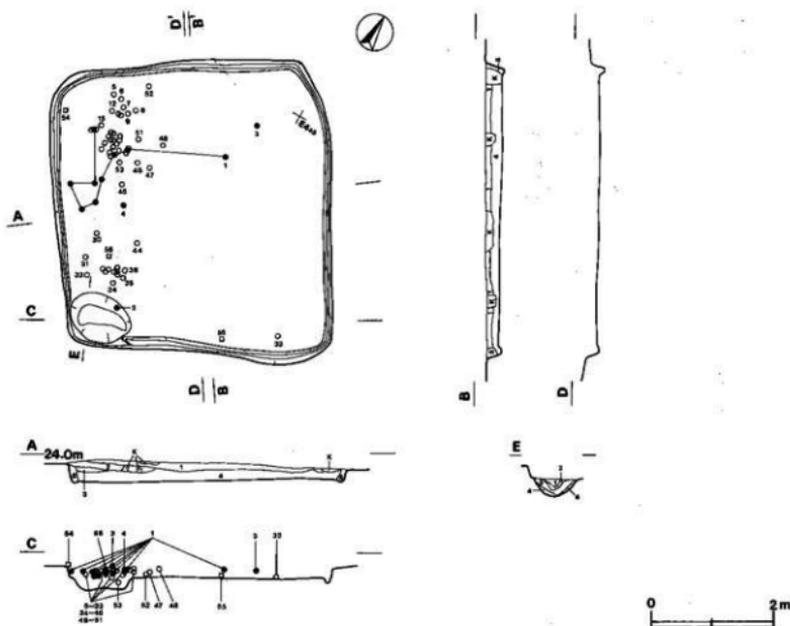
- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 4 明褐色 ローム粒子多量 |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | |

遺物 土師器片322点, 石10点, 土玉48点が住居跡の南西壁寄り及び北コーナー寄りの覆土中層から床面にかけて出土している。1の高坏は南西壁側西コーナー寄りの覆土中層から, 2の甕は貯蔵穴から, 3・4のミニチュア土器は北コーナー部及び南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また, 南西壁寄りの床面からは, 48点の土玉が集中して出土している。



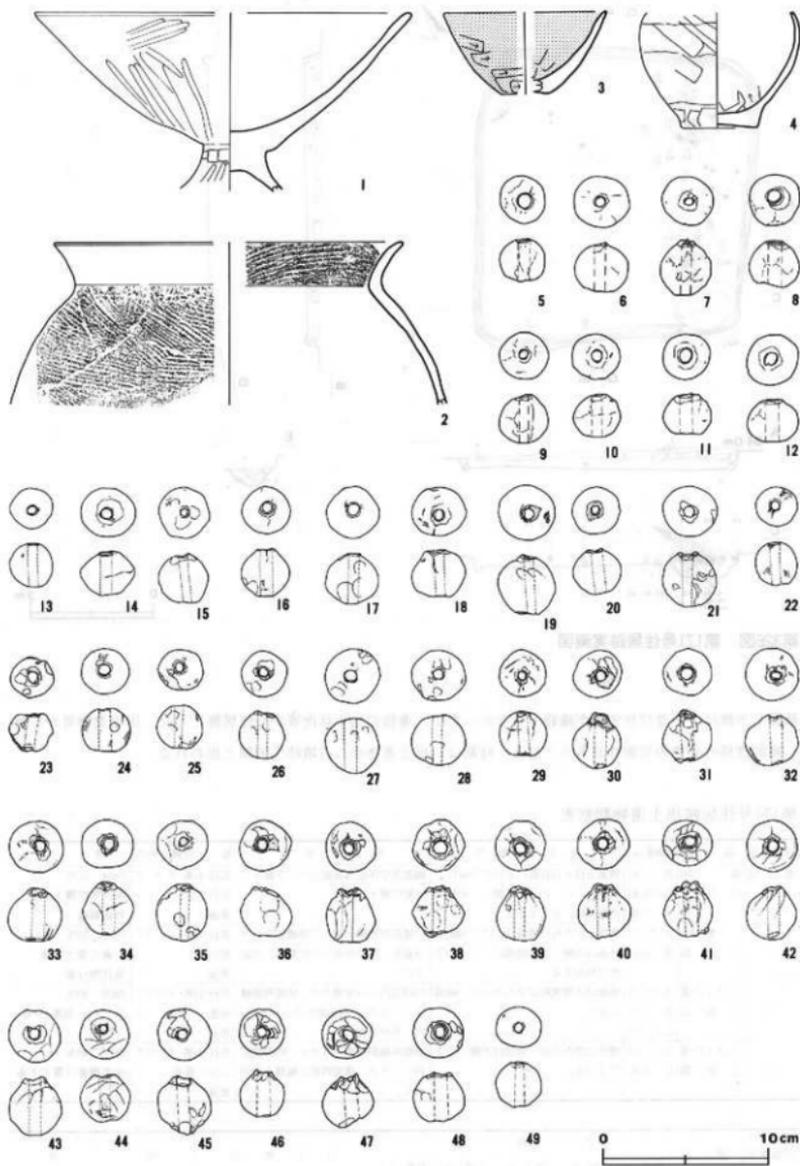
第326図 第171号住居跡実測図

所見 本跡は、炉及び柱穴等が確認できなかったが、遺物の出土状況等から住居跡とした。出土遺物等から倉庫的性格の建物の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われる。

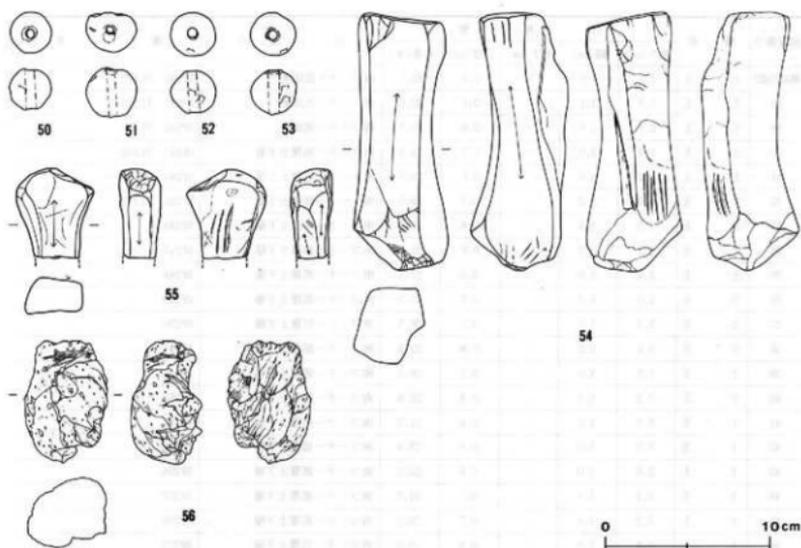
第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第327図	高土師器	A (22.8)	脚部上位から坏部にかけての破片。	脚部及び坏部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア	F804 40%
		B (10.8)	脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は	坏部内面ナデ。	灰白色	南西壁際覆土中層
		E (2.4)	内彎気味に立ち上がる。		普通	外面刷毛
2	甕	A (21.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。	口縁部外面横ナデ、内面横位のハナ目整形。	長石・石英・スコリア	F805 10%
		B (9.9)	脚部は内彎し、口縁部は「く」の字状に外反する。	体部外面ハナ目整形、内面ナデ。	褐色	貯蔵穴覆土上層
3	ミチュア土師器	A (10.0)	体部は内彎気味に立ち上がり口縁部	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横	長石・石英・スコリア	F806 40%
		B 5.0	に至る。	位のヘラナデ、内面縦位のヘラナデ。	褐色	北コーナー部覆土下層
		C (3.0)		内・外面赤影。	普通	
4	ミチュア土師器	B (7.0)	僅かに凹む平底。体部は内彎して立	体部外面斜位のヘラナデ、内面縦位	長石・石英・スコリア	F807 40%
		C 4.6	ち上がる。	のヘラナデ。体部外面に輪轆み痕が残る。	灰白色	南西壁寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327図B5	土玉	2.6	2.7	-	0.8	17.7	西コーナー部覆土下層	DP218



第327图 第171号住居跡出土遺物実測図(1)



第328図 第171号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327回6	土玉	3.0	3.4	-	0.6	29.0	西コーナー部覆土下層	DF219
7	土玉	3.4	3.1	-	0.6	23.0	西コーナー部覆土下層	DF220
8	土玉	2.9	3.1	-	0.8	22.1	西コーナー部覆土下層	DF221
9	土玉	3.0	3.1	-	0.6	22.9	西コーナー部覆土下層	DF222
10	土玉	2.6	2.9	-	0.7	18.8	西コーナー部覆土下層	DF223
11	土玉	2.5	2.9	-	0.7	17.8	西コーナー部覆土下層	DF224
12	土玉	2.7	3.2	-	0.9	23.5	西コーナー部覆土下層	DF225
13	土玉	2.7	2.6	-	0.5	15.5	西コーナー部覆土下層	DF226
14	土玉	2.8	3.3	-	0.7	21.0	西コーナー部床面	DF227
15	土玉	3.0	3.1	-	0.5	25.5	西コーナー部床面	DF228
16	土玉	2.9	3.0	-	0.8	21.0	西コーナー部覆土下層	DF229
17	土玉	3.2	3.2	-	0.7	26.4	西コーナー部床面	DF230
18	土玉	2.8	3.3	-	0.6	25.4	西コーナー部覆土下層	DF231 PL102
19	土玉	3.6	3.4	-	0.6	37.8	西コーナー部覆土下層	DF232 PL102
20	土玉	2.8	2.9	-	0.6	19.5	西コーナー部覆土下層	DF233 PL102
21	土玉	3.3	3.4	-	0.6	30.2	西コーナー部覆土下層	DF234 PL102
22	土玉	2.5	2.6	-	0.6	15.4	西コーナー部覆土下層	DF235 PL102
23	土玉	2.6	2.3	-	0.7	12.2	西コーナー部覆土下層	DF236 PL102
24	土玉	2.8	2.6	-	0.7	20.1	西コーナー部覆土下層	DF237 PL102
25	土玉	2.7	2.6	-	0.6	17.0	西コーナー部覆土下層	DF238 PL102
26	土玉	2.8	2.9	-	0.6	19.7	西コーナー部覆土下層	DF239 PL102

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第327図27	土玉	3.4	3.3	-	0.7	35.1	西コーナー部床面	DP240 PL102
28	土玉	3.3	3.1	-	0.6	30.6	西コーナー部床面	DP241 PL102
29	土玉	2.7	2.9	-	0.6	20.7	西コーナー部床面	DP242 PL102
30	土玉	3.4	3.0	-	0.7	24.1	南コーナー部覆土下層	DP243 PL102
31	土玉	3.2	3.0	-	0.8	22.5	南コーナー部覆土下層	DP244 PL102
32	土玉	3.0	3.2	-	0.7	29.5	南コーナー部覆土下層	DP245 PL102
33	土玉	3.2	3.3	-	0.8	27.2	南コーナー部覆土下層	DP246
34	土玉	3.2	3.2	-	0.8	25.9	南コーナー部覆土下層	DP247
35	土玉	3.5	3.0	-	0.5	27.8	南コーナー部覆土下層	DP248
36	土玉	3.0	3.2	-	0.7	25.7	南コーナー部覆土下層	DP249
37	土玉	3.4	3.0	-	0.7	26.5	南コーナー部覆土下層	DP250
38	土玉	3.1	3.2	-	0.8	22.9	南コーナー部覆土下層	DP251
39	土玉	3.3	3.0	-	0.7	26.2	南コーナー部覆土下層	DP252
40	土玉	3.3	3.2	-	0.8	25.6	南コーナー部覆土下層	DP253
41	土玉	3.5	3.0	-	0.8	21.7	南コーナー部覆土下層	DP254
42	土玉	3.3	3.0	-	0.7	23.4	南コーナー部覆土下層	DP255
43	土玉	2.8	3.0	-	0.6	22.2	南コーナー部覆土下層	DP256
44	土玉	3.1	3.1	-	0.7	34.5	南コーナー部覆土下層	DP257
45	土玉	3.2	3.6	-	0.7	28.3	西コーナー部覆土下層	DP258
46	土玉	2.8	2.8	-	0.8	19.0	西コーナー部覆土下層	DP259
47	土玉	3.1	3.3	-	0.8	22.7	西コーナー部覆土下層	DP260
48	土玉	3.0	3.0	-	0.8	26.0	西コーナー部覆土下層	DP261
49	土玉	2.7	2.7	-	0.6	17.5	西コーナー部床面	DP262
第328図50	土玉	2.6	2.5	-	0.6	14.5	西コーナー部床面	DP263
51	土玉	3.1	3.1	-	0.5	22.1	西コーナー部床面	DP264
52	土玉	2.7	2.6	-	0.6	16.3	西コーナー部床面	DP265
53	土玉	2.8	2.7	-	0.6	17.2	西コーナー部床面	DP266

図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
第328図54	砥石	15.7	5.7	5.9	634.1	粘板岩	西コーナー部覆土下層	Q103 PL101
55	砥石	(5.5)	4.8	2.5	(81.1)	凝灰岩	南東壁際床面	Q104 PL101
56	砥石	7.6	5.1	4.3	34.1	流紋岩	南コーナー部覆土下層	Q105

第172号住居跡 (第329図)

位置 調査区東端部, D4h7区。

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.35mの方形である。

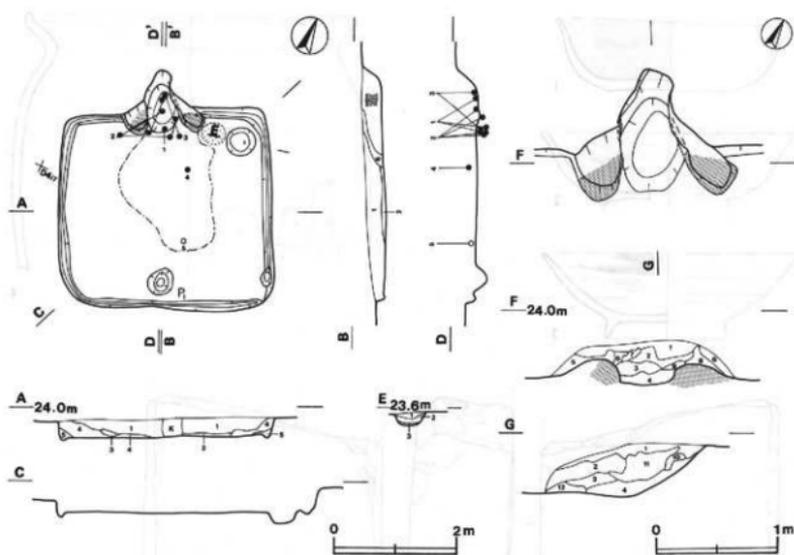
主軸方向 N-24'-W

壁 壁高は26~32cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 窓部を除いて全周しており, 上幅14cm, 深さ12cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 窓前部から出入り口部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は径40cm程の円形で, 深さ18cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第329図 第172号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に壁外に66cm程掘り込み、ロームと砂質粘土で構築している。規模は、長さ110cm、幅130cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は、浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、長さ40cm程で、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。竈右袖部と貯藏穴の間に径44cm程の円形で、深さ14cmの、底面が鍋底状の落ち込みを確認した。多量の焼土が出土していることから竈の関連施設と考えられる。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ローム粒子多量、砂粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量 | 9 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量 | 10 褐色 砂粒子中量、焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒子少量 | 11 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック・炭化物・砂粒子少量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子・砂粒子少量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・砂粒子少量 |

貯藏穴 北コーナー部に付設されている。径45-50cmの円形で、深さは18cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

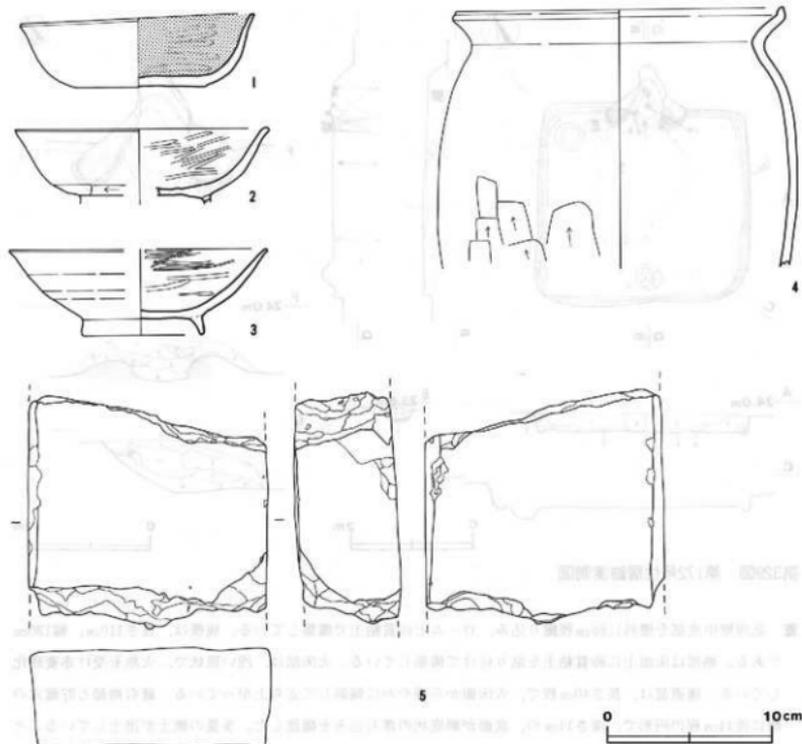
貯藏穴土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・砂粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒子少量 | |

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 | 6 極暗褐色 ローム粒子多量、砂粒子少量 |



第330図 第172号住居跡出土遺物実測図

遺物 竈内及び住居跡の覆土中層から床面にかけて、土師器片71点、須恵器片2点及び土製品1点が出土している。1の坏及び2・3の高台付坏は竈内の覆土中層から下層にかけて、4の甕は竈袖部前方の覆土中層から逆位で、5の埴は住居跡中央部やや東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。埴は本来寺院官衛跡等から出土するものであり、いずれかから持ち込まれたものと考えられる。

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 1	土師器 坏	A 14.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。底部ヘラ磨り。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	PS08 45% 竈内覆土下層
		B 4.5				
		C 7.9				
2	土師器 高台付坏	A 15.4	高台部から口縁部にかけての破片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	PS09 70% PL89 竈内覆土下層 二次焼成
		B (4.6)				
		E (0.6)				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第330回 3	高台付環土師器	A (15.7)	高台部から口縁部にかけての破片。「ハ」の字状に深く足高の高台が付く。体部は内壁して立ち上がる。	口縁部内・外壁横ナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P810 50% PL89 甕内覆土下層 二次焼成
		B 5.3				
		D 7.4				
		E 1.1				
4	甕土師器	A 20.2	体部中位から口縁部にかけての破片。口縁部は頸部から強く外反し、口部は上方につまみ上げられている。	口縁部は内・外面横位のナデ。体部外面上半ナデ、下半縦位のヘラ磨り。内面横位のナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P811 40% PL89 甕付近覆土中層
		B (15.8)				

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第330回5	埴	(14.3)	14.6	6.6	-	(1776.1)	中央部覆土下層	IP257 破片 PL98

第173号住居跡(第331図)

位置 調査区東部, D4f3区。

重複関係 本跡は西コーナー部が第174号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は55~70cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西壁の一部を除いてほほ全周しており, 上幅10~15cm, 深さ5cm程で, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 出入口部, 東部及び甕の左右の両袖部周辺が踏み固められている。

ピット 5か所(P₁-P₅)。P₁-P₄は径50~65cmの円形で, 深さ53~73cmである。いずれも主柱穴である。

P₅は長径50cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ32cmである。出入口口施設に伴うピットと考えられる。

甕 北西壁中央部を壁外に30cm程掘り込み, 砂質粘土で構築している。規模は, 長さ120cm, 幅85cmである。袖部は, 床面上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は, 浅い皿状で, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 長さ70cm程で, 火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

甕土層解説

- 1 暗褐色 砂粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 黄褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子多量, 炭化物中量, 焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中・大ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒子多量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 7 黒褐色 焼土粒子多量
- 8 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 9 赤褐色 焼土粒子多量

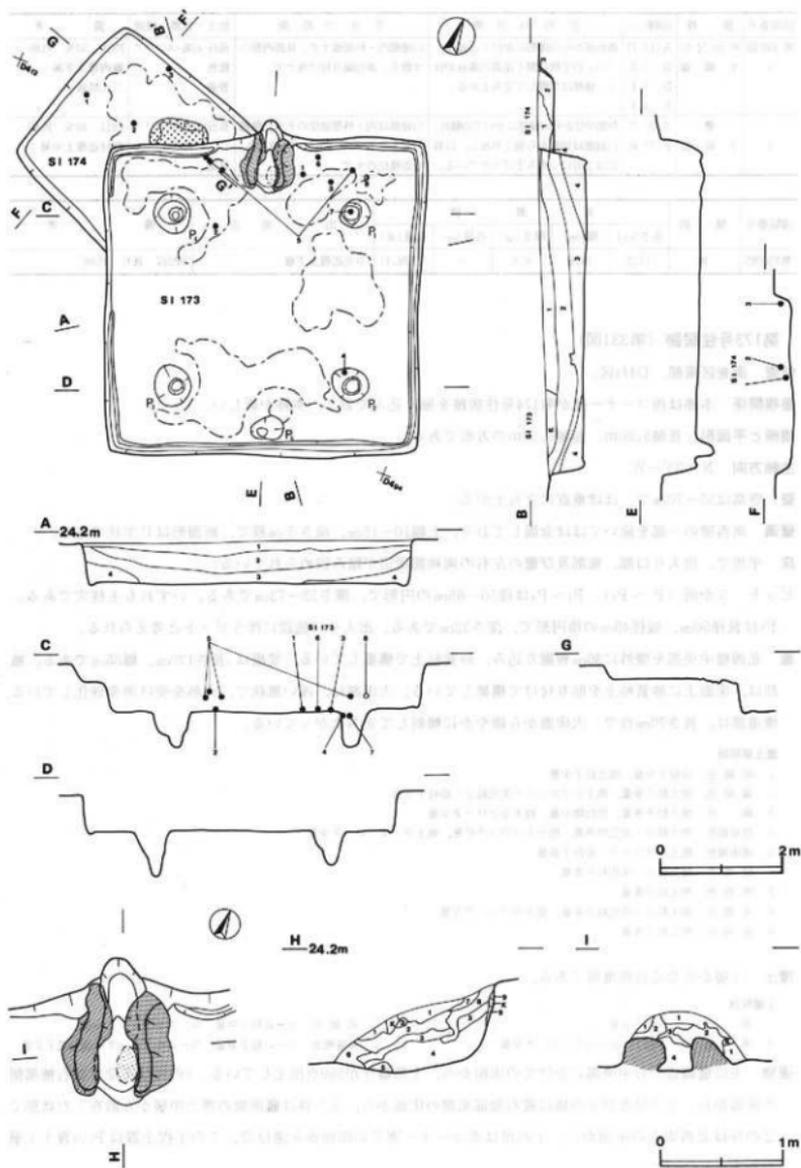
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

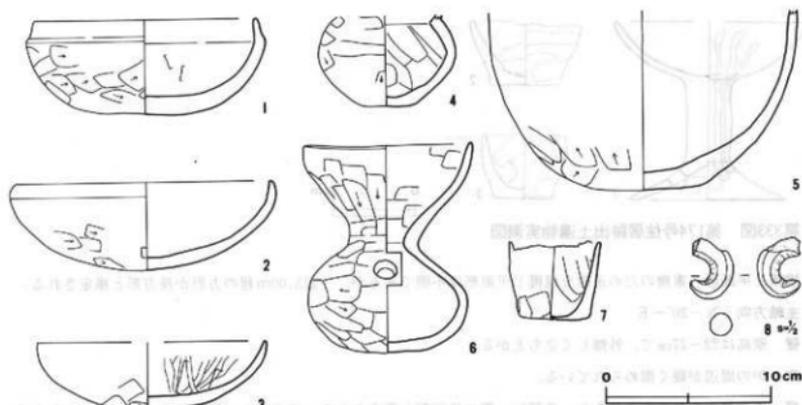
- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 主に甕周辺から中央部にかけての床面から, 土師器片が589点出土している。1の坏は正位で甕右袖部側の床面から, 3の坏及び6の甕は甕右袖部東側の床面から, 5の鉢は甕両側の覆土中層から散在した状態で, 2の坏は北西寄りの床面から, 4の埴は東コーナー寄りの床面から逆位で, 7の手捏土器はP₁の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期(7世紀前半)と思われる。



第331图 第173・174号住居跡実測図



第332図 第173号住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表

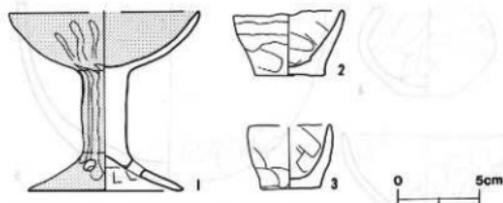
図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 1	土器	A 13.5 B 5.8	凹凸のある丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P812 95% PL89 甕右袖部東側床面 内面割離
	土器	A 15.6 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P813 70% PL90 北西寄り床面 内外面磨付者、二次焼成
3	土器	A (13.9) B 4.2	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ後、一部へラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P814 60% 甕右袖部東側床面
	土器	B (5.5) C 3.1	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ、内面へラナデ。内面に輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P816 70% PL89 東コーナー寄り床面 外面磨付者
5	土器	B (11.0) C 7.8	底面から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ、内面縦位のナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P815 50% 甕周辺覆土中層 二次焼成、外面割離
	土器	A 10.3 B 12.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のへラ削り、内面縦位のへラ削り後ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P817 70% PL90 甕右袖部東側床面
7	手捏土器	A 5.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面に指調王痕が残る。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P818 100% PL90 P ₁ 覆土上層
	土器	B 4.9				
	土器	C 4.2				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)				
第332図8	勺	至	(2.4)	(1.7)	0.9	-	(3.2)	北コーナー部覆土中層	DP268 一部欠損 PL100

第174号住居跡(第331図)

位置 調査区東部、D4区。

重複関係 本跡は、炉から南東部を第173号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。



第333図 第174号住居跡出土遺物実測図

規模と平面形 重複のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺3.00m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 N-20'-E

壁 壁高は22-27cmで、外傾して立ち上がる。

床 炉の周辺が硬く固められている。

炉 中央部から北東寄りにあり、長径90cm程の楕円形と推定される。床面を7cm程掘り窪め、炉床は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 板硝褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |

遺物 土師器片が、壺片を主体に190点が覆土上層から床面にかけて出土している。1の器台は北西壁中央部の覆土下層から横位で、3の手捏土器は北東壁際北コーナー寄りの覆土中層から、2の手捏土器は炉西側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	高 土 師 器	A [11.5]	胴部は中実柱状で、裾部はラッパ状に開く。坯部は内摩して立ち上がり口縁部に至る。裾部に3孔を穿つ。	坯部外面椎い根位のヘラ磨き。内面ナデ。胴部外面縦位のヘラ磨き。裾部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。坯部内・外面及び胴部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P819 70% PL90 北西壁中央部覆土下層 坯部内面刺摩
		B 10.9				
		D 9.4				
		E 7.0				
2	手捏土器 土師器	A 6.7	平底、体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面に指頭圧が残る。体部外面輪積み痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P820 85% PL90 炉西側覆土中層
		B 4.0				
		C 4.2				
3	手捏土器 土師器	A [5.1]	平底、体部は内彎気味に立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P821 90% 北コーナー寄り覆土中層
		B 3.8				
		C 3.6				

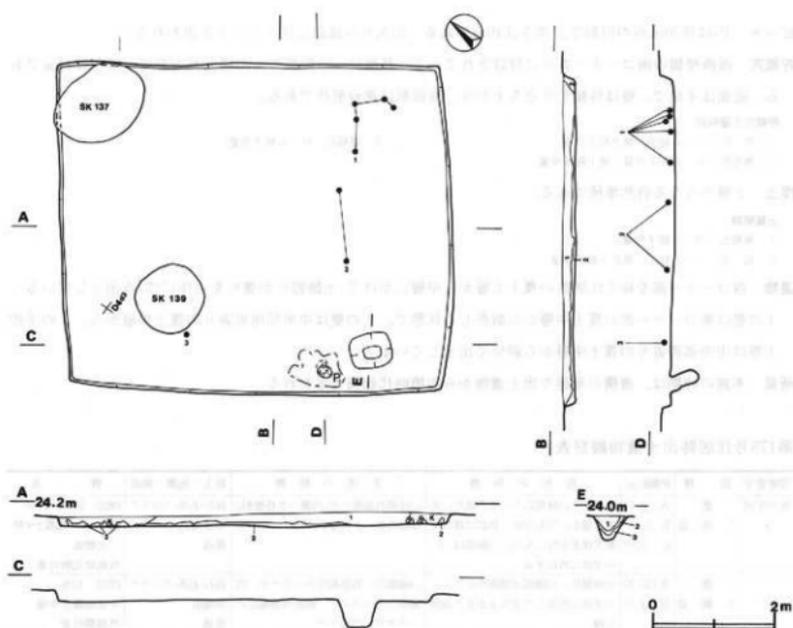
第175号住居跡 (第334図)

位置 調査区東部、D4d区。

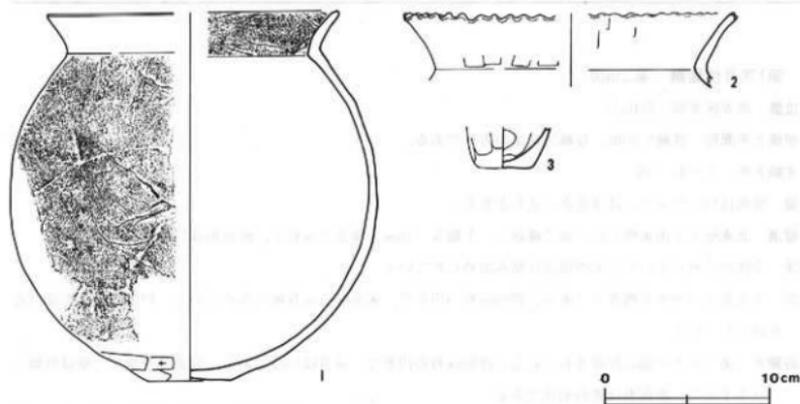
重複関係 本跡は、北コーナー部を第137号土坑に、西部を第139号土坑にそれぞれ掘り込まれており、本跡が最も古い。

規模と平面形 長軸6.32m、短軸5.38mの長方形である。

主軸方向 N-45'-E



第334図 第175号住居跡実測図



第335図 第175号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は13-23cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に軟らかいが、出入り口部は踏み固められている。

ピット P₁は径20cm程の円形で、深さは49cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南西壁側の南コーナー寄りに付設されている。長軸66cm、短軸57cmの隅丸長方形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子多量

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量

遺物 西コーナー部を除く住居跡の覆土上層から中層にかけて、土師器片が甕片を主体に257点出土している。

- 1の甕は東コーナー部の覆土中層から散在した状態で、2の甕は中央部南東寄りの覆土中層から、3の手握土器は中央部西寄りの覆土中層から斜位で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第175号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第335図	甕 土師器	A〔17.7〕	底部から口縁部にかけての破片。底部は僅かに凹む平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部外面横ナデ、内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P822 50% PL90 東コーナー部覆土中層 二次焼成 外面炭化物付着
		B 22.5 C 5.0				
2	甕 土師器	A〔20.3〕	口縁部。口縁部は頸部から「く」の字状に外反して立ち上がる。波状口縁。	口縁部内・外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。頸部外面縦位のヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P823 10% 中央部覆土中層 外面炭化物付着
		B〔4.5〕				
3	手捏土器 土師器	B〔2.5〕	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英 にぶい橙褐色 普通	P824 80% 中央部覆土中層
		C 3.2				

第176号住居跡（第336図）

位置 調査区東部、D4b区。

規模と平面形 長軸5.50m、短軸5.16mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は19~37cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東壁下と南東壁下の一部で確認し、上幅5~10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

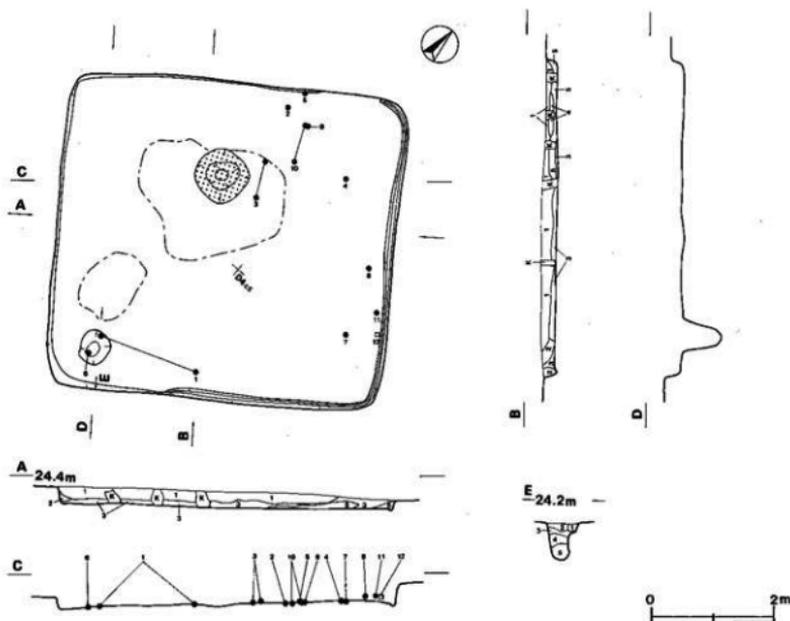
床 全体的に軟らかいが、炉の周辺は踏み固められている。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、径90cm程の円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量
3 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
5 黒色 炭化粒子少量



第336図 第176号住居跡実測図

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

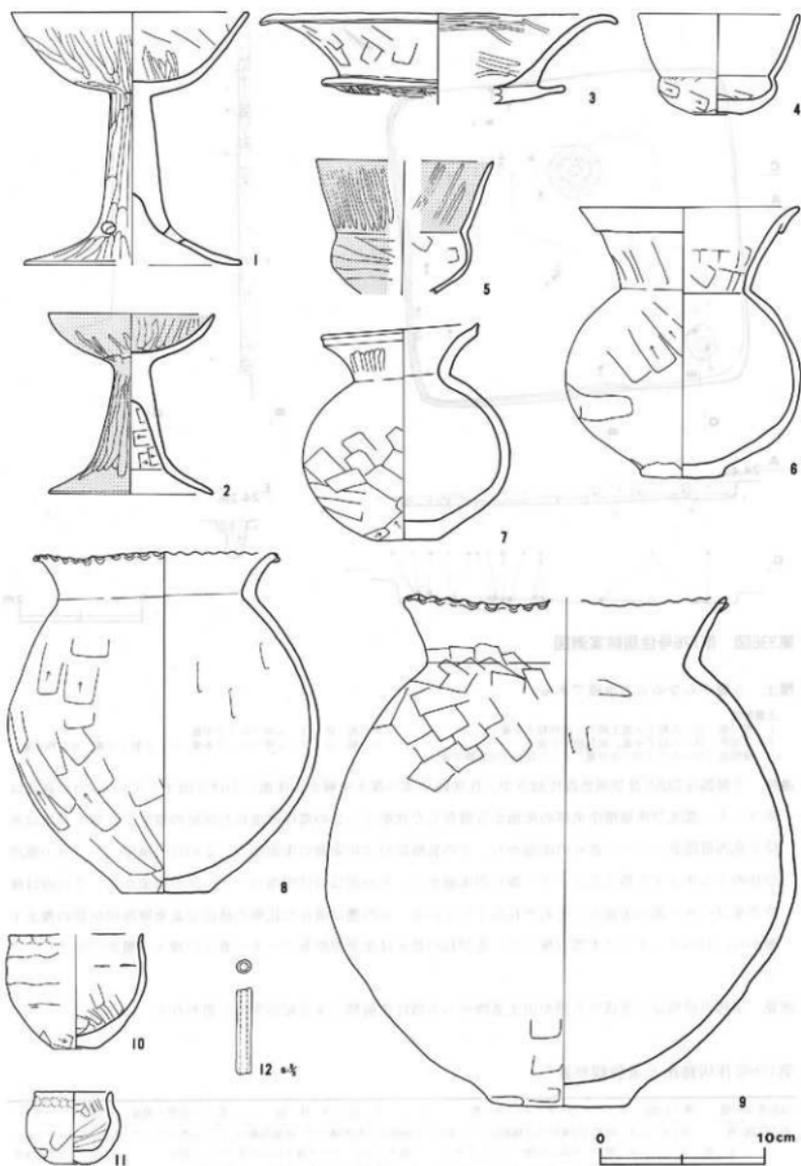
- | | | | |
|-------|-------------------------|------|----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量 | | |

遺物 土師器片722点及び須恵器片32点が、住居跡全体の覆土中層から床面にかけて出土している。1の高坏は南コーナー部及び南東壁中央部の床面から散在した状態で、2の高坏は潰れた状態の横位で及び5の埴は逆位で北西壁際北コーナー寄りの床面から、3の裝飾器台は炉東側の床面から、4の埴（横位で）、9の壺及び10のミニチュア土器は北コーナー寄りの床面から、6の壺は斜位で南コーナー部の床面から、7の壺は横位で東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。8の壺は潰れた状態の横位で北東壁際中央部の覆土下層から、11のミニチュア土器（横位で）及び12の管玉は北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第337図 1	高坏 土師器	A 14.4	胴部は中実柱状で底部はラッパ状に	口縁部内・外面横ナデ。埴部外面へラ磨き、内面へラナデ後下位へラ磨き。埴部外面へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリアに多い褐色 普通	PR25 80% PL90 南コーナー部陥凹床面 埴部外面横ナデ
		B 15.4	開く。埴部は内厚して立ち上がり、			
		D [13.2]	口縁部に至る。裾部に3孔が穿たれている。			
		E 10.3				



第337图 第176号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考		
第377図	高 坏 土 師 器	A 10.1	胴部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面へラ磨き。胴部外面へラ磨き。内面へラ削り。胴部内・外面ナデ。坏部内・外面及び胴部外面赤彩。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P826 90% PL90 北コーナー寄り床面		
		B 11.1						
		D 10.0 E 7.7						
3	狭輪器台 土 師 器	A 21.8 B (5.4)	器受部の破片。器受部は二段作りで下段には張り出しが有り、上段は立ち上がってから大きく外反する。	器受部外面上段丁寧なへラナデ、内面へラ磨き。張り出し部ナデ。下段外面へラ磨き。	長石・石英・スコリア にふい橙色 普通	P827 40% 伊東遺構床面		
		4	増 土 師 器	A 9.8 B 6.1 C 2.9	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面へラナデ。	長石・石英・スコリア にふい橙色 普通	P828 80% PL90 北コーナー寄り床面 外面煤付着
5	増 土 師 器			A (10.7) B (8.2)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり中位から内彎する。口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面縦位のへラ磨き。体部外面悪いへラ磨き。内面へラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア にふい赤褐色 普通	P829 30% 北コーナー寄り床面 外面煤付着
		6	壺 土 師 器	A 13.4 B 16.6 C 5.0	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に胴部から外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面へラ、内面縦位のへラナデ。体部外面へラナデ。内部ナデ。折り返し口縁。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P830 100% PL90 南コーナー床面 赤彩の可塑性有り
7	壺 土 師 器			A 9.5 B 13.2 C 4.0	平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に胴部から外反する。口縁部に弱い壁をもつ。	口縁部つまみ上げ。口縁部外面縦位のへラ磨き。内面ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P831 100% PL90 東コーナー床面 外面煤付着 二次焼成
				8	壺 土 師 器	A 14.9 B 20.8 C 5.0	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に胴部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り後ナデ。内面縦位のへラナデ。
9	壺 土 師 器	A (19.7) B 31.2 C 8.3	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に胴部から外反する。波状口縁。			口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位・下位へラナデ。中位ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・スコリア にふい赤褐色 普通	P833 50% PL91 北コーナー寄り床面 二次焼成
		10	ミニチュア土師器			A (8.2) B 7.0 C 2.8	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	口縁部外面縦位のへラナデ。内面ナデ。体部内・外面へラナデ。内・外面に輪痕み痕が残る。
11	ミニチュア土師器			A (4.8) B 4.4 C 2.4	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、器厚を減しながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び内面上位へラナデ。内面中位一下位ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P835 90% PL90 北東壁階覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第337図12	管 玉	2.6	0.4	0.2	-	0.8	北東壁階東コーナー付近覆土下層	Q106 PL101

第177号住居跡(第338図)

位置 調査区東部, D4c区。

規模と平面形 長軸4.88m, 短軸3.87mの長方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は18-32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に軟らかいが、出入り口部と考えられる南東壁際の中央部が踏み固められている。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径40cm, 短径30cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

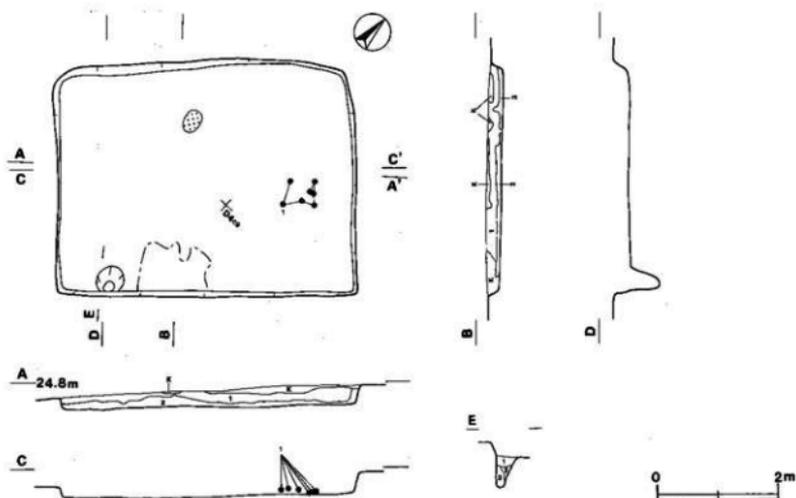
貯蔵穴 南東壁際下の南コーナー寄りに付設されている。径40cm程の円形で、深さは53cmである。底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

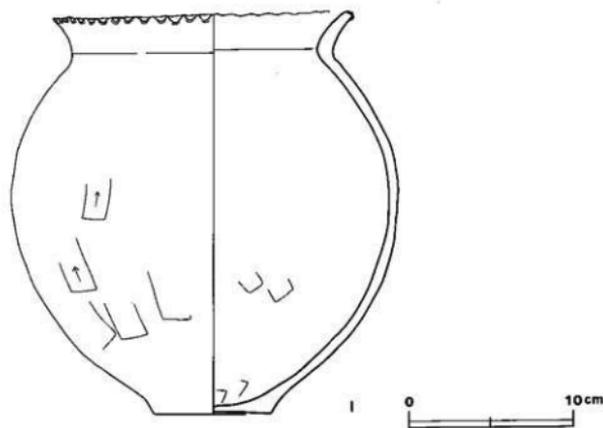
1 黒 色 ローム粒子少量

3 黒 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

2 黒 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量



第338図 第177号住居跡実測図



第339図 第177号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる人為地積である。

土層解説

1 黒色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

遺物 土師器片が、東部及び南・北コーナー部の覆土下層から床面にかけて、41点出土している。1の甕は中央部東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀)と思われる。

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第339図 1	甕	A 18.2	僅かに凹む平底。体部は球形状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦のヘラナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P836 60% P191 中央部コーナー部赤土下層 外側部付着・二次焼成
	土師器	B 24.6				
	土師器	C 7.1				

第178号住居跡(第340図)

位置 調査区中央部, D4c1区。

重複関係 本跡は南東壁が第138号土坑を掘り込み、北東部を第179号住居跡に、北部を第191号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから、第138号土坑より新しく、第179号・191号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.35m, 短軸6.25mの方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は40~48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下の一部を除いてほぼ全周しており、上幅10~15cm, 深さ10cm程で、断面形はU字状である。

床 中央部より周囲が踏み固められ、特に出入り口部は非常に固められている。南東壁下中央部から、住居跡中央部に向かって延びる溝状の落ち込みを確認した。長さ150cm, 上幅50cm程, 深さ5cm程で、断面形は逆台形状である。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径40~60cm, 短径35~55cmの楕円形で、深さ56~74cmである。いずれも支柱穴である。P5は径45cm程の円形で、深さ51cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は中央部から北西寄りにあり、長径65cm, 短径50cmの不整楕円形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉2は中央部から北東寄りにあり、長径50cm, 短径35cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化しており、炉1の炉床には土製炉石が付設されている。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径75cm程の円形で、深さは57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

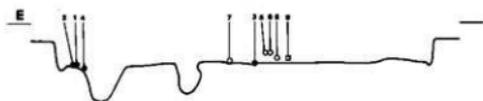
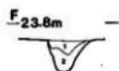
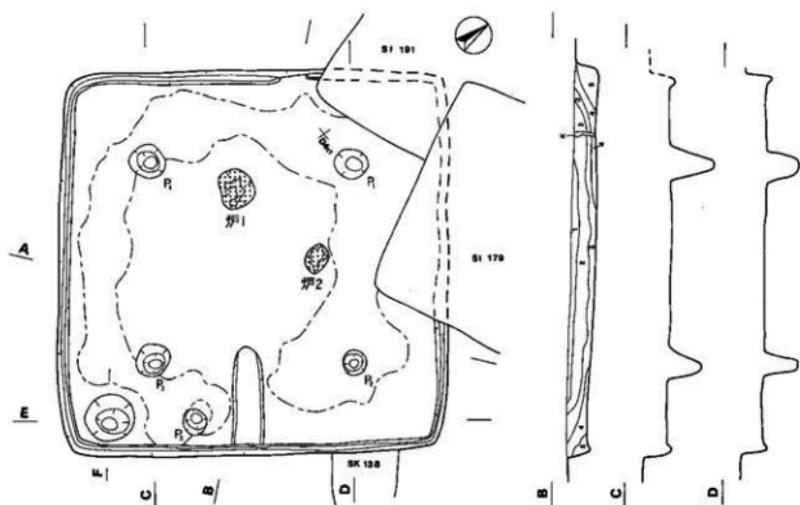
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

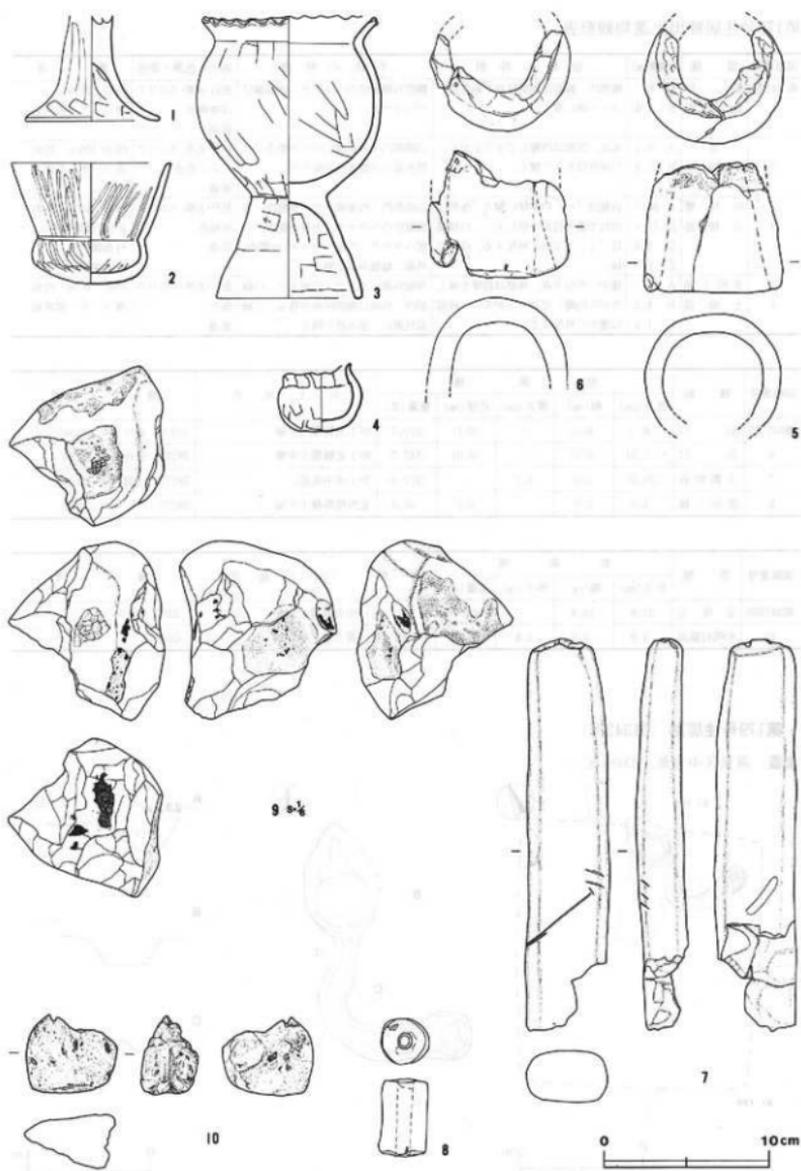
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | | |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量 |

遺物 住居跡全体の覆土中層から床面にかけて、土師器片が784点出土している。また、四方の壁寄りの覆土中層から下層にかけて、多量の炭化材と焼土塊が出土している。1の高坏及び2の埴(横位)は南コーナー部の床面から、3の台付甕は炉1北西側の床面から横位で、4の手捏土器は西コーナー部の床面から正位で、7の土製炉石は炉1の炉床から折れた状態で出土している。また、流れ込みと思われる5・6の羽口は炉1北側の覆土中層から出土している。8の管状土錘は北西壁際覆土下層から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期(4世紀前半)と思われる。



第340图 第178号住居跡実測・出土遺物位置図



第341图 第178号住居跡出土遺物実測図

第178号住居跡出土遺物観察表

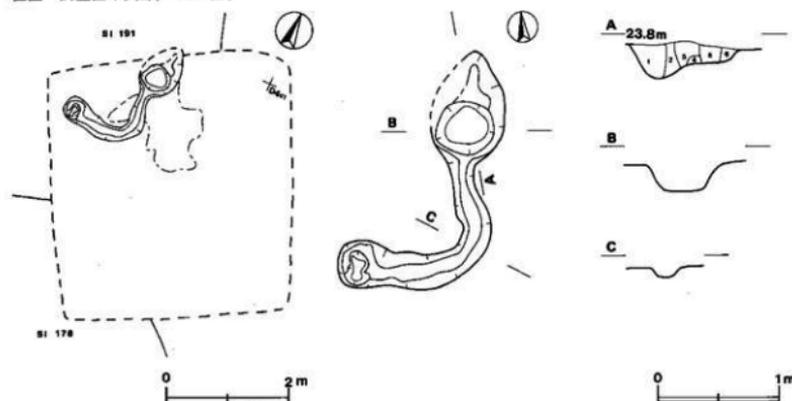
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図	高土師器	D 8.1	脚部片。脚部は中央柱状で脚部はラッパ状に開く。	脚部外面腹位のヘラナデ、内面腹位のヘラナデ。	灰石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	F837 20% 南コーナー部床面
		A 9.2				
		E (6.4)				
2	埴土師器	A 9.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく開く。	口縁部内・外面腹位のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	灰石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	F838 100% PL91 南コーナー部床面
		B 7.3				
3	台付土師器	A 10.7	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面腹位ナデ。体部内・外面腹位のヘラナデ。台部外面ナデ部ヘラナデ、内面ヘラナデ。台部内・外面に輪積み痕が残る。	灰石・石英・スコリア 灰褐色 普通	F839 90% PL91 伊1北西側床面 外面塚付着 二次焼成
		B 17.1				
		D 8.8				
		E 6.2				
4	手捏土師器	A 4.1	僅かに凹む平底。体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。口縁部内・外面に指頭圧痕が残る。口縁部外面に一部爪痕が残る。	灰石・石英・スコリア 褐色 普通	F840 90% PL91 西コーナー部床面
		B 4.2				
		C 1.6				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第341図5	羽口	(8.0)	(8.5)	-	(6.1)	(210.5)	伊1北側覆土中層	DP270 破片 PL96
6	羽口	(7.5)	(8.1)	-	(6.0)	(147.7)	伊1北側覆土中層	DP271 破片 PL96
7	土製卵石	(23.0)	5.0	3.1	-	(377.4)	伊1床中央部	DP272 一部欠損 PL102
8	管状土錘	4.8	2.9	-	0.9	46.8	北西側踏覆土下層	DP273 PL99

図版番号	器種	計測値			石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第341図9	金珠石	21.8	13.9	-	凝灰岩	中央部覆土下層	Q107 PL104
10	不明石製品	4.8	5.6	3.4	凝灰岩	覆土中	Q108

第179号住居跡 (第342図)

位置 調査区中央部, D4b)区。



第342図 第179号住居跡実測図

重複関係 本跡は南西部が第178号住居跡を、北西部が第191号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、本跡が最も新しい。

規模と平面形 削平されており、正確な規模や平面形は不明であるが、長軸4.20m程、短軸3.50m程の長方形と推定される。

主軸方向 (N-30'-W)

床 平坦で、燃焼部前方部が踏み固められている。

燃焼部 北西壁中央部付近に、赤変硬化した部分と焼土を確認した。竈か炉の可能性が考えられる。また、赤変硬化部から「J」状に延びた溝状の落ち込みを確認した。長さ2m程で、1m程南に延びてから直角に西側に折れている。上幅15~30cm、深さ10~20cmで、断面形は逆台形状である。

燃焼部断面土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、焼土小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、焼土小・中ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、焼土小ブロック中量 | 6 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子少量 |

遺物 土師器片が赤変硬化部及び溝状の落ち込みから4点出土しているが、いずれも細片である。また、赤変硬化部から鉄滓1点が、溝状の落ち込みからは砂や小礫が出土している。

所見 本跡は、工房跡の可能性も考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代(10~12世紀)と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

第180号住居跡(第343図)

位置 調査区北部、C3gs区。

規模と平面形 長軸7.00m、短軸6.85mの方形である。

主軸方向 N-34'-W

壁 壁高は45~67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅8~14cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

床 竈周辺、出入り口部及び北東壁寄りの部分が踏み固められている。全体的に平坦であるが、中央部に長径100cm、短径80cm、深さ12cm程の落ち込みがある。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径25cm程の円形で、深さ48~51cmである。いずれも主柱穴である。

P₅は径50cm程の円形で、深さ43cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 屋外部が削平されており、正確な規模については不明であるが、北西壁中央部を壁外に掘り込み、砂質粘土で構築している。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築し、幅100cmである。火床部は、浅い皿状で、火熱を受け赤変硬化している。

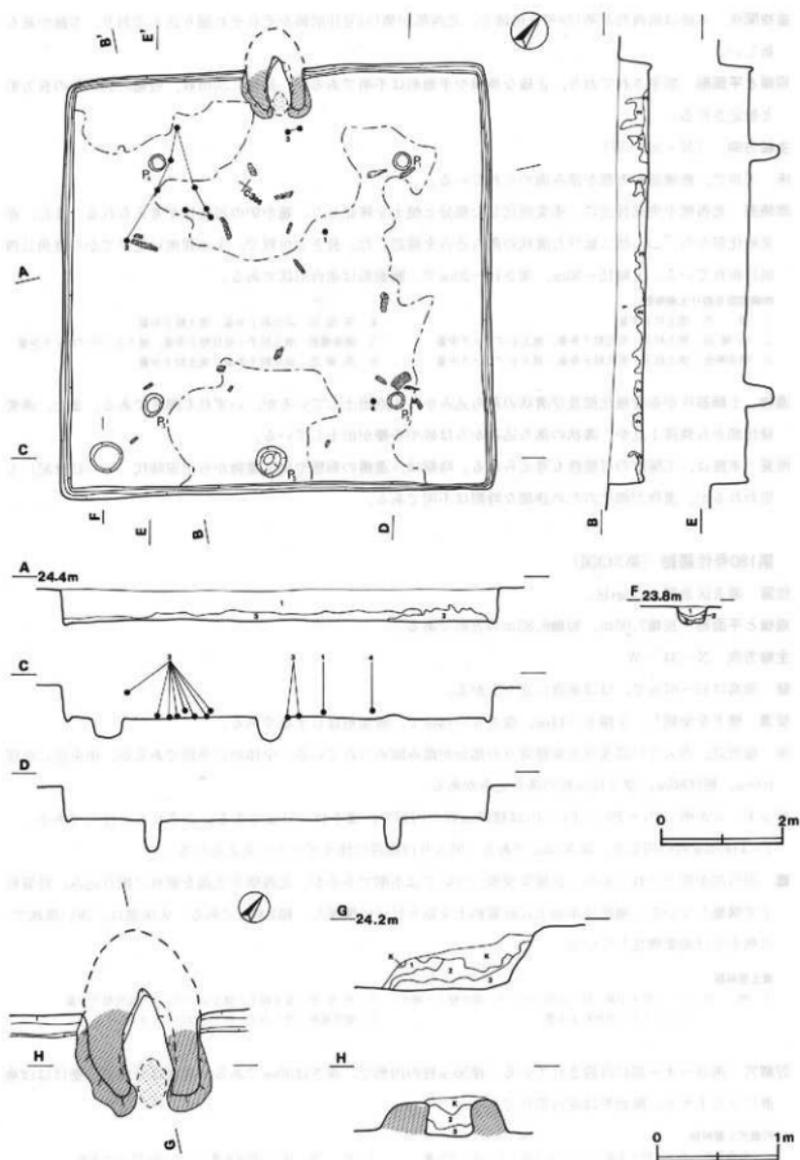
竈土層解説

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 2 赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| | 3 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量 |

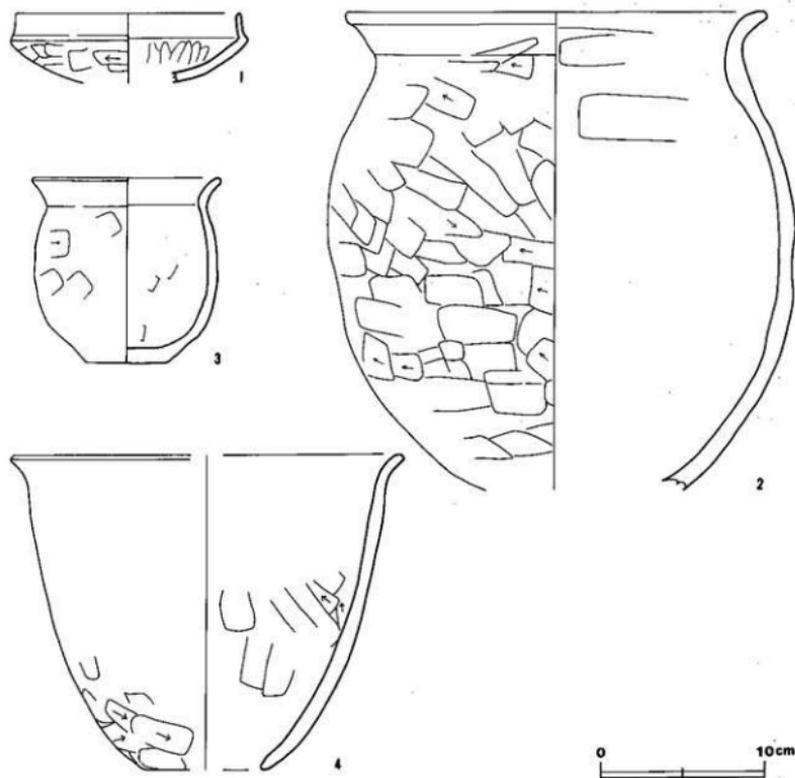
貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径50cm程の円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 明黄褐色 ローム粒子多量、ローム小・中・大ブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黄褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 | |



第343图 第180号住居跡实测图



第344図 第180号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 住居跡全体の覆土下層から床面にかけて、土師器が296点出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の坏は中央部の覆土下層から、2の甕は西コーナー寄りの床面から散在した状態で、3の小形甕は竈前方の床面から、4の瓶は東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第180号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第344図	土 罎 器	A 13.7, B (4.2)	体部下位欠損。体部は内彎し、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面縦位の埋いへつ磨き。	長石・石英・スコリアにぶい黄褐色 普通	P841 30% 中央部覆土下層 外面薬付着
2	甕 土 罎 器	A 25.6, B (29.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、最大径を上位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P842 70% FL91 西コーナー寄り床面
3	小形甕 土 罎 器	A 11.5, B 11.3, C 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P843 70% FL91 電筒方床面、外面薬付着 外面割離、二次焼成
4	甕 土 罎 器	A (23.9), B 19.2, C (7.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P844 40% FL91 東コーナー寄り覆土下層

第181号住居跡 (第345図)

位置 調査区北部, C3b区。

重複関係 本跡は、第190号住居跡の上に構築しており、本跡が新しい。

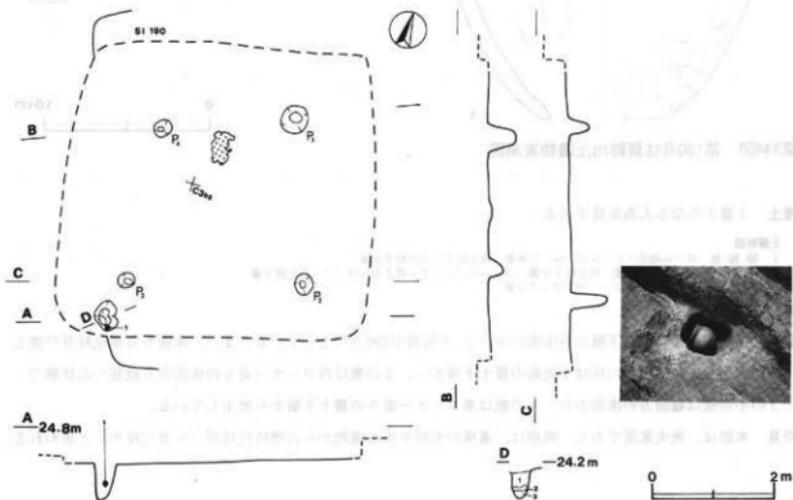
規模と平面形 重複と削平のため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.50m程の方形か長方形と推定される。

主軸方向 [N-15°-W]

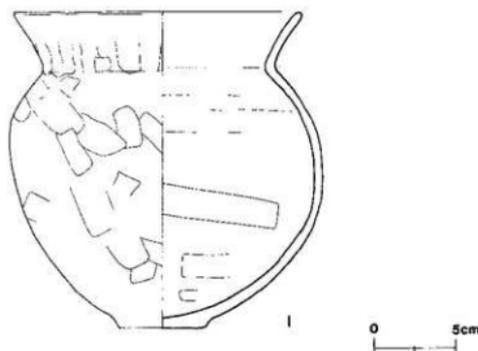
壁 耕作による削平のため、壁は確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は削平されている。

ピット 4か所 (P₁-P₄)。P₁-P₄は径30-45cmの円形で、深さ27-62cmである。いずれも支柱穴と考えられる。



第345図 第181号住居跡実測図



第346図 第181号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径50cm、短径35cmの不定形で、床面を10cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南嶺部の南西コーナー寄りに付設されている。長径50cm、短径35cmの楕円形で、深さは65cmである。

底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状に近い。

貯蔵穴土層解説

- 1 陶褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
 2 灰色 粘土多量
 3 陶灰色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量

覆土 削平のため堆積状況は不明である。

遺物 貯蔵穴及び南西コーナー部の床面から、土師器の甕及び瓷片が181点出土している。1の甕は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第181号住居跡出土遺物観察表

図収番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第346図	甕	A 17.5	平底、体部は内壁し、最大径を中位	口縁部内・外面横ナデ、体部外面へ	長心・石英・スコリア	F845 100% PL92
1	土師器	B 19.4	にもつ、口縁部は「く」の字状に外	削り後ナデ、内面横位のヘラナデ。	褐色	貯蔵穴覆土中層
		C 5.2	反する。	体部内面に輪積み痕が残る。	普通	外面裏面付着、二次焼成

第182号住居跡（第347図）

位置 調査区北部、B3i区。

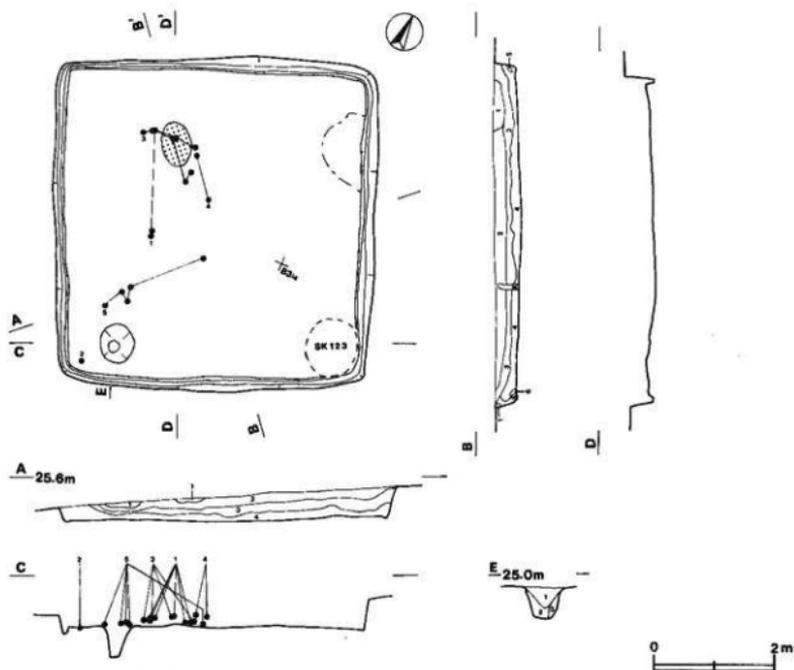
重複関係 本跡は、東コーナー部が第123号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.45m、短軸5.25mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は32~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅10~15cm、深さ10cm程で、断面形はU字状である。



第347図 第182号住居跡実測図

床 全体的に軟らかいが、出入り口部と考えられる部分が踏み固められている。

炉 中央部からやや北西寄りにあり、長径70cm、短径45cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径66cm、短径55cmの楕円形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

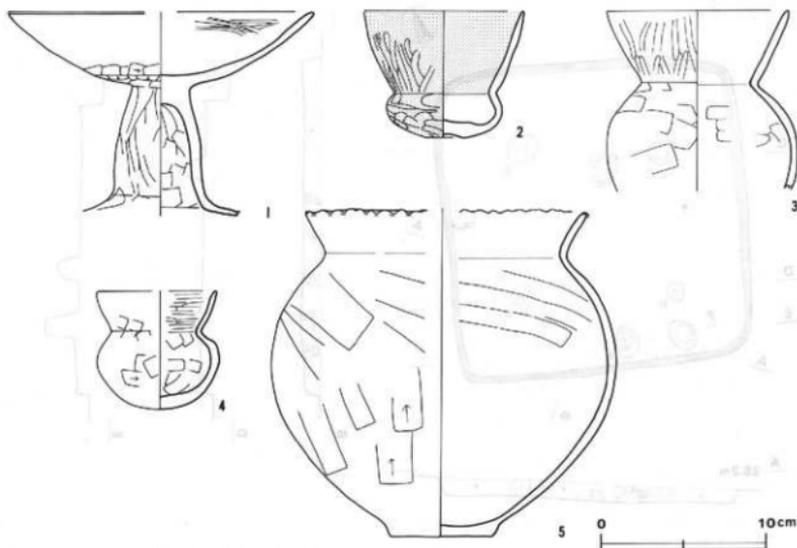
- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・黒色粒子多量 |

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 東部を除く覆土中層から床面にかけて、土師器片203点が出土している。1の高坏は中央部の覆土下層から、2の埴は南コーナー部の床面から正位の状態で、3及び4の埴は炉周辺の覆土中層から、5の甕は南コーナー寄りの床面から出土している。



第348図 第182号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

調査実施機関：奈良県教育委員会

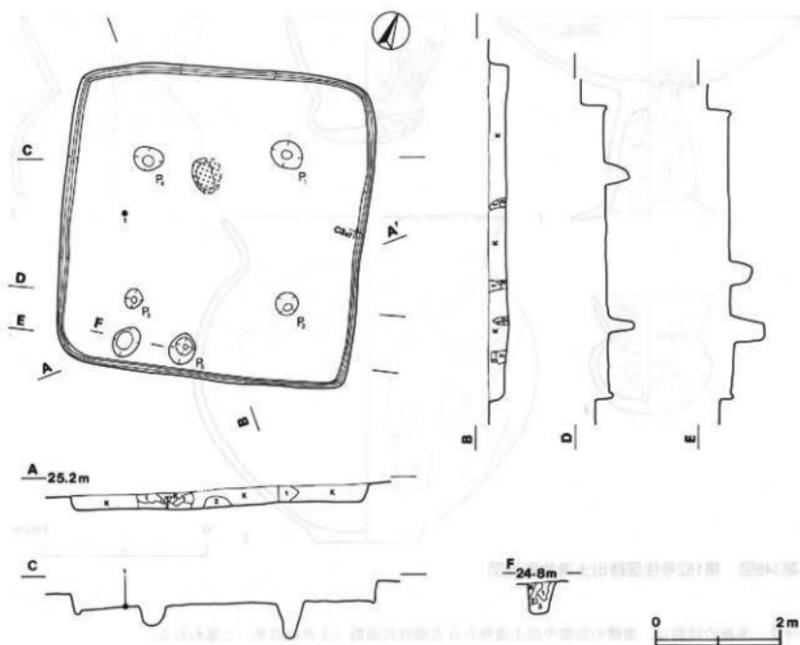
第182号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第348図 1	高土師器	A (18.6) B (12.4) E (7.7)	脚部から環部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。環部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	環部外面下位ヘラナデ、内面上位ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P846 50% 中央部覆土下層
2	埴土師器	A 9.7 B 7.7 C 2.3	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁端部内・外面ナデ。口縁部外面ヘラ磨き、内面ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P847 100% PL92 南コーナー部床面 内面刺離
3	埴土師器	A 11.0 B (11.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎する。口縁部は外傾して開く。	口縁部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P848 50% PL92 炊具辺覆土中層
4	埴土師器	A (7.3) B 7.3	丸底。体部は球形で最大径をやや上位に持つ。口縁部は「く」の字状に立ち上がる。	口縁部外面ヘラナデ、内面横位のヘラ磨き。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい赤褐色 普通	P849 70% 炊具辺覆土中層
5	甕土師器	A (17.1) B 19.8 C 6.2	平底。体部は球形で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に頸部から外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P850 40% PL92 南コーナー付近床面 二次焼成

第183号住居跡（第349図）

位置 調査区北部，C3a7区。

規模と平面形 長軸5.05m，短軸4.90mの方形である。



第349図 第183号住居跡実測図

主軸方向 N-15'-W

壁 壁高は22~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅5~10cm、深さ7cm程で、断面形はU字状である。

床 全体的に耕作による攪乱を受け軟らかいが、出入り口部が硬く踏み固められている。

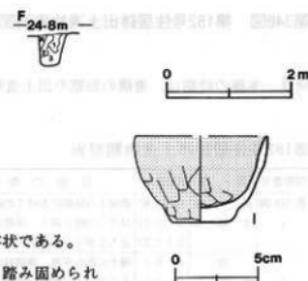
ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径35~55cm、短径30~40cmの楕円形で、深さ34~58cmである。いずれも主柱穴である。P₅は径45cm程の円形で、深さ40cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径45cmの不整楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南壁際の南コーナー寄りに付設されている。長径55cm、短径40cmの楕円形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 藍褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量



第350図 第183号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、炭化粒子少量

遺物 耕作による攪乱を受けているが、土師器片306点が、主に南部の覆土中から床面にかけて出土している。

1のミニチュア土器は南西壁中央部寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第183号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図	ミニチュア土器	A [5.0]	平底。体部は内彎して立ち上がり、	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ	長石・石英・スコリア	PBS1 60% PL92
1	土師器	B 5.3 C 3.6	口縁部に至る。	ラ削り後ナデ、内面下半へラナデ。 内・外面赤彩。	赤い橙色 普通	南西壁中央部寄り床面

第184号住居跡 (第351図)

位置 調査区北部, C31e区。

規模と平面形 耕作による攪乱のため正確な規模と平面形は不明であるが、長軸3.50m程の方形と推定される。

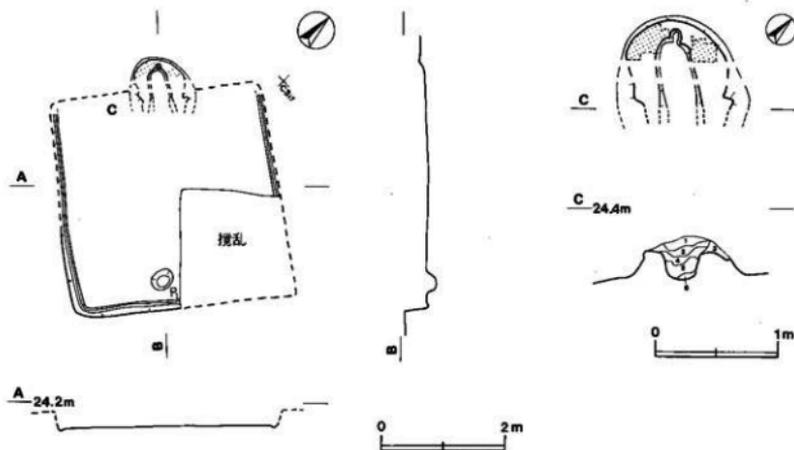
主軸方向 N-49°-W

壁 壁高は6~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東壁下、南東壁下及び南西壁下のそれぞれ一部に確認され、上幅5~10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 耕作による攪乱のため遺存状態が悪く、硬化部は確認できなかった。

ピット P1は径30cm程の円形で、深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。



第351図 第184号住居跡実測図

■ 北西壁中央部付近に、赤変硬化した火床部の一部と構築材の粘土が僅かに残っている。

■ 土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化物少量 |

■ 覆土 耕作による攪乱と重複のため、堆積状況は不明である。

■ 遺物 土師器片が甕片を主体に121点出土しているが、いずれも細片である。

■ 所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代（10～12世紀）と思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

■ 第185号住居跡（第352図）

■ 位置 調査区北部、C4g区。

■ 規模と平面形 長軸3.30m、短軸3.10mの方形である。

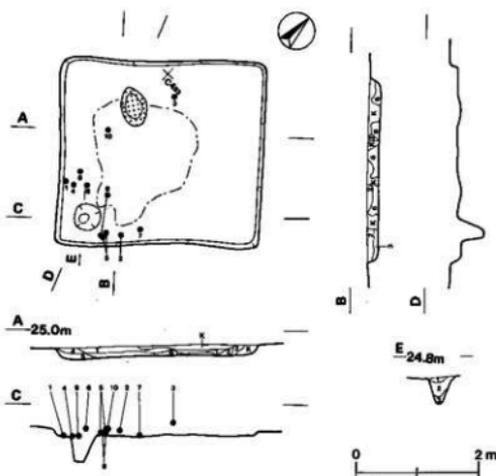
■ 主軸方向 N-40°-W

■ 壁 壁高は9～20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

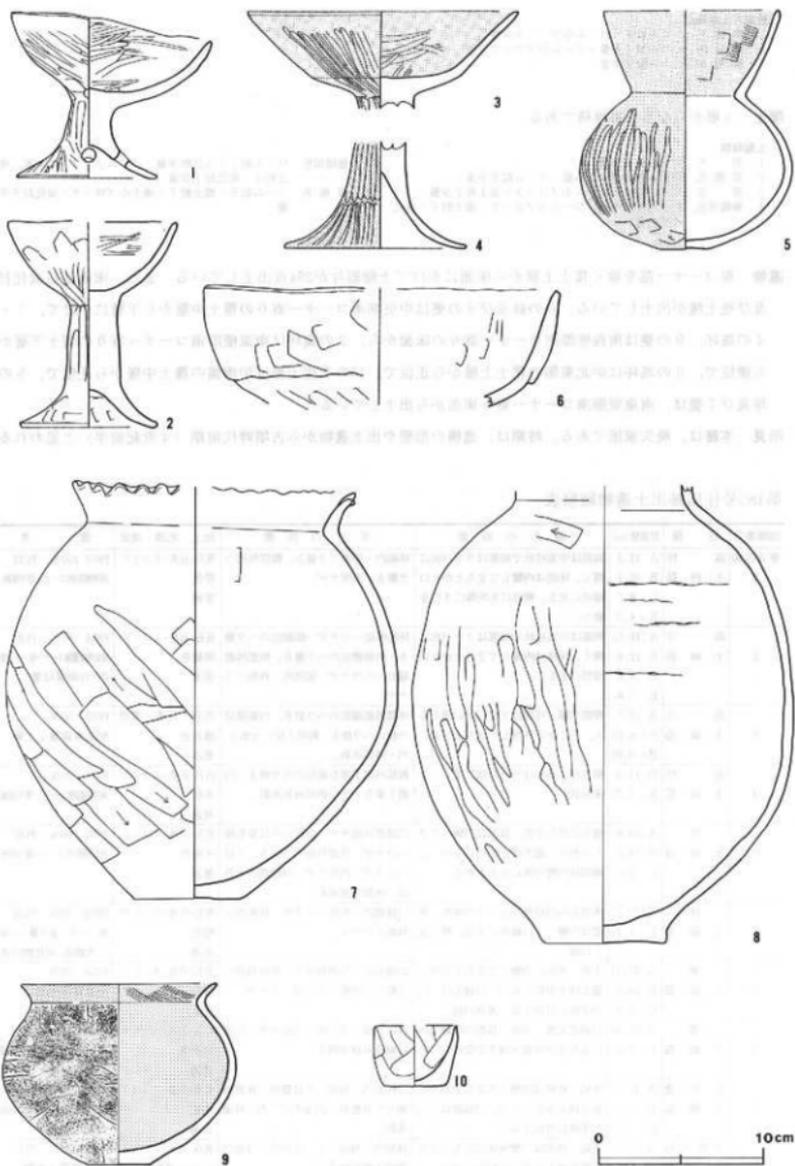
■ 床 炉の周囲を含む中央部が踏み固められている。

■ 炉 中央部から西寄りであり、長径60cm、短径40cmの楕円形で、床面を7cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

■ 貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径45cm程の円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。



第352図 第185号住居跡実測図



第353图 第185号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 2 黒褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量
 3 黒褐色 ローム粒子少量

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量 5 暗褐色 ローム粒子・炭化物多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 2 黒褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量
 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子多量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 東コーナー部を除く覆土上層から床面にかけて土師器片が284点出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。6の鉢及び8の甕は中央部南コーナー寄りの覆土中層から下層にかけて、1・4の高坏、9の甕は南西壁断南コーナー寄りの床面から、2の高坏は南東壁断南コーナー寄りの覆土下層から横位で、3の高坏は炉北東側の覆土上層から正位で、10の手捏土器は炉南側の覆土中層から正位で、5の埴及び7甕は、南東壁断南コーナー寄り床面から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀前半）と思われる。

第185号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353号 1	高土師器 坏	A 12.3	胴部は中央柱状で裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。裾部に不均等に3孔を穿つ。	坏部内・外面ヘラ磨き。胴部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P853 100% PL92 南東壁断コーナー寄り床面
		B 10.1				
		D 8.7 E 4.7				
2	高土師器 坏	A [10.5]	胴部は中央柱状で裾部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面ヘラナデ一部縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラ磨き。胴部外面縦位のヘラナデ。胴部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P854 80% PL92 南東壁断コーナー寄り土層内・外実床付着
		B 12.6				
		D 8.6 E 7.6				
3	高土師器 坏	A 16.7	胴部欠損。坏部は下位に鋭い稜をもち、そこから外側して立ち上がる。	坏部外面縦位のヘラ磨き、内面横位の粗いヘラ磨き。胴部上位ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 暗赤色 普通	P855 50% 炉北東側覆土上層
		B (6.0) E (0.8)				
4	高土師器 坏	D 11.3	胴部片。裾部はラッパ状に開く。中央柱状。	胴部外面丁寧な縦位のヘラ磨き、内面丁寧なナデ。胴部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P856 30% 南東壁断コーナー寄り床面
		E (6.5)				
5	土師器 埴	A [10.8]	僅かに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面ナデ、内面ハケ目整形後ヘラナデ。体部外面ヘラ磨き。下位ヘラナデ。内面ナデ。口縁部内・外面、体部外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P857 90% PL92 南東壁断コーナー寄り床面
		B 14.6				
		C 3.0				
6	鉢 土師器 鉢	A [22.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して口縁部に至る。折り返し口縁。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P858 20% PL92 南コーナー寄り覆土中層二次焼成。炭化物付着
		B (7.1)				
7	甕 土師器 甕	A [17.3]	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨り、内面ナデ一部ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P858 70% 南東壁断床面
		B 24.9				
		C 6.6				
8	甕 土師器 甕	B [28.0]	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。内面に輪轆み痕が残る。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P859 60% 南コーナー寄り覆土下層 外面実床付着
		C 7.6				
9	小形土師器 埴	A 12.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P860 80% PL92 南東壁断コーナー寄り床面 内面横位
		B 11.0				
		C 3.8				
10	手捏土器 土師器 土師器	A (5.1)	平底。体部は内彎気味に立ち上がり器頸を減しながら口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部内・外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・スコリア ぶい黄褐色 普通	P861 70% PL92 炉南側覆土中層
		B 3.7				
		C 3.6				

第186号住居跡 (第354図)

位置 調査区北部, C4c区。

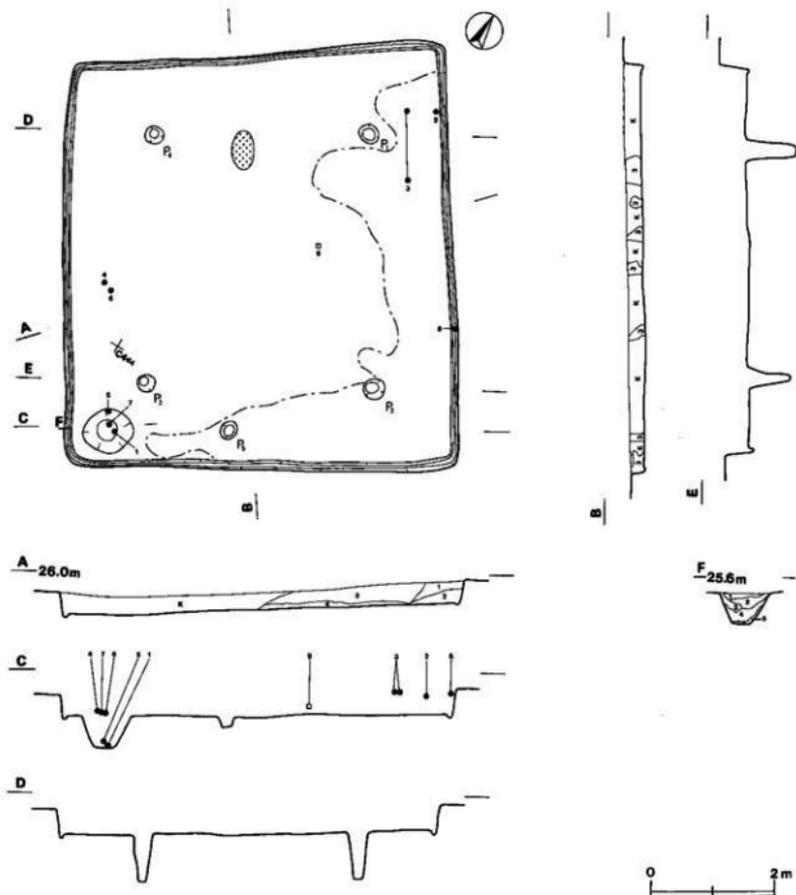
規模と平面形 長軸6.70m, 短軸6.30mの方形である。

主軸方向 N-31°-W

壁 壁高は24-55cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し, 上幅5-10cm, 深さ5-10cmで, 断面形はU字状である。

床 出入口部を含む住居跡の東部が, 硬く踏み固められている。



第354図 第186号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径30cm程の円形で、深さ67~81cmの主柱穴である。P₅は径30cm程の円形で、深さ18cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径60cm、短径35cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径80cm、短径60cmの楕円形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化材中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・炭化材中量、ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量



第355図 第186号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量,炭化粒子・炭化物中量,ローム小ブ 3 黒褐色 ローム粒子中量,ローム小ブブロック・焼土粒子少量
 ロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブブロック少量 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブブロック中量,炭化粒子少量

遺物 西部を除く覆土上層から床面にかけて土師器片が318点出土している。また、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて、炭化材及び焼土塊が出土している。2・3の高坏は北コーナー部の覆土上層から、4の高坏及び6の埴(横位)は南西壁際南コーナー寄りの床面から、8のミニチュア土器は北東壁際東コーナー寄りの覆土上層から、1の椀(正位)及び5の埴(斜位)は貯蔵穴の底面から、7のミニチュア土器(逆位)は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 本跡は、焼失家屋である。時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀前半)と思われる。

第186号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第355図 1	土師器 椀	A(12.1)	凹凸のある平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へつ削り後ナデ、内面横位のヘラナデ。	長石・石英・スコリアにふい橙色	P862 70% PL92 貯蔵穴底面	
		B 4.9			普通		
		C 5.8					
2	高土師器 坏	A(20.4)	脚部から口縁部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は外反気味に立ち上がり下位に梗をもち、更に外反して大きく開き口縁部に至る。	坏部外面上半へり磨き、下半ヘラナデ、内面ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ、内面横位のヘラナデ。裾部外・内面ナデ。器粗いへり磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにふい橙色	P863 50% 北コーナー部覆土上層 坏部内面割離 二次焼成	
		B 14.8			普通		
		D(17.1)					
		E 9.2					
3	高土師器 坏	A 16.6	脚部から口縁部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は水平に開き更に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き、内面縦位のヘラナデ。裾部内・外面ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリアにふい橙色	P864 60% PL93 北コーナー部覆土上層	
		B(13.3)			普通		
		E(8.4)					
4	高土師器 坏	D 12.1	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラ削り、裾部内・外面ヘラナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア褐色	P865 40% 南西壁際コーナー部床面 外面係付着	
		E(8.9)			普通		
5	土師器 埴	A 9.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁部外面上半ナデ、下半ヘラナデ、内面ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにふい赤褐色	P866 100% PL93 貯蔵穴底面 内・外面係付着	
		B 9.4			普通		
		C 3.9					
6	土師器 埴	A(8.8)	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。	口縁部外面ヘラナデ、内面ナデ。一部ハケ目痕が残る。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにふい橙色	P867 90% PL92 南西壁際コーナー部床面	
		B 8.3			普通		
		C 4.6					
7	ミニチュア土師器 土師器	A 7.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり器厚を減じながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面に指痕圧痕が残る。体部内・外面に輪積み痕が残る。	長石・石英・雲母にふい橙色	P868 100% PL92 貯蔵穴覆土上層 外面係付着、二次焼成	
		B 4.6			普通		
		C 5.0					
8	ミニチュア土師器 土師器	A(8.8)	僅かに丸みのある平底。体部は内彎気味に立ち上がり器厚を減じながら口縁部に至る。	体部外面へつ削り後ナデ。内面上半横ナデ、下半縦位の粗いナデ。	長石・石英・スコリアにふい黄褐色	P869 60% 北壁際コーナー部覆土上層 内面割離	
		B 3.6			普通		
		C 5.0					

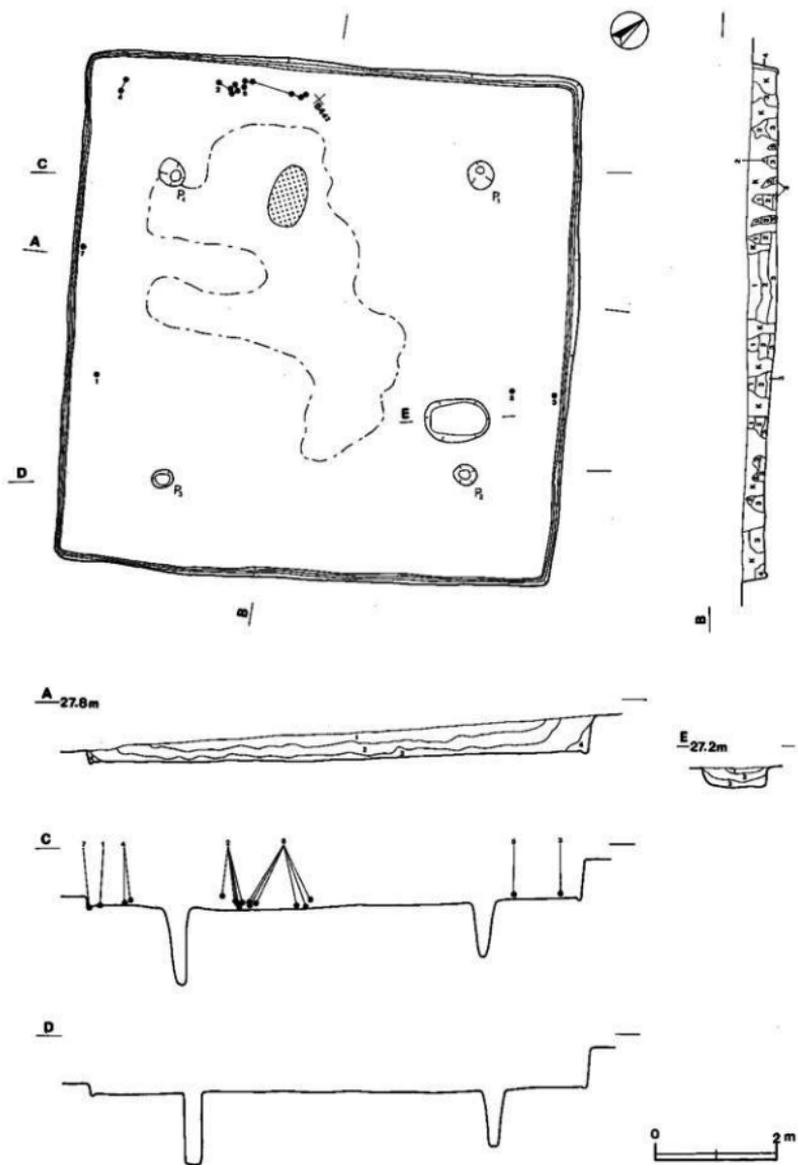
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)			
第355図9	打製石斧	13.6	7.4	5.0	661.8	硬砂岩	中央部覆土下層	Q109 PL104

第187号住居跡(第356図)

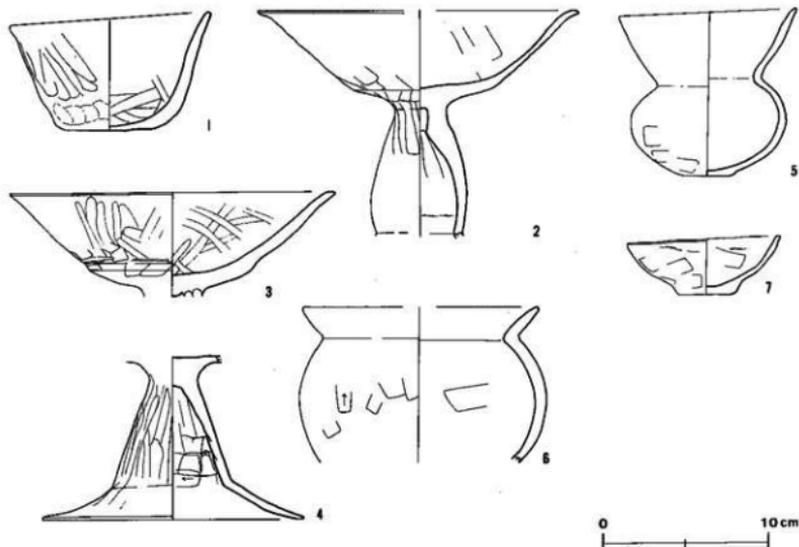
位置 調査区北部, B4ds区。

規模と平面形 長軸8.40m, 短軸8.32mの方形である。

主軸方向 N-45°-W



第356图 第187号住居跡実測图



第357図 第187号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は18～66cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅5～10cm、深さ5cm程で、断面形はU字状である。

床 炉の周囲を含む住居跡中央部が硬く踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁～P₄)。P₁～P₄は径30～40cmの円形で、深さ90～125cmの支柱穴である。

炉 中央部から北西寄りであり、長径100cm、短径55cmの長楕円形で、床面を5cm程掘り盛めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 住居跡東部、P₂の北西側に付設されている。長軸105cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 淡褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック・炭化粒子少量

遺物 主に、四方の壁寄りの覆土下層から床面にかけて、土器器片が486点出土している。また、床面から炭化材及び焼土塊が出土している。1の塊は南西壁際南コーナー寄りの床面から正位で、2～4の高坏は、2が北西壁際西コーナー寄り、3が北東壁際中央部、4が西コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。5の埴は貯蔵穴北側の覆土下層から横位で、6の埴は炉北西側の覆土下層から散在した状態で、7のミニチ

エア土器は南西壁際中央部の床面から逆位で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第187号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357回 1	土 師 器	A 12.2	僅かに凹凸のある平底。体部は内脚 気味に立ち上がり、口縁部は僅かに 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 中位から上段ヘラナデ、下位ヘラ割 り。体部内面下位幅広のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 棕色 普通	P870 90% PL99 南西壁際コーナー寄り床面 二次焼成。内・外面磨付着
		B 7.2				
		C 5.1				
2	高 土 師 器	A(19.4)	頸部欠損。脚部はラッパ状に開く。 環部は下位に僅かに稜をもち、そこ から外傾して立ち上がる。	環部外面ナデ一部丁寧なヘラナデ、 内面ナデ。脚部外面ヘラ磨き、内面 ナデ。脚部内面に輪積み痕が残る。	長石・石英・スコリア 棕色 普通	P871 50% 北西壁際コーナー寄り土層
		B(13.7)				
		E(7.7)				
3	高 土 師 器	A 19.8	脚部欠損。内脚気味に立ち上がり、 口縁部に至る。下位に稜をもつ。	環部外面上半ヘラ磨き、下半ヘラナ デ。内面粗いヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい棕色 普通	P872 50% 北東壁際中央部埋土下層 内面磨成。スコリア多量
		B(6.2)				
4	高 土 師 器	B(10.0)	環部欠損。脚部はラッパ状に開く。 環部内・外面ナデ。内面に輪 積み痕が残る。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラ ナデ。環部内・外面ナデ。内面に輪 積み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい棕色 普通	P873 40% 西コーナー部埋土下層 内面磨成
		D 15.9				
		E 8.7				
5	塔 土 師 器	A 10.7	平底。体部は内脚して立ち上がり、 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半 ナデ、下半ヘラ割り後ナデ、内面ナ デ。	長石・石英・スコリア 明黄褐色 普通	P874 100% PL93 貯蔵穴北側埋土下層 内面磨成
		B 10.3				
		C 3.0				
6	壺 土 師 器	A(14.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。 体部は球状で口縁部は「く」の字状 に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ ラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 棕色 普通	P875 40% P876 100% PL93 伊北西側埋土下層 灰化層・磨付着・二次焼成
		B(9.5)				
7	ミナツト土 土 師 器	A 9.2	平底。体部は内脚して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ヘラ割り後ナデ。内・外面に輪積 み痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい棕色 普通	P876 100% PL93 南西壁際中央部床面
		B 3.6				
		C 3.4				

第188号住居跡（第358回）

位置 調査区北部、B3b3区。

規模と平面形 長軸6.60m、短軸6.50mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は39~72cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅5~10cm、深さ5~10cm程で、断面形はU字状である。

床 出入り口周辺が硬く踏み固められている。

ピット 5か所（P₁-P₅）。P₁-P₄は径25~35cmの円形で、深さ76~82cmである。いずれも支柱穴である。

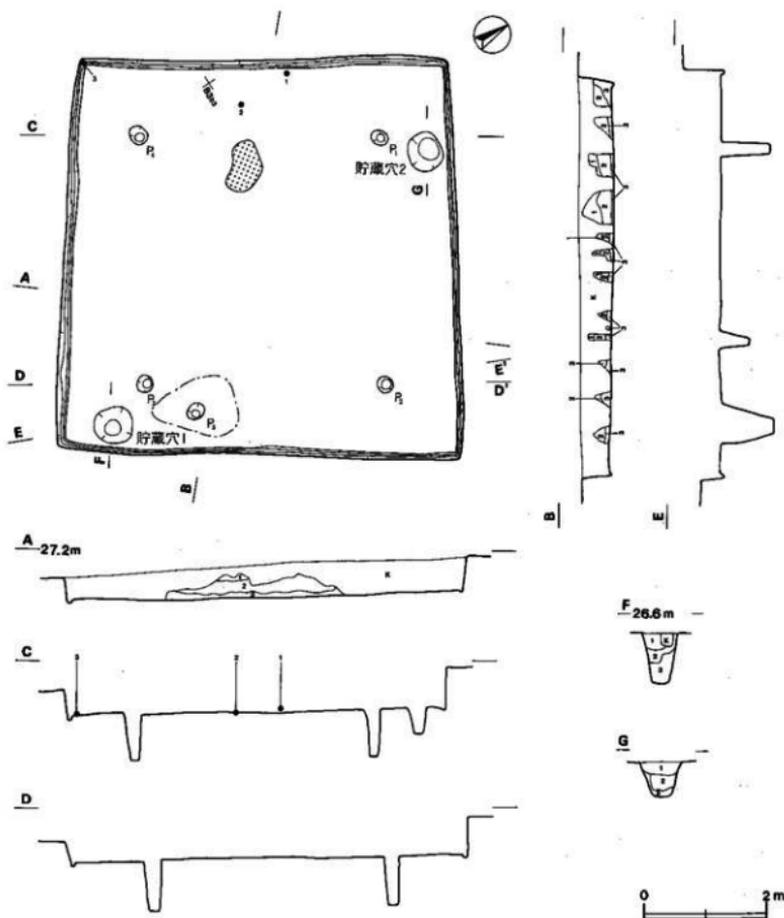
P₅は径25cmの円形で、深さ47cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北西寄りにあり、長径85cm、短径50cmの不整形円形で、床面を7cm程掘り盛めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁際の南コーナー付近に付設されている。径65cm程の円形で、深さは86cmである。貯蔵穴2は北東壁際の北コーナー付近に付設されている。長径65cm、短径55cmの楕円形で、深さは55cmである。いずれも底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量



第358図 第188号住居跡実測図

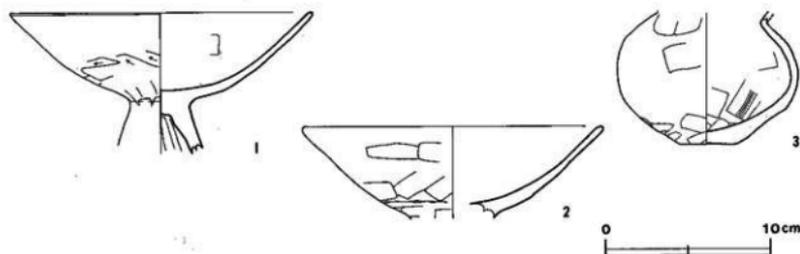
貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子, 炭化物中量, 焼土粒子少量



第359図 第188号住居跡出土遺物実測図

遺物 北東壁側を除く、三方の壁寄りの覆土中層から床面にかけて土師器片が183点出土している。1の高坏は北西壁際中央部の覆土下層から、2の高坏は炉北西側の床面から、3の甕は西コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第188号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	高土坏	A 18.5	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面上位ナデ、中位から下位ヘラナデ。内面丁寧ナデ。脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P877 50% 北西壁際中央部覆土下層 内面創痕
	高土坏	B (8.6) E (2.9)				
2	高土坏	A 18.3	坏部片。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面横位のヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P878 40% 炉北西側床面
	土師器	B (5.6)				
3	小形甕	B (8.0)	口縁部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。内面に靱いハケ目痕が残る。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P879 60% 西コーナー部床面
	土師器	C 3.5				

第189号住居跡（第360図）

位置 調査区北部、B3h区。

規模と平面形 長軸7.80m、短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は32~47cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 耕作による攪乱のため、床の遺存状態が悪く、硬化面は確認できなかった。

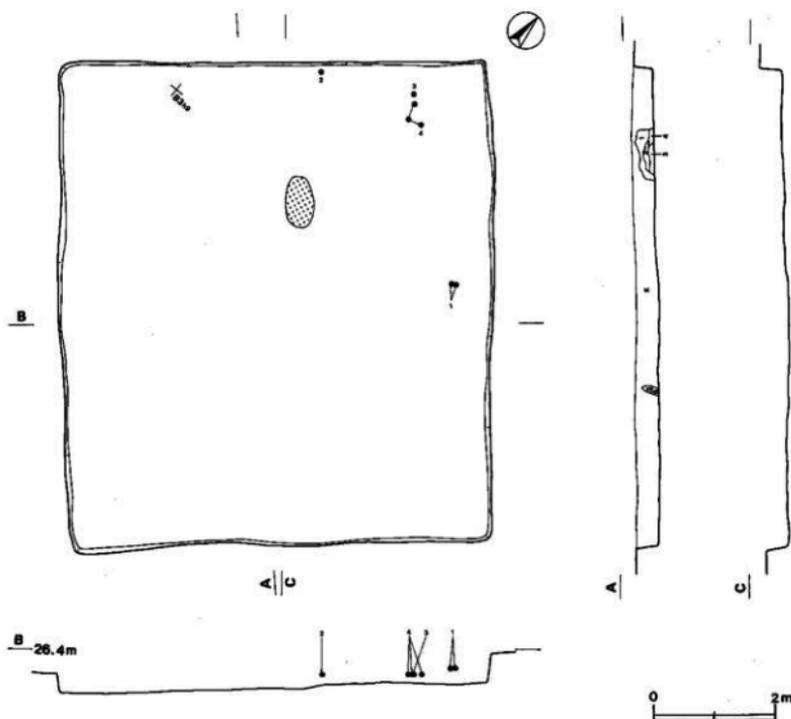
炉 中央部から北西寄りの部分が、長径80cm、短径45cm程の長楕円形状の範囲で、僅かに赤変硬化している。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解明

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 北コーナー部を中心とする、北部の覆土中層から下層にかけて、土師器片223点が出土している。1の甕は北東壁中央部寄りの覆土中層から、2の高坏は北西壁際中央部の覆土中層から、3の高坏及び4の甕は北コーナー部の覆土中層から出土している。

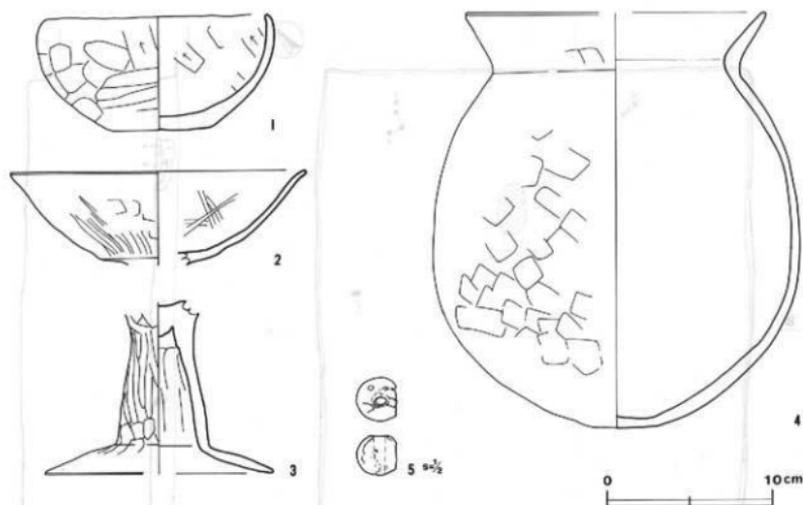


第360図 第189号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期と思われる。

第189号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	首径値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第361図 1	碗 土 器	A 13.5 B 6.9 C 5.8	僅かに凹凸のある平底。体部は内磨して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい褐色 普通	P880 70% PL93 北東部中央部覆土中層
2	高 土 器	坏 A 18.0 B (5.7)	脚部欠損。坏部は内磨気味に立ち上がり口縁部に至る。	坏部外面横位のヘラナデ後縦位のヘラ磨き。内面粗いヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P881 50% 北西側中央部覆土中層
3	高 土 器	坏 B (10.5) D (13.8) E 9.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。内面縦位のヘラナデ。坏部外面ヘラナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P882 40% 北コーナー部覆土中層
4	甕 土 器	A (18.2) B 25.3 C 4.8	やや丸みのある平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ磨り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい褐色 普通	P883 70% PL93 北コーナー部覆土中層 二次焼成。内面割離



第361図 第189号住居跡出土遺物実測図

図版番号	類別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第361図5	ガラス玉	1.8	(1.7)	1.6	—	(6.8)	ガラス	覆土中	Q110

第190号住居跡 (第362図)

位置 調査区北部, C3as区。

重複関係 本跡は第181号住居跡の下に構築されており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.87m, 短軸5.02mの長方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 東壁の一部で, 20cm程の壁高を確認した。

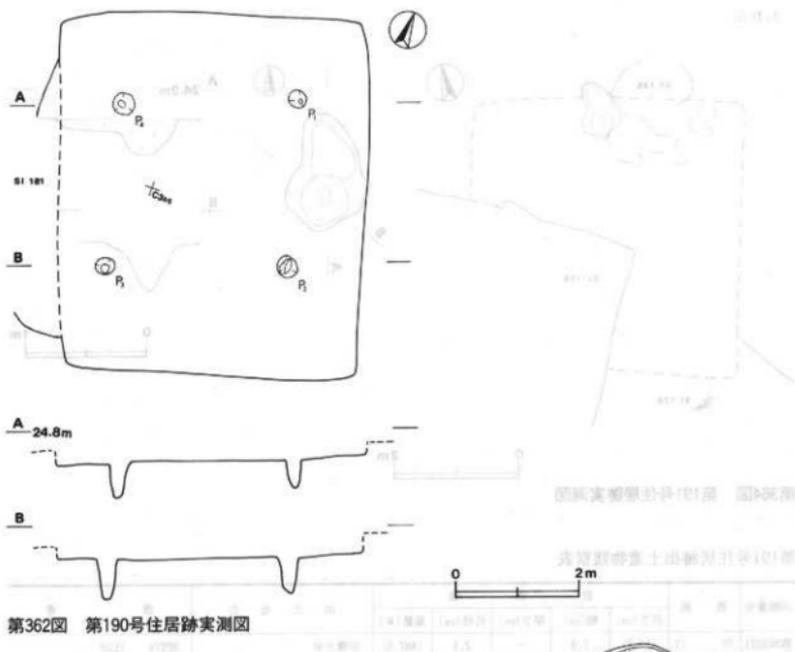
床 平坦であるが, 硬化面は削平されている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は長径30~50cm, 短径25~30cmの楕円形で, 深さ49~69cmである。いずれも主柱穴と考えられる。

覆土 重複と削平のため堆積状況は不明である。

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は, 重複関係から第181号住居跡 (古墳時代前期) より古い, 遺物がなため詳細な時期は不明である。



第191号住居跡 (第364図)

位置 調査区中央部, D4b1区。

重複関係 本跡は南部が第178号住居跡を掘り込み、南東部を第179号住居跡に、北西部を第136号土坑に掘り込まれていることから、第178号住居跡より新しく、第179号住居跡及び第136号土坑より古い。

規模と平面形 重複と削平のため、正確な規模や平面形は不明である。

主軸方向 [N-15°-W]

床 北西コーナー部と燃焼部の間が踏み固められている。

燃焼部 北壁に火熱を受け赤変硬化した部分と焼土を確認した。

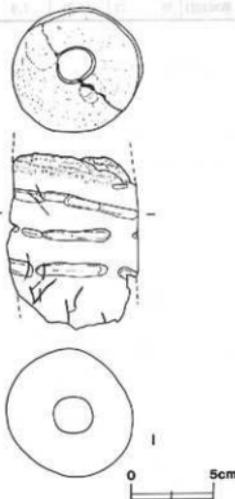
燃焼部断ち割り土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物 北壁の燃焼部から土師器片6点、鉄滓及び羽口が出土している。

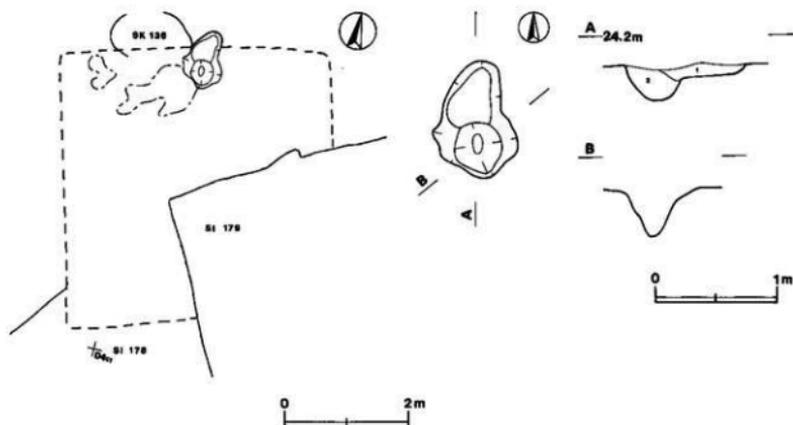
1の羽口は燃焼部北部から出土している。

所見 本跡は重複と耕作による削平のため、北西コーナー部の一部と燃焼部と思われる部分の確認のみであるが、出土遺物等から工房跡と考えられる。時期は、出土遺物等から平安時代(10-12世紀)と思



第363図 第191号住居跡出土遺物実測図

われる。



第364図 第191号住居跡実測図

第191号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第363図1	羽口	(10.7)	7.9	—	2.4	(487.5)	炉壁土中	BP274 PL98

表2 南小割遺跡整穴住居跡一覽表

()推定 ()現存 新→旧

遺跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (m)	床面	内部施設					覆土	時期	主な遺物	備考	
							暖房	床	土坑	土人口	手置					竈
1	33d	N-20°-W	方形	5.70×5.20	38-50	平坦	有		4	1	竈	自然	古墳	土師器(灰、壺、土玉)		
2	64e	N-36°-W	[方形]	(7.80×5.10)	15	平坦					竈	自然	古中	土師器(甕、耳、壺)	SK0→本跡	
3A	63e	N-71°-W	方形	5.48×5.22	24-46	平坦			3		竈	1	人為	古前	土師器(甕、高杯、香合、耳、壺)、 手置土器	本跡→S138焼失
3B	63e	N-71°-W	[方形]	(4.00×4.00)		平坦					竈		古前	土師器(片)	S13A→本跡	
4	F4i	N-34°-W	方形	4.14×3.92	9-16	平坦					竈	自然	古前	土師器(片)		
5	63a	N-32°-E	長方形	6.06×5.16	14-25	平坦		4	1	竈	1	人為	古前	土師器(壺、土玉)		
6	63e	N-45°-W	[方形]	(6.40×(3.0))	24-32	平坦		(2)		—		人為	古前	土師器(片)		
7	64c	N-33°-E	方形	4.94×4.70	22-27	平坦		4	1	竈	1	人為	古前	土師器(壺)	SK5→本跡 焼失	
8	64a	N-51°-W	[方形]	(4.10×3.90)	50-62	平坦		(1)	1		1	人為	古前	土師器(壺、壺)	SK3→本跡	
9	F4b	N-33°-W	[方形]	(3.40×(2.6))	18	平坦					竈		人為	古前	土師器(片)	
10	F3d	N-10°-W	方形	5.48×5.26	14-18	平坦					竈	1	人為	古前	土師器(甕、高杯、壺)	
11	G4d	N-7°-E	方形	(7.00×7.00)	20	平坦		4	1	竈		人為	古前	土師器(片)		
12	F4j	N-60°-E	[方形]	(7.70×(4.3))	40-44	平坦		(2)	1	—		自然	古前	土師器(灰、壺)	SK7A-B→本跡	
13	F4g	N-47°-W	長方形	7.90×6.00	32-38	平坦		4	1	竈	1	人為	古前	土師器(壺、高杯、壺、土玉、 ニニチャ土器、土玉)	SK2A-B-9→本跡	
14	F4e	N-30°-W	方形	8.61×8.16	24-31	平坦		4	1	竈	2	人為	古前	土師器(甕、高杯、壺、土玉、 香状土器)	S115→本跡	
15	F3e	N-115°-E	長方形	3.92×3.52	24-28	平坦	有				竈	1	平安	土師器(高台、甕、壺、土玉)	本跡→S114	
16	F3b	N-45°-W	長方形	6.73×6.01	56-70	平坦	有	4	1	竈	1	人為	古後	土師器(壺)	焼失	
17	F4i	N-51°-W	方形	5.40×5.10	22-27	平坦		4	1	竈	1	人為	古前	土師器(高台、甕、壺、土玉、 ニニチャ土器)	SK13,14→本跡	
18	F4g	N-44°-W	長方形	4.10×3.47	18-27	平坦					竈		人為	古前	土師器(壺、壺、土玉)	
19	F3i	N-48°-W	方形	4.95×4.78	24-31	平坦		4	1	竈		自然	古前	土師器(壺、壺)		
20	G3a	N-72°-W	[方形]	(5.30×3.80)	29	平坦		(1)		—		人為	古前	土師器(片)		
21	F3h	N-49°-W	方形	8.88×8.77	20-32	平坦		4	1	竈	2	人為	古中	土師器(壺、壺、ニニチャ土器、 手置土器)	本跡→S123,27焼失	
22	F3f	N-41°-W	方形	6.72×6.56	47-56	平坦	有	4	1	竈		自然	古後	土師器(灰、壺)	本跡→S123	
23	F3f	N-40°-E	長方形	6.10×4.48	10-18	平坦			1		竈		人為	古前	土師器(片)	S121,22,24→本跡
24	F3e	N-20°-E	長方形	5.84×3.88	6-16	平坦	有				竈	1	人為	平安	土師器(灰、高台、坪)	本跡→S123,32,SK25,100
25	F3g	N-125°-E	隅入長方形	5.04×2.72	14	平坦					竈		人為	縄文	竈、土坑、土口、土口、 ノノナ	
26	F2g	N-5°-W	方形	6.84×6.58	40-48	平坦		4	1	竈	1	人為	古中	土師器(甕、高杯、壺、壺)	焼失	
27	F3i	N-34°-W	方形	6.04×5.76	36-41	平坦		4	1	竈	1	人為	古前	土師器(甕、高台、台付壺、 甕、ニニチャ土器、土玉)	S121→本跡 焼失	
28	F3g	N-50°-W	[方形]	(3.40×(2.1))	14	平坦					—		人為	古前	土師器(台付壺、壺、 ニニチャ土器)	
29	F3g	N-50°-W	[方形]	(5.00×(2.9))	14	平坦		(2)		竈	1		古前	土師器(壺)	S151,5D-1→本跡	
30	F3f	N-46°-E	長方形	4.52×3.96	4	平坦					竈		古前	土師器(壺)	S131→本跡	
31	F3e	N-14°-W	方形	4.77×4.56	4-10	平坦		(2)	1	竈		自然	古前	土師器(甕、高台)	本跡→S130	
32	F3d	N-21°-W	方形	3.46×3.43	32-38	平坦	有				竈	1	人為	古前	土師器(甕、高台、壺、壺、 土玉、香状土器)	S124→本跡→SK100
33	E3j	N-9°-W	方形	5.20×5.10	14-28	平坦	有	1		1	竈	1	人為	古前	土師器(壺)、土玉	
34	E3h	N-39°-W	方形	3.65×3.60	10-16	平坦					—		人為	古前	土師器(片)	

登録番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	時期	主な遺物	備考
							暖房	床溝	柱穴	出入口	炉	竈				
35	E31a	N-35°-W	長方形	3.60×3.10	36~42	平垣			4	1	炉	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕)		
36	F24a	N-79°-W	隅丸長方形	5.70×2.70	10	平垣					炉	自然	縄文	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕)		
37	E31f	N-12°-E	長方形	3.35×2.60	15~32	平垣	有				竈	人為	平安	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕)	SK35, 36→本跡→S138, 60	
38	E31e	N-60°-W	[方形]	6.60×(3.2)	11~18	平垣			(1)	1	炉	人為	古前	土師器(器台, 甕), ミニチュア7土師土	S137, 40, SK37→本跡	
39	F3as	N-41°-W	方形	3.65×3.60	40~46	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(甕), ミニチュア7土師土	SK37→本跡
40	E31a	N-5°-E	方形	6.85×6.80	40~46	平垣			4	1	炉	1	人為	古中	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), 手捏土師土	S138→本跡→S137焼失
41	E31a	N-41°-W	方形	3.55×3.27	36~44	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(甕)	
42	E3as	N-45°-W	[方形]	4.30×(4.1)	20	平垣							人為	古前	土師器(甕, 甕), ミニチュア7土師土	SK131→本跡
43	F3b7	N-19°-W	長方形	3.70×3.19	11~16	平垣			4	1	炉	人為	古前	土師器(甕, 甕), 手捏土師土, 土師土	本跡→SK45	
44	F3ca	N-2°-W	長方形	5.15×4.00	14~28	平垣					炉	1	人為	古中	土師器(甕, 甕)	
45	F3ca	N-7°-W	長方形	3.30×2.91	20	平垣			4	1	炉	人為	古前	土師器(甕)		
46	F2f1	N-32°-W	方形	7.31×7.21	22~40	平垣			4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕, 高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕)	本跡→SM4
47	F2f1	N-12°-W	方形	5.23×5.06	32~56	平垣			4	1	炉	人為	古中	土師器(高坏, 甕)	SK23, 24→本跡	
48	F3d1	N-49°-W	[方形]	(5.60×3.60)	50	平垣	有				炉		人為	古前	土師器(高坏), 土玉	S149→本跡
49	F3d1	N-50°-W	方形	6.94×6.86	28~44	平垣			4	1	炉	1	人為	古中	土師器(甕), 甕狀土師土	本跡→S148焼失→SK100
50	F3ca	N-12°-W	方形	5.40×5.32	48~54	平垣	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕, 高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), 手捏土師土, 土師器石	S152→本跡
51	F3g1					平垣										本跡→S25
52	F3ba	N-51°-W	方形	5.71×5.46	26~34	平垣	有		4	1	炉	人為	古前	土師器(高坏, 甕)	S153→本跡→50	
53	F3ba	N-24°-W	方形	3.01×2.96	28~40	平垣					炉	1	人為	古前	土師器(甕), 手捏土師土	本跡→S152
54	F2ca	N-51°-W	方形	5.60×5.50	26~42	平垣	有		4	1	炉	2	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), ミニチュア7土師土, 土玉, 土師器石	S101→本跡 焼失
55	F2ea	N-52°-W	長方形	4.00×3.30	14	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(甕, 高坏, 器台), 菅玉	本跡→S156, 57
56	F2da	N-48°-W	方形	4.50×4.30	18~25	平垣				1	炉	3	人為	古前	土師器(甕, 台付甕, 甕)	S155→本跡→57
57	F2ea	N-52°-W	[方形]	(3.60×3.18)	20	平垣					炉		人為	古前	土師器(甕)	S155, 56→本跡
58	F2es	N-40°-W	方形	4.80×4.70	38~52	平垣	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕, 器台, 甕), 手捏土師土	本跡→SK71焼失
59	E3fa	N-28°-W	方形	6.60×6.45	27~46	平垣	有	2	4	1	炉	2	人為	古中	土師器(高坏, 甕, 甕), 土玉, 菅玉	
60	F2ea	N-28°-E	隅丸長方形	7.50×7.10	27~38	平垣	有	3	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), ミニチュア7土師土	焼失
61	F2da	N-30°-W	長方形	5.72×4.78	14~19	平垣		1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), 土玉	SK40→本跡→S162, 163
62	F2ca	N-26°-W	方形	4.22×4.07	19~30	平垣			(2)	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 台付甕, 甕), 土師土, ミニチュア7土師土, 土玉	S161→本跡 焼失
63	F2ca	N-7°-W	方形	4.63×4.45	52~57	平垣			4	1	竈		自然	古後	土師器(高坏, 甕), ミニチュア7土師土, 土玉	本跡→S162, 64, 68
64	F2ba	N-49°-W	方形	5.60×5.40	57	平垣	有		4	1	炉	1	人為	古前	土師器(高坏, 器台, 耳, 蓋, 瓶, 甕), ミニチュア7土師土, 菅玉, 土師土	S163→本跡→68焼失
65	F1da	N-50°-W	方形	3.85×3.70	8	平垣					炉	人為	古前	土師器(甕)		
66	F1ca	N-31°-W	方形	4.15×(3.9)	23~27	平垣			(2)		炉	人為	古前	土師器(甕), 土師土, 菅玉, 土師土	本跡→S167	
67	F1ca	N-63°-W	[方形]	4.40×(4.3)	27	平垣					炉	人為	古前	土師器(甕, 甕), 土玉, 菅玉, 土師土	S166→本跡	
68	F2a1	N-48°-W	[方形]	5.30×(2.5)	12	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(器台, 甕), 土玉	S163, 64→本跡
69	F2da	N-30°-E	方形	3.60×3.55	14~20	平垣			4	1	炉	2	人為	古前	土師器(甕, 甕)	

館庫 番号	位置	主軸方向	平面形状	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設					埋土	時期	主 文 遺 物	備 考	
							暖房	床溝	主出入口	出入口	炉壇					貯蔵穴
70	E2j	N-32°W	方 形	4.05×3.95	10~20	平垣			4	1	炉	1	人為	古前	土師器片(壺),ニニチャ7土器	S171→本跡
71	F2a	N-8°E	長 方 形	5.16×4.48	39~44	平垣			4	1	甕	1	人為	古中	土師器(甕,壺)	本跡→S170,72喪失
72	E2j	N-35°W	方 形	7.10×6.86	37~44	平垣	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕,高坪,器台,埴,壺,甕),ニニチャ7土器,土玉,管状土器,土製伊石	S171,SK52~54,5 D1→本跡
73	E2e1	N-18°W	方 形	7.75×7.60	51~56	平垣	有		4	1	甕	1	自然	古後	土師器(甕,壺,壺),竈,土玉,瓦,瓦片	本跡→S174,150
74	E2d2	N-40°W	[方 形]	4.60×(3.2)	10	平垣			(2)	1	炉	—	古前	土師器片(壺)	S173,75→本跡	
75	E2e3	N-46°W	[方 形]	4.60×(4.2)	8~13	平垣			1				人為	古前	土師器(甕,壺,壺)	S176→本跡→74
76	E2e4	N-73°W	方 形	5.10×4.72	33~59	平垣	有		4	1	甕		自然	古後	土師器(甕,壺),手取土器,管状土器	本跡→S175,77
77	E2i5	N-6°W	方 形	7.10×6.50	30	平垣	有		(2)		炉	1	人為	古前	土師器(器台,壺),手取土器	S176,78,131→本跡→144
78	E2b4	N-32°W	方 形	7.45×7.32	44~58	平垣	有	1	4	1	炉	1	人為	古前	土師器(甕,壺),ニニチャ7土器,土玉,土製伊石,壺	本跡→S177,79,149S SK1喪失
79	E2g2	N-24°W	隅丸長方形	5.60×3.74	44	平垣			25		炉	2	人為	縄文	縄文土器(甕,壺),チャ7片玉	S178,145,149,SK3→本跡
80	E2b5	N-59°E	長 方 形	6.71×5.29	26~31	平垣	有				甕	1	人為	古中	土師器(甕,高坪,壺,壺),壺,甕,ニニチャ7土器,土玉	本跡→S181,148
81	E2b6	N-35°W	方 形	3.80×3.54	9~14	平垣					炉	1	—	古前	土師器(甕,壺),ニニチャ7土器,土玉,管状土器	S180→本跡
82	E3e4	N-81°W	方 形	6.37×6.25	33~44	平垣	有	2	4	2	甕	1	人為	古後	土師器(甕,壺,壺),壺,壺,土玉,支脚	本跡→S183
83	E3f4	N-18°W	方 形	6.05×5.70	27~38	平垣	有	1	4	1	炉	2	人為	古前	土師器(甕,壺,器台,壺),ニニチャ7土器,土玉,管状土器	S182→本跡
84	E3b3	N-42°W	方 形	4.05×3.94	21~31	平垣	有	1		1	炉	1	人為	古前	土師器(甕,器台,壺),ニニチャ7土器	本跡→SK104
85	E3i4	N-57°W	長 方 形	5.18×4.60	20	平垣	有			1	炉	1	人為	古前	土師器(壺,壺)	本跡→S186
86	E3j3	N-31°W	長 方 形	3.55×3.05	10	平垣				1	炉		人為	古前	土師器(甕),土製伊石,管状土器	S185→本跡
87	E2i0	N-34°E	方 形	3.30×3.20	24	平垣					甕		人為	平安	土師器(甕)	本跡→S188,164
88	E2b0	N-46°W	方 形	7.50×7.30	48~58	平垣	有	1	4	1	炉	3	人為	古前	土師器(甕,壺,器台,壺,壺),ニニチャ7土器,管状土器,土製伊石	S187,95→本跡→160喪失
89	E3g2	N-30°W	方 形	3.70×3.60	26~32	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(甕,高坪,壺,壺),土玉,管状土器	
90	E3e1	N-52°W	方 形	8.55×7.95	42~53	平垣	有	3	4	1	炉	4	人為	古中	土師器(甕,高坪,壺),ニニチャ7土器,土玉	本跡→S191喪失
91	R2d0	[方 形]	(3.40×0.80)	38	平垣								古前		S190→本跡	
92	E2f0	N-120°E	長 方 形	4.08×3.10	28	平垣				1	甕	1	人為	平安	土師器(高坪,壺,壺),壺,壺	本跡→S1-88,160
93	E3b1	N-50°E	方 形	3.70×3.60	25	平垣				1	炉	1	人為	古前	土師器(甕,高坪,壺,壺),ニニチャ7土器	
94	D3j3	N-80°W	長 方 形	4.65×4.20	74~79	平垣	有		1		甕	1	人為	古後	土師器片(甕),土玉,管状土器	本跡→S195
95	E3a3	N-50°W	長 方 形	4.82×4.32	30	平垣	有		(2)	1	1	1	人為	古前	土師器(甕,器台,壺),ニニチャ7土器	S194→本跡
96	E3c2	N-43°W	方 形	3.26×3.10	30~42	平垣				1	炉		人為	古前	土師器(甕,器台,壺),管状土器	
97	D2b3	N-29°W	方 形	5.60×5.48	12~27	平垣				1	炉		人為	古前	土師器片(甕),土玉	S198→本跡
98	D2g3	N-10°E	長 方 形	3.42×3.04	13~30	平垣	有				甕	2	人為	平安	土師器(高坪,壺,壺)	本跡→S197,141

図録 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						土	時期	主 文 遺 物	備 考
							壁溝	床溝	柱状穴	出入口	扉	竈				
99	D2b	N-25°-E	方 形	7.95×7.80	25-50	平垣	有	1	4	1	1	1	人為	古前	土師器(俵,高坪,器台,甕), ミナチア土器,手土器,土瓦	本誌→S1100,SK118
100	D2c	N-100°-E	[隅丸方形]	4.50×(4.6)	26-32	平垣							人為	縄前	縄文土器(須弥),石,ナット	S199→本誌
101	D2d	N-25°-E	精 円 形	4.10×3.54	16-26	平垣							人為	縄前	縄文土器(須弥),石,ナット	
102	D2i	N-52°-E	精 円 形	5.34×5.10	8	平垣				1			人為	古前	土師器(甕)	本誌→S1105
103	D2f	N-28°-W	方 形	8.50×8.45	42-56	平垣	有	1	4	1	1	1	人為	古前	土師器(俵,器台,甕), 土瓦,貫穴土器	
104	D2i	N-45°-W	方 形	3.25×3.18	13	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(俵,高坪,甕)	本誌→SK113
105	D2h	N-150°-W	[隅丸長方形]	(3.80×3.20)	15	平垣							人為	縄前	縄文土器(須弥)	S1102→本誌
106	E2a	N-3°-W	方 形	3.75×3.70	10-20	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(須弥,器台,甕,甕), 須弥車,土瓦,土製石	
107	F1b	N-64°-W	長 方 形	3.45×2.90	30	平垣						1	人為	古前	土師器(須弥,甕)	SK36→本誌
108	E2b	N-20°-W	方 形	5.70×5.55	42-50	平垣	有		4	1	1	2	人為	古前	土師器(俵,高坪,器台,甕), 須弥車,ミナチア土器,土瓦, 貫穴土器,土製石	本誌→SK79焼失
109	E1j	N-30°-W	方 形	4.66×4.60	17	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(須弥,器台,甕,台付甕,甕), 土瓦	S83→本誌
110	E1h	N-20°-W	[方 形]	(4.15×3.30)	18	平垣							人為	古前	土師器(甕)	S83→本誌→S1111
111	E1i	N-9°-E	[方 形]	5.10×(3.1)	20	平垣							人為	古前	土師器(片甕)	S110,SK75,S83→本誌
112	E1g	N-2°-W	方 形	4.20×4.10	11-20	平垣			4	1	1	1	人為	古前	土師器(須弥,甕)	SK74→本誌→S1129,151
113	E2b	N-7°-E	方 形	4.65×4.60	54	平垣	有		4	1	1	1	人為	古後	土師器(甕),貫穴土器	焼失
114	E2a	N-57°-W	方 形	6.95×6.80	52-70	平垣	有		4	1	1	1	自然	古後	土師器(俵,甕)	S115→本誌→116,117,127
115	E2a	N-99°-E	[方 形]	(2.35×1.30)	30	平垣							一 平安	土師器(須弥,器台,甕),須弥	本誌→S1114,127	
116	E2a	N-10°-W	[方 形]	(3.6)×3.80	5	平垣							人為	古前	土師器(片甕)	S1114→本誌
117	E2b	N-50°-W	方 形	2.90×(2.0)	9-20	平垣	有			1	1	1	人為	古前	土師器(俵,甕),ミナチア土器	S1114→本誌
118	F2b	N-25°-E	方 形	4.30×4.20	8-14	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(俵,高坪,甕),土製石	SD1→本誌→S1119
119	F2a	N-64°-W	方 形	5.60×5.50	28-38	平垣	有		4	1	1	2	人為	古前	土師器(俵,高坪,器台,甕,甕), ミナチア土器	S1118,SD1→本誌
120	E2j	N-3°-W	長 方 形	5.10×4.80	25	平垣	有			1	1	1	人為	古中	土師器(俵,高坪,器台,甕)	焼失
121	E2h	[N-49°-E]	[長方形]	(4.00×2.60)	20	平垣							平安	土師器(俵),須弥	本誌→S1121B,122	
122	E2h	N-13°-W	方 形	4.00×3.90	40-56	平垣	有			1	1	1	人為	古後	土師器(俵,甕),手土器	S1121A→本誌→122
122	E2g	N-50°-W	長 方 形	4.60×4.05	40	平垣							人為	古前	土師器(須弥,器台,甕),土製石	S1121A→本誌→123
123	E2f	N-43°-E	方 形	6.10×6.05	18-27	平垣			4	1	1	1	人為	古前	土師器(須弥,器台,甕),土瓦	S1122,SS6,SK1→本誌 焼失
124	F2a	N-62°-W	方 形	5.10×4.90	32-48	平垣	有			1	1	2	人為	古中	土師器(高坪,甕),土瓦,貫穴土器	本誌→S1125焼失
125	E2j	N-57°-W	[方 形]	4.20×(3.1)	8-20	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(俵,高坪,器台)	S1124→本誌
126	D3j	N-85°-W	[隅丸方形]	3.70×(1.6)	32	平垣							人為	縄前	縄文土器(須弥)	
127	D2j	N-66°-W	隅丸長方形	4.50×3.60	30	平垣							自然	縄前	縄文土器(須弥),石器	S1114,115→本誌
128	E2c	N-37°-W	隅丸長方形	4.15×3.65	25-33	平垣							自然	縄前	縄文土器(須弥),石器	SK-47→本誌→S1161
129	E1h	N-2°-E	隅丸長方形	4.70×3.88	14-28	平垣				2	1	1	人為	縄前	縄文土器(須弥),石,見付	S1123,SD4,SD1→本誌→SD7
130	E2d	N-64°-E	方 形	5.70×5.60	14-19	平垣				1	1	1	人為	古前	土師器(須弥,器台,甕),土瓦	S1158→本誌
131	E2g	N-36°-W	方 形	3.45×3.40	43-48	平垣	有			1	1	1	人為	古前	土師器(甕),貫穴土器	本誌→S177,132,144
132	E2g	N-32°-W	[精円形]	(4.70×3.70)	16	平垣							自然	縄前	縄文土器(須弥),石	S1131,133,SK1→本誌
133	E2h	N-43°-W	方 形	3.75×3.70	22-36	平垣							人為	古前	土師器(片甕)	本誌→S1132

依頼番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土時期	主な遺物	備考	
							整理	床溝	柱穴	出入口	炉	竈				
134	B2g+	N-13°-W	方形	2.70×2.60	10-16	平坦					炉	人	古前	土師器(片, 甕)		
135	D0e+	N-32°-W	方形	6.80×6.20	28-42	平坦	有		4	1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 高坏, 器台, 甕, 土師器(甕), ニニチュア7土器)	本跡→S1141
136	C3+	N-25°-W	方形	4.30×4.25	22-31	平坦	有				炉	1	人	古前	土師器(俵, 高坏, 器台, 甕, 甕)	SK68→本跡E
137	B2a+	N-45°-W	方形	3.04×2.94	26-34	平坦				1	炉	人	古前	土師器(俵)		
138	D3a+	N-46°-W	方形	3.10×3.00	16-30	平坦				1	炉	1	人	古前	土師器(甕)	
139	D2d+	N-40°-W	方形	3.60×3.45	30-37	平坦				1	炉	人	古前	土師器(俵, 高坏, 器台, 甕, 甕), ニニチュア7土器	SK70→本跡D	
140	D2d+	N-14°-E	隅丸方形	3.80×3.70	14-20	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片, 甕), 石器, フヤートノノ片	SK66, SB2→本跡	
141	D2f+	N-10°-W	隅丸方形	4.62×4.28	20	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片), 石器	S198, IS5, SK77→本跡	
142	E3e+	N-47°-E	方形	4.90×4.86	52-60	平坦	有	2	4	1	炉	1	人	古前	土師器(高坏, 器台, 甕, 甕)	
143	E2e+	N-45°-W	方形	3.78×3.48	21-30	平坦				1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 器台, 土師器(甕), ニニチュア7土器)	
144	E2g+	[N-65°-W]	—	(1.80×1.30)	40	平坦						—	古前	土師器(片)	S177, 78, I31→本跡	
145	E2h+	N-1°-W	方形	3.74×3.62	5	平坦							古前	土師器(片)	S1149→本跡→79	
146	D3f+	N-20°-W	方形	6.90×6.60	60	平坦	有	1	4	1	炉	1	人	古前	土師器(高坏, 器台, 土師器(甕), ニニチュア7土器)	SB3→本跡
147	E3i+	[N-8°-W]	[方形]	(4.20×4.14)	17	平坦					炉	1	古前	土師器(甕)		
148	E2b+	N-44°-W	方形	7.20×7.10	32	平坦	有	1	(3)	1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 器台, 土師器(甕), ニニチュア7土器, 土師器(甕))	S180→本跡
149	E2h+	N-33°-W	[方形]	5.30×(1.7)	46	平坦	有				1	人	古前	土師器(甕)	S178→本跡→79, 145	
150	E2f+	[N-72°-E]	[楕円形]	4.90×(1.8)	13	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片), 石器	S173→本跡	
151	E2g+	N-58°-W	楕円形	3.76×2.62	18	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片, 石)	S1112→本跡	
152	B2f+	N-22°-W	楕円形	3.90×(3.3)	12-22	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片, 石器, 石)	SK88→本跡	
153	E4e+	N-40°-W	方形	4.00×3.85	7	平坦					炉	—	古前	土師器(片, 底石)	SB3→本跡	
154	E3a+	N-50°-W	方形	5.40×5.30	4	平坦					炉	—	古前	土師器(片, ニニチュア7土器)	S1155→本跡	
155	D3i+	N-40°-E	方形	6.00×5.50	22-30	平坦			(3)	1	炉	人	古前	土師器(俵, 高坏, 器台, 甕, 甕), ニニチュア7土器	本跡→S1154	
156	D3h+	N-34°-W	方形	6.50×6.15	50	平坦	有		4	1	1	人	古前	土師器(俵, 高坏, 器台, 甕)	SK92, SB3	
157	C3+	N-28°-W	方形	5.90×5.65	30-38	平坦	有		4	1	炉	2	人	古前	土師器(高坏, 甕)	SB3
158	E2c+	N-46°-E	方形	2.80×2.80	24	平坦						人	古前	土師器(俵, 甕)	S1130	
159	E2c+	N-45°-W	方形	3.80×(1.6)	5	平坦					炉	1	古前	土師器(俵, 器台, 甕)		
160	E2g+	N-39°-E	隅丸方形	(5.70×3.45)	20-28	平坦						自然	縄文	縄文土器(片, 石)	S188, 92	
161	E2e+	[N-35°-W]	隅丸方形	3.80×(1.0)	18	平坦						自然	縄文	縄文土器(片, 石)	S1128	
162	F2b+	N-3°-W	方形	2.55×2.48	42	平坦			1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 器台, 甕)		
163	F2d+	N-32°-W	[隅丸方形]	4.20×2.80	10	平坦					炉	人	縄文	縄文土器(片, 石)	S161, SK40	
164	E2i+	N-12°-E	隅丸方形	4.10×3.60	24	平坦						人	縄文	縄文土器(片, 石)	S187	
165	D2j+	N-48°-W	[方形]	3.10×(1.9)	10-18	平坦				1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 器台, 甕)	
166	D3e+	N-48°-W	方形	5.05×5.05	32-44	平坦			4	1	炉	1	人	古前	土師器(俵, 器台, 甕)	
167	D3d+	N-33°-E	長方形	3.25×2.67	5-13	平坦					炉	人	古前	土師器(俵, 器台, 甕)		
168	E3i+	N-1°-W	[方形]	3.00×(1.6)	10	平坦	有					1	平安	土師器(甕)	SB5	
169	E4b+	N-27°-E	方形	6.56×5.96	12-36	平坦	有		3		炉	人	古前	土師器(俵, 器台, 甕)		
170	C4j+	N-30°-W	長方形	2.90×2.60	20	平坦				1		人	平安	土師器(甕)		
171	E4a+	N-32°-W	長方形	4.78×4.48	14-24	平坦	有				1	自然	古前	土師器(俵, 器台, 甕)		
172	D4h+	N-24°-W	方形	3.45×3.35	26-32	平坦	有			1		自然	平安	土師器(甕)		

編號 參考	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	學高 (cm)	床面	內 部 抽 設						覆土	時期	主 交 通 物	備 考
							壁溝	排水	坐位	出入口	尹	看				
173	D4f	N-23°-W	方 形	5.20×5.10	55-70	平坦	有		4	1	竈		自然	古後	土師器・漆・埴台・甕	SI174
174	D4f	N-20°-E	[方 形]	3.00×(1.6)	22-27	平坦					加		自然	古前	土師器・漆・埴台・甕	SI173, SK128
175	D4d	N-45°-E	長 方 形	6.32×5.30	13-23	平坦			1		1	自然	古前	土師器・漆・埴台・甕	SK137, 139	
176	D4b	N-35°-W	方 形	5.50×5.16	19-37	平坦	有				加	1	人為	古前	土師器・漆・埴台・甕	
177	D4c	N-44°-W	長 方 形	4.88×3.87	18-32	平坦					加	1	人為	古前	土師器・漆・埴台・甕	
178	D4c	N-44°-W	方 形	6.35×6.25	40-48	平坦	有		4	1	加2	1	人為	古前	土師器・漆・埴台・甕	SI179, 191, SK138
179	D4b	N-30°-W	[長方形]	(4.20×3.50)	—	平坦					[加]	—	平安	土師器・甕	SI178, 191	
180	C3g	N-34°-W	方 形	7.00×6.85	45-67	平坦	有		4	1	竈	1	人為	古後	土師器・甕	
181	C3b	N-15°-W	[方 形]	[4.50×4.80]	—	平坦			4		加	1	—	古前	土師器・漆・埴台・甕	SI190
182	B3i	N-22°-W	方 形	5.45×5.25	32-60	平坦	有				加	1	自然	古前	土師器・漆・埴台・甕	
183	C3a7	N-15°-W	方 形	5.05×4.90	22-60	平坦	有		4	1	加	1	人為	古前	土師器・漆・埴台・甕	
184	C3i	N-49°-W	[方 形]	[3.50×3.58]	6-20	平坦	有			1	竈	—	平安	土師器・甕		
185	C4g	N-40°-W	方 形	3.30×3.10	9-20	平坦					加	1	人為	古前	土師器・漆・埴台・甕	
186	C4c	N-31°-W	方 形	6.70×6.30	24-55	平坦	有		4	1	加	1	人為	古中	土師器・甕	
187	B4d	N-45°-W	方 形	8.40×8.32	18-66	平坦	有		4		加	1	人為	古中	土師器・甕	
188	B3b	N-57°-W	方 形	6.60×6.50	39-72	平坦	有		4	1	加	2	人為	古中	土師器・甕	
189	B3b	N-38°-W	方 形	7.80×7.10	32-47	平坦					加		人為	古中	土師器・甕	
190	C3a	N-20°-W	長 方 形	5.87×5.02	20	平坦			4		—	—	古前	土師器・漆・埴台・甕	SI181	
191	D4b	N-15°-W	—	—	—	—					—	—	平安	土師器・甕・泉	SI178, 179, SK136	

茨城県教育財団文化財調査報告第129集

茨城中央工業団地造成工事
地内埋蔵文化財調査報告書

南小割遺跡 権現堂遺跡
親塚古墳 後原遺跡
(上 巻)

平成10年(1998)年3月16日印刷

平成10年(1998)年3月20日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地2号

TEL 029 225-6587

印刷 株式会社 きと印刷

〒310-0913 水戸市見川町2558-21

TEL 029 241 2525